

PROG

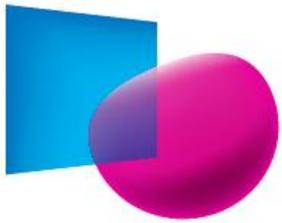
PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

北翔大学 御中

基礎力測定テスト

PROG 全体傾向報告書 (2023)

2024.03.28
株式会社リアセック



PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.0 PROGテストとは

ジェネリックスキル測定PROGについて

「PROG」とは2012年に、河合塾とリアセックの共同開発でリリースされた汎用的技能を測定する検査です。専門に関わらず、**大卒者として社会で求められる能力・態度・志向**—ジェネリックスキルを測定する、設問紙法による90分の検査。導入校：約350大学、年間23万人が受験する、**我が国で最も活用されている、外部アセスメント**として、**教学マネジメント**および**学生のキャリア支援**として活用されています。2016年からは高校向け、2020年から社会人向けもリリースされています。

PROGテストで測定している能力要素

※リテラシーの測定方法

- 単なる知識の定着ではなく、知識を実践的に活用する力を測るため、現実的な場面を想定したオリジナル問題について、最適解を求めます。
- 測定する能力は、問題解決のプロセスに必要な以下の4要素です。



リテラシー	コンピテンシー
<p>知識を活用して課題を解決する力 (≒思考力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報収集力 ・ 情報分析力 (言語処理力, 非言語処理力) ・ 課題発見力 ・ 構想力 	<p>経験を積むことで身についた行動特性 (≒態度, 姿勢)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対人基礎力 (親和力, 協働力, 統率力) ・ 対自己基礎力 (感情制御力, 自信創出力, 行動持続力) ・ 対課題基礎力 (課題発見力, 計画立案力, 実践力)

※コンピテンシーの測定方法

- 普段の行動特性について、どれが正解と決められない質問を多数出題し、実際に社会で活躍する若手社会人とどれだけ近い回答をしたかにより、判定します。
- 測定する能力は、以下の要素です。

PROGのコンピテンシー (リクルートと共同定義した基礎力)	内容	構成要素	
対課題基礎力	課題発見力	問題の所在を明らかにし、必要な情報分析を行う	情報収集・本質理解・原因分析 など
	計画立案力	問題解決のための効果的な計画を立てる	目標設定・シナリオ構築・計画評価・リスク分析 など
	実践力	効果的な計画に沿った実践行動をとる	実践行動・修正・調整・検証・改善 など
対人基礎力	親和力	円満な人間関係を築く	親しみ易さ・気配り・対人興味・多様性理解・人脈形成 など
	協働力	協力的に仕事を進める	役割理解・連携行動・相互支援・相談・衝突・他者の動機付け など
	統率力	場をよみ、目標に向かって組織を動かす	意見を主張する・創造的な討議・意見の調整・交渉・説得 など
対自己基礎力	感情制御力	気持ちの揺れをコントロールする	セルフアウェアネス・ストレス・レジリエンス・メンタルなど
	自信創出力	ポジティブな考え方やモチベーションを維持する	独自性理解・自己効力感・楽観性・機会による自己変革 など
	行動持続力	主体的に動き、良い行動を習慣づける (学習行動を含む)	主体的行動・完遂・良い行動の習慣化 など

PROG開発の背景 予測不能な時代に生きるため

- PISA型学力の基礎となる、**OECD「キーコンピテンシー」に準拠**
- 予測不能な時代に、生きるための「**ジェネリックスキル**」を測
- 中教審2040年グランドデザイン答申を受け、「**学習成果の可視化**」のための**外部アセスメント**として活用
- 自らの学習成果を確認し**学生が主体的に学習できるよう、オンライン、対面での支援コンテンツ**

ジェネリックスキルが求められる背景

技術革新

グローバル化

産業構造の
変化

働き方の変化

社会で活躍する人材像の変化

～学び続ける力+どんな仕事にも移転可能な力が求められる世の中へ～

新しい能力の概念(学力の三要素 ※文部科学省)

教科学力

知識・技能

ジェネリックスキル

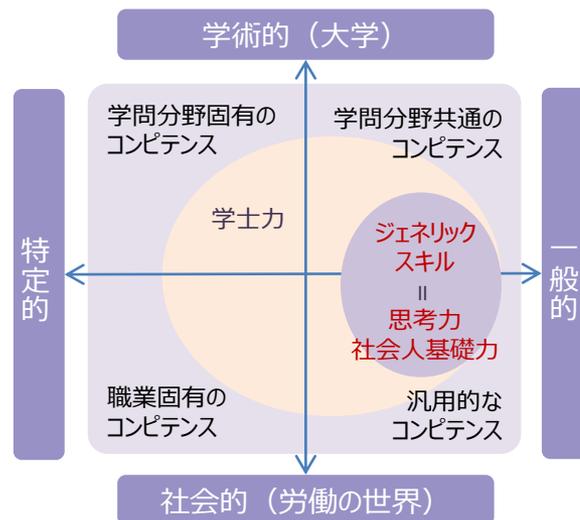
リテラシー

思考力・判断力
表現力

コンピテンシー

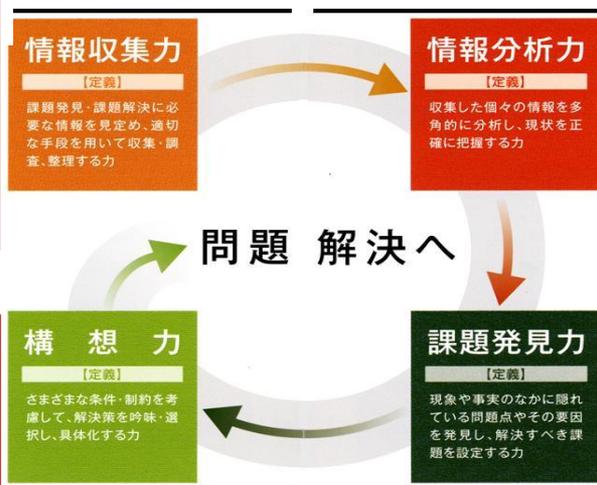
主体性・多様性
協働性

PROGの測定・育成領域



河合塾

学校法人 河合塾の高い問題作成技術を使って問題解決プロセス別に作問。



問題解決のプロセスに沿って整理。
思考力を4つの領域に分けて、
多面的に測定。

<情報収集力のテスト項目>

1. 情報検索

- 情報源の特性
- 目的に応じた検索の方法名

2. 情報の整理・保存

- 情報を適切かつ効果的に活用するための方法など

3. 一次情報の収集

- 目的に応じた調査方法など

<構想力のテスト項目>

1. 解決策のアイデア出し

- 広い観点から解決策の検討

2. 解決策の絞り込み

- 現実的な解決策の検討

3. 解決策の具体化

- 必要な作業をもれなく洗い出す
- 具体的な作業工程・行動の計画

<情報分析力のテスト項目>

1. データ・グラフの読み取り (+非言語処理能力)

- 正確な読み取りと考察
- 複数データの考察と統合

2. 文献・資料の読み取り (+言語処理能力)

- 語彙の理解
- 主題の読み取り
- 構造的な理解

3. 批判的な分析

- 事実と意見の区別
- 多角的な視点
- 論証の検証

<課題発見力のテスト項目>

1. 広い観点から問題を洗い出す -拡散思考について

2. 問題点の整理・分析

- 収束思考について
- 問題の構造化・原因追及

3. 解決する課題の設定

- 課題への絞り込みの観点整理
- 問題点から課題への絞り込み

■ 設定された条件下における妥当解を考えます。

<課題発見力の設問例>

リテラシー	コンピテンシー
<ul style="list-style-type: none"> 新しい問題や経験のない問題に対して、知識を活用して問題を解決する能力 習得した知識を現実の問題に活用することで育てられる 	<ul style="list-style-type: none"> 周囲の状況に上手く対処する身に付けた、意思決定・行動指針などの特性 経験を振り返り、モデルを意識して行動することで育成される

下のA～Cの事例を読んで、右の問に答えよ。

A : あなたはA市職員として防災課に勤務している。A市がある地域では、近いうちに大地震がくると予測されているが、A市では、緊急用の食料と医薬品を備蓄しているだけで、避難方法など十分な対策ができていない状態である。このままでは、大地震が来たとき、対応できないのではないかと不安になっている。

B : 入社して2ヶ月が経ったが、今月の携帯電話の請求書を見てびっくりした。学生時代の2倍近い通話料を請求された。仕事の電話はできるだけ社内で済ませるようにしているが、出先から電話せざるを得ないときは自分の携帯を使うこともある。プライベートで使う頻度は学生時代より多くなったとは思えない。

C : 大学のゼミで「少子化問題」を研究したことがきっかけとなって、少子化対策に少しでも寄与しようと、NPOを立ち上げることになった。ゼミの仲間が中心であるが、外部の人々も巻き込んで、活動していきたいと思っている。特に、子育て中の母親たちのネットワーク作りが大切だと考えている。

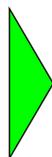
問) A～Cの事例について、「あるべき姿」「現状」「まず着手すべきこと」という観点から下記の表を埋めようとするとき、X～Zに入るものはなにか。後の①～⑨のうちから最も適当なものをそれぞれ1つずつ選べ。

事例	あるべき姿	現 状	まず着手すべきこと
A	X		
B		Y	
C			Z

- ① 地震に対応する準備ができてない。
- ② 電話の使用状況を把握する。
- ③ NPOを立ち上げたいという思いだけはある。
- ④ 支払い金額が増えている。
- ⑤ 大地震がきても十分に対応できる。
- ⑥ NPOを運営し、少子化対策に寄与する。
- ⑦ 支出を健全化する。
- ⑧ NPOの組織化を検討する。
- ⑨ 大地震が来たときの対策を講じる。

■ 課題発見力を構成する3要素

- (1) 広い観点から問題を洗い出す
- (2) 洗い出した問題を整理・分析する
- (3) 問題の中から解決すべき課題を特定する



■ この問題は、

(3) 問題の中から解決すべき課題を特定する力を測定

正解 : X = ⑤ Y = ④ Z = ⑧

コンピテンシー(態度姿勢)3要素(問題数195問、40分)

■ 社会ニーズを網羅した設問項目

2000年以降に実施された9種類の社会ニーズアンケートで収集した全407の項目をリクルートワークス研究所と協力して「社会人として成果をあげるために必要な要素」として整理しました。多様な領域を網羅的に測定している為、大学独自で定義するジェネリックスキルとの対応付けも行い易いです。

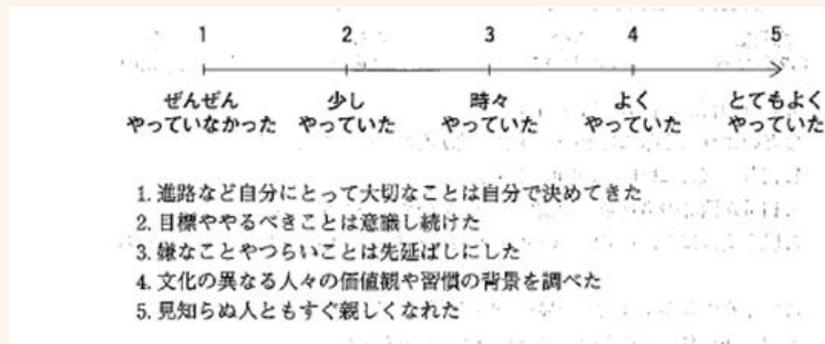
大阪におけるキャリア教育 (大阪商工会議所)	若者が自立できる社会へ (経済同友会)	企業が求める人材の能力など に関する調査(厚生労働省)	人材ニーズ調査 (経済産業省)
摩擦や競争を避けず 自分の考え・意見を 伝える	協調性	自分とは異なる考え を理解する能力	先入観を持たずに相 手の話を受け止め、 信頼構築に役立て ることができる
人に関心があり 世代や価値観を 越えてコミュニケー ションする	環境適応力	誠実さ	自分の所属する組 織・チーム全体の業 績や成長を意識した 行動ができる
組織の一員として の役割を果たす	忍耐力	自分の意見をはっき りと主張すること	立場や状況に応じて 自分の感情をコント ロールし、ストレスや プレッシャーに負け ずに行動できる
目標を高く掲げて 誠実に努力して 達成している	責任感	リーダーシップを発揮 すること	現状に満足せず、継 続的に学習し、自ら を高めてゆく
変化にスピーディ に対応する	課題発見能力	自分の責任で決定 を下す能力	
⋮	問題解決能力	自発性・学習能力	
⋮	チャレンジ精神	情報やアイデアを取 集し整理する能力	
⋮	⋮	⋮	

PROGのコンピテンシー (リクルートと共同定義した基礎力)			社会人基礎力 (経済産業省)	学士力 (文部科学省)		
	内容	構成要素				
対課題 基礎力	課題発見力	問題の所在を明らか にし、必要な情 報分析を行う	考え抜く 力 (シンキング)	汎用的 技能		
	計画立案力	問題解決のための 効果的な計画を立て る			課題発見力	問題解決力
	実践力	効果的な計画に 沿った実践行動をと る			計画力	論理的思考力
対人 基礎力	親和力	円満な人間関係を 築く	チームで 働く力 (チームワーク)	数量的スキル		
	協働力	協力的に仕事を進 める			創造力	情報 リテラシー
	統率力	場をよみ、目標に 向かって組織を動か す			発信力	数量的スキル
対自己 基礎力	感情制御力	気持ちの揺れをコ ントロールする	前に踏み 出す力 (アクション)	態度・ 志向性		
	自信創出力	ポジティブな考え 方やモチベーション を維持する			傾聴力	コミュニケーションスキル
	行動持続力	主体的に動き、良い 行動を習慣づける (学習行動を含む)			柔軟性	チームワー クリーダーシップ
			状況把握力	市民としての 社会的責任		
			規律性	倫理観		
			ストレスコントロール	自己管理力		
			主体性	生涯学習力		
			働きかけ力			
			実行力			

※コンピテンシーは、9つの構成要素の下位に33の項目があります。

- 従来性格テストや能力テストにおいては、例えば5肢選択の場合、1点から5点の等間隔な配点を前提として採点されてきました。

【某テストの「経験」を問う設問について】



しかし、この方法では以下の懸念があり、測定結果の客観的な比較ができません。

① 反応歪曲

測定（回答）時における「社会的望ましさ」による「反応歪曲」と言われるものです。少しでも自分を良く（社会的な基準に照らして）見せようとして、本来の自分の特性とは違うように回答することを言います。

② 自尊感情による認知バイアス

自己評価で回答するようなテストの場合、自尊感情の高低という個人の特性によって、答えにブレが生じることを言います。（自意識過剰層は高く回答し、謙遜層は低く回答する）

※追手門学院大学アサーティブ研究センターと
ベネッセ教育総合研究所の共同研究報告書
「学びと成長の可視化」からその先へ
アサーティブプログラム・アサーティブ入試
の実証的研究で見えてきたことより引用

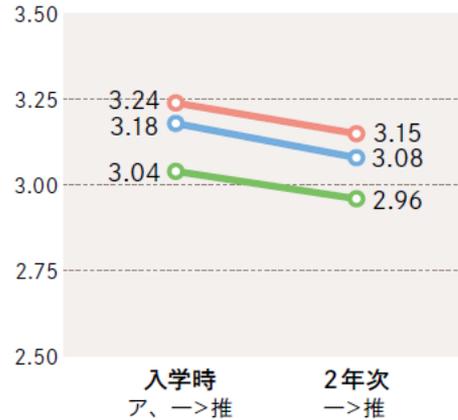
■ 追手門学院大学における研究結果より

図表 2-2-4 | 協調的問題解決力の推移 (入試区分別)

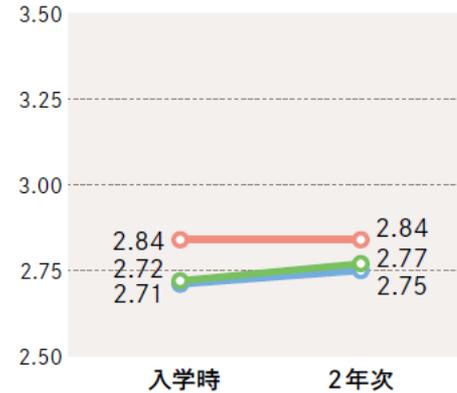
2時点の変化に着目すると、「①多面的な思考」「③チーム内での役割の遂行」「④実行・挑戦」は、
年次が上がるにつれて、スコアが下がっている。

年次が上がり、接するコミュニティが変わる事で、自分を今まで以上に俯瞰的に見た結果、自己評価が厳しくなったと推測される。
自己評価の場合、同様の傾向が見られる。スコアが下がると自身の成長の気づきを与えられない懸念がある。

① 多面的な思考

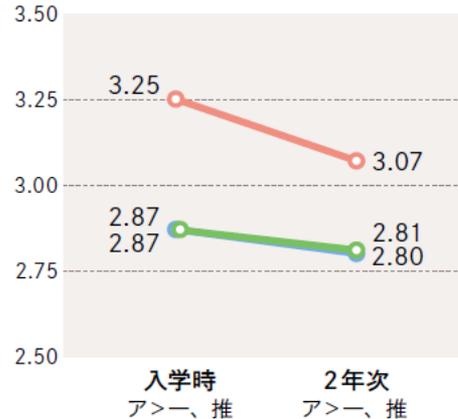


② 計画の立案と遂行

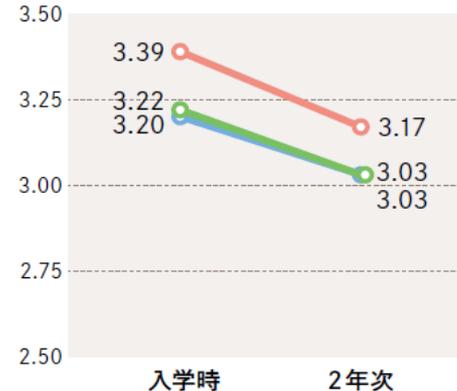


○ 一般生 (-)
○ 推薦生 (推)
○ アサーティブ生 (ア)

③ チーム内での役割の遂行



④ 実行・挑戦



*1 数値は、該当項目を合計して項目数で除したものの、1~5の値をとる。

*2 有意差の検定は、図表2-2-2と同様。

コンピテンシー設問例

■ 設問の工夫

恣意的に回答できないよう（本音で回答せざるを得ない）、両義性のある設問を採用しています。

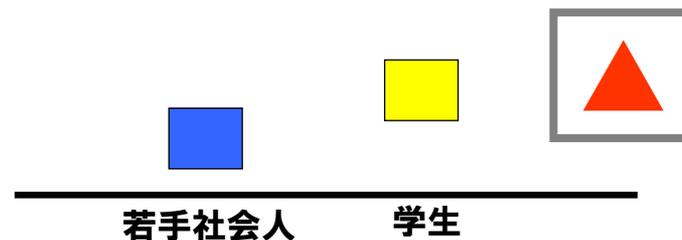
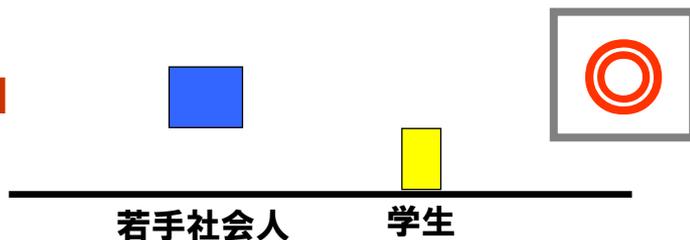
■ 採点の工夫

「コンピテンシー」を社会で活躍する若手社会人と比較（外的基準に基づいて採点）しています。

社会で活躍する若手社会人(4000人)と学生の回答のパターンを比較し、統計的に違いがある設問項目を抽出する(特性抽出)

連番	A	B
1	感情に流されず、客観的な状況を分析して判断を下してきた	客観的な情報よりも、人の気持ちや人間関係に配慮して判断してきた

設問1



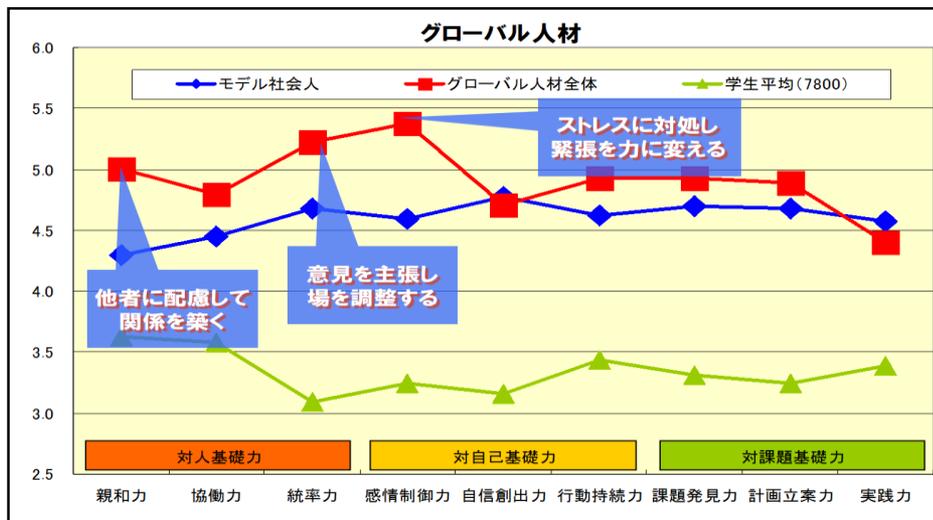
■ 信頼性と妥当性

信頼性係数を公表しています。(β版の回答傾向で分析)
又、外的基準と照らし合わせても妥当性が高いと考えます。

	信頼性係数 (α)
リテラシー(問題解決力_総合)	0.78

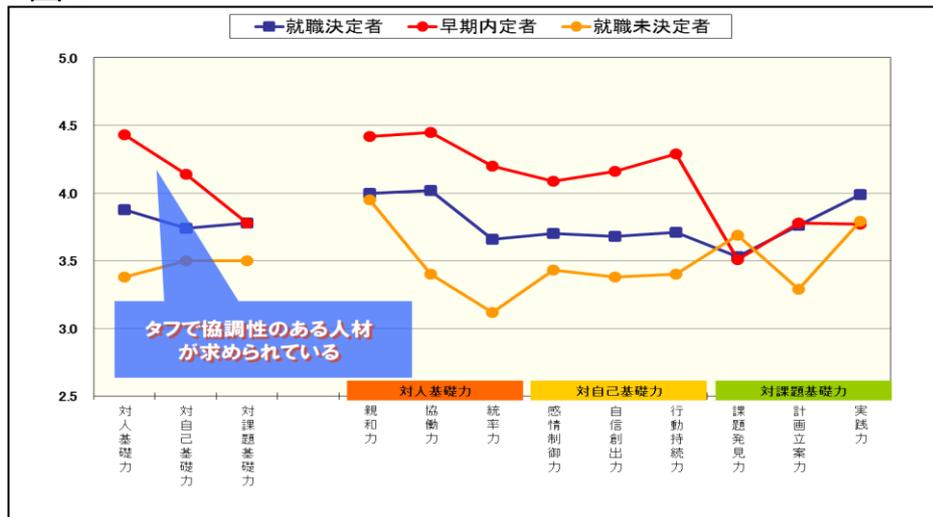
コンピテンシー	対課題基礎力	課題発見力	0.80
		計画立案力	0.83
		実践力	0.79
	対人基礎力	親和力	0.83
		協働力	0.86
		統率力	0.88
	對自己基礎力	感情制御力	0.79
		自信創出力	0.82
		行動持続力	0.75

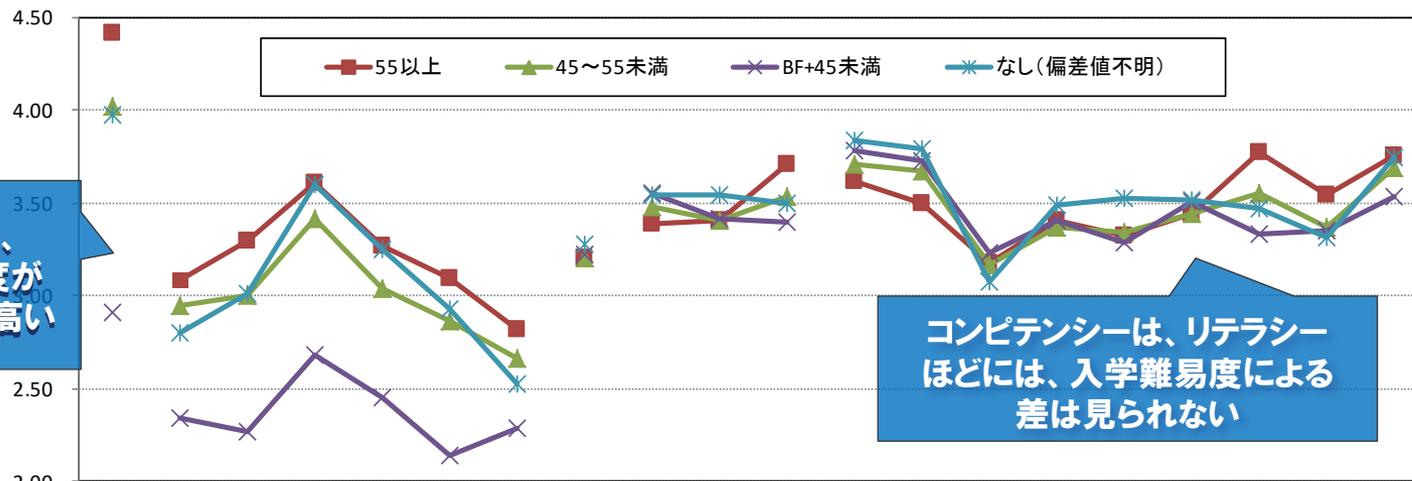
図 1



※グローバル人材: 25歳~49歳の日本人ビジネスパーソン。アジアにおいて、外国人のマネジメント経験があり、かつ、その当時のマネジメントに満足している者(735人、平均駐在期間は約4年)。

図 2

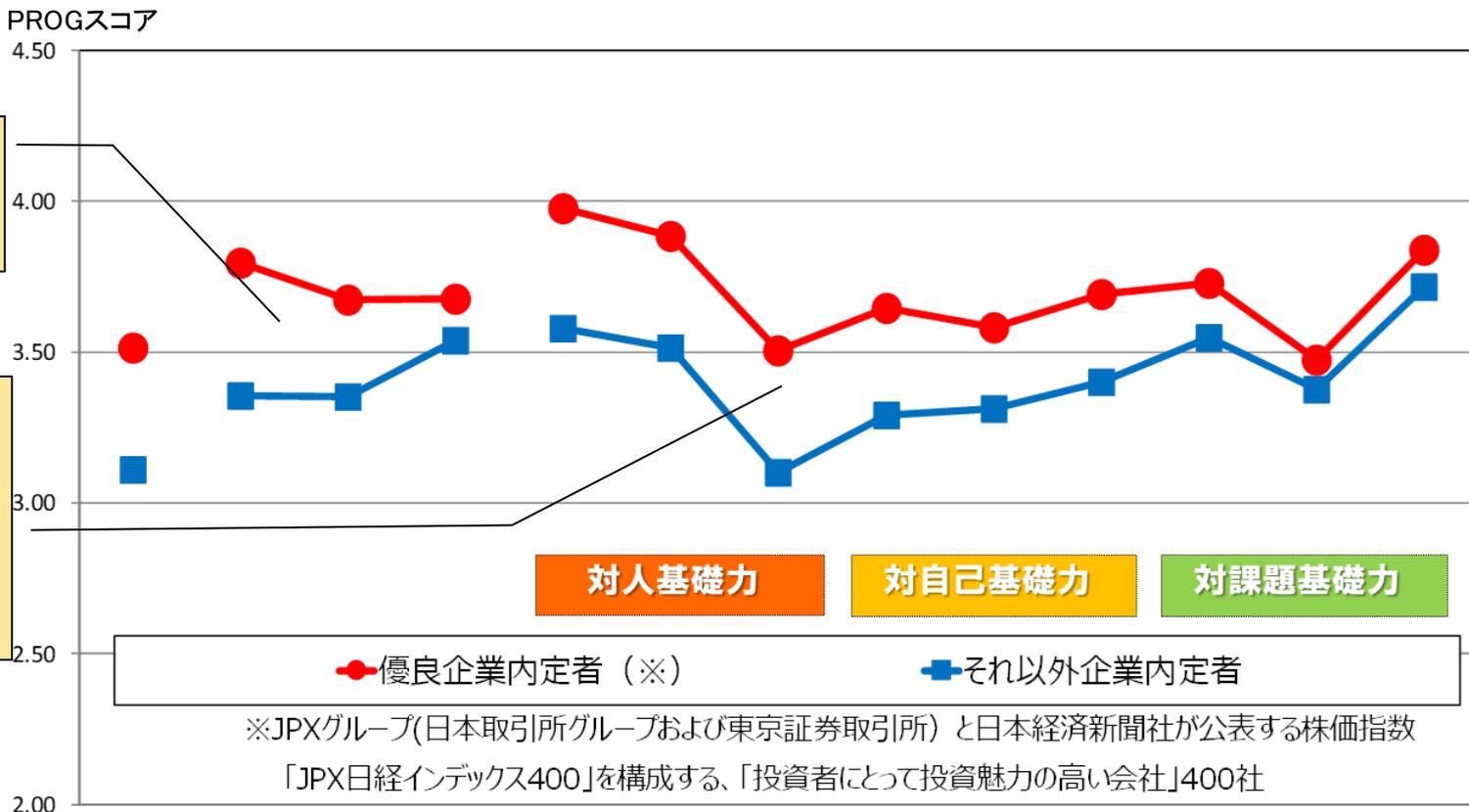




	N数		リテラシー							コンピテンシー												
	リテラシー	コンピテンシー	総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	言語処理力	非言語処理力	総合	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
全体	90,625	97,096	3.89	2.85	2.93	3.31	2.99	2.78	2.63	3.22	3.47	3.42	3.56	3.70	3.64	3.19	3.40	3.33	3.47	3.58	3.42	3.68
55以上	30,443	30,617	4.41	3.09	3.30	3.61	3.27	3.10	2.82	3.20	3.39	3.41	3.71	3.62	3.50	3.18	3.41	3.32	3.44	3.78	3.55	3.75
45～55未満	34,173	38,122	4.02	2.95	3.00	3.41	3.04	2.87	2.67	3.21	3.48	3.41	3.53	3.71	3.67	3.16	3.37	3.34	3.45	3.56	3.37	3.70
BF+45未満	22,321	24,729	2.91	2.34	2.26	2.69	2.46	2.14	2.28	3.23	3.55	3.42	3.40	3.78	3.73	3.23	3.40	3.28	3.51	3.34	3.35	3.54
なし(偏差値不明)	2,910	2,854	3.98	2.80	3.01	3.60	3.25	2.93	2.52	3.28	3.55	3.55	3.49	3.84	3.79	3.08	3.49	3.52	3.52	3.47	3.32	3.75

学生の進路調査に見るPROGの妥当性

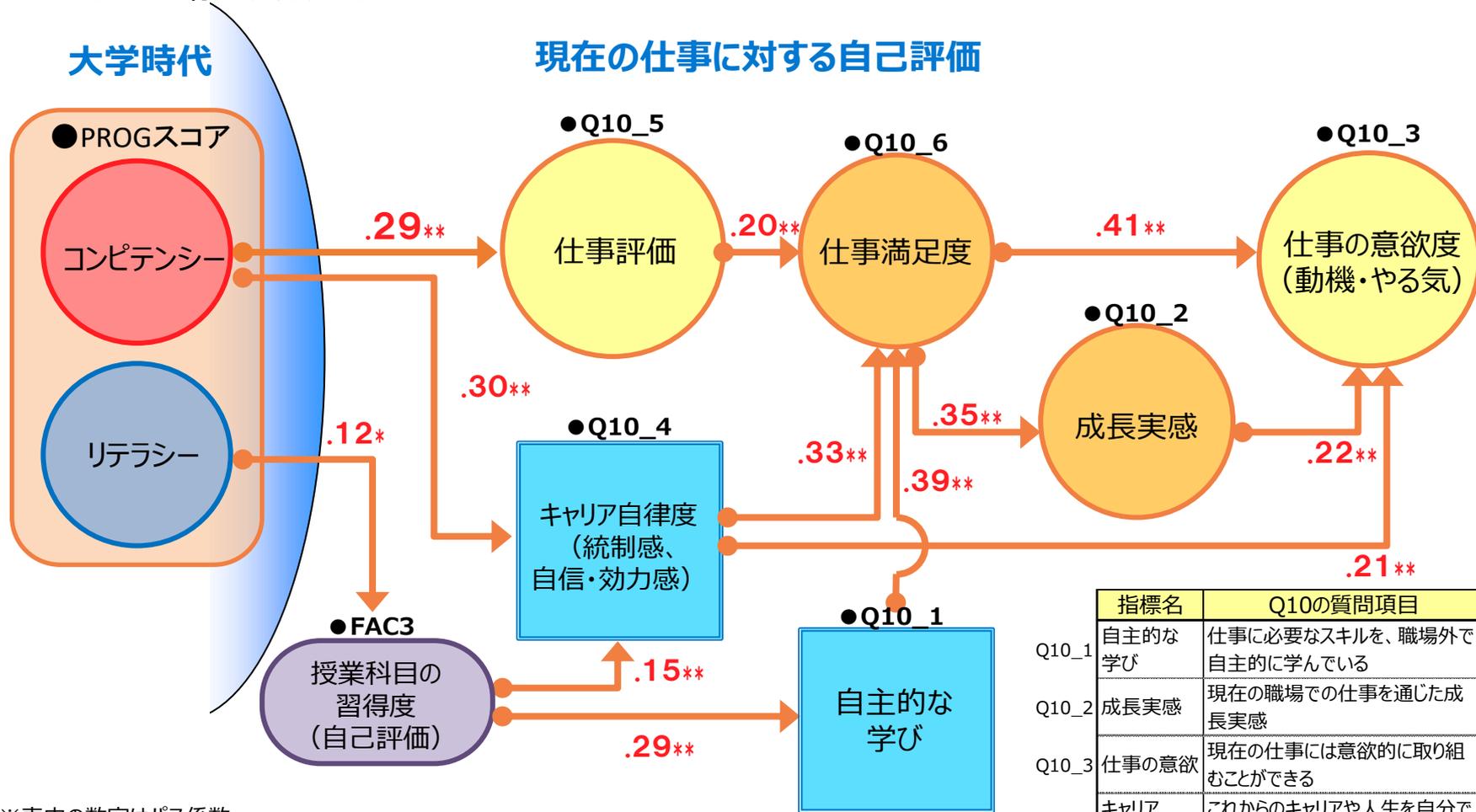
- 卒業後の進路調査に協力が得られた約10000名の分析結果。
- 優良企業（JPX日経400※）とその他企業（非優良企業）に就職した学生のPROGスコアを比較すると、優良企業への就職者のコンピテンシーが総じて高い傾向を示します。



	総合	コンピテンシー												
		対人基礎力	對自己基礎力	対課題基礎力	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力	
優良企業内定者 (※)	852	3.52	3.80	3.67	3.68	3.98	3.88	3.50	3.65	3.58	3.69	3.73	3.47	3.84
それ以外企業内定者	9,158	3.11	3.35	3.35	3.54	3.58	3.51	3.10	3.29	3.31	3.40	3.55	3.38	3.72

社会人調査に見るPROGの妥当性(PROG白書2021:卒業生調査より)

- 就業経験3～5年の社会人に対して行った調査を基に、パス解析を行った結果。
- 学生時代のコンピテンシーの高低（PROGスコア）が、現在の「仕事評価」と「キャリア自律度」に直接に影響している様子が分かります。



※表中の数字はパス係数
 ※**は1%有意、*は5%有意の意味

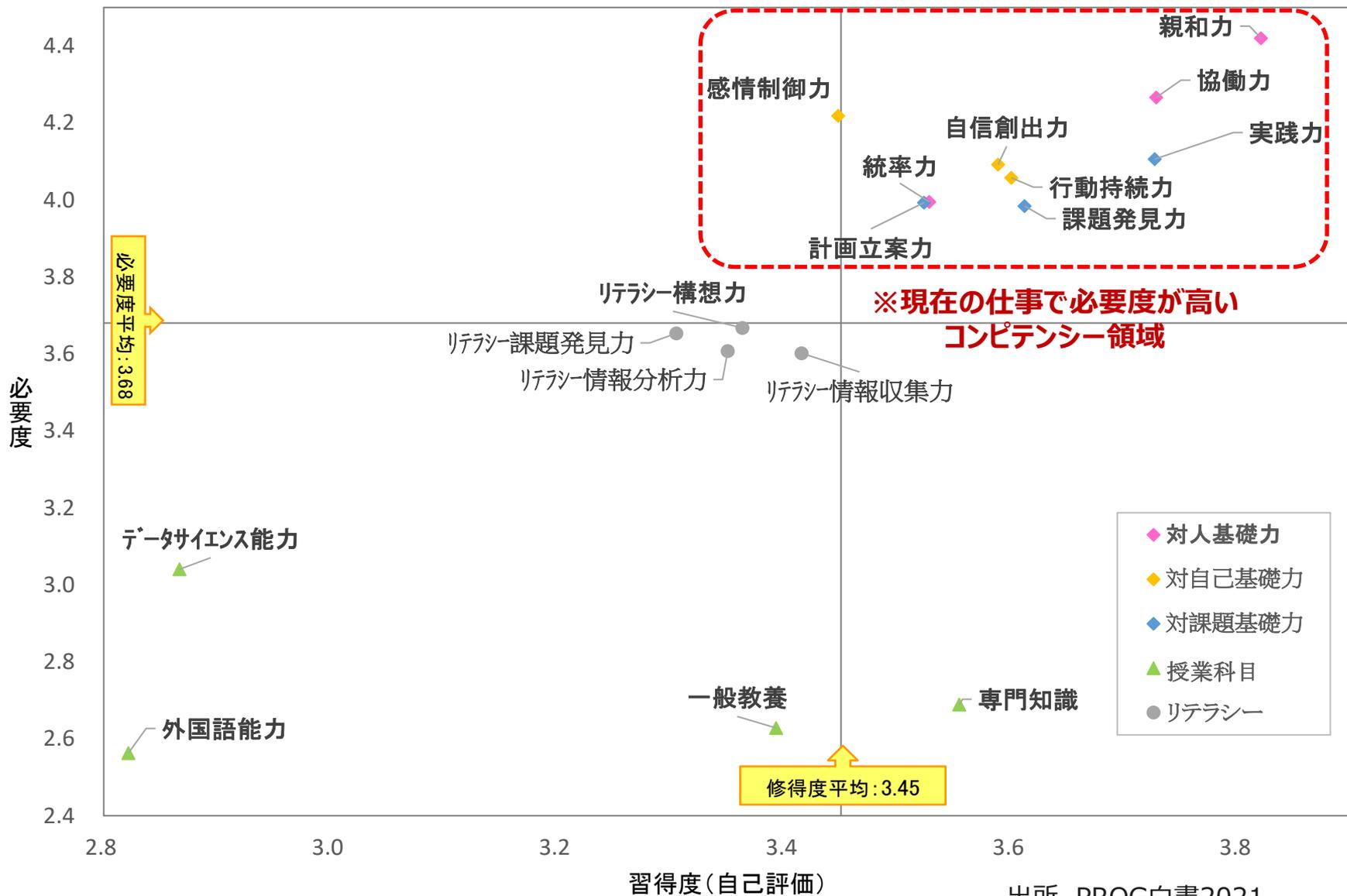
$$Y = aX + b$$

パス係数は、回帰（偏回帰）係数とほぼ同義

指標名	Q10の質問項目
Q10_1	自主的な学び 仕事に必要なスキルを、職場外で自主的に学んでいる
Q10_2	成長実感 現在の職場での仕事を通じた成長実感
Q10_3	仕事の意欲 現在の仕事には意欲的に取り組むことができる
Q10_4	キャリア自律度 これからのキャリアや人生を自分で切り開いていける
Q10_5	仕事評価 現在の職場で評価されている
Q10_6	仕事満足度 現在の職場での仕事に対する満足度

現在の仕事に求められるコンピテンシー(PROG白書2021:卒業生調査より)

- 就業経験3～5年の社会人に対して行った調査結果（2021年）を見ると、現在の仕事における必要な能力・スキル（5肢選択）の上位には、コンピテンシーの要素が集中します。
- 2012年当時に調査・定義した能力が、現在においても必要とされていることが分かります。



受験者内訳

■ 受験者について

2012年のリリース以来、毎年導入校数、受験者数は伸びており、**2021年度単年度実績で導入校数約350大学、受験者数単年度：約23万人**

■ 主な導入実績大学

(学部での一部導入も含む)

<国立大学>

- ・北海道大学
- ・東北大学
- ・東京工業大学
- ・大阪大学
- ・九州工業大学
- ・佐賀大学
- ・熊本大学

他

<私立大学>

- ・日本大学
- ・東洋大学
- ・東海大学
- ・愛知学院大学
- ・立命館大学
- ・甲南大学
- ・追手門学院大学
- ・福岡大学

他

(参考) ※ディプロマサプリメントでの活用
～東京都市大学 HPより～

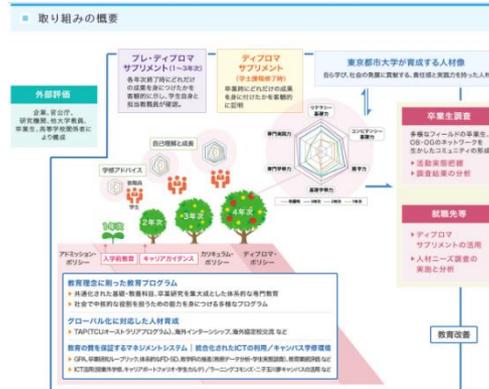


図1：偏差値別

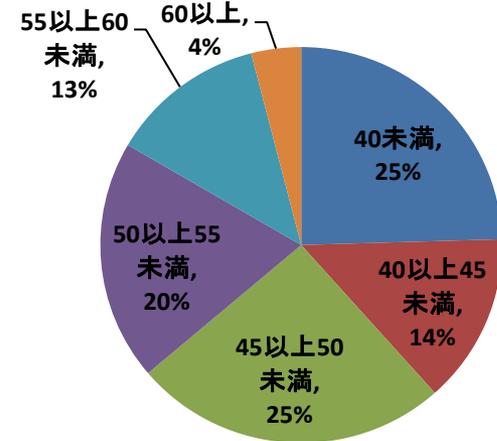
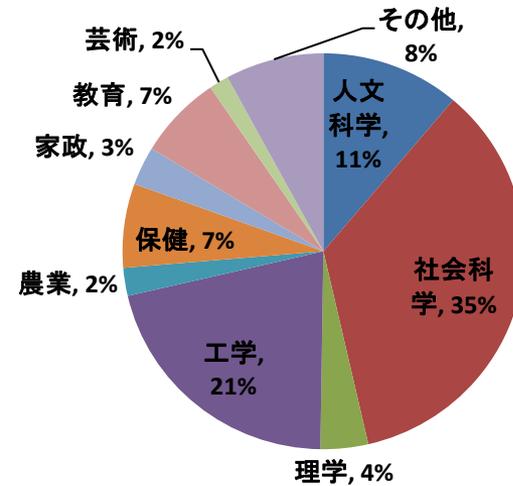


図2：学問系統別



第3期認証評価での外部アセスメント活用(評価結果の抜粋)

- 学習成果の点検項目において、外部アセスメントPROGの有効性が評価を受けている
- 大学基準協会、日本高等教育機構、学位授与機構の全てにおいて評価されている

【2021年度認証評価】大学基準協会の評価基準(抜粋)

Ⅲ 概評及び提言

4 教育課程・学習成果

- ⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。



例1) 園田学園女子大学

社会人や同世代の学生との比較を行うため、**ジェネリクススキル測定テスト「PROGテスト」を全学科の1年生の学生(1年次生もしくは3年次生)に実施**している。「経験値アセスメント」は2014年度から始めた。同年に見直し教育学科の2年次生に「PROGテスト」を試行的に実施した。その後、2017年度、2018年度は全学科の1年次生に実施し、入学時の学生の傾向を把握した。また、2019年度には、1年次に実施した学生(3年次生)を対象に実施することで、学習成果による成長を測った。また、**他大学と本学学生のPROG-COピダシー得点を比較分析し、「経験値」を客観化できるような取り組みを行っている学生の学習能力における基礎力に応じた教育の実践**として、学習成果の可視化に用いたPROGテストや本学独自の経験値アセスメントにより確認された「言語処理能力の低さ」等の改善を図ることを目的とし、新たな学習テキストの開発を行った。教育課程の改善に結び付けることができるような体制整備について、教務委員会で検討を進めているところである。

例2) 帝塚山大学

学生の学習成果の測定指標の開発について、**外部業者が開発したジェネリクススキル測定ツール「PROG」について、試験的実施を経て、本格導入を始めている**。ディプロマ・ポリシーに掲げるもののうち特に、「知識や技能の活用」「主体的な意識と態度」「多様なコミュニケーション」の測定をめざしている。結果について、教務マネジメント委員会を中心に分析結果を確認、共有するとともに学生にフィードバックするなど活用を行っている。

例3) 文教学院大学

学位授与方針、教育課程の編成・実施方針、学生の受け入れ方針に即して、学習成果を評価する方針であるアセスメント・ポリシーを、「機割(大学全体)」「教育課程(学部・学科)」及び「科目(個々の授業)」の3つのレベルの各観点から定め、「入学前・入学時」「在学中」及び「卒業時」の区分から学生の学習成果を測定している。例えば、在学中のアセスメントについては、同ポリシーに基づき、機割レベルとしては、休学率、退学率、教育課程レベルとして、各科目の成績から算出するGPA、「学修ポートフォリオ」、アセスメントテストあるいはルーブリック評価、修得単位数、PROGテスト、学生満足度調査、科目レベルとしては、成績評価、授業アンケートによって**学習成果を把握及び評価している**。

【2021年度認証評価】日本高等教育評価機構の評価基準(抜粋)

- 3-3-② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック



例4) 比治山大学

審視指標のツール(現在、大学生基礎力レポートI・II)として、「4×3の比治山力」やディプロマ・ポリシーと**親和性の高い「PROGテスト」を導入することとした**。

例5) 北陸学院大学

本学における学修効果の可視化の努力の一環として、この「キリスト教的人間観」の修得についても、その試みが開始されている。その具体的手がかりの一つとして令和2(2020)年度より学校法人河合塾と株式会社アセックが共同で開発・実施している**アセスメントテスト「PROG」(Progress Report on Generic Skills)**を導入している。本学ではこのテストに独自の設問を加え、「キリスト教的人間観」に関わる10の問いを学生に問い、PROGと連動したアンケートとして実施している。

例6) 成安造形大学

本学では、芸術大学という特性から開学以来、ほとんどの実習科目で「合評」を取り入れている。合評では、学生が自ら制作した課題をプレゼンテーションした上で、教員が講評するだけでなく、他の学生からの感想や意見を聞くなどしている。領域によっては、科目単位だけでなく、学年を超え領域全体で合同合評を行い、同学年ではない学生と意見交換する機会を設けている。なお、令和2(2020)年度はコロナ禍により、合評の実施を見送った。また、教授方法の工夫・開発を進めるために、「成安造形大学FD委員会規程」を定め、教員の指導内容や方法の向上を図っている。令和2(2020)年度よりFD(Faculty Development)については内部質保証の観点から、「質保証協議会」が統括し、組織的な体制を整備している。「授業評価アンケート」や卒業時に調査している「学修成果アンケート」、**アセスメントテスト「PROG」などの結果を踏まえ、FD研修会のテーマなどを協議している**。

「PROGテスト」を授業科目に活用することによって、各科目の成績がより効果的に活用されている。PROGテストの調査データをより有効に活用して、教材開発や授業研究(講義で取り扱う企業等のケース)に取り組んでいく。

2) 比治山大学短期大学部

比治山大学学修マネジメント基本方針に基づいて、3つのレベル(大学、学位プログラム、授業科目)での学修成果・評価の結果を改善につなげる。アセスメントプランと時系列アンケート調査に基づいた点検・評価の結果をユラムの見直しや学修活動の改善向上につなげる。特に学修時間の増加を学修成果の実質化の標として改善を図る。また、審視指標については、令和3(2021)年度から、「4×3の比治山力」やディプロマ・ポリシーとの親和性などにより、「PROGテスト」を使用している。

多様な受験方法により受験率の向上、正しい測定

- 大学様のご要望に合わせて「マークシート受験」、「WEB受験」の2つの受験方式をご用意しています
- 「WEB受験」では「即時採点」が可能で、WEB上での**結果の閲覧および報告書のダウンロード**が可能です
- 「WEB受験」による受験率向上のための、**受験リマインド機能**
- 「WEB受験」による回答姿勢低下防止のための、**チュートリアルや、タイムログによる受験時間評価**ができます * オリジナル

マークシート受験
設問用紙

マークシート受験
回答用紙

WEB受験 (即時採点)

リテラシーテスト 問題用紙

コンピテンシーテスト 問題用紙

河合塾 **riasec**

PROG <実施上の注意>

回答用紙の記入方法

マークシート受験

取扱い注意

個人情報の記入方法

マークシート受験

PROG を受験する皆様
No : R00XXXXXX0001

【見本】●●大学 PROG 受験票

受験画面 URL : <https://riasec.yokuriseac.co.jp/prog-01/>
 ログインID : R00XXXXXX (半角英数字Rは英文字)
 パスワード : 88888888
 受験方法 : 下記をご参照ください。
 受験期間 : 2016年12月15日 ~ 2016年12月31日

【弊社使用例】

1) PROG 受験画面を立ち上げる。

2) 「ログインID」「パスワード」を入力する。

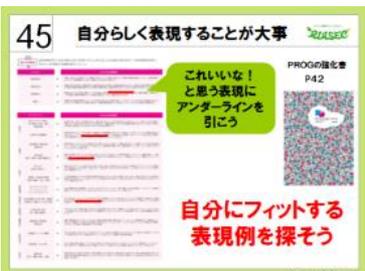
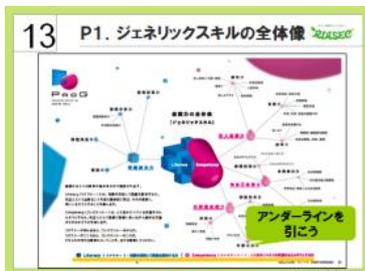
3) 画面の指示をご確認ください

河合塾 **riasec**

- ・受験後、学生向けに解説会を通じて、下記テーマの目標に近づけていきます。
解説会スライドは大学様に提供し、学内で内製化して頂くことも可能です。

・講座テーマ

- L 1年生 自分の強み・弱みを確認し、今後開発していく為の行動計画を立てる
- L 3年生 自分の成長を振り返り、自己PRにつなげていく為の自己分析支援



【他大学の解説会終了後の学生アンケート一部抜粋】

- 自分に何が足りなかったとか、これがいいと言う事が分かりました。また、これが、**社会に出ていくにおいて、とてもためになる授業だ**と思いました。
- 自分では**分からない、知らなかった、自分に気付けた、知れた**、ことによってこれからの大学生活が楽しくなりそう。**そして頑張ろうと思わせてくれたから。**
- この授業に参加した理由が、「**自分をもっと知りたい**」だったので今回の結果で、**自分のいい所も、これから伸ばす所も知れたので今後にいかしたい**と思った。
- 自分がいままで**大切にしてきたものの再確認**や、これから自分が**どんなアクションを起こせばいいのかわかった。**
- 最初は面倒くさそうだなと正直思ったけれど自分を知ることは大切だしすごい自分のためになったから。今の**自分を見つめ直す時間なんてそうそうないから貴重な時間だった**と思ったから。
- 自分の強みと弱みを知ることができて**ためになりました。特に私は計画立案力が欠けていることを学び、**今後改善していくきっかけ**となりました。

受講者の多くが、強みだけではなく、弱みも肯定的にとらえ、能力開発の為の次の行動のヒントを得られている様子が伺える。

留学生への対応が可能

- 英語版、タイ語版を保有し、海外大学とのPBLや留学生に対応
- PROG独自のサービス

0019 テスト大学 1129 サンプル



Report for Mr./Ms. サンプル

[Assessment date] 2015/10/31
[Previous assessment date] 2015/05/10

Literacy

[1 : Four skills that support literacy]

Literacy consists of four skills essential to the problem-solving process:

- ① Collecting information
- ② Analysing information
- ③ Identifying problems
- ④ Forming strategies

The ability to solve problems requires studying the relevant knowledge and using actively applying the above skills.

Analysing information
Results 3

Identifying problems
Results 2

Collecting information
Results 3

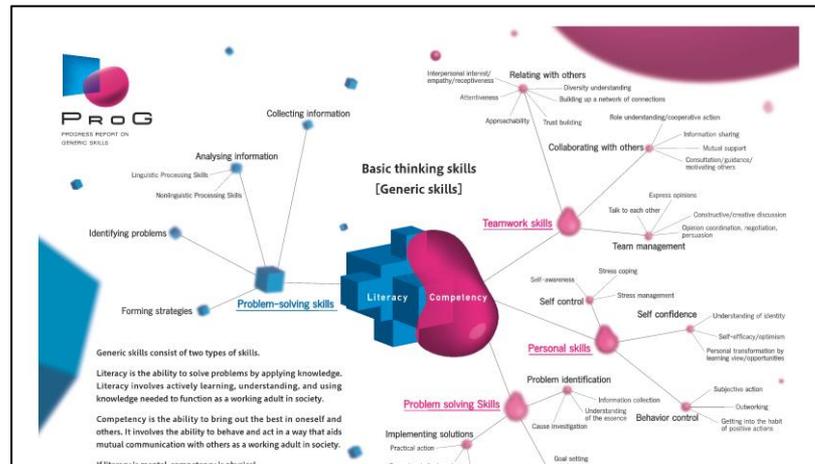
Forming strategies
Results 4

Most recent score 2015/10/31
※ The results on this page are scored from Level 1-5.



Literacy Development Profile for Mr./Ms. サンプル

The four abilities constituting your literacy include both developed and underdeveloped abilities. The ability at the highest level is conceptual ability. This is the ability to appropriately consider the process to resolving a certain issue, in consideration of the envisaged risks and constraints. Put simply, you today are a person who is good at delimiting the optimal strategy. While conversely, the ability at the lowest level, which will become an issue for the future, is the ability to identify problems. You might be aware of areas in which you are lacking such as examining a certain matter from various angles and considering what to solve first among multiple issues. Whether improving strong points or outgrowing weak points, the choice is yours. It's important to act and train consciously in daily life.



Competency

[1 : Three skills that support competency]

Competency skills

In order to respond appropriately to a changing environment and human relations, it is necessary to understand others, the nature of the problem, and oneself.

As such, competency consists of three skills:

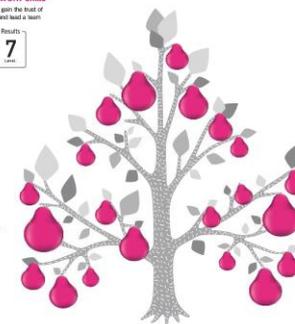
- ① teamwork skills
- ② problem-solving skills
- ③ personal skills

How do these skills make up competency and in what proportion? This is reflected in your actions and behavior and can be seen in how you appear to others.

Teamwork skills
Results 7

Personal skills
Results 7

Problem solving Skills
Results 7



Most recent score 2015/10/31

Competency development profile ① of Mr./Ms. サンプル

The three abilities constituting your competency are all at a high level. Among them, the most developed is basic interpersonal skills. A person with this ability is skilled at sharing matters with others in confidence and motivating someone by suggesting "let's do it together!" For example, even if it's a scene featuring conflicting opinions in a team activity, you can incorporate the opinions of others while expressing your own opinion and showing an attitude of trying to unify things into a single concept. Needless to say, your competency can still be improved. The key to growth is to embark on the unknown. Welcome and challenge unknown experiences to further acquire actions that go alongside various environments/situations.

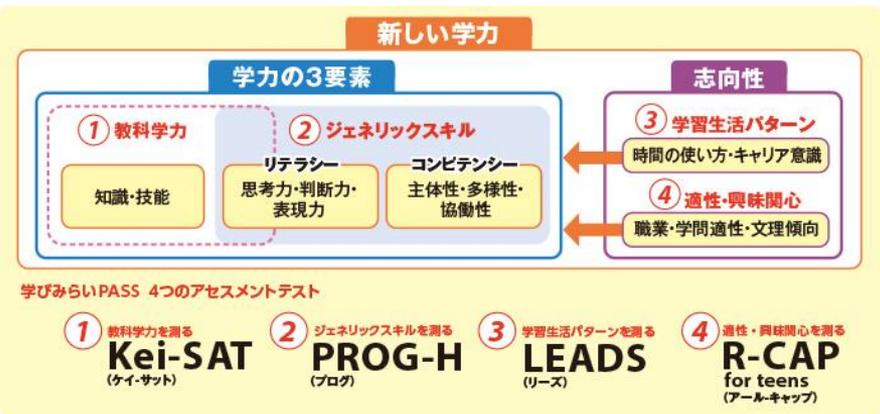
- 高校版PROG = 学びみらいPASS
- 高校での、探求を軸にPROGテストの活用が広がる
- 大学での総合型選抜での活用も始まる

「新しい学力」測定・統合アセスメント

学びみらいPASS

NEW

中学生版
みらいPASSジュニア
についてはこちら



「学びみらいPASS」導入校座談会

東大寺×灘×洛星×洛南

—各高校が見据えるこれからの教育—

変わる高校教育

学力観の変化と 学びみらいPASS

学力観の変化、新学習指導要領への移行、スクール・ポリシーの策定などをきっかけに、育てたい生徒像や、生徒に身につけさせたい資質・能力を見つめなおす高校が増えています。

そして、探究活動に力を入れたり、各教科でパフォーマンス課題を取り入れたり、学校行事や部活動などを「資質・能力」の観点から位置づけなおしたりするなど、さまざまな教育改善が進められています。

さらに、それらの教育活動を通じた生徒の成長の把握や、学習活動の成果検証を各高校が充実させています。

そうした中、教科学力だけでなく多面的な力を測定するアセスメント「学びみらいPASS」(MMP)の導入校が増えています。

本特集では、13校の取り組みから、学力観や高校教育の変化について考えます。

洛星高校・丹羽先生、洛南高校・小林先生

◎司会
河合塾 山口 大輔
(学びみらいPASS開発担当)

現をサポートするために働きまわっている丹羽と申します。通路主任をして3年目になります。も自由な校風です。知識だけでなく「全人教育」。人の痛みに加え、求しと生徒の興味・関心を前にとをめぐり、さまざまな教員に取り組んでいます。本日は

Kawajuku Guideline 2022.10.11 5

CONTENTS

「学びみらいPASS」導入校座談会 東大寺×灘×洛星×洛南 —各高校が見据えるこれからの教育—	➡ p4
MMP開発の経緯とアセスメント概要	➡ p12
MMP活用事例	➡ p14

- 札幌市立札幌開成中等教育学校
- 宮城県仙台第三高等学校
- 茨城県立並木中等教育学校
- 鶴友学園女子高等学校
- 愛知県立刈谷高等学校
- 須磨学園高等学校
- 六甲学院高等学校
- 佐賀県立佐賀西高等学校
- 鹿児島県立鶴丸高等学校

✓ 全ての能力が最高レベルである必要はない

全ての能力項目がレベル7である必要はありません。4レベルで十分に社会通用性はあります。

まずは、自分の特徴（強み・弱み）を把握する事が重要です。その上で、本人が「もっと伸ばしたい」、「克服したい」と意識する事に焦点をあてた指導をお勧めしています。

✓ 先天的なものではなく学習や経験によるスキルを測定している

PROGは持って生まれた性格や気質ではなく、学習によって変化する可変な能力を測定しています。したがって、スコアが低いというのは、単に経験や学修が足りなかった。またはそれを発揮する場が無かったことを意味しており、これからの授業や課外活動等を通じどう経験を積んでゆくかが重要です。

✓ 個人の特性の一部であり人格や社会性を制限するものではない

人の能力とは多様であり、その価値は一義的なものではありません。PROGが測定している「ジェネリックスキル」は個人の一部の特性を捉えているに過ぎません。したがって、この結果が個人の人格を否定したり、将来の選択に制限を加えるものではなく、あくまでも今後の学習活動の参考として活用してください。

その他: CAN DO CHART(レベルの目安について)

リテラシー(思考力)

リテラシー		定義	レベル	1	2	3	4	5
情報収集力	課題発見・課題解決に向けて、幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力	<ul style="list-style-type: none"> 情報源の特性を知る <ol style="list-style-type: none"> さまざまな情報源 インターネットで検索する 図書館で調べる 情報を整理・保存する <ol style="list-style-type: none"> ノートテイキング(講義を聴く) 情報をファイリングする アンケートとインタビュー <ol style="list-style-type: none"> アンケートを実施する インタビューを行う 	簡単な情報収集の仕方について、理解している	様々な情報収集の手段について、その利便性と問題点を理解できる	収集すべき情報の特性や情報源の信憑性が理解できる	仮説を検証するために必要な情報を見定めて収集し、整理保存ができる	複雑な文脈の中で、仮説を検証するために必要な情報を見定めて収集し、整理保存ができる	
情報分析力	事実・情報を思い込みや憶測ではなく、客観的かつ多角的に整理・分類し、それらを統合して隠れた構造を捉え、本質を見極める力	<ul style="list-style-type: none"> 表やグラフを読み取る <ol style="list-style-type: none"> 図表・グラフの種類と特性 グラフの「読み取り」「分析」のポイント 複数のグラフや表を総合して読み取る 文献・資料を読む <ol style="list-style-type: none"> 論理的なテキストの特性 論理的なテキストの読解 見出しをつける 全体像を捉える 批判的・多角的に分析する <ol style="list-style-type: none"> 批判的読解とは 批判的読解の具体的なあり方 	簡単な図表や文章を読み取ることができる	図表や文章から、客観的な事実や因果関係を読み取ることができる	図表や文章から読み取った内容の関係を論理的に思考し、構造化することができる	情報を多角的に理解し、それらを統合して本質をとらえることができる	複雑な文脈の中で、情報を多角的に理解し、それらを統合して本質をとらえることができる	
課題発見力	さまざまな角度、広い視野から現象や事実を捉え、その背後に隠れているメカニズムや原因について考察し、解決すべき課題を発見する力	<ul style="list-style-type: none"> 広い観点から問題点を洗い出す <ol style="list-style-type: none"> 拡散思考について ブレインストーミングで発想を広げる フレームワークで考える 問題点を整理・分析する <ol style="list-style-type: none"> 収束思考について 収束思考に必要な観点 マップ化による整理 発見された問題の中から、解決すべき課題を設定する <ol style="list-style-type: none"> 問題点から課題への絞り込み 課題への絞り込みに必要な観点 	簡単な問題において、解決すべき課題を選択することができる	複数の情報を整理し、解決すべき課題を設定することができる	いくつかの問題点の中から、解決すべき課題の優先順位を理解することができる	複数の情報から問題の本質を見極め、解決すべき課題を設定できる	複雑な文脈の中で、複数の情報から問題の本質を見極め、解決すべき課題を設定できる	
構想力	さまざまな条件・制約を考慮しながら問題解決までのプロセスを構想し、その過程で想定されるリスクやその対処方法を構想する力	<ul style="list-style-type: none"> 広い観点から解決策を考える 現実味のある解決策を考える 計画を立てる <ol style="list-style-type: none"> 必要な作業をもれなく洗い出す 具体的な行動計画を考える 	簡単な問題において、解決策を選択することができる	問題解決のプロセスに即して、解決策を構想することができる	いくつかの解決策の中から、制約条件を踏まえて有効な解決策を選択することができる	制約条件やリスク等をふまえて、有効な解決策や行動計画を構想できる	複雑な文脈の中で、制約条件やリスク等をふまえて、有効な解決策や行動計画を構想できる	

コンピテンシー(対人基礎力)

コンピテンシー(対人)		定義	レベル	1	2	3	4	5	6	7
親和力	他者との豊かな関係を築く	人に対して、興味をもって相手の話を聞き、相手の立場や気持ちを思いやったり、共感し受けとめる、また多様な価値観を受け入れる。さらに、そうした関わりから、相手と信頼関係を築いたり、人脈を広げていく力		<ul style="list-style-type: none"> ・親しくない人には無愛想になりがち ・興味をもって相手の話をきいたり相手の立場を考えた言動をとることが苦手 	<ul style="list-style-type: none"> ・人に対して笑顔で接することができる ・相手の立場や気持ちを考えたり、人間関係に配慮した言動を心がけている 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に対して自然な気配りができる ・自分と異なる考えや意見でも興味深く相手の話を聞き、理解を示すことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・親しくない人に対しても、自分から気軽に話しかける ・人から相談された際は相手の話を一生懸命聴き、信頼を得ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人や周囲の状況に対して細やかな気遣いができる ・必要に応じて自分の気持ちを素直に表現し人脈を広げる行動をとることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談された際は、相手の置かれた立場や背景をも汲み取って理解しようとする ・誰に対しても臆せず接し人脈を広げていくことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・築いた人脈や関係性の維持に努めることができる ・人脈ネットワークを広げるために自ら場を創り、維持・運営することができる
協働力	目標に向けて協力的に仕事を進める	周囲や集団において、自分の役割を理解した上で互いに連携・協力、助け合ったり、情報を共有して一緒に物事を進めていく。さらに、他者の相談に乗るなど働きかけ、動機づけする力		<ul style="list-style-type: none"> ・他の人と一緒に物事に取り組むのが苦手 ・周囲の人が困っている状況に気づかないことが多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の中で、割り当てられたことは自分なりに工夫しながら取り組む ・周囲に気を配り、困っている人には手を貸そうとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームで課題に取り組む場合には、自ら情報発信するなど、チームへの貢献を考えて行動することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・人から相談された際に、本人がやる気が出るよう働きかけをすることができる ・雰囲気づくりなどを通じてチームに貢献することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰かを支援する時には全力でサポートする ・周囲との協力や働きかけを通じて、チームの成果に貢献することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーとして、周囲の状況への気配りや働きかけをすることができる ・チーム全体のやる気を高めることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーとして、状況や相手に応じチームのメンバーを動機づけることができる ・相互支援や情報を共有しあう環境をつくることができる
統率力	場をよみ、組織を動かす	集団の中で、自分の意見を主張すると同時に、議論の活発化や発展のために集団に働きかける。また、必要に応じて、意見の調整、交渉、説得し、集団を合意に導く力		<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの場では議論に消極的なことが多い ・発言の際、考えが整理されず相手に言いたいことが伝わらないことが多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを整理し、筋道を立てて伝えることができる ・話し合いの場では、議論の目的を見失わずに意見を述べるることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを論理的かつ気持ちを入れて相手にわかりやすく伝えることができる ・意見の異なる相手でも、粘り強く自分の考えを話す 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手や状況に関係なく、はっきりとした主張ができる ・相手の立場や背景も考慮しながら意見調整を進めることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の反対にあっても孤立しても、正しいと思うことは粘り強く主張できる ・建設的、かつ創造的な議論を意識した発言ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員に発言を促し、整理や方向づけによって議論を進展させていくことができる ・リーダーとして、チームの結論を導くことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見が対立する中でも、建設的に議論を導くことができる ・聴衆を引き込み納得させるようなプレゼンテーションをすることができる

受験日： 2023年5月 ~ 2024年2月

※2・4年生は集計対象外としています。

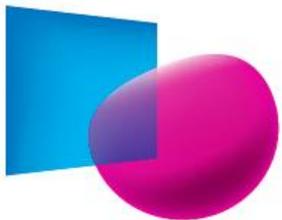
学部	学科	1年	2年	3年	4年	合計
生涯スポーツ学部	スポーツ教育学科	135	9	142	28	314
	健康福祉学科	23	2	13	4	42
		158	11	155	32	356
教育文化学部	教育学科	121	0	114	12	247
	芸術学科	55	3	25	6	89
	心理カウンセリング学科	49	0	41	8	98
		225	3	180	26	434
合計		383	14	335	58	790

※リテラシーテスト受験時間制限45分のところ解答時間20分未満または、全30問中解答数10問以下の学生について解答姿勢が低かったことが想定されるため、これらの学生のスコアを除いて集計しております。
除外対象・集計対象数と除外前スコアは下記の通りです。

学部	学科	学年	受験人数	除外対象	集計対象	除外前スコア		学年	受験人数	除外対象	集計対象	除外前スコア	
						リテラシー 総合	コンピテンシー 総合					リテラシー 総合	コンピテンシー 総合
生涯スポーツ学部	スポーツ教育学科	1年	216	81	135	2.70	3.83	3年	186	44	142	3.16	3.72
生涯スポーツ学部	健康福祉学科	1年	40	17	23	2.43	3.46	3年	25	12	13	2.44	3.68
教育文化学部	教育学科	1年	143	22	121	3.85	3.34	3年	140	26	114	3.79	3.30
教育文化学部	芸術学科	1年	67	12	55	3.42	3.12	3年	33	8	25	3.61	2.76
教育文化学部	心理カウンセリング学科	1年	52	3	49	3.50	2.90	3年	45	5	40	4.53	2.78

■2023年度貴学受験者1018名の平均解答時間と平均解答数は下記の通りです。

リテラシー解答時間:31分49秒 | リテラシー解答数:29.0問



PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.1

スポーツ教育学科

リテラシー総合 判定レベルに見る全体傾向

【リテラシー総合】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

凡例 (リテラシー総合)			
低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	有意差は認められない
●基準集団の分布と傾向が異なる場合 (有意確率30%未満)			
低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	低・中位層が多く、平均が基準値より低い (問題が内在している可能性がある)
低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

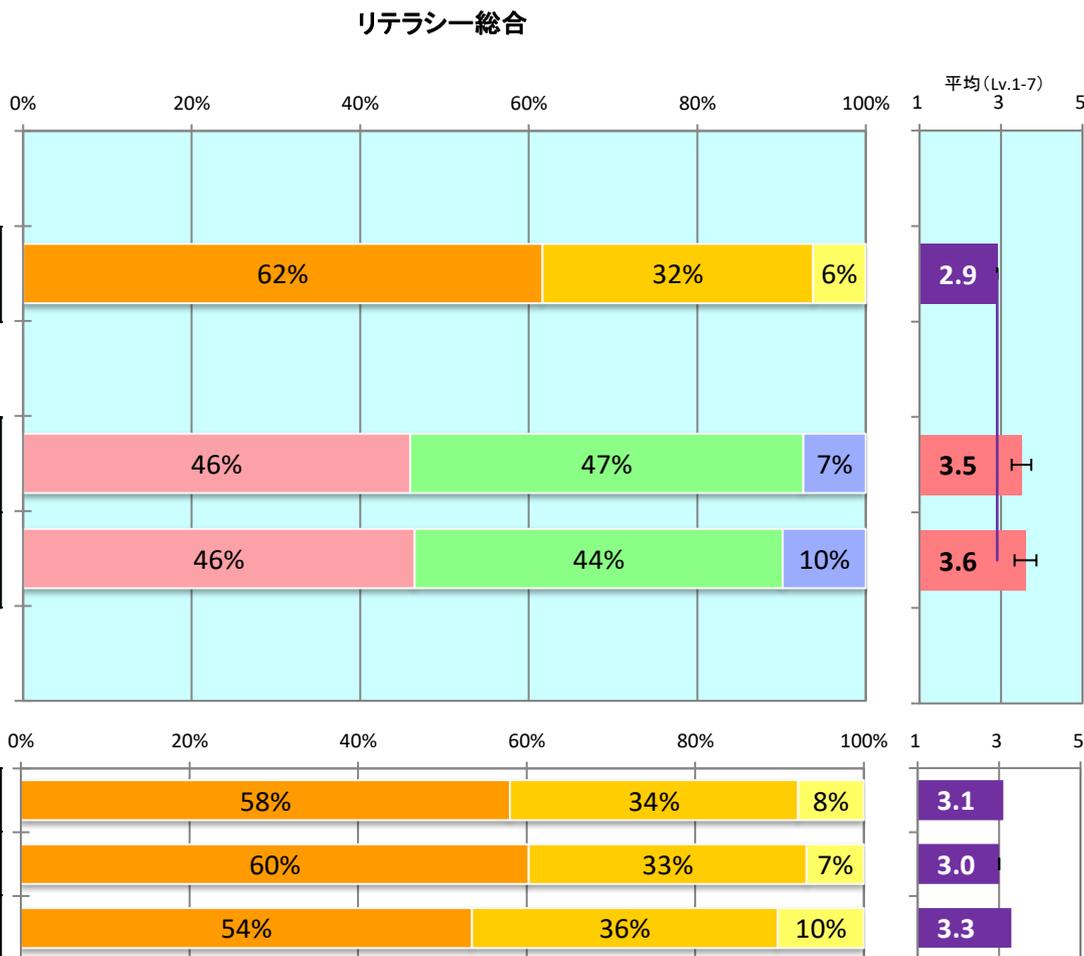
【基準集団】

★私立大学1年(体育学系/偏差値40未満)	9校 N=4,005
-----------------------	------------

	χ^2 乗値	有意確率
スポーツ教育学科1年	14.64	0.00
スポーツ教育学科3年	14.16	0.00

【ご参考基準集団】

私立大学3年(体育学系/偏差値40未満)	8校 N=2,170
私立大学1年(体育学系)	22校 N=7,725
私立大学3年(体育学系)	20校 N=4,414



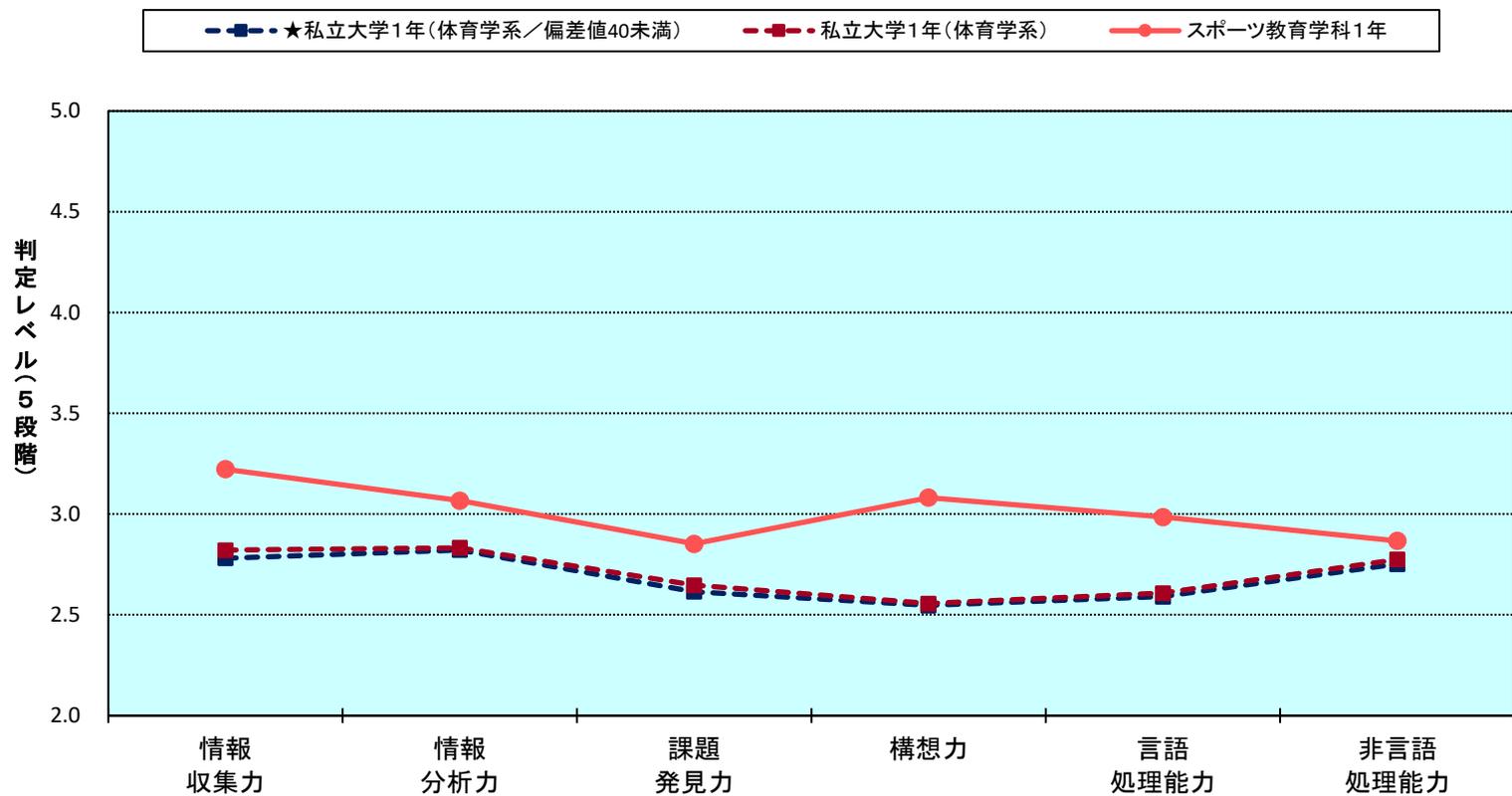
※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。
 ※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向①

【スポーツ教育学科1年】

基準集団(★印)と比較して、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は高い。

リテラシー要素



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

3) 基準集団よりも大きいのが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

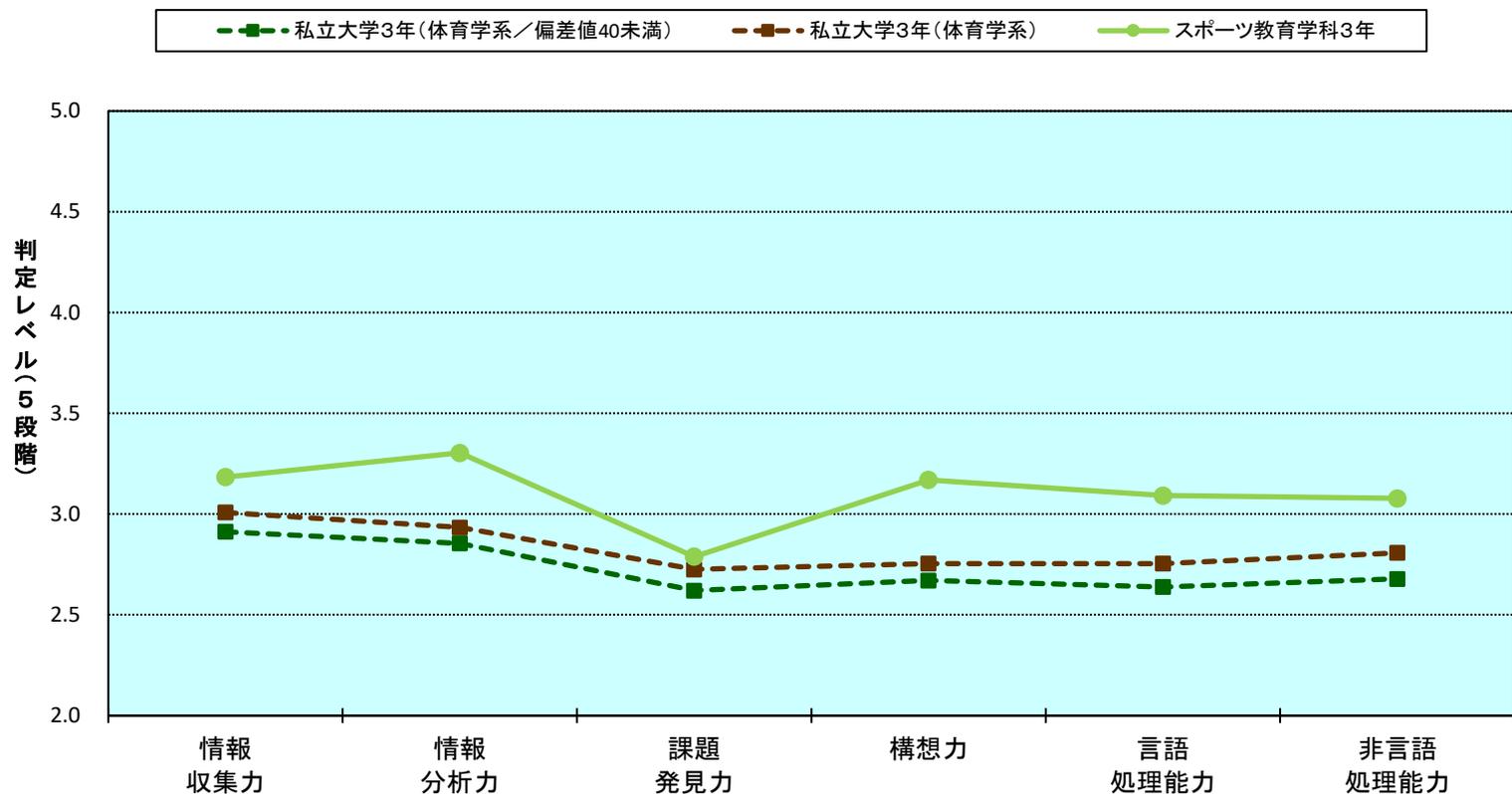
4) 基準集団よりも小さいのが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向②

【スポーツ教育学科3年】

基準集団(私立大学3年(体育学系／偏差値40未満))と比較して、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は高い。

リテラシー要素



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

- 1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
- 3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

- 2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
- 4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

コンピテンシー総合 判定レベルに見る全体傾向

【コンピテンシー総合】

●基準集団(★印)と比較して、スポーツ教育学科1年は、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる。

凡例 (コンピテンシー総合・大分類)			
低 (Lv.1-2)	中 (Lv.3-4)	高 (Lv.5-7)	有意差は認められない
●基準集団の分布と傾向が異なる場合 (有意確率30%未満)			
低 (Lv.1-2)	中 (Lv.3-4)	高 (Lv.5-7)	低・中位層が多く、平均が基準値より低い (問題が内在している可能性がある)
低 (Lv.1-2)	中 (Lv.3-4)	高 (Lv.5-7)	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

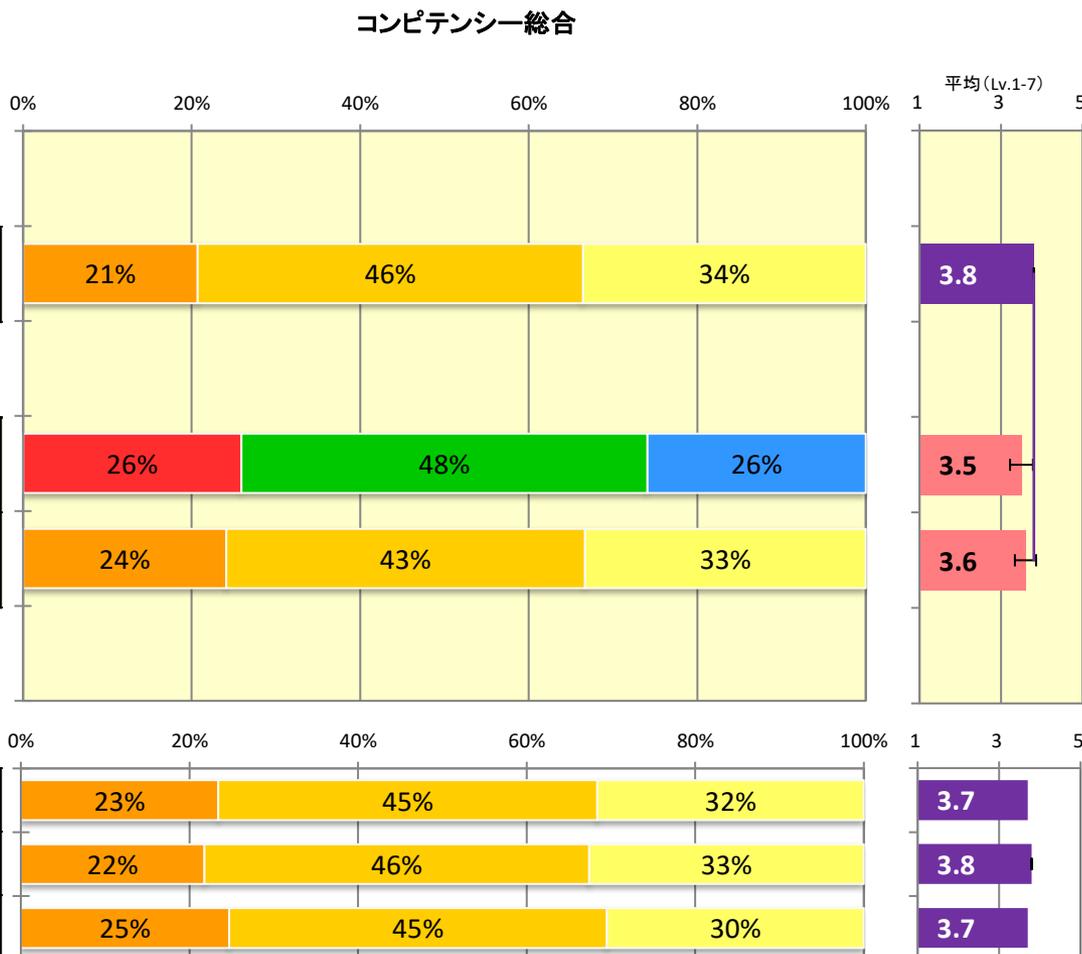
【基準集団】

★私立大学1年(体育学系/偏差値40未満)	11校 N=8,018
-----------------------	-------------

	χ^2 乗値	有意確率
スポーツ教育学科1年	4.28	0.12
スポーツ教育学科3年	1.10	0.58

【ご参考基準集団】

私立大学3年(体育学系/偏差値40未満)	11校 N=4,385
私立大学1年(体育学系)	27校 N=16,371
私立大学3年(体育学系)	27校 N=8,478



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。
 ※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

【対人基礎力】

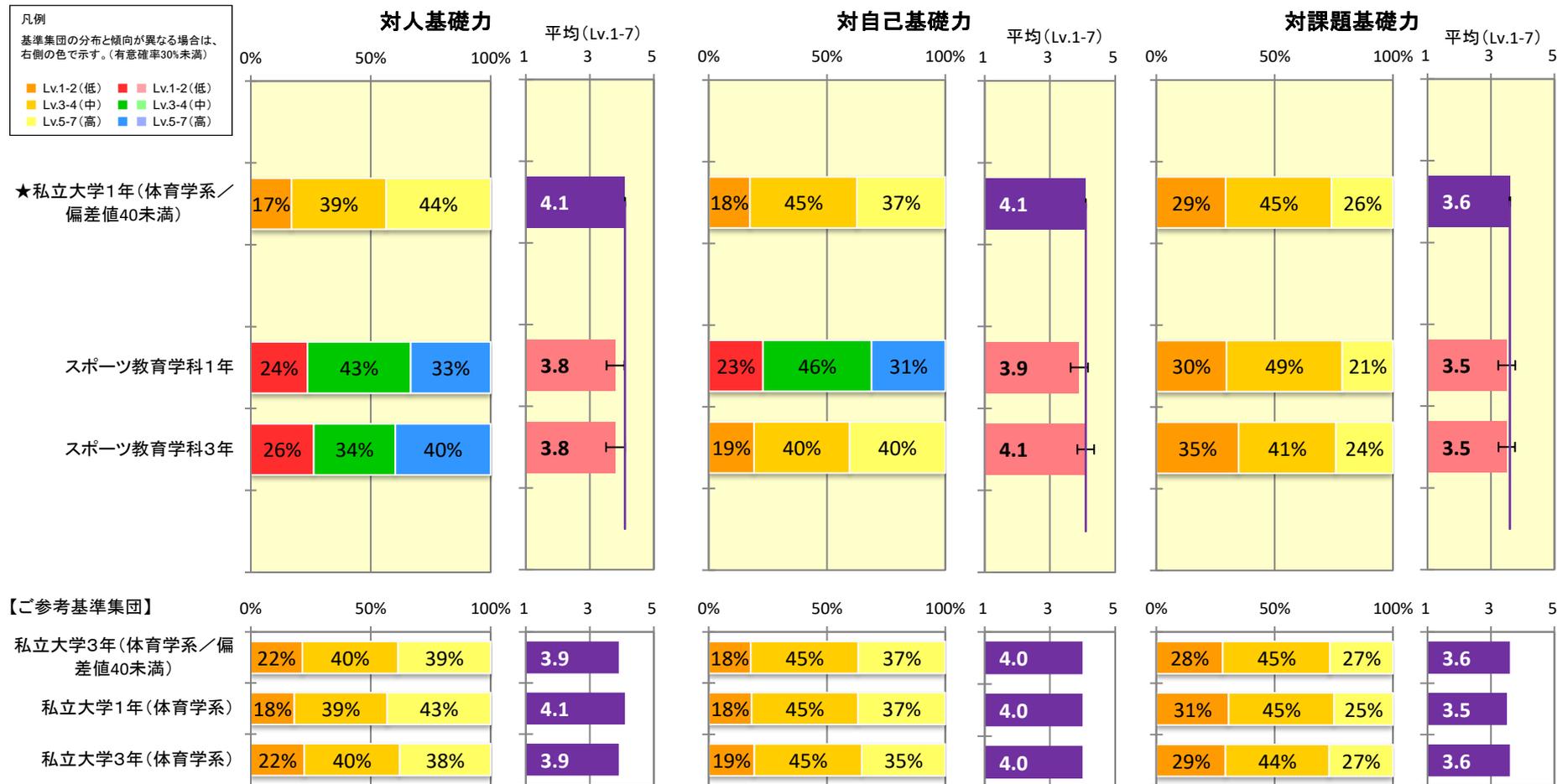
- 基準集団(★印)と比較して、スポーツ教育学科3年は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。
- 基準集団(★印)と比較して、スポーツ教育学科1年は、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる。

【対自己基礎力】

- 基準集団(★印)と比較して、スポーツ教育学科1年は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

【対課題基礎力】

- 基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。

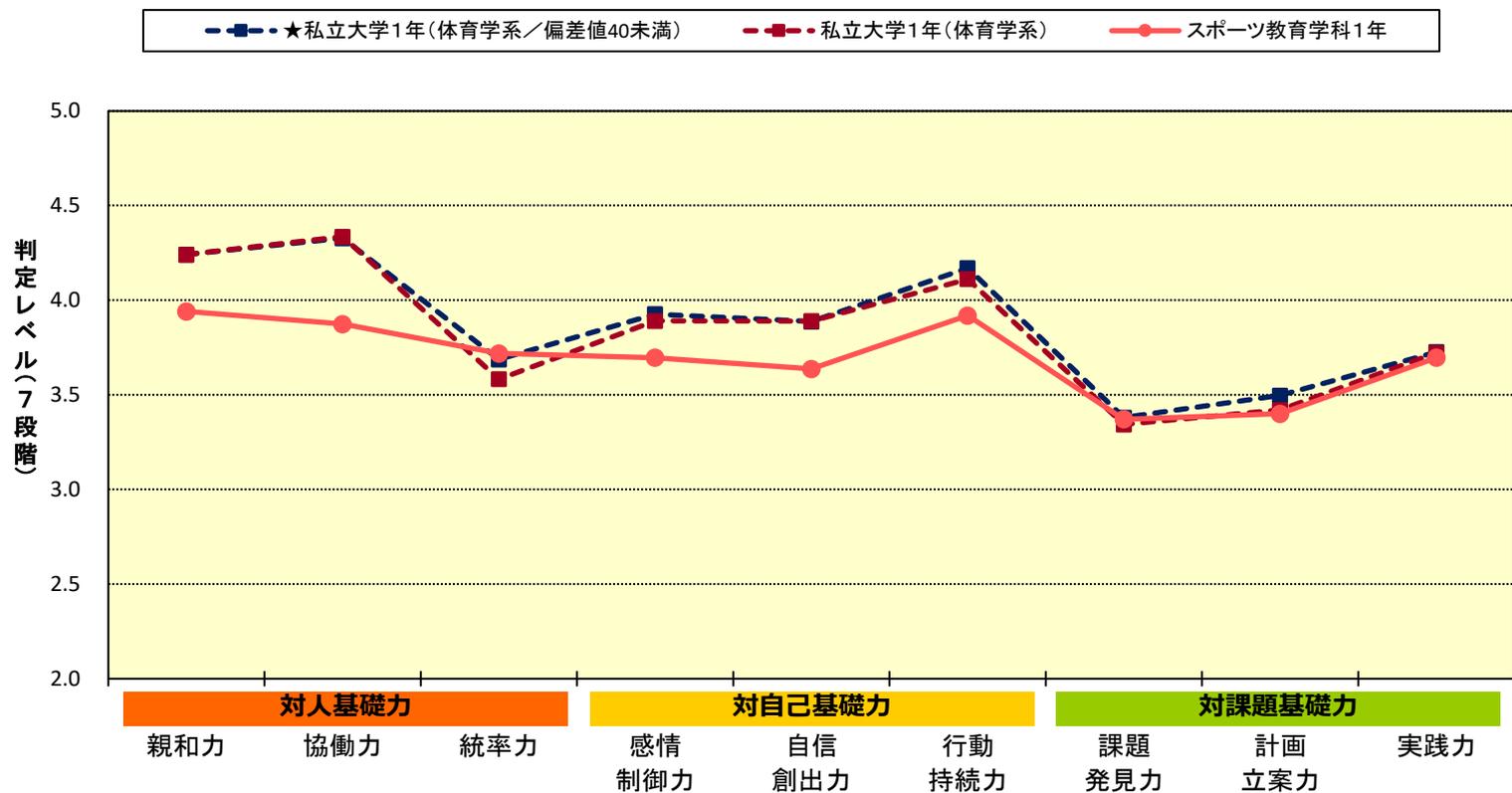
コンピテンシー中分類要素 判定レベルに見る全体傾向①

【スポーツ教育学科1年】

基準集団(★印)と比較して、統率力の平均値は上回る傾向にある。

一方、課題発見力、計画立案力、実践力の平均値は下回る傾向にあり、親和力、協働力、感情制御力、自信創出力、行動持続力の平均値は低い。

コンピテンシー中分類要素



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

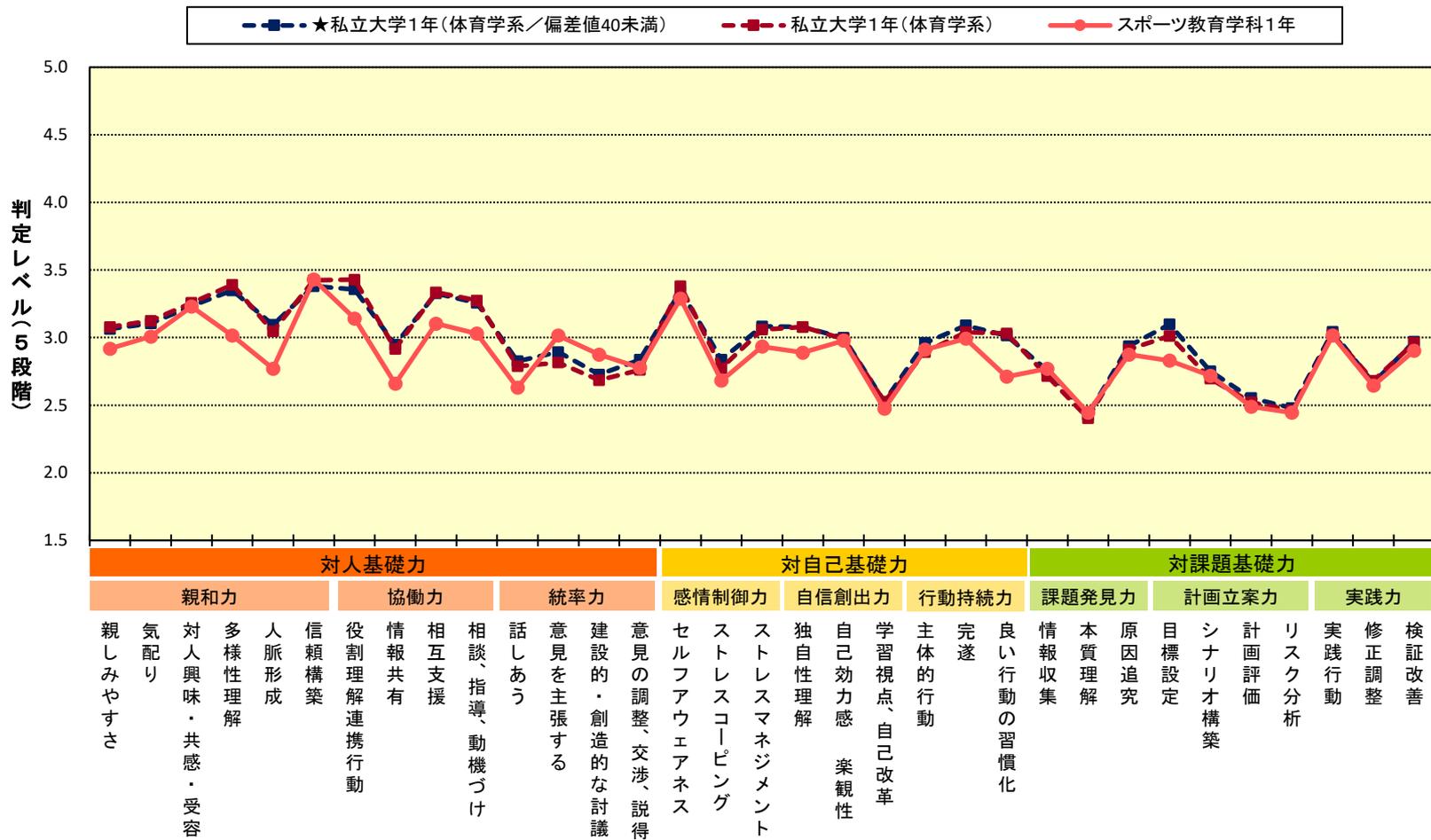
3) 基準集団よりも大きいのが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さいのが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

コンピテンシー小分類要素 判定レベルに見る全体傾向①

コンピテンシー小分類要素

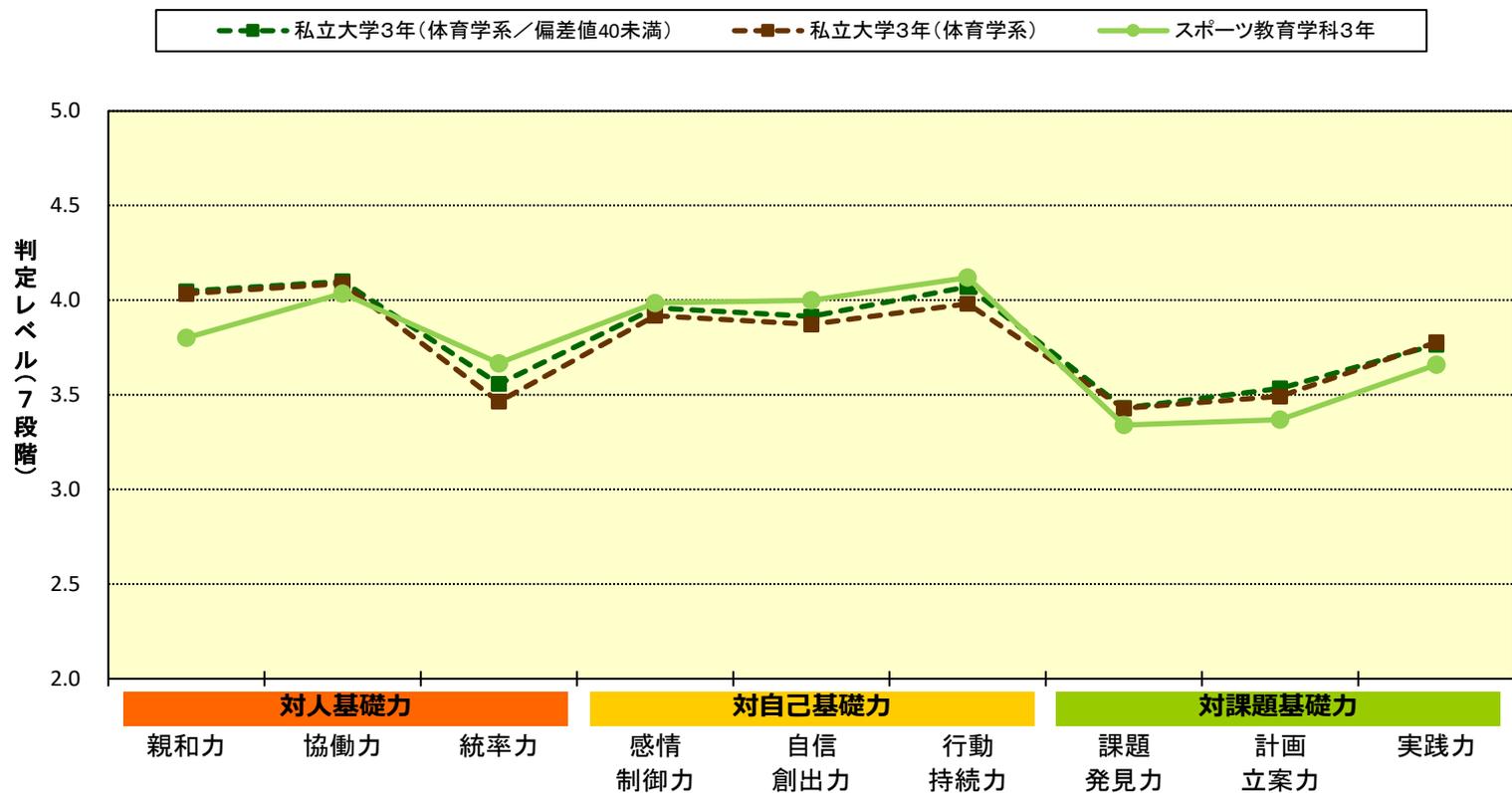


コンピテンシー中分類要素 判定レベルに見る全体傾向②

【スポーツ教育学科3年】

基準集団(私立大学3年(体育学系／偏差値40未満))と比較して、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力の平均値は上回る傾向にある。一方、課題発見力、計画立案力、実践力の平均値は下回る傾向にある。

コンピテンシー中分類要素



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

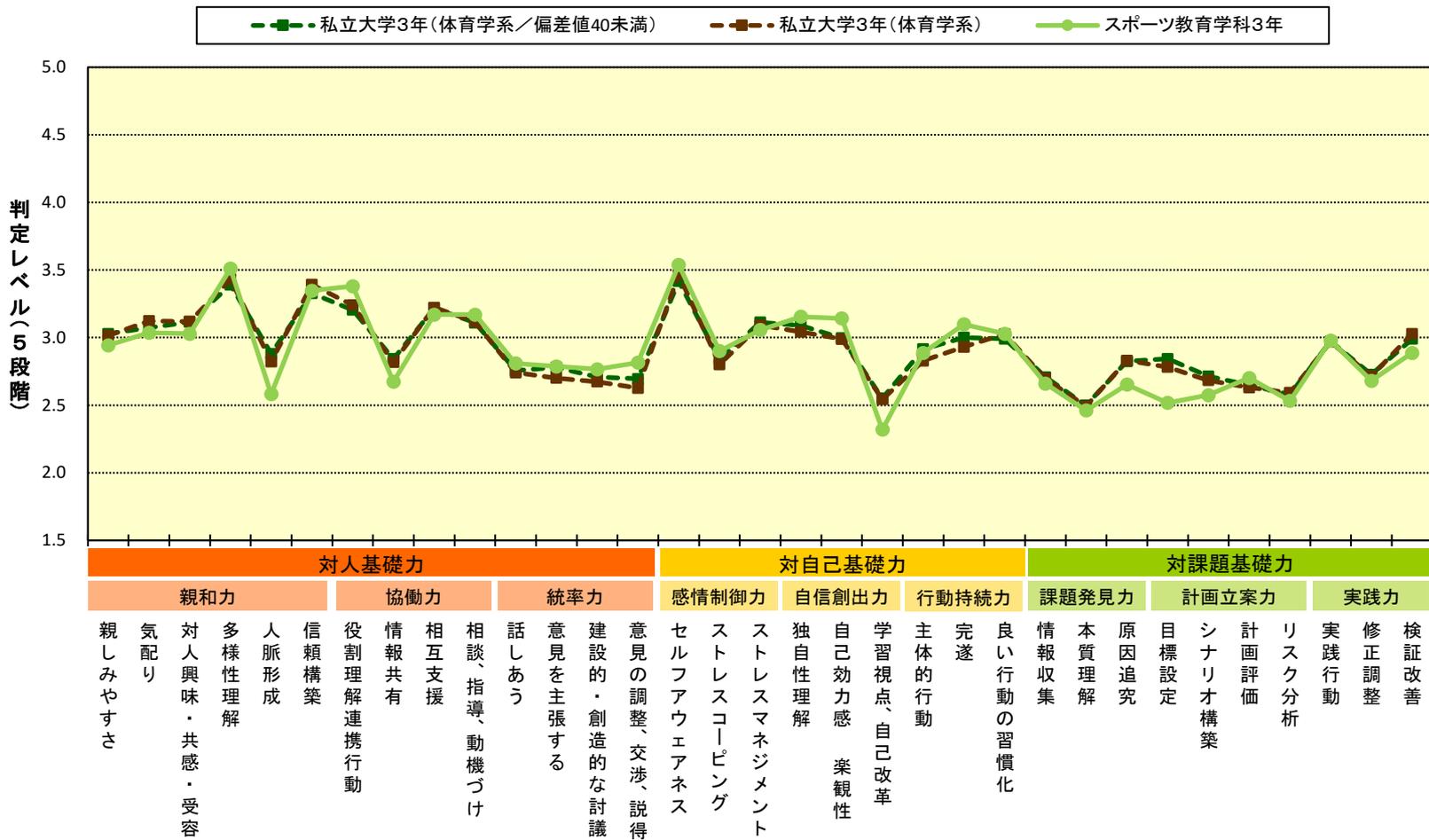
1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

3) 基準集団よりも大きいのが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さいのが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

コンピテンシー小分類要素



	リテラシー					コンピテンシー									
	総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	総合	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
							親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
スポーツ教育学科 1年	-	◎	◎	◎	◎	▲	▲	▲	-	▲	▲	▲	-	-	-
スポーツ教育学科 3年	-	◎	◎	◎	◎	-	▲	▲	-	-	-	-	-	-	-

記号のみかた

【リテラシー総合・コンピテンシー総合】

- ・・・基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる
- ▲・・・基準集団と比較して、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる
- △・・・基準集団と比較して、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる

【リテラシー要素・コンピテンシー要素】

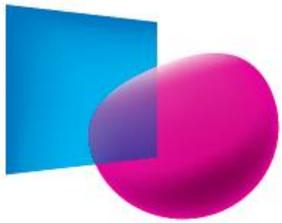
- ◎・・・標準誤差の下限が、基準集団を上回る
- ▲・・・標準誤差の上限が、基準集団を下回る

【スポーツ教育学科1年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー ●親和力	相談された際は、相手の置かれた立場や背景をも汲み取って理解しようとする 誰に対しても臆せず接し人脈を広げることができる 築いた人脈や関係性の維持に努めることができる 人脈ネットワークを広げるために自ら場を創り、維持することができる	初対面の人たちとも、積極的に関係づくりをさせる機会を設ける 情報交換や、勉強会などを自主的に運営させる 責任ある言動によって、集団の中で信頼を獲得するよう指導する お礼状(お礼メール)など、人脈の維持・管理に関する指導を行う
●協働力	リーダーとして、周囲の状況への気配りや働きかけをすることができる チーム全体のやる気を高めることができる リーダーとして、状況や相手に応じチームのメンバーを動機づけることができる 相互支援や情報を共有しあう環境をつくることができる	他者に教えることで、自分の知識を定着させるような機会を設ける リーダーとして周囲を動かすような機会を設ける リーダーとしてチーム全体のやる気を高めるような機会を設ける
●感情制御力	心を落ち着かせる自分なりの方法をもっている 緊張やプレッシャーを感じる場面でも、落ち着いて、かつ集中して取り組むことができる ストレスの原因に自ら働きかけ、解消することができる 自分の感情を率直に伝えることで、相手との信頼関係を築くことができる	強いプレッシャーの中で、いつもの力を発揮することを繰り返し練習させる 厳しい指摘や質問にも、的確に答えることを繰り返し練習させる ストレスの原因を冷静に見極め、その解決策を考えるよう指導する ストレスの原因に自ら働きかけ、解消させる
●自信創出力	自分の強みや持ち味を活かす機会を逃さないようにしている 常に良い結果をイメージして、自信をもって取り組むことができる どんな仕事や課題でも、主体性と好奇心をもって取り組むことができる 成長の機会を自ら創り出していくことができる	与えられたことでも、自分の成長のチャンスだと考えるよう指導する 失敗からも学ぶことが多いことを指導する 自分の意見や提案が、周囲から受け入れられる経験をさせる
●行動持続力	目標を定め、最後まで諦めずにやり遂げることができる 行動の検証と改善を繰り返しながら、より良い結果に結びつけることができる 課題には、自分が納得できる結果が出るように、期限ぎりぎりまで粘り強く取り組む 検証と改善を常に繰り返すことを習慣化している	レポートなど、自分の出す成果の質(水準)にとことん拘わらせる 一度始めたことは、結果がでるまで粘り強く取り組むよう指導する 行動の検証と改善を繰り返しながら、より良い結果に向かうよう指導する

【スポーツ教育学科3年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー ●親和力	相談された際は、相手の置かれた立場や背景をも汲み取って理解しようとする 誰に対しても臆せず接し人脈を広げることができる 築いた人脈や関係性の維持に努めることができる 人脈ネットワークを広げるために自ら場を創り、維持することができる	初対面の人たちとも、積極的に関係づくりをさせる機会を設ける 情報交換や、勉強会などを自主的に運営させる 責任ある言動によって、集団の中で信頼を獲得するよう指導する お礼状(お礼メール)など、人脈の維持・管理に関する指導を行う
●協働力	リーダーとして、周囲の状況への気配りや働きかけをすることができる チーム全体のやる気を高めることができる リーダーとして、状況や相手に応じチームのメンバーを動機づけることができる 相互支援や情報を共有しあう環境をつくることができる	他者に教えることで、自分の知識を定着させるような機会を設ける リーダーとして周囲を動かすような機会を設ける リーダーとしてチーム全体のやる気を高めるような機会を設ける



PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.2 健康福祉学科

リテラシー総合 判定レベルに見る全体傾向

【リテラシー総合】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

※健康福祉学科1年、健康福祉学科3年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

凡例 (リテラシー総合)			
低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	有意差は認められない
●基準集団の分布と傾向が異なる場合 (有意確率30%未満)			
低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	低・中位層が多く、平均が基準値より低い (問題が内在している可能性がある)
低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

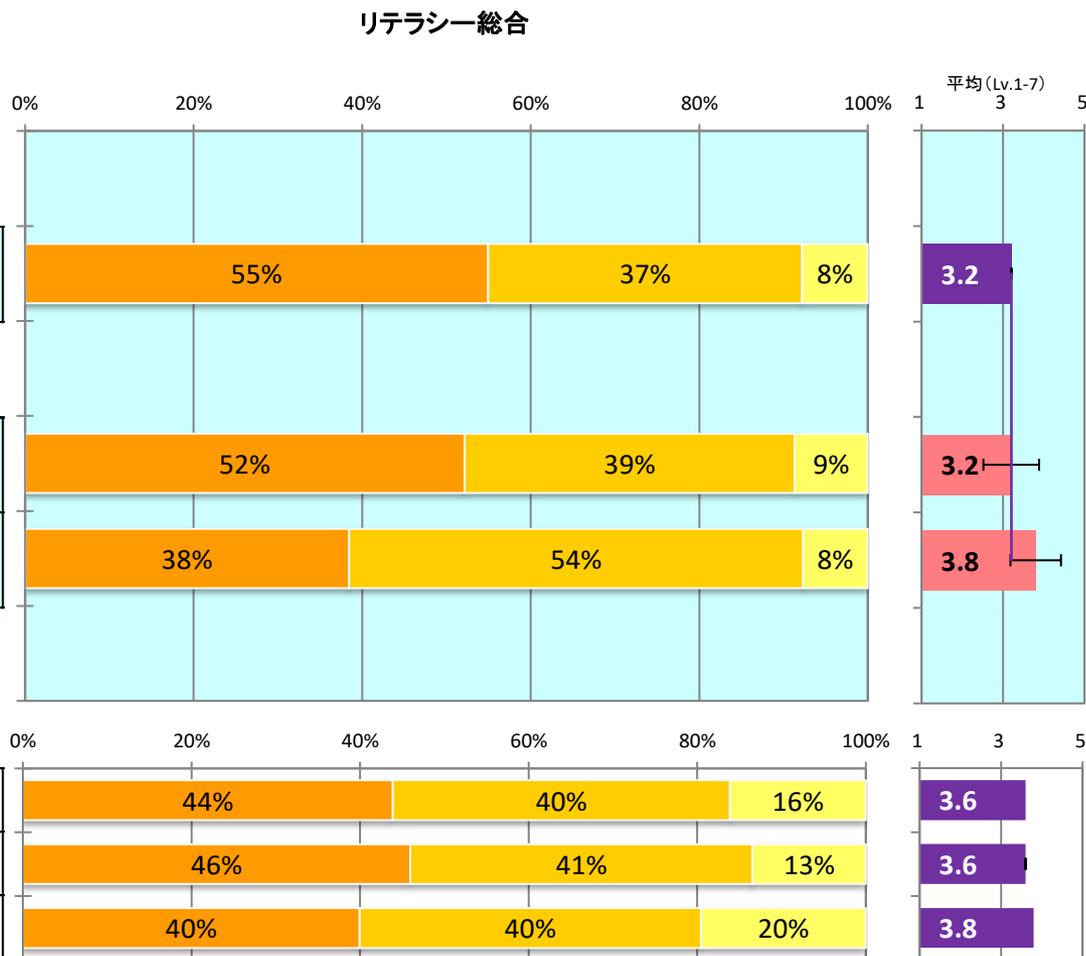
【基準集団】

★私立大学1年(福祉学系/偏差値40未満)	14校 N=1,758
-----------------------	-------------

	χ^2 乗値	有意確率
健康福祉学科1年	0.08	0.96
健康福祉学科3年	1.60	0.45

【ご参考基準集団】

私立大学3年(福祉学系/偏差値40未満)	16校 N=1,564
私立大学1年(福祉学系)	24校 N=2,917
私立大学3年(福祉学系)	23校 N=2,198



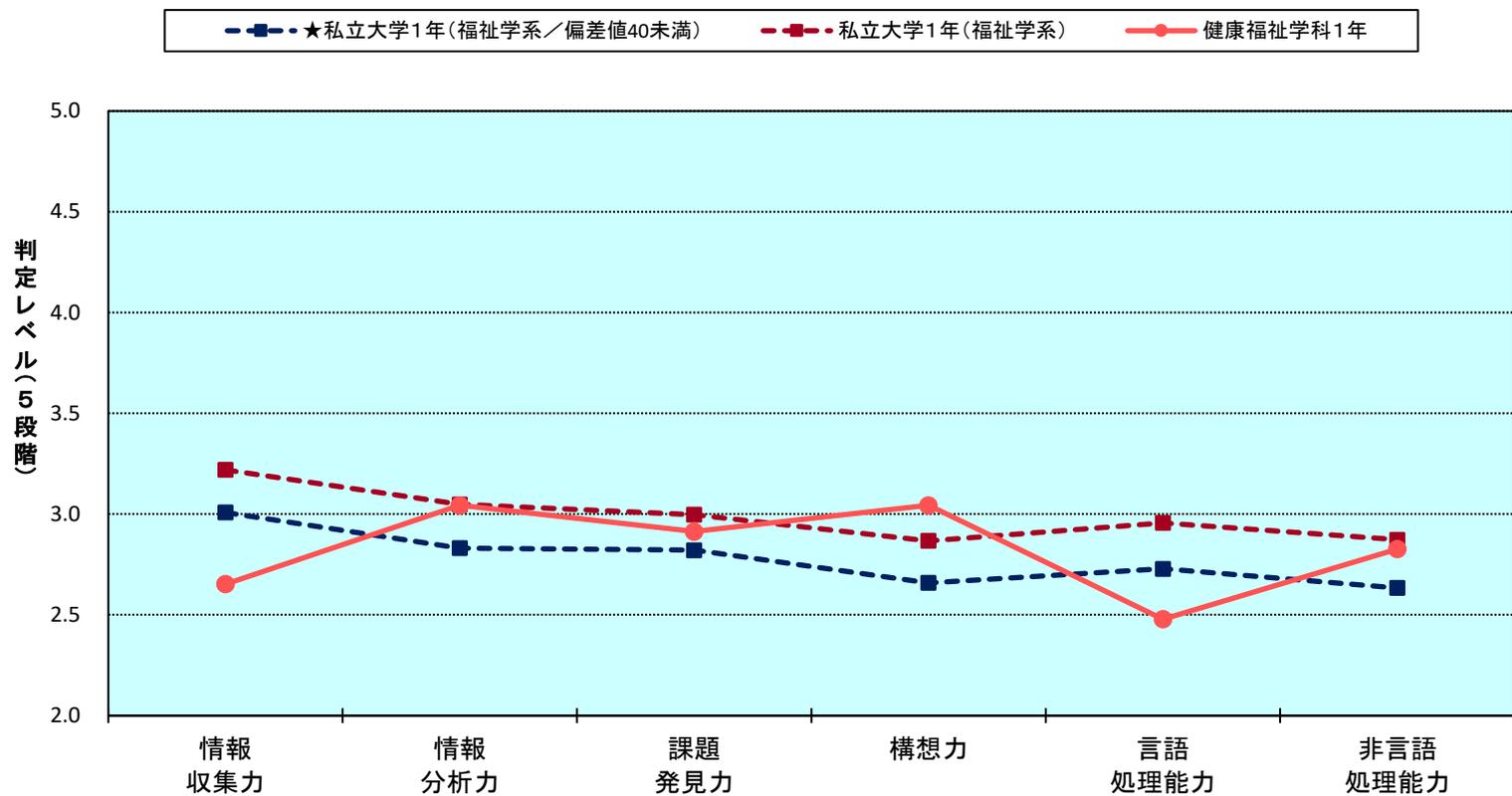
※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向①

【健康福祉学科1年】

基準集団(★印)と比較して、構想力の平均値は高く、情報分析力、課題発見力、非言語処理能力の平均値は上回る傾向にある。一方、情報収集力、言語処理能力の平均値は低い。

リテラシー要素



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

3) 基準集団よりも大きいのが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さいのが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

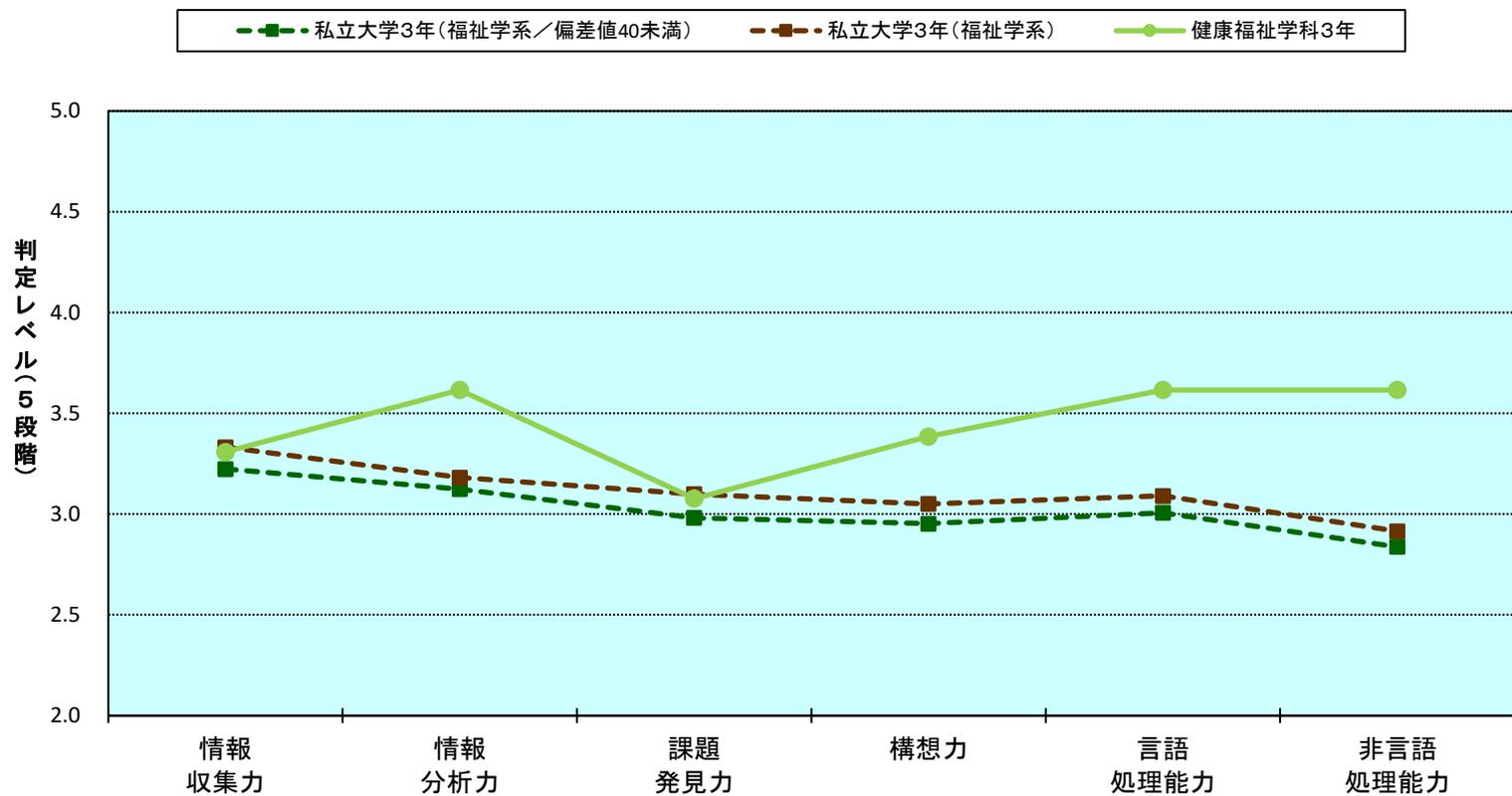
リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向②

【健康福祉学科3年】

基準集団(私立大学3年(福祉学系／偏差値40未満))と比較して、情報分析力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は高く、情報収集力、課題発見力の平均値は上回る傾向にある。

(※健康福祉学科3年は、受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。)

リテラシー要素



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

- 1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
- 3) 基準集団よりも大きいのが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

- 2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
- 4) 基準集団よりも小さいのが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

コンピテンシー総合 判定レベルに見る全体傾向

【コンピテンシー総合】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

※健康福祉学科1年、健康福祉学科3年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

凡例 (コンピテンシー総合・大分類)			
低 (Lv.1-2)	中 (Lv.3-4)	高 (Lv.5-7)	有意差は認められない
●基準集団の分布と傾向が異なる場合 (有意確率30%未満)			
低 (Lv.1-2)	中 (Lv.3-4)	高 (Lv.5-7)	低・中位層が多く、平均が基準値より低い (問題が内在している可能性がある)
低 (Lv.1-2)	中 (Lv.3-4)	高 (Lv.5-7)	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

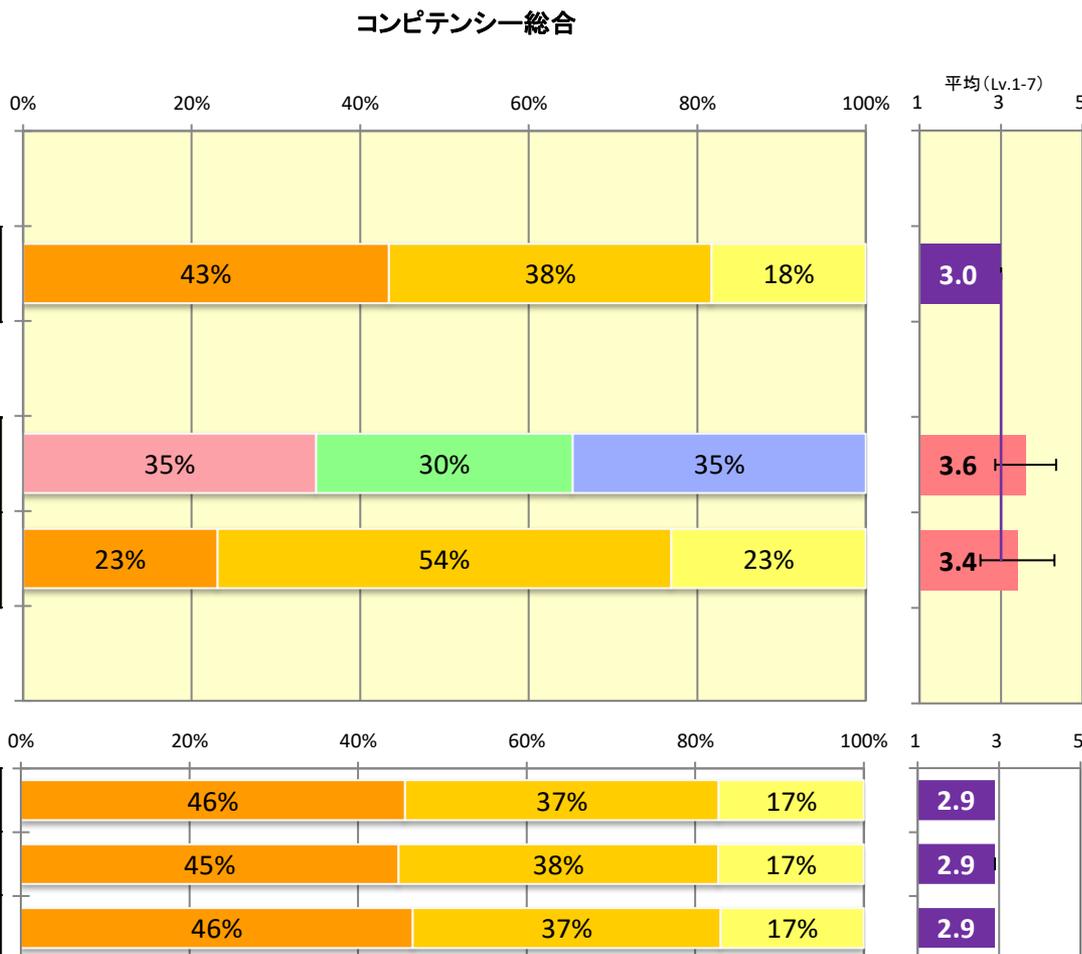
【基準集団】

★私立大学1年(福祉学系/偏差値40未満)	26校 N=7,541
-----------------------	-------------

	χ^2 乗値	有意確率
健康福祉学科1年	4.18	0.12
健康福祉学科3年	2.22	0.33

【ご参考基準集団】

私立大学3年(福祉学系/偏差値40未満)	27校 N=6,034
私立大学1年(福祉学系)	39校 N=12,464
私立大学3年(福祉学系)	38校 N=9,820



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。
 ※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

コンピテンシー大分類要素 判定レベルに見る全体傾向

Generic Skills

【対人基礎力】

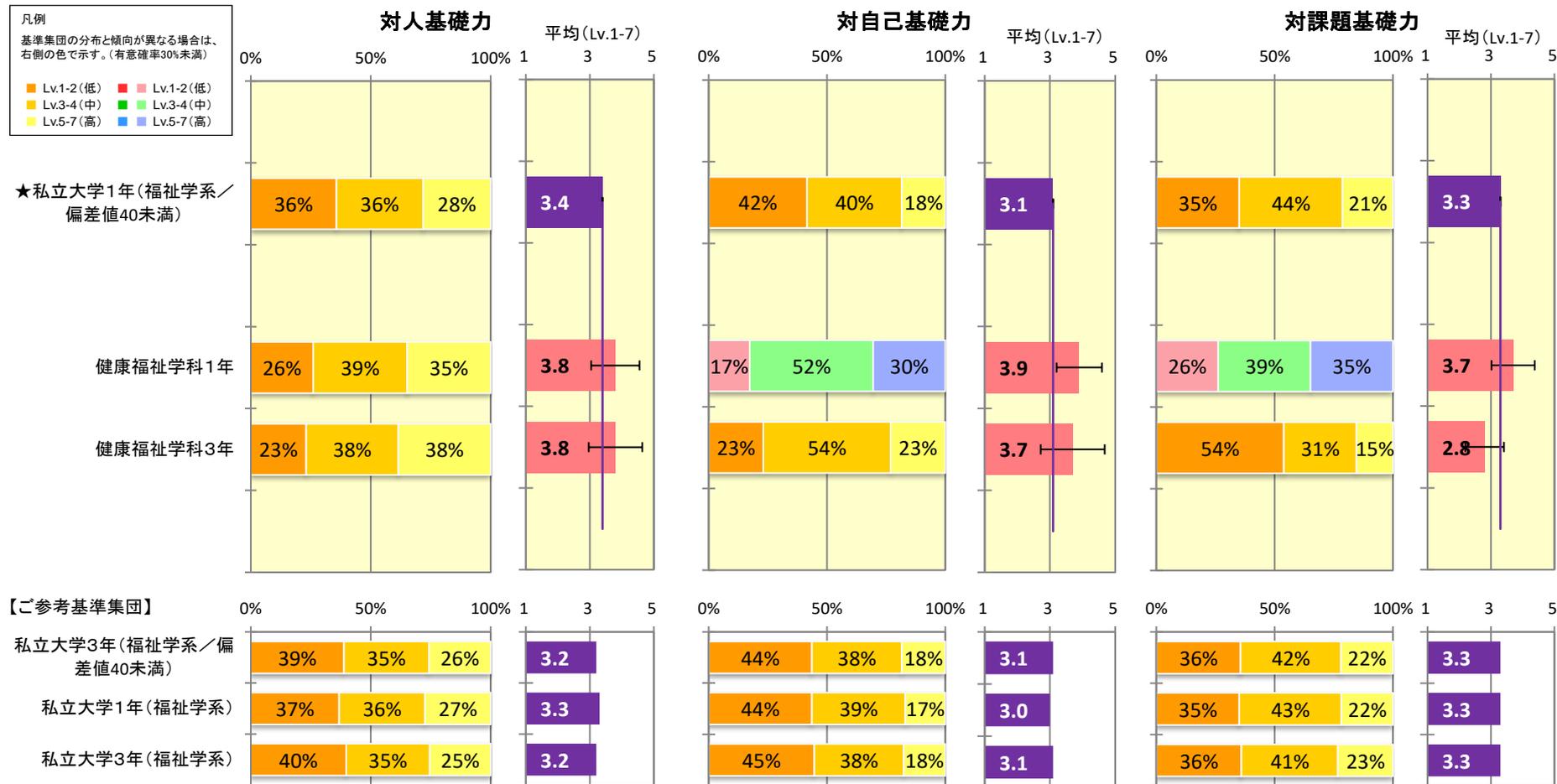
●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。
 ※健康福祉学科3年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

【対自己基礎力】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。
 ※健康福祉学科1年、健康福祉学科3年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

【対課題基礎力】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。
 ※健康福祉学科1年、健康福祉学科3年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。



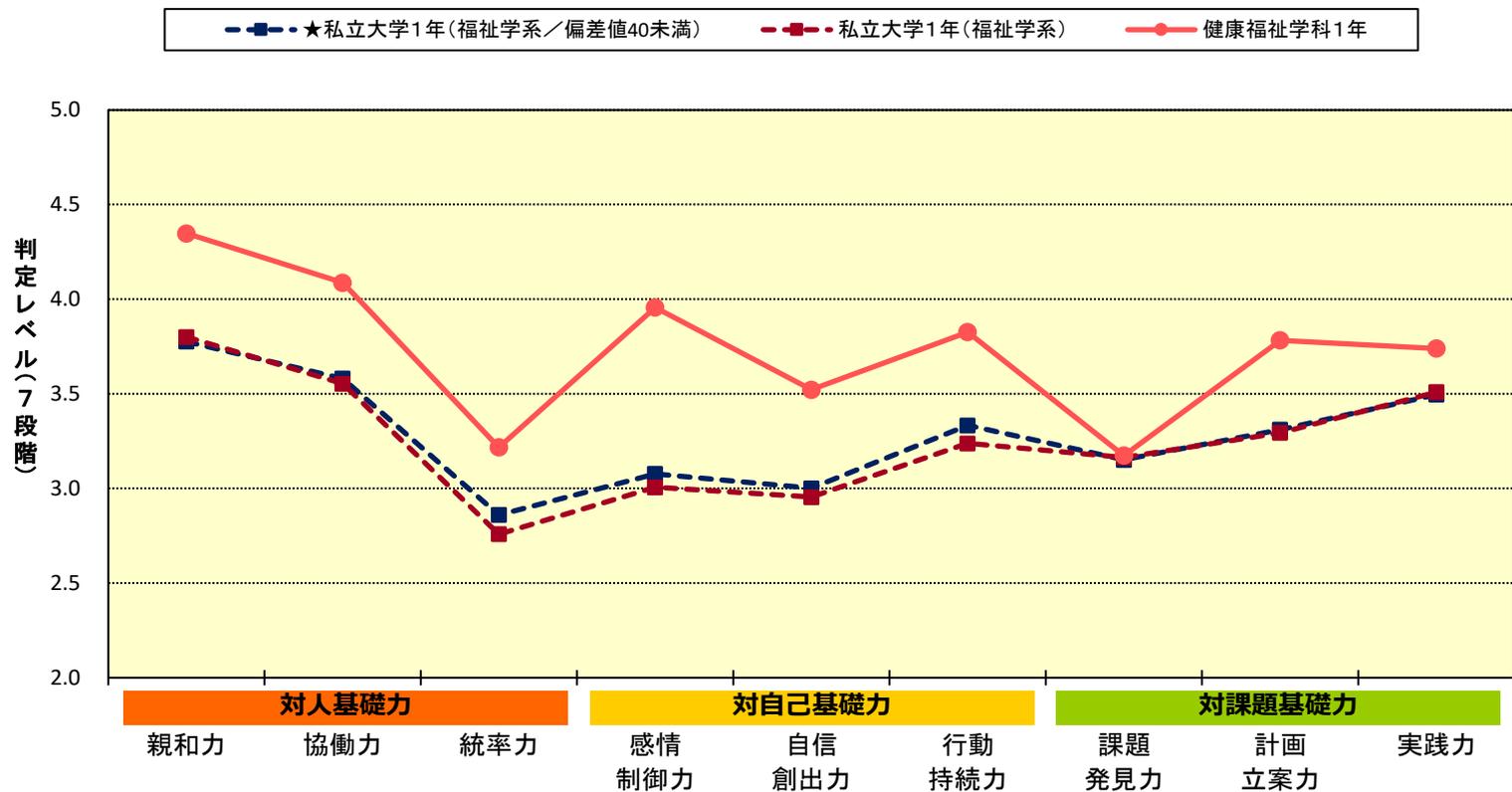
※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。

コンピテンシー中分類要素 判定レベルに見る全体傾向①

【健康福祉学科1年】

基準集団(★印)と比較して、親和力、協働力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、計画立案力の平均値は高く、統率力、課題発見力、実践力の平均値は上回る傾向にある。

コンピテンシー中分類要素



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

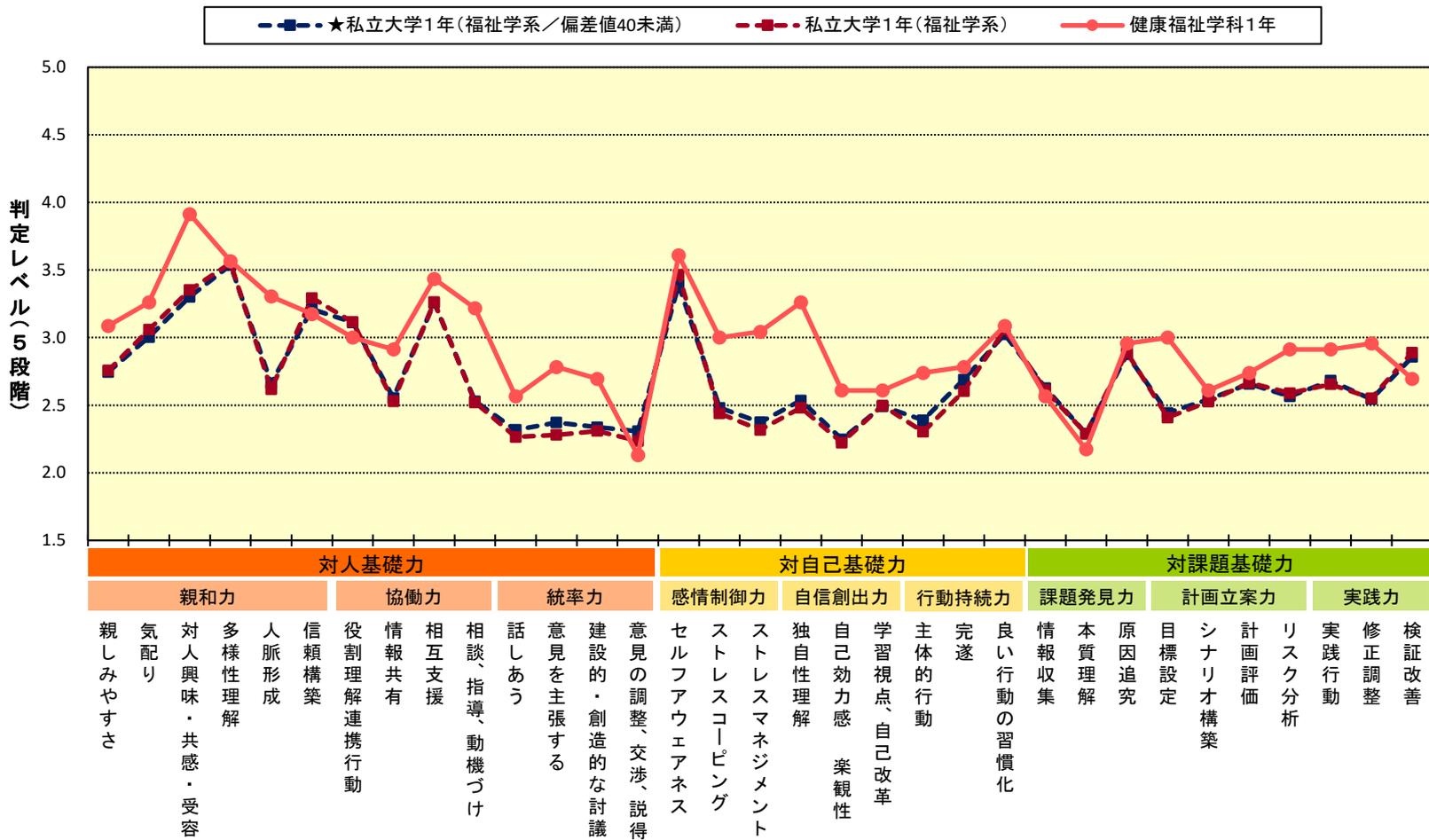
3) 基準集団よりも大きいのが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さいのが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

コンピテンシー小分類要素 判定レベルに見る全体傾向①

コンピテンシー小分類要素



コンピテンシー中分類要素 判定レベルに見る全体傾向②

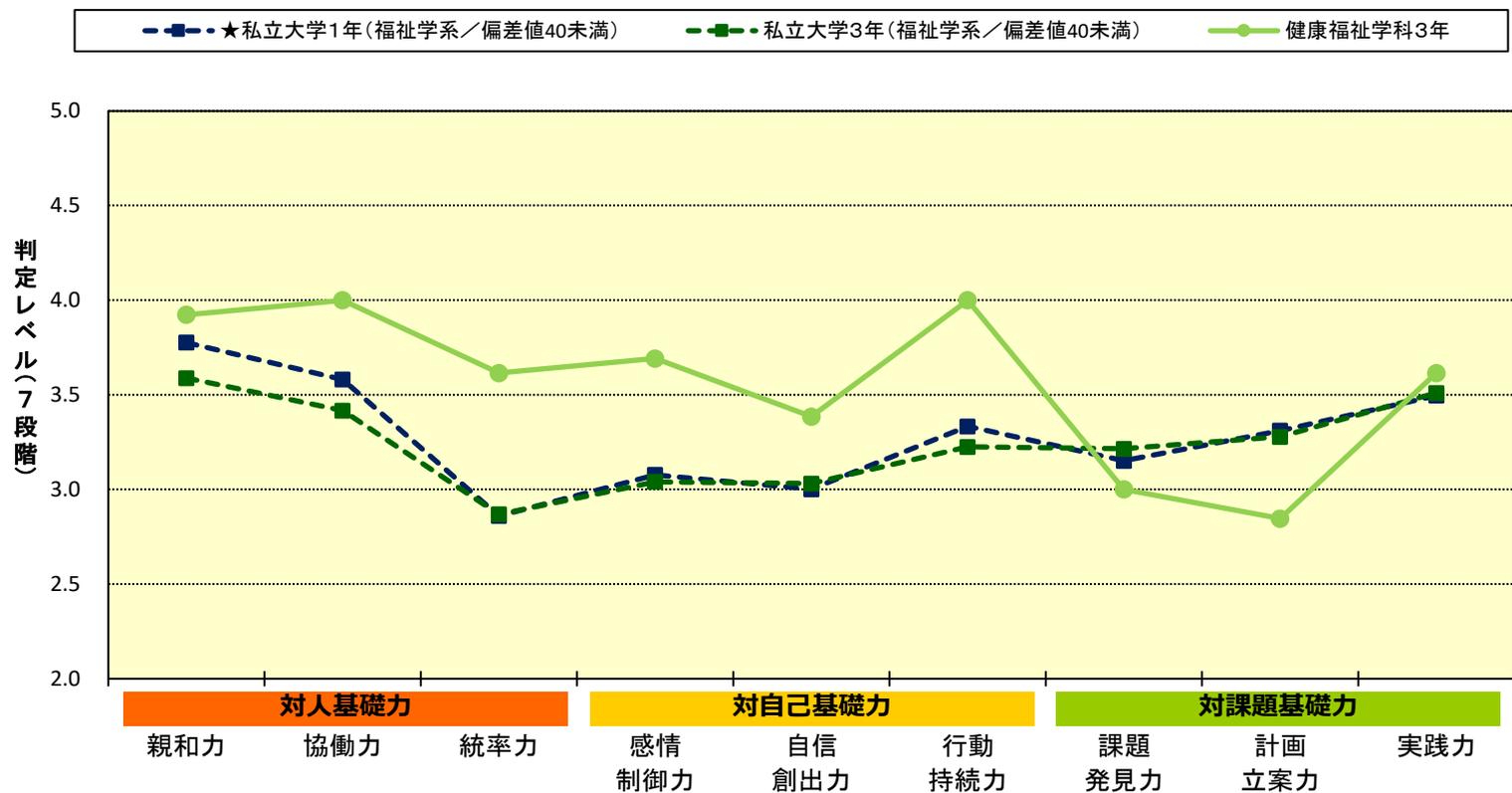
【健康福祉学科3年】

基準集団(私立大学3年(福祉学系/偏差値40未満))と比較して、親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力の平均値は高く、実践力の平均値は上回る傾向にある。

一方、課題発見力の平均値は下回る傾向にあり、計画立案力の平均値は低い。

(※健康福祉学科3年は、受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。)

コンピテンシー中分類要素



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

3) 基準集団よりも大きいのが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

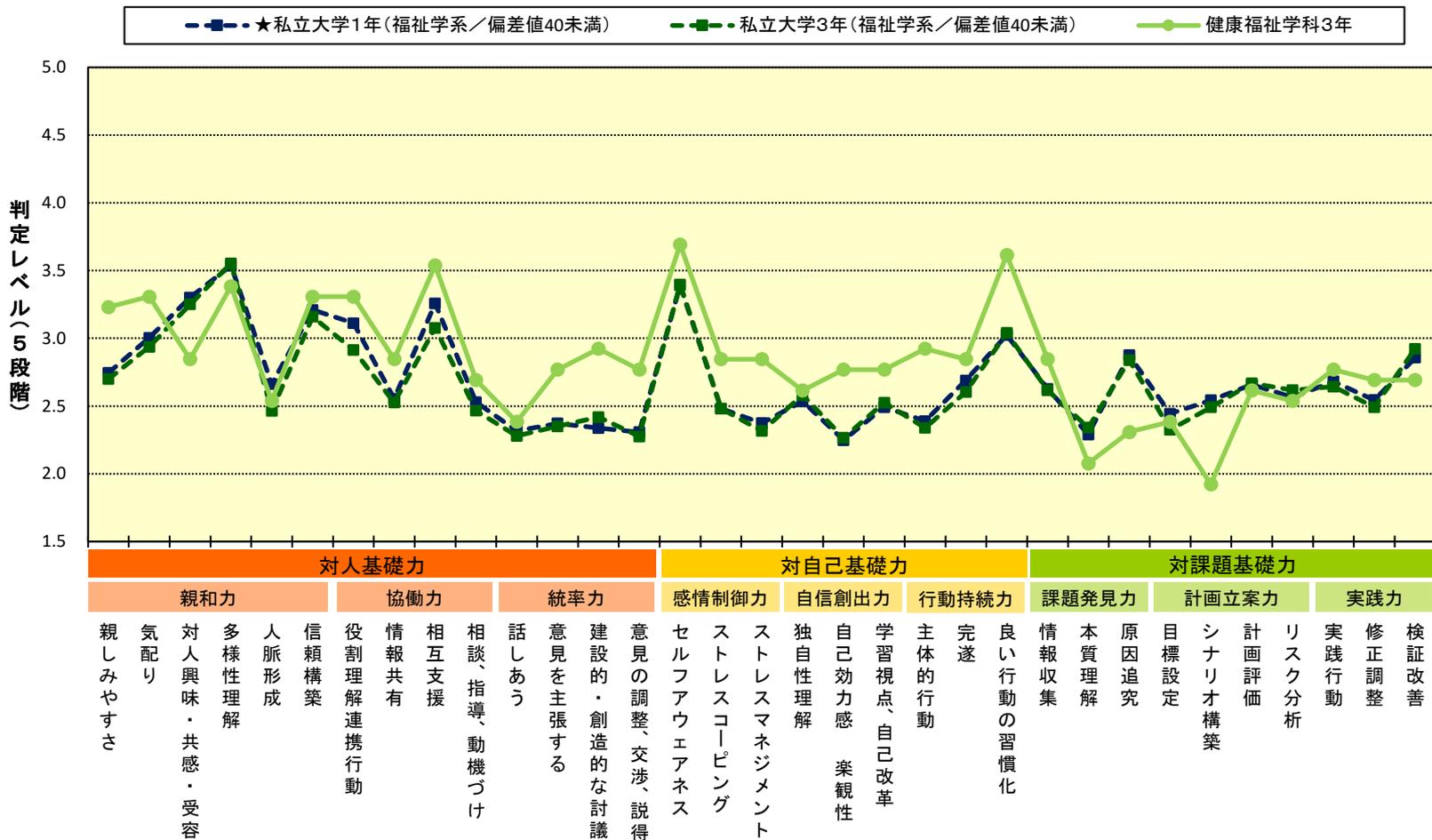
2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さいのが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

コンピテンシー小分類要素 判定レベルに見る全体傾向②

(※健康福祉学科3年は、受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。)

コンピテンシー小分類要素



	リテラシー					コンピテンシー									
	総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	総合	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
							親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
健康福祉学科 1年	-	▲	-	-	◎	-	◎	◎	-	◎	◎	◎	-	◎	-
健康福祉学科 3年	-	-	◎	-	◎	-	-	-	◎	◎	-	◎	-	▲	-

記号のみかた

【リテラシー総合・コンピテンシー総合】

- ・・・基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる
- ▲・・・基準集団と比較して、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる
- △・・・基準集団と比較して、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる

【リテラシー要素・コンピテンシー要素】

- ◎・・・標準誤差の下限が、基準集団を上回る
- ▲・・・標準誤差の上限が、基準集団を下回る

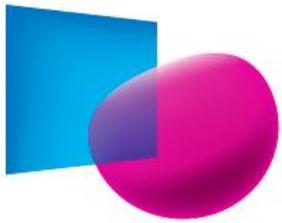
今後の課題と対策

【健康福祉学科1年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー ●情報収集力	収集すべき情報の特性や情報源の信憑性が理解できる	目的に応じた検索方法・情報源の活用を求める／書籍や雑誌、新聞などの特性を理解し活用させる／インターネットの問題点を認識させた上で活用させる／情報の作成者や発信元を調べ情報の信頼性を確認させる／知識をノートにまとめ整理させる／情報をテーマごとに分類しファイルリングさせる
■コンピテンシー	基準集団と比較して、統計的に課題のある要素を特定することは出来ないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	

【健康福祉学科3年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー ●計画立案力	課題に対して、目標と計画を大まかに立てることができる 立案した計画や目標に自分なりに取り組むことができる 条件が明確な課題であれば、発生しそうな問題を予め考えることができる 起こりうる事象を予測し、計画を立て取り組むことができる	ゴール(目指す姿)をイメージしてから、課題に取り組ませる 想定される障害を考慮して代替案を考えるよう指導する 立てた計画について、達成の見込みや問題点を客観的にあげさせる



PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.3

教育学科

リテラシー総合 判定レベルに見る全体傾向

【リテラシー総合】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

凡例 (リテラシー総合)			
低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	有意差は認められない
●基準集団の分布と傾向が異なる場合 (有意確率30%未満)			
低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	低・中位層が多く、平均が基準値より低い (問題が内在している可能性がある)
低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

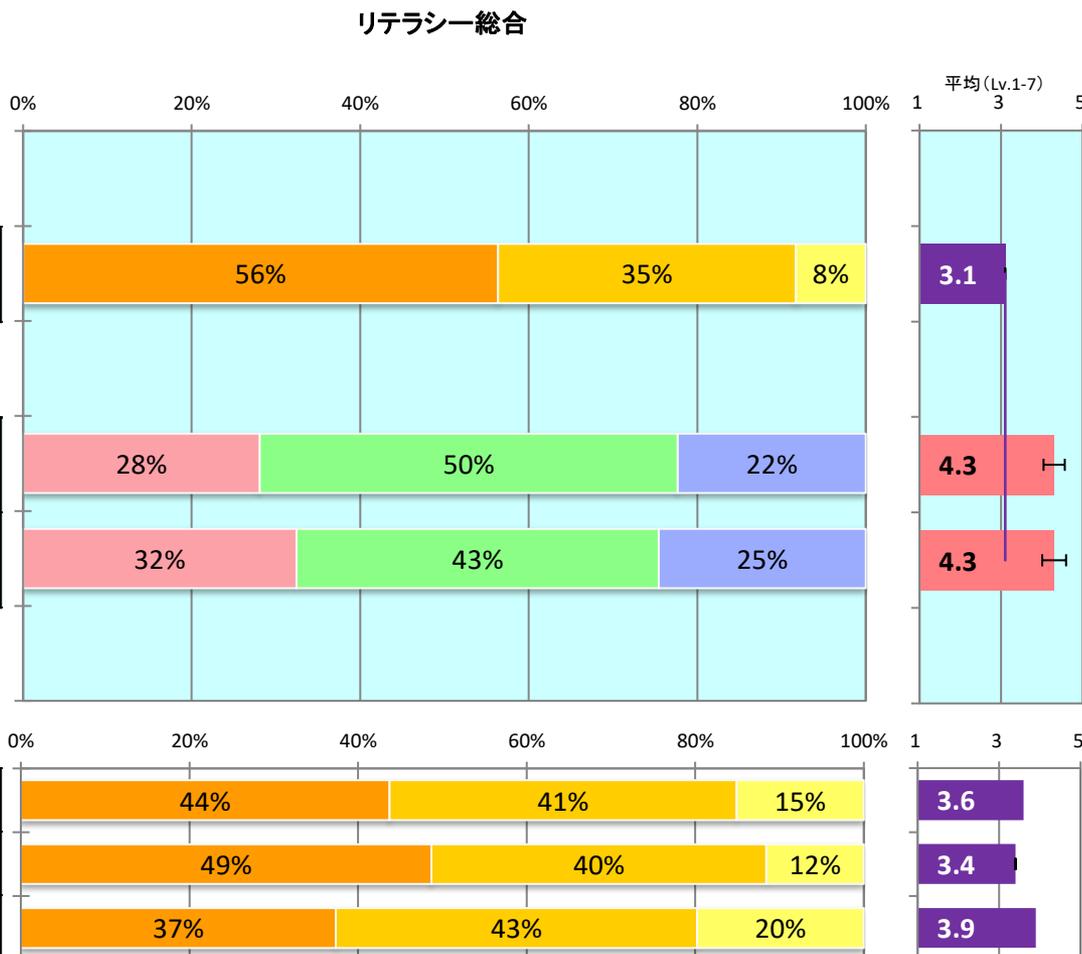
【基準集団】

★私立大学1年(教育系/偏差値40未満)	31校 N=7,397
----------------------	-------------

	χ^2 乗値	有意確率
教育学科1年	52.72	0.00
教育学科3年	49.76	0.00

【ご参考基準集団】

私立大学3年(教育系/偏差値40未満)	26校 N=5,303
私立大学1年(教育系)	55校 N=15,947
私立大学3年(教育系)	49校 N=12,092



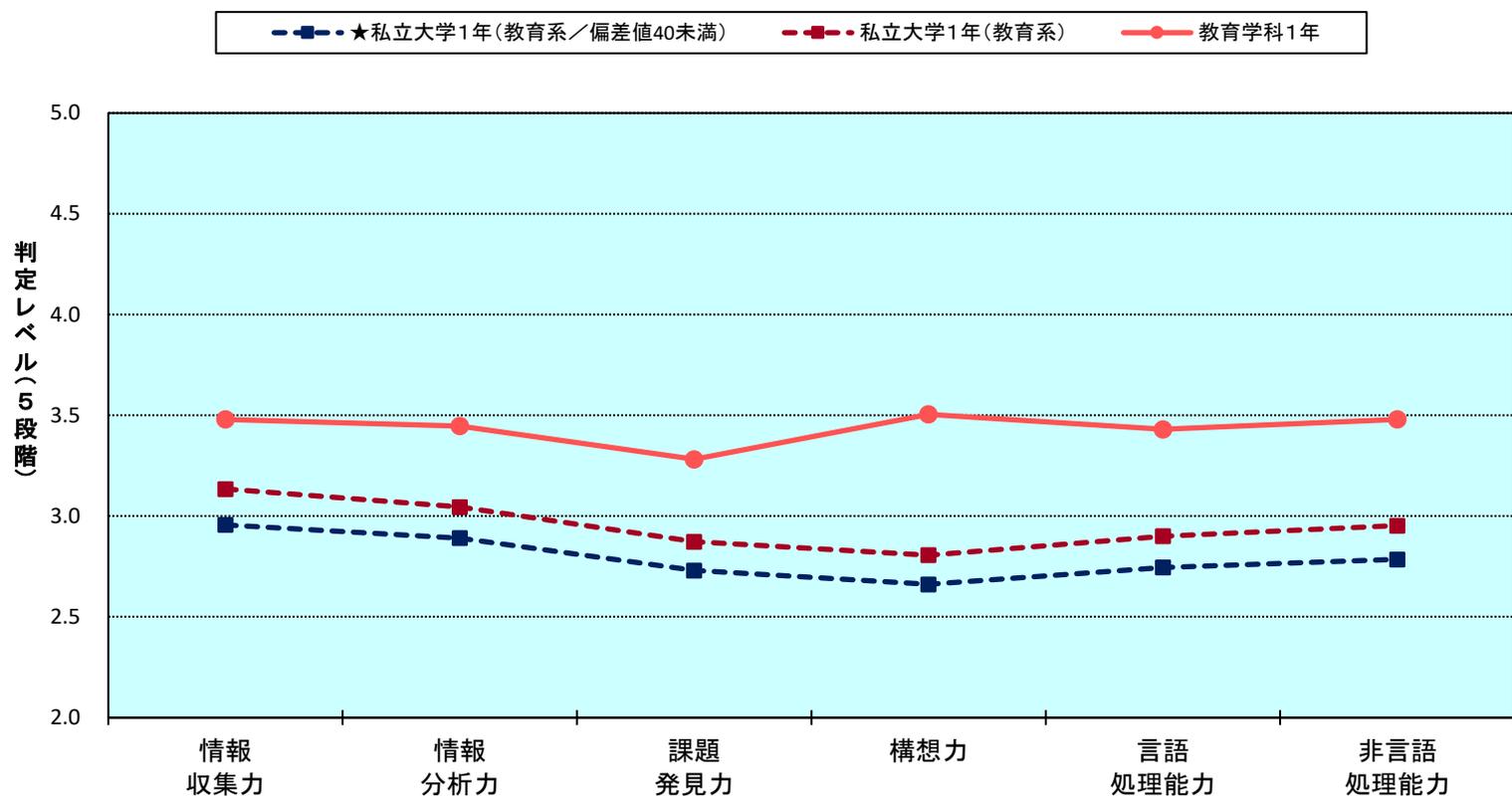
※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。
 ※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向①

【教育学科1年】

基準集団(★印)と比較して、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は高い。

リテラシー要素



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

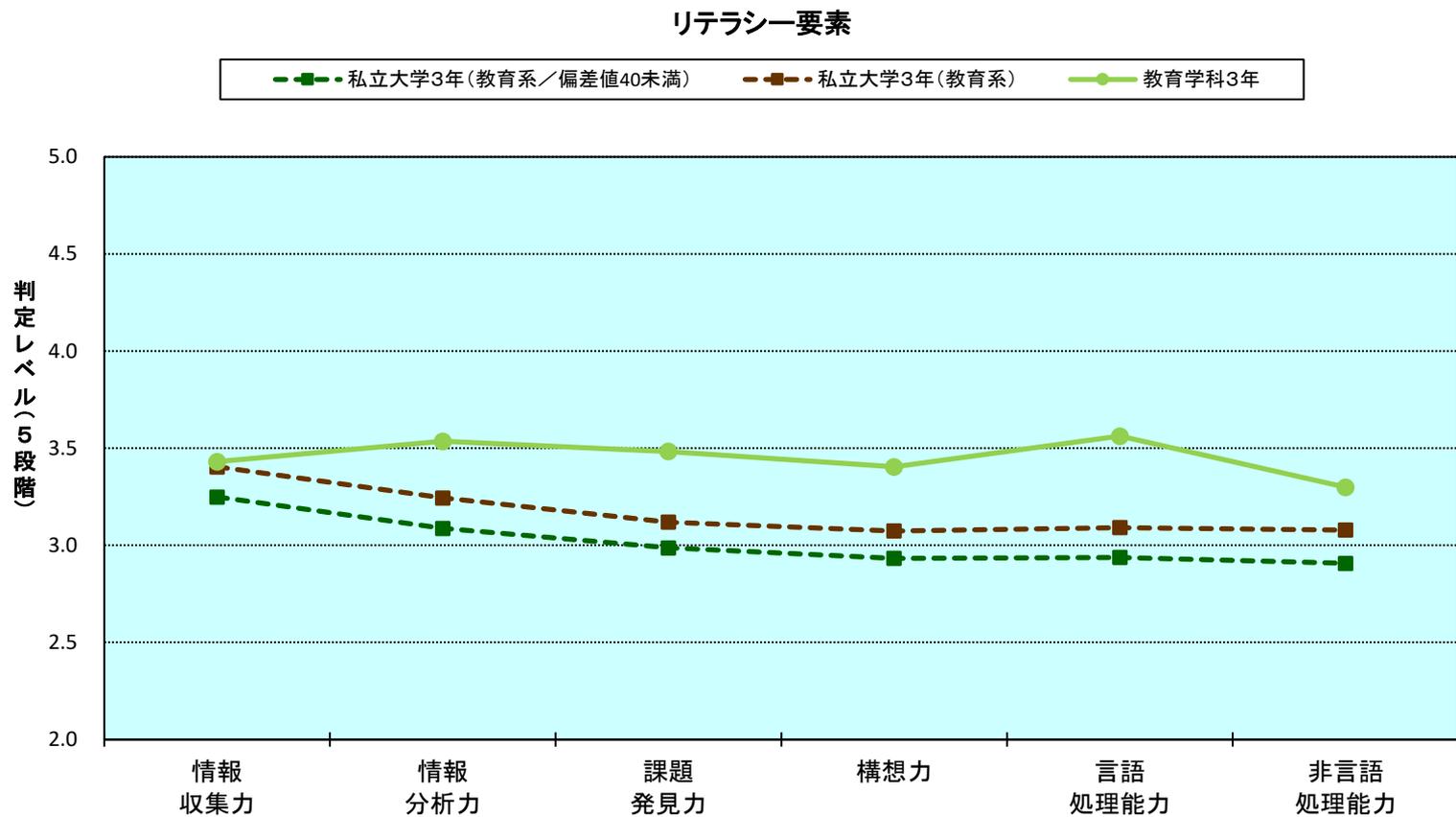
2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向②

【教育学科3年】

基準集団(私立大学3年(教育系/偏差値40未満))と比較して、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は高い。



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

- 1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
- 3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

- 2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
- 4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

コンピテンシー総合 判定レベルに見る全体傾向

【コンピテンシー総合】

●基準集団(★印)と比較して、教育学科1年は、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる。

凡例 (コンピテンシー総合・大分類)			
低 (Lv.1-2)	中 (Lv.3-4)	高 (Lv.5-7)	有意差は認められない
●基準集団の分布と傾向が異なる場合 (有意確率30%未満)			
低 (Lv.1-2)	中 (Lv.3-4)	高 (Lv.5-7)	低・中位層が多く、平均が基準値より低い (問題が内在している可能性がある)
低 (Lv.1-2)	中 (Lv.3-4)	高 (Lv.5-7)	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

【基準集団】

★私立大学1年(教育系/偏差値40未満)	38校 N=16,392
----------------------	--------------

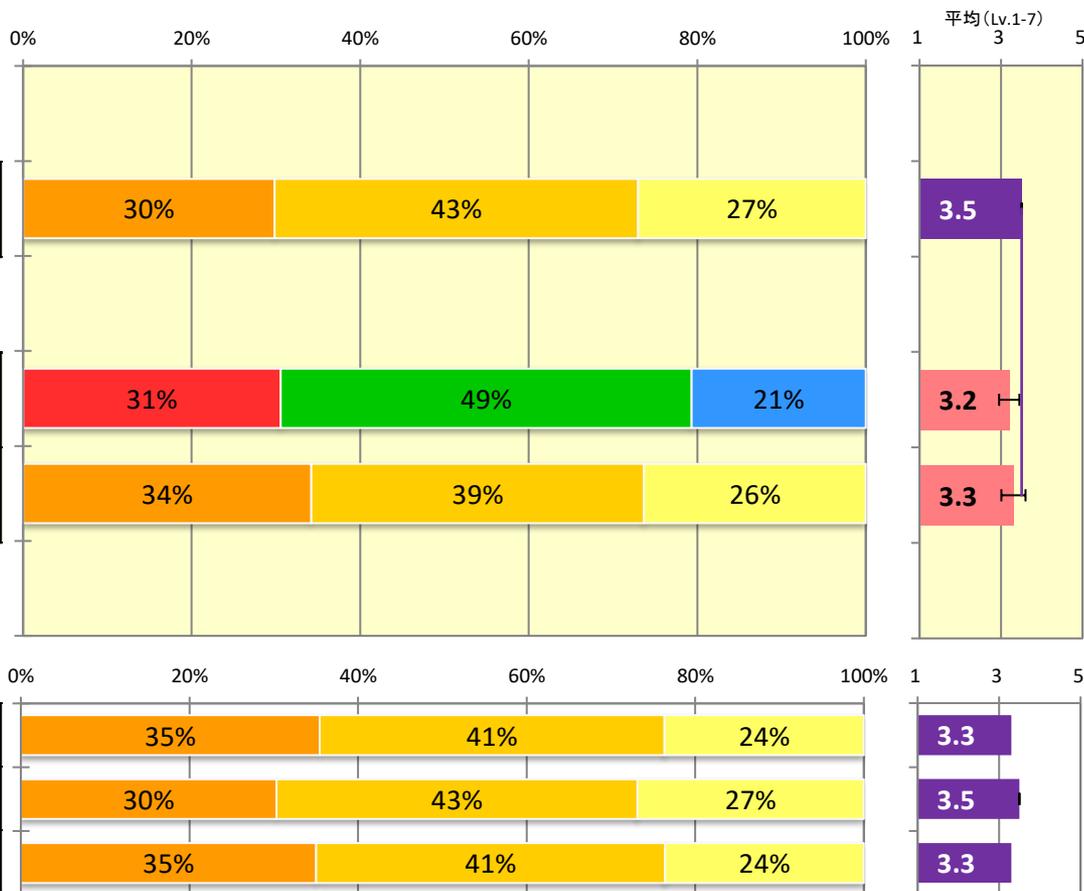
χ^2 乗値 有意確率

教育学科1年	2.74	0.25
教育学科3年	1.10	0.58

【ご参考基準集団】

私立大学3年(教育系/偏差値40未満)	37校 N=11,401
私立大学1年(教育系)	66校 N=35,538
私立大学3年(教育系)	63校 N=25,248

コンピテンシー総合



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

【対人基礎力】

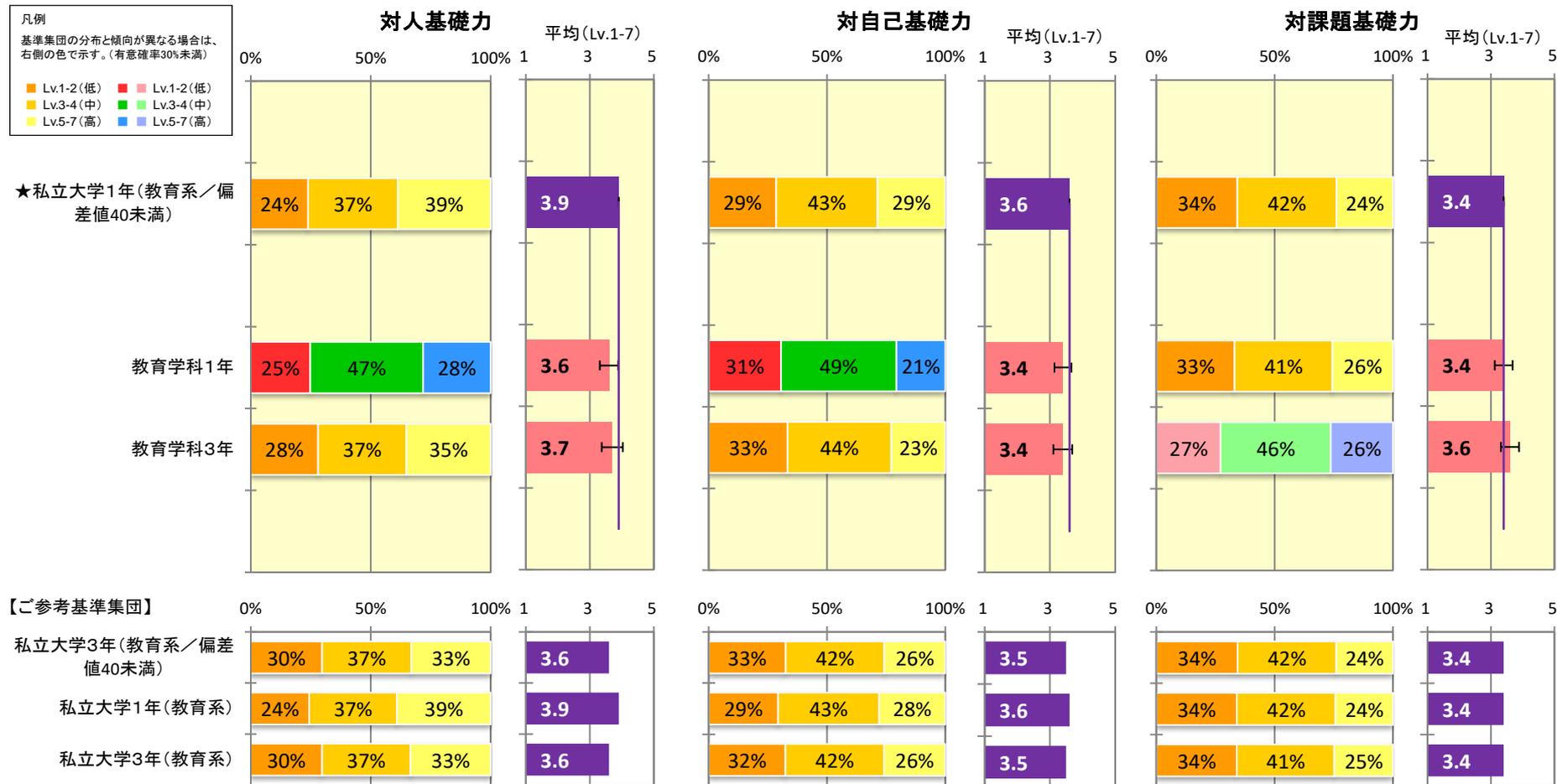
●基準集団(★印)と比較して、教育学科1年は、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる。

【對自己基礎力】

●基準集団(★印)と比較して、教育学科1年は、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる。

【対課題基礎力】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。



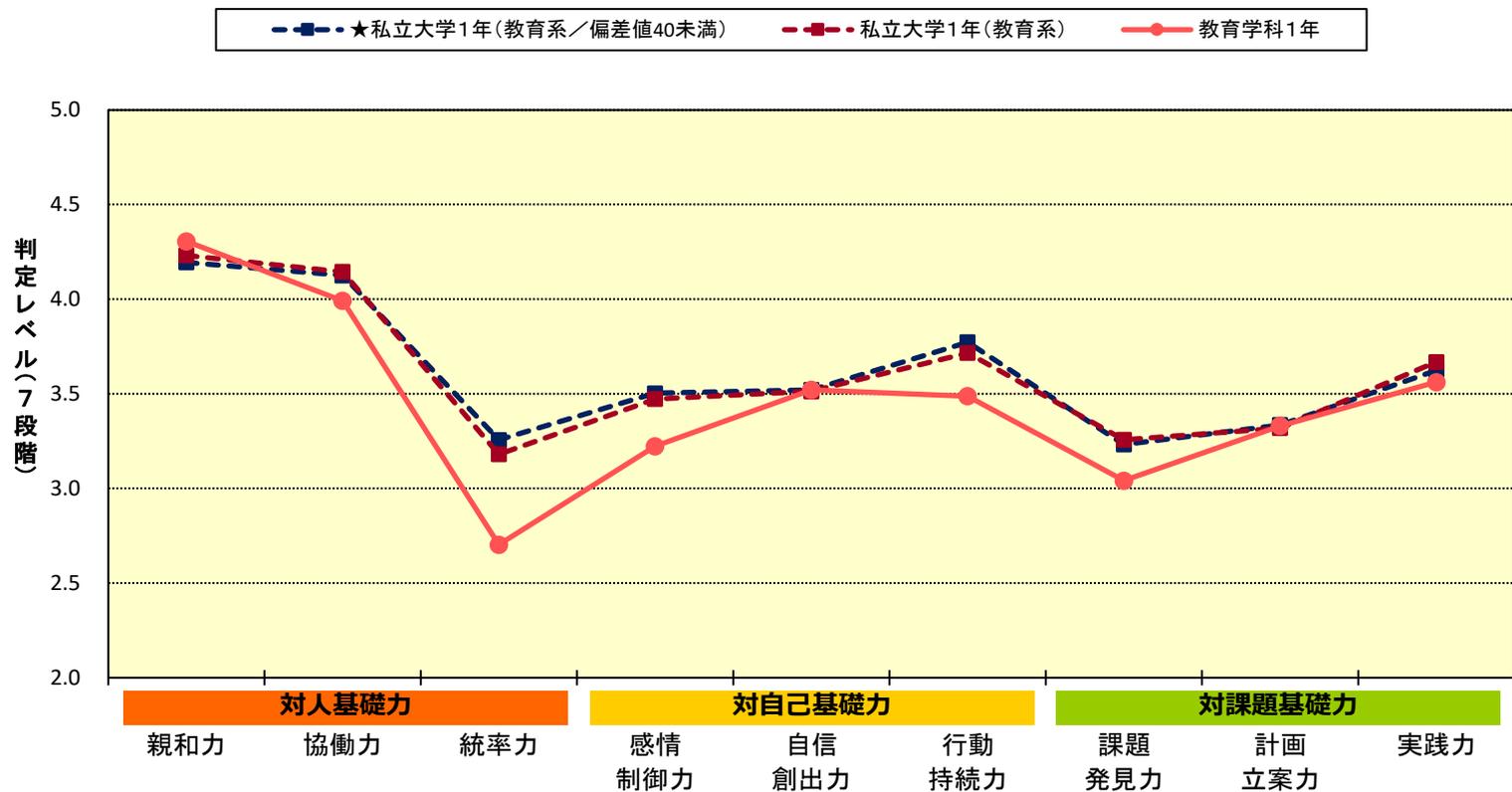
コンピテンシー中分類要素 判定レベルに見る全体傾向①

【教育学科1年】

基準集団(★印)と比較して、親和力の平均値は上回る傾向にある。

一方、協働力、自信創出力、計画立案力、実践力の平均値は下回る傾向にあり、統率力、感情制御力、行動持続力、課題発見力の平均値は低い。

コンピテンシー中分類要素



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

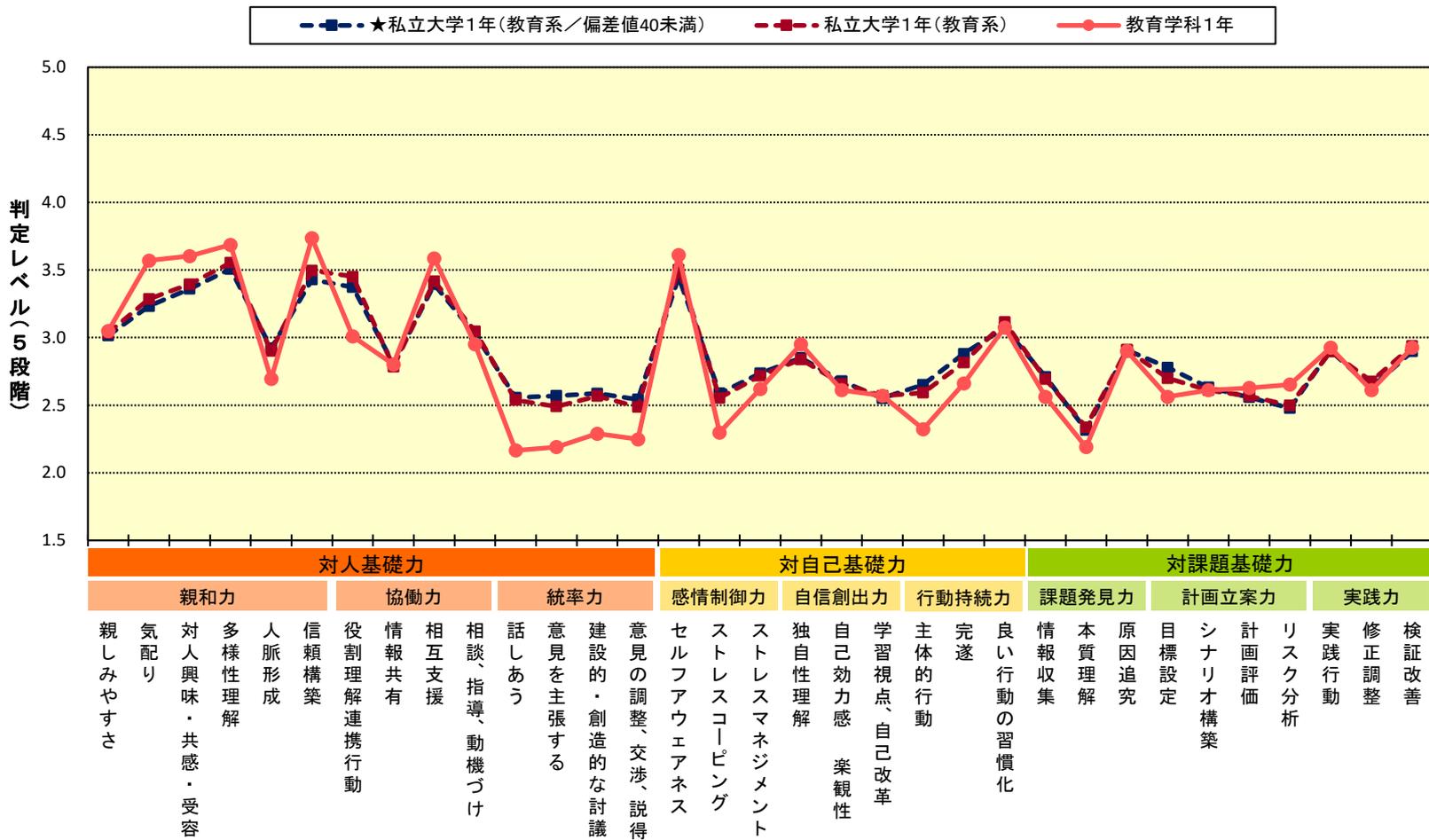
3) 基準集団よりも大きいのが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さいのが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

コンピテンシー小分類要素 判定レベルに見る全体傾向①

コンピテンシー小分類要素

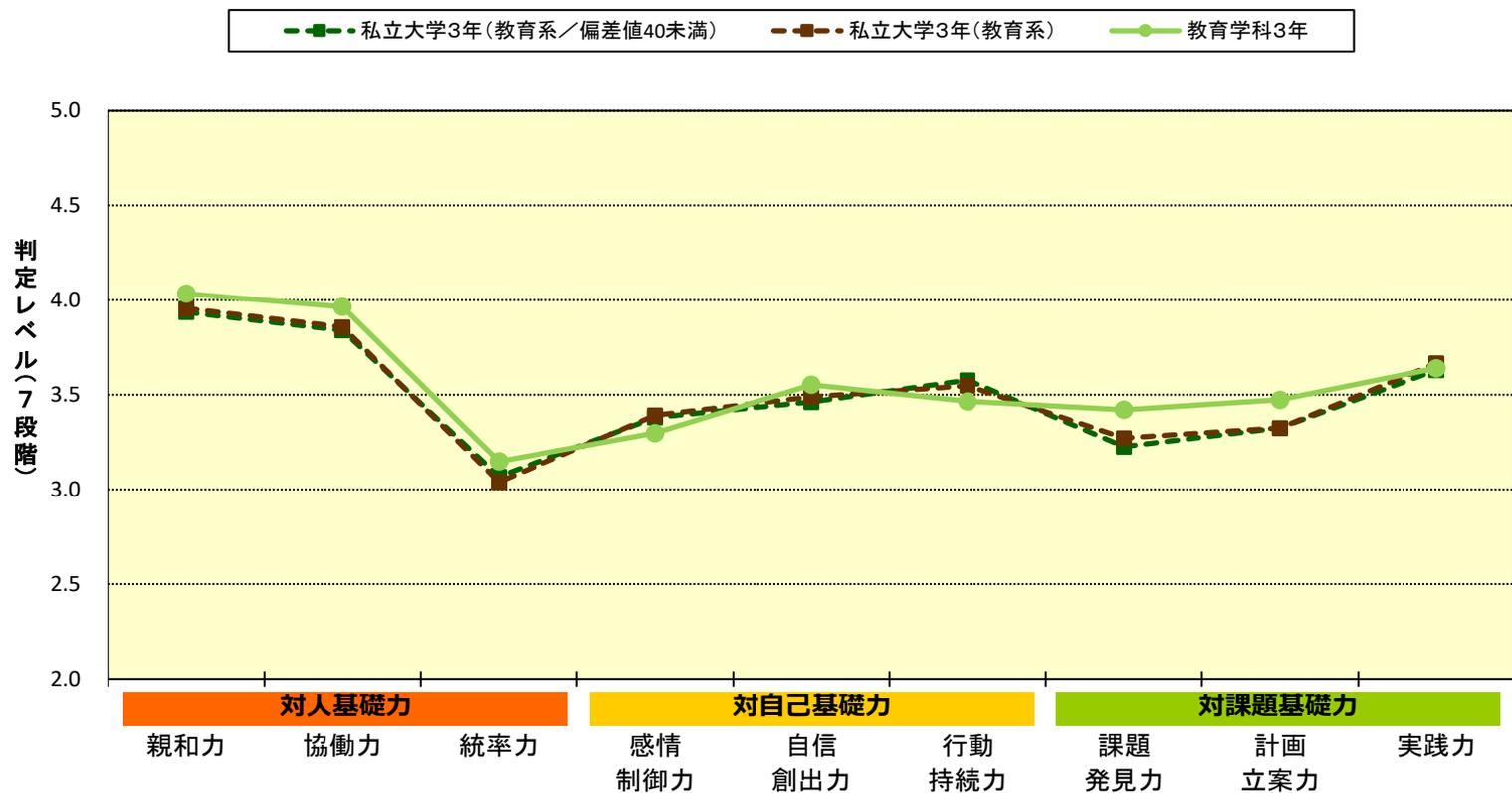


コンピテンシー中分類要素 判定レベルに見る全体傾向②

【教育学科3年】

基準集団(私立大学3年(教育系/偏差値40未満))と比較して、課題発見力、計画立案力の平均値は高く、親和力、協働力、統率力、自信創出力、実践力の平均値は上回る傾向にある。
一方、感情制御力、行動持続力の平均値は下回る傾向にある。

コンピテンシー中分類要素



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

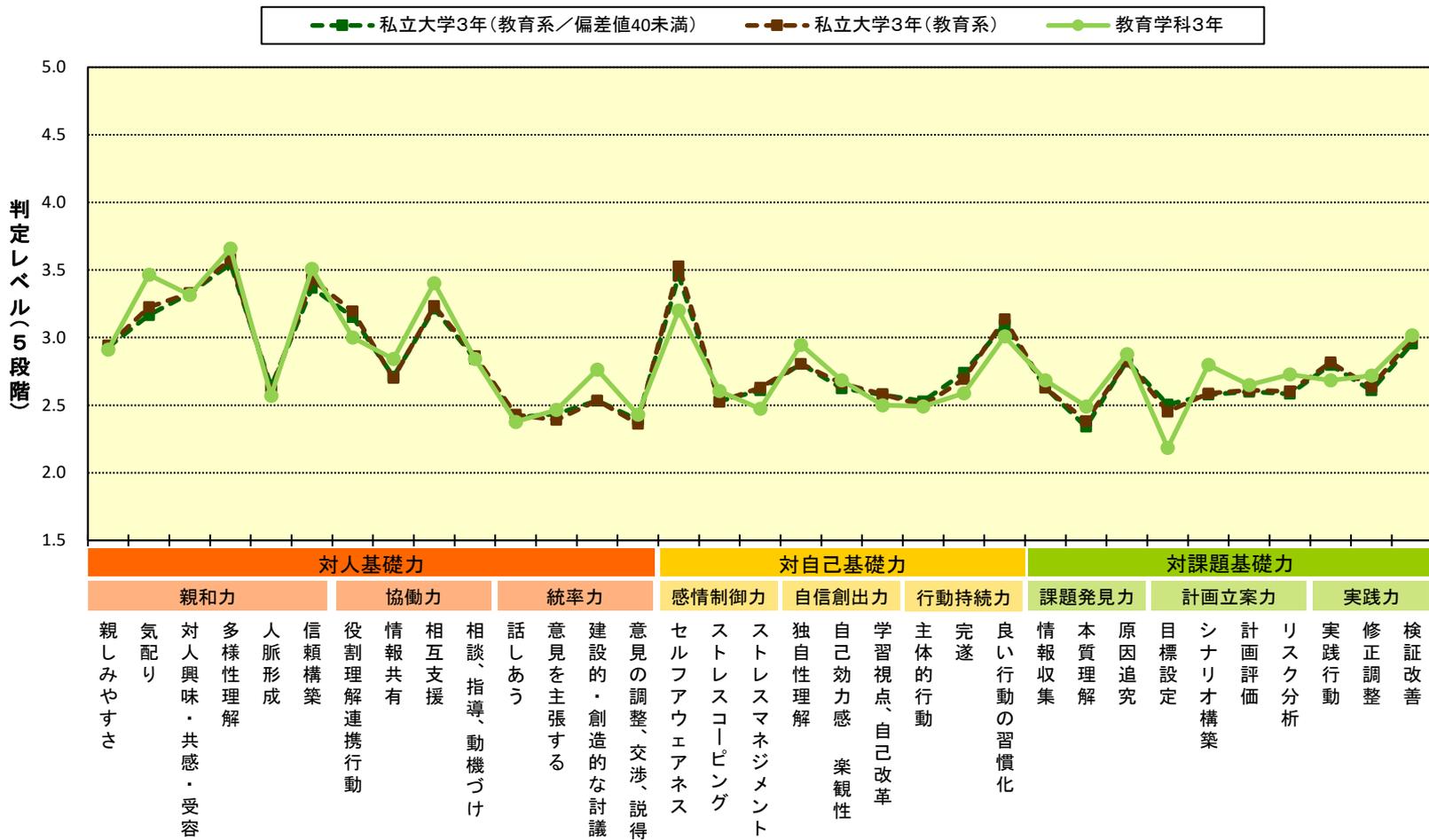
1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

3) 基準集団よりも大きいですが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

コンピテンシー小分類要素



	リテラシー					コンピテンシー									
	総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	総合	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
							親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
教育学科 1年	-	◎	◎	◎	◎	△	-	-	▲	▲	-	▲	▲	-	-
教育学科 3年	-	◎	◎	◎	◎	-	-	-	-	▲	-	▲	◎	-	-

記号のみかた

【リテラシー総合・コンピテンシー総合】

- ・・・基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる
- ▲・・・基準集団と比較して、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる
- △・・・基準集団と比較して、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる

【リテラシー要素・コンピテンシー要素】

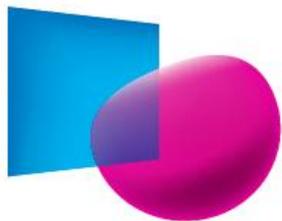
- ◎・・・標準誤差の下限が、基準集団を上回る
- ▲・・・標準誤差の上限が、基準集団を下回る

【教育学科1年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー ●統率力	自分の考えを整理し、筋道を立てて伝えることができる 話し合いの場では、議論の目的を見失わずに意見を述べる 自分の考えを論理的かつ気持ちを込めて相手にわかりやすく伝えることができる 意見の異なる相手でも、粘り強く自分の考えを伝えることができる	自分の考えを整理して、相手にわかり易く伝えられるようにする 周囲に対して、自分の要望をはっきり伝えるようにする 表現豊かに話したり、書いたりする機会を設ける 粘り強く周囲に説明をするような機会を設ける
●感情制御力	ストレスやプレッシャーがかかる場面でも、落ち着いて対処できる 難しい課題に対しても前向きに取り組むことができる 自分がストレスを感じやすい場面を知っており、対処法を知っている 失敗に向き合い原因を徹底的に考えることができる	ストレスやプレッシャーを与えて、その中で結果を出すことを求める 限られた時間の中でも、物事に優先順位を付けて、ベストを尽くすよう指導する 難しい課題に対しても前向きに取り組む、結果を振り返るよう指導する 自分がストレスを感じやすい状況について自覚を促す
●行動持続力	何かに取り組む時には、自発的に考え行動に移すことができる 取り組んだことに対しては、自分なりに工夫しながら最後までやり抜くようにしている すべきことや他者の期待を自ら考え、責任をもって行動することができる 周囲からの期待以上のことを主体的に行うようにしている	人に頼らず自分の意思で判断し、課題に取り組みさせるようにする 学習方法などについて、自分なりに良いやり方を見出すよう指導する 授業期間を通じて、一つあるいは複数の課題を成し遂げる経験をさせる 周囲からの期待以上の結果を求める
●課題発見力	課題に応じて様々な方法で情報を集めることができる 定量データを客観的に分析し、複数の因果関係の仮説を立てることができる 課題に応じて、定性的な情報や、定量的なデータを収集し、適切に整理・分析できる	物事の因果関係を、論理的に考える機会を設ける 問題の本質に迫るために、自分で納得するまで深く考えさせるようにする 定性的な情報と定量的な情報の両方の観点から分析させる

【教育学科3年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー ●感情制御力	ストレスやプレッシャーがかかる場面でも、落ち着いて対処できる 難しい課題に対しても前向きに取り組むことができる 自分がストレスを感じやすい場面を知っており、対処法を知っている 失敗に向き合い原因を徹底的に考えることができる	ストレスやプレッシャーを与えて、その中で結果を出すことを求める 限られた時間の中でも、物事に優先順位を付けて、ベストを尽くすよう指導する 難しい課題に対しても前向きに取り組む、結果を振り返るよう指導する 自分がストレスを感じやすい状況について自覚を促す
●行動持続力	何かに取り組む時には、自発的に考え行動に移すことができる 取り組んだことに対しては、自分なりに工夫しながら最後までやり抜くようにしている すべきことや他者の期待を自ら考え、責任をもって行動することができる 周囲からの期待以上のことを主体的に行うようにしている	人に頼らず自分の意思で判断し、課題に取り組みさせるようにする 学習方法などについて、自分なりに良いやり方を見出すよう指導する 授業期間を通じて、一つあるいは複数の課題を成し遂げる経験をさせる 周囲からの期待以上の結果を求める



PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.4

芸術学科

リテラシー総合 判定レベルに見る全体傾向

【リテラシー総合】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

※芸術学科1年、芸術学科3年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

凡例 (リテラシー総合)			
低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	有意差は認められない
●基準集団の分布と傾向が異なる場合 (有意確率30%未満)			
低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	低・中位層が多く、平均が基準値より低い (問題が内在している可能性がある)
低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

【基準集団】

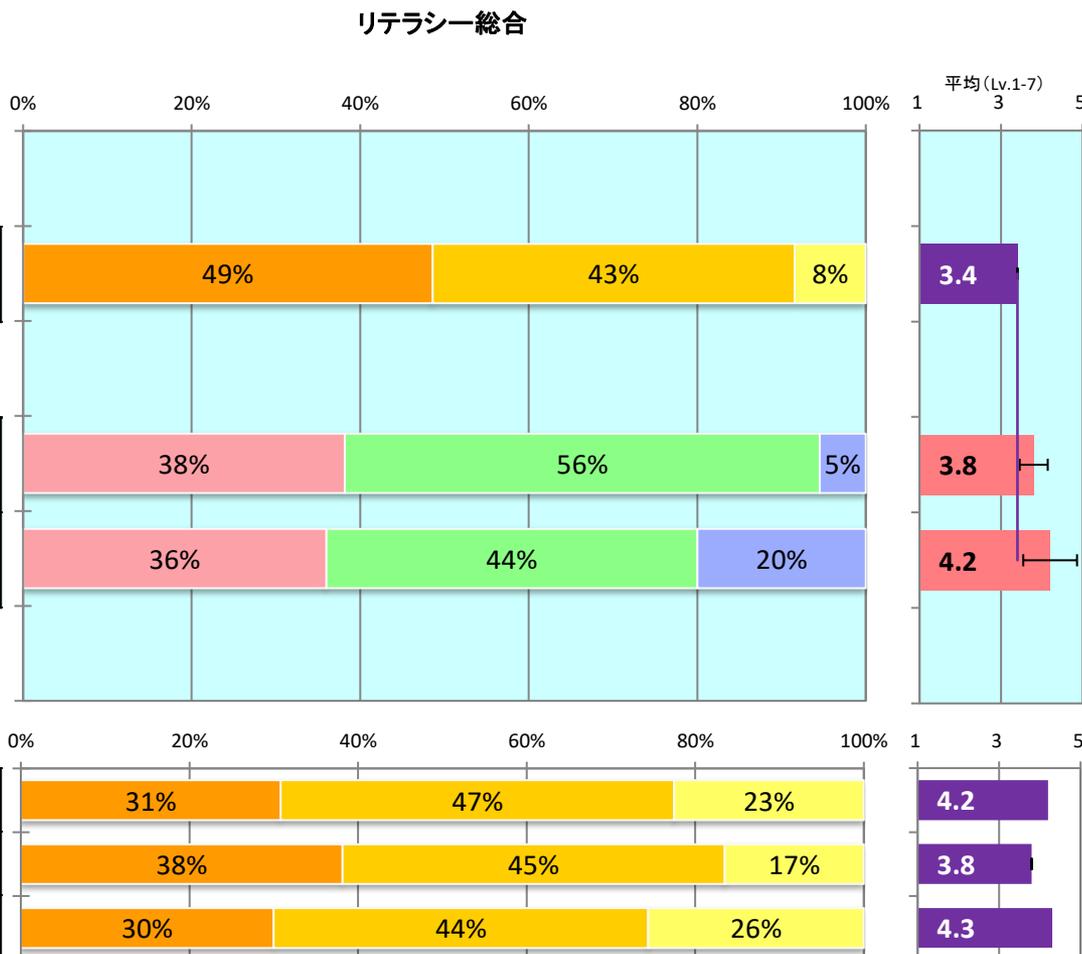
★私立大学1年(芸術系/偏差値40未満)	7校 N=829
----------------------	----------

χ²乗値 有意確率

芸術学科1年	4.12	0.13
芸術学科3年	4.78	0.09

【ご参考基準集団】

私立大学3年(芸術系/偏差値40未満)	9校 N=1,204
私立大学1年(芸術系)	13校 N=5,306
私立大学3年(芸術系)	14校 N=4,205



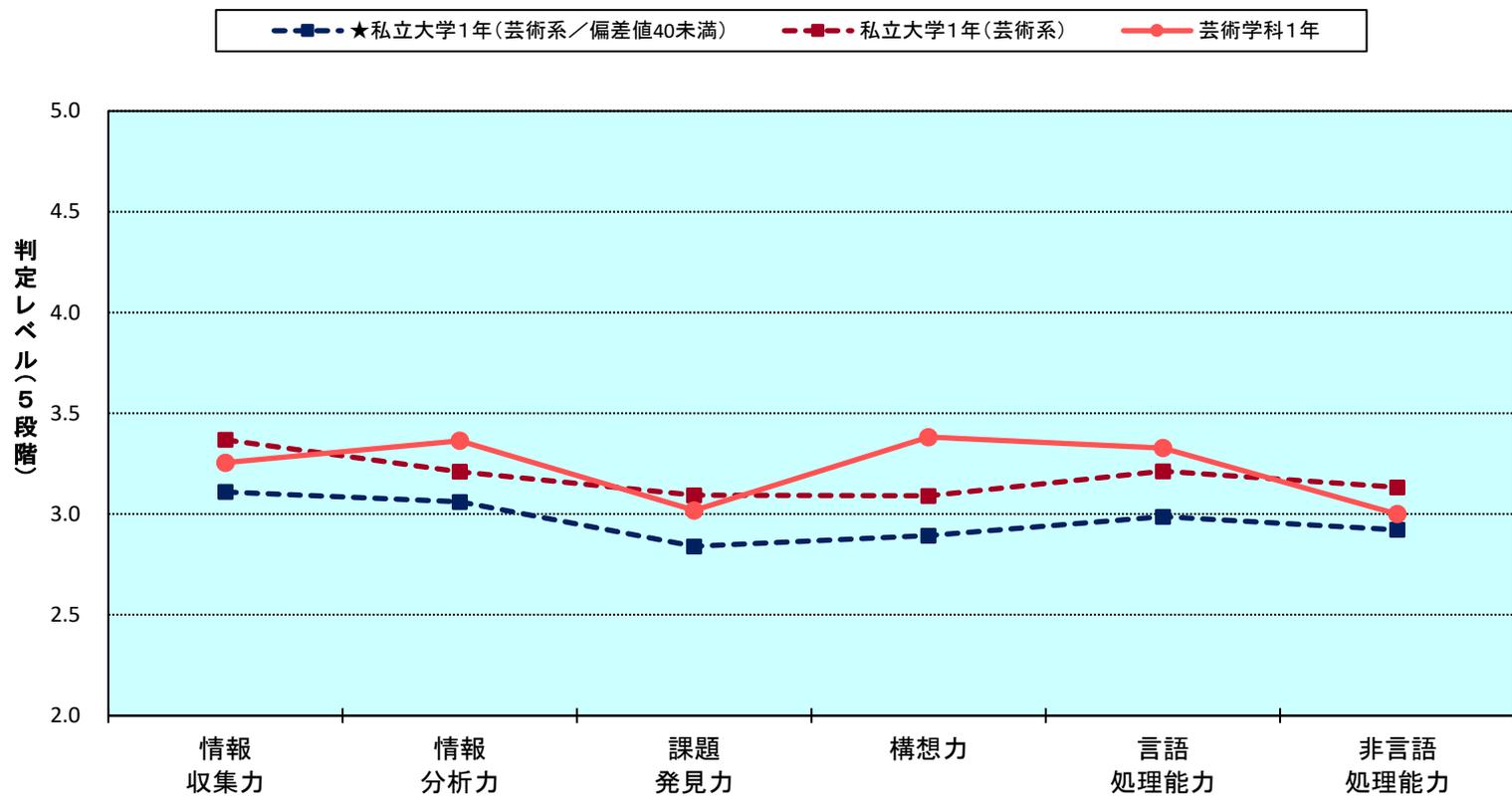
※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向①

【芸術学科1年】

基準集団(★印)と比較して、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力の平均値は高く、情報収集力、非言語処理能力の平均値は上回る傾向にある。

リテラシー要素



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

- 1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
- 3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

- 2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
- 4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

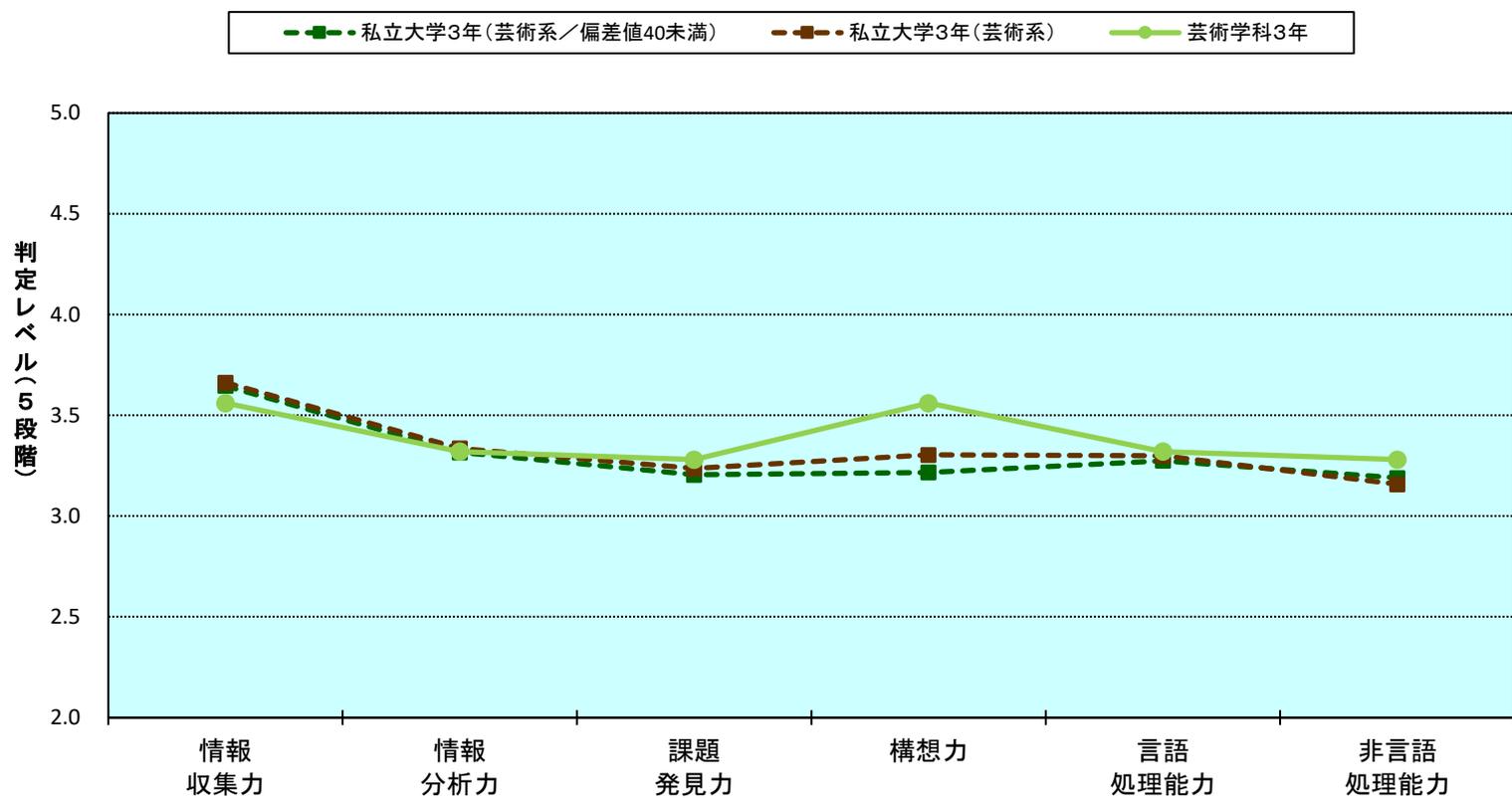
リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向②

【芸術学科3年】

基準集団(私立大学3年(芸術系/偏差値40未満))と比較して、構想力の平均値は高く、課題発見力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は上回る傾向にある。

一方、情報収集力の平均値は下回る。

リテラシー要素



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

- 1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
- 3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

- 2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
- 4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

コンピテンシー総合 判定レベルに見る全体傾向

【コンピテンシー総合】

●基準集団(★印)と比較して、芸術学科3年は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

※芸術学科3年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

凡例 (コンピテンシー総合・大分類)			
低 (Lv.1-2)	中 (Lv.3-4)	高 (Lv.5-7)	有意差は認められない
●基準集団の分布と傾向が異なる場合 (有意確率30%未満)			
低 (Lv.1-2)	中 (Lv.3-4)	高 (Lv.5-7)	低・中位層が多く、平均が基準値より低い (問題が内在している可能性がある)
低 (Lv.1-2)	中 (Lv.3-4)	高 (Lv.5-7)	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

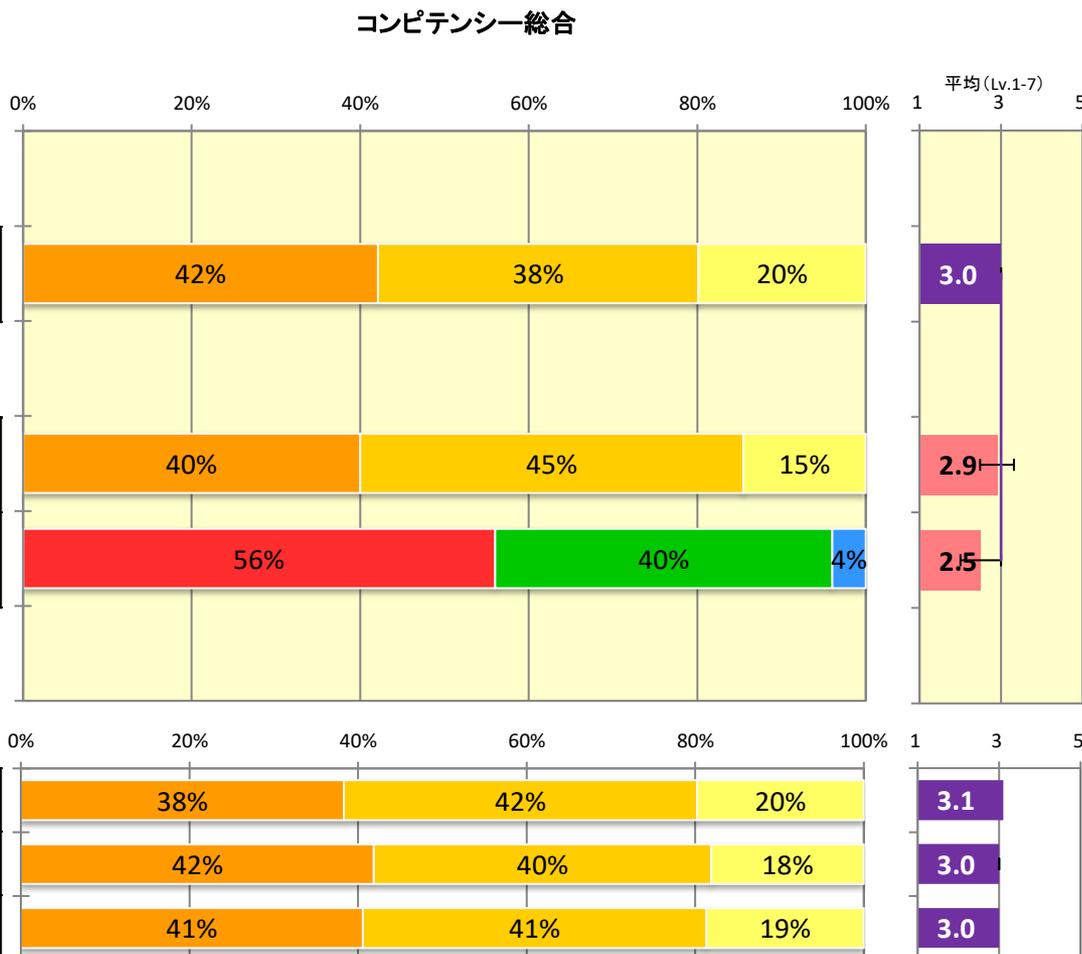
【基準集団】

★私立大学1年(芸術系/偏差値40未満)	9校 N=2,153
----------------------	------------

	χ^2 乗値	有意確率
芸術学科1年	1.65	0.44
芸術学科3年	4.34	0.11

【ご参考基準集団】

私立大学3年(芸術系/偏差値40未満)	11校 N=2,735
私立大学1年(芸術系)	16校 N=12,601
私立大学3年(芸術系)	17校 N=8,102



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

コンピテンシー大分類要素 判定レベルに見る全体傾向

Generic Skills

【対人基礎力】

●基準集団(★印)と比較して、芸術学科3年は、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる。

※芸術学科3年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

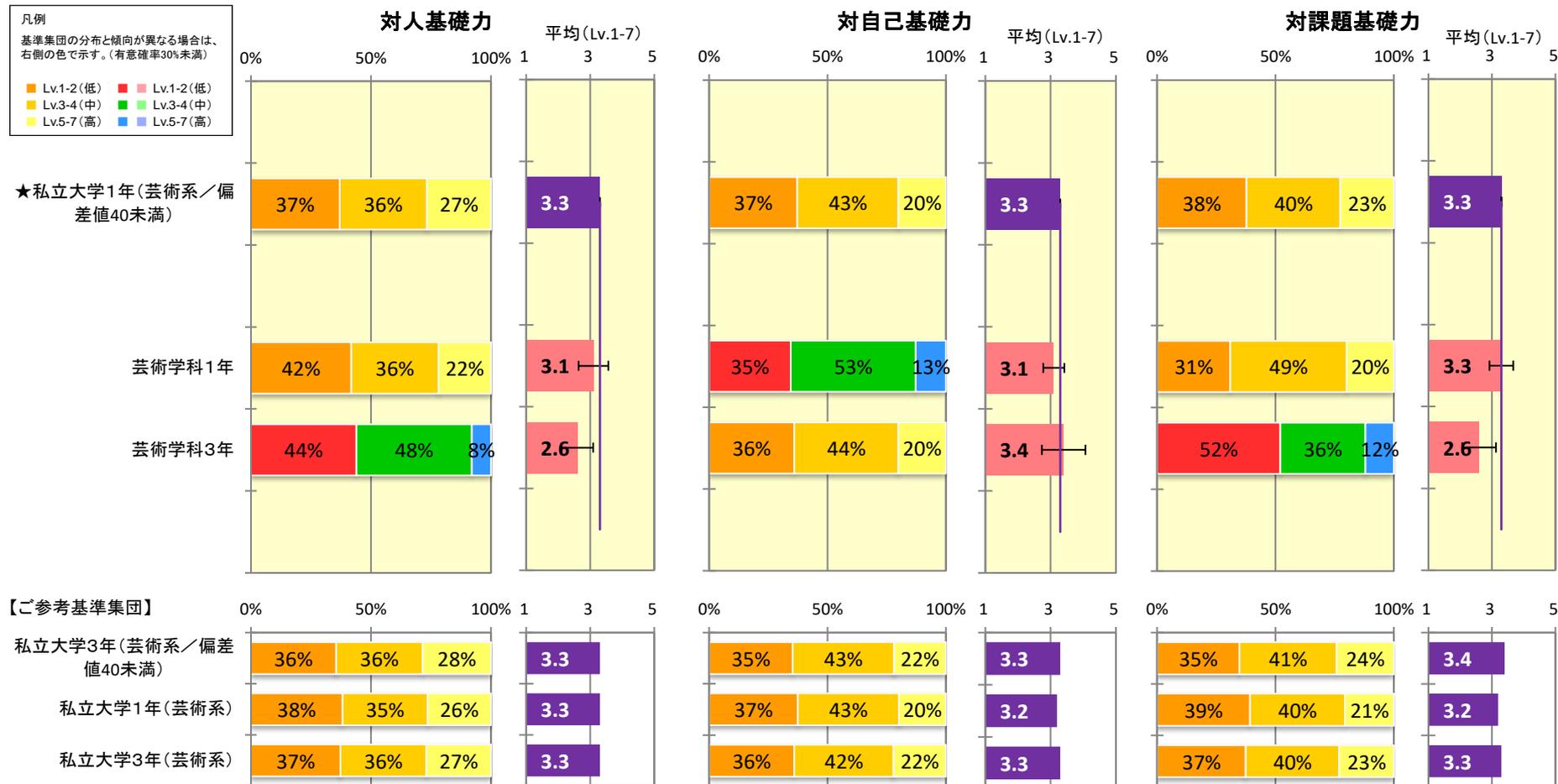
【対自己基礎力】

●基準集団(★印)と比較して、芸術学科1年は、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる。

【対課題基礎力】

●基準集団(★印)と比較して、芸術学科3年は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

※芸術学科3年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。

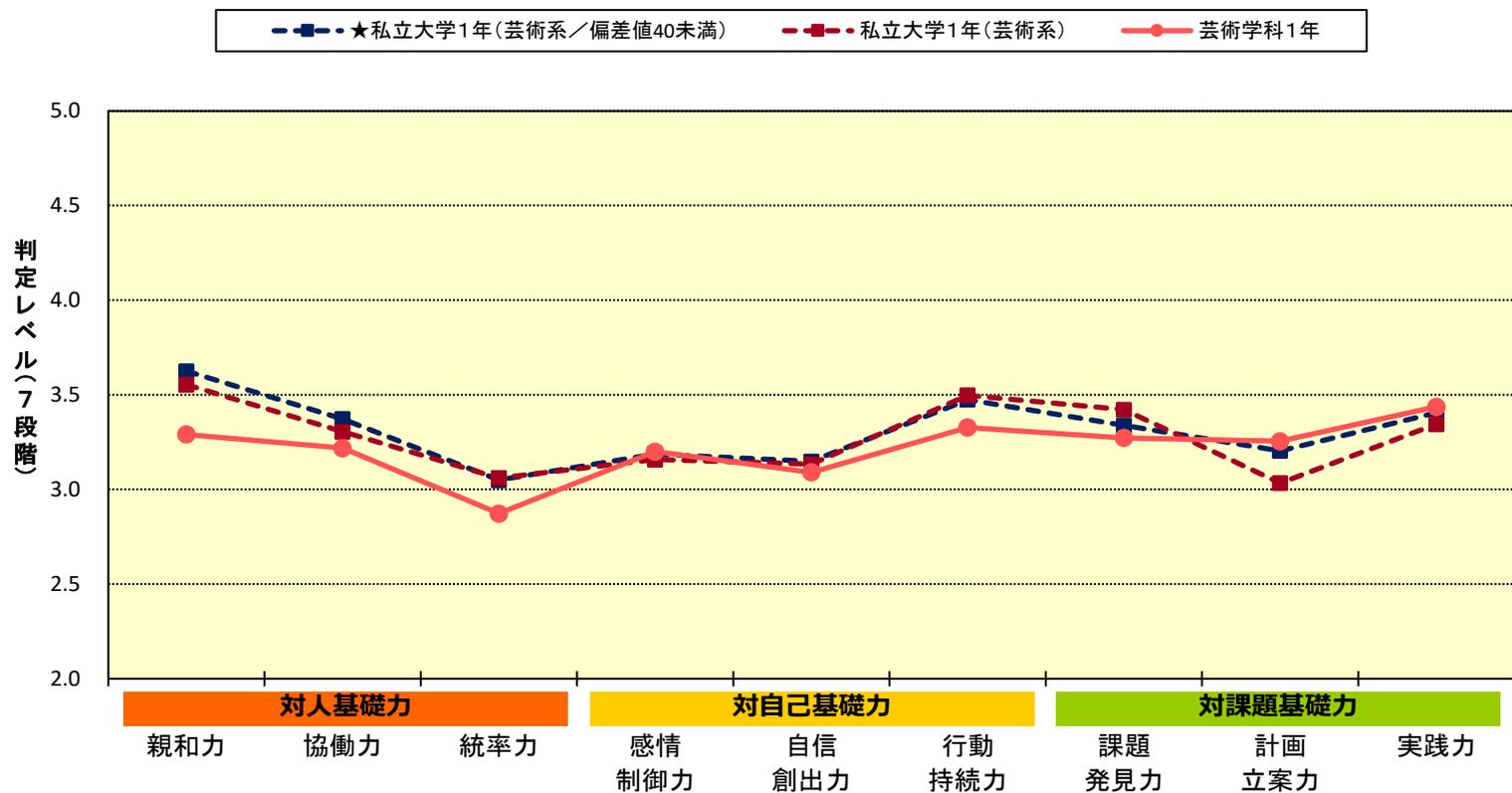
コンピテンシー中分類要素 判定レベルに見る全体傾向①

【芸術学科1年】

基準集団(★印)と比較して、感情制御力、計画立案力、実践力の平均値は上回る傾向にある。

一方、協働力、統率力、自信創出力、行動持続力、課題発見力の平均値は下回る傾向にあり、親和力の平均値は低い。

コンピテンシー中分類要素



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

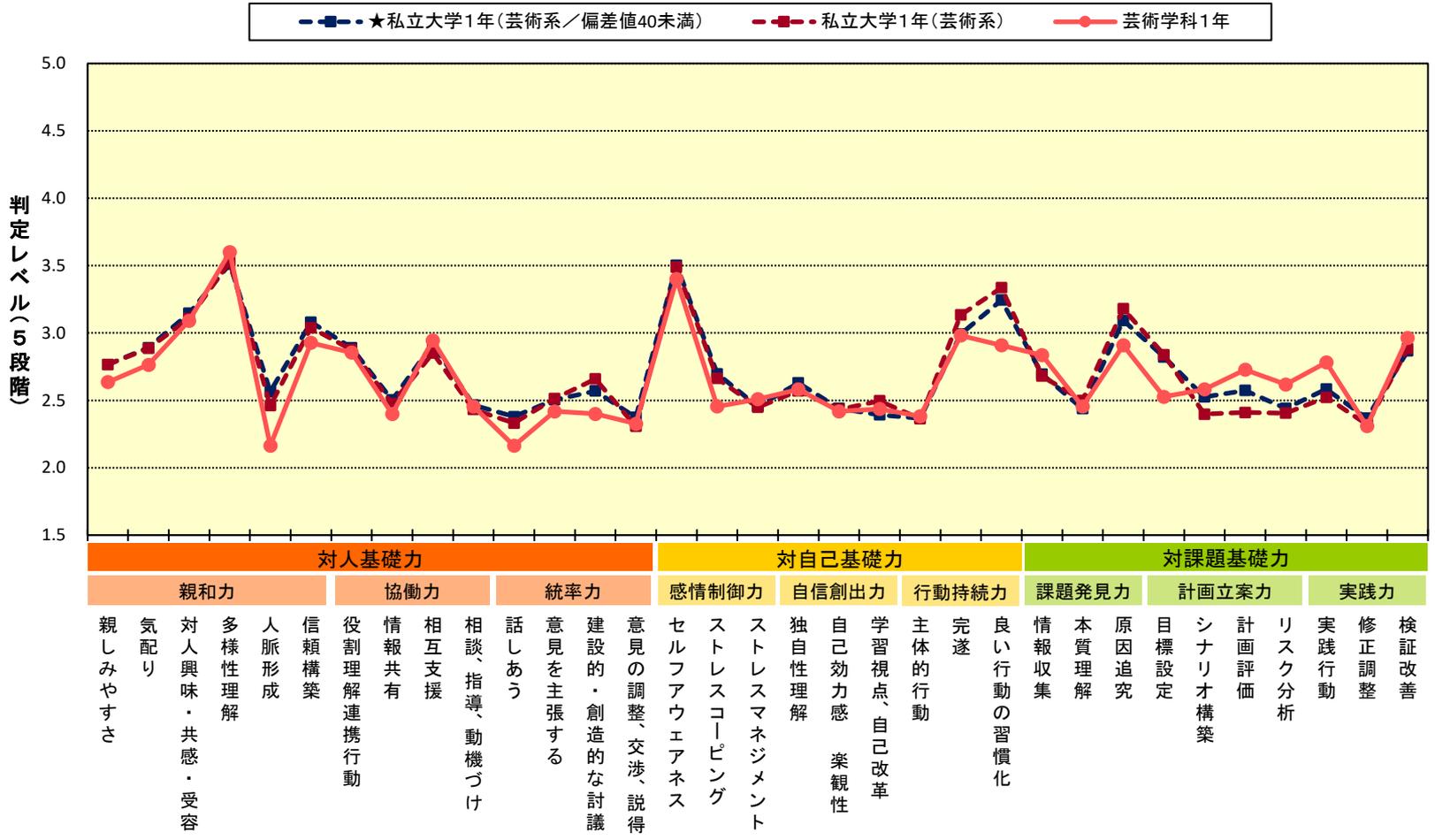
3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

コンピテンシー小分類要素 判定レベルに見る全体傾向①

コンピテンシー小分類要素

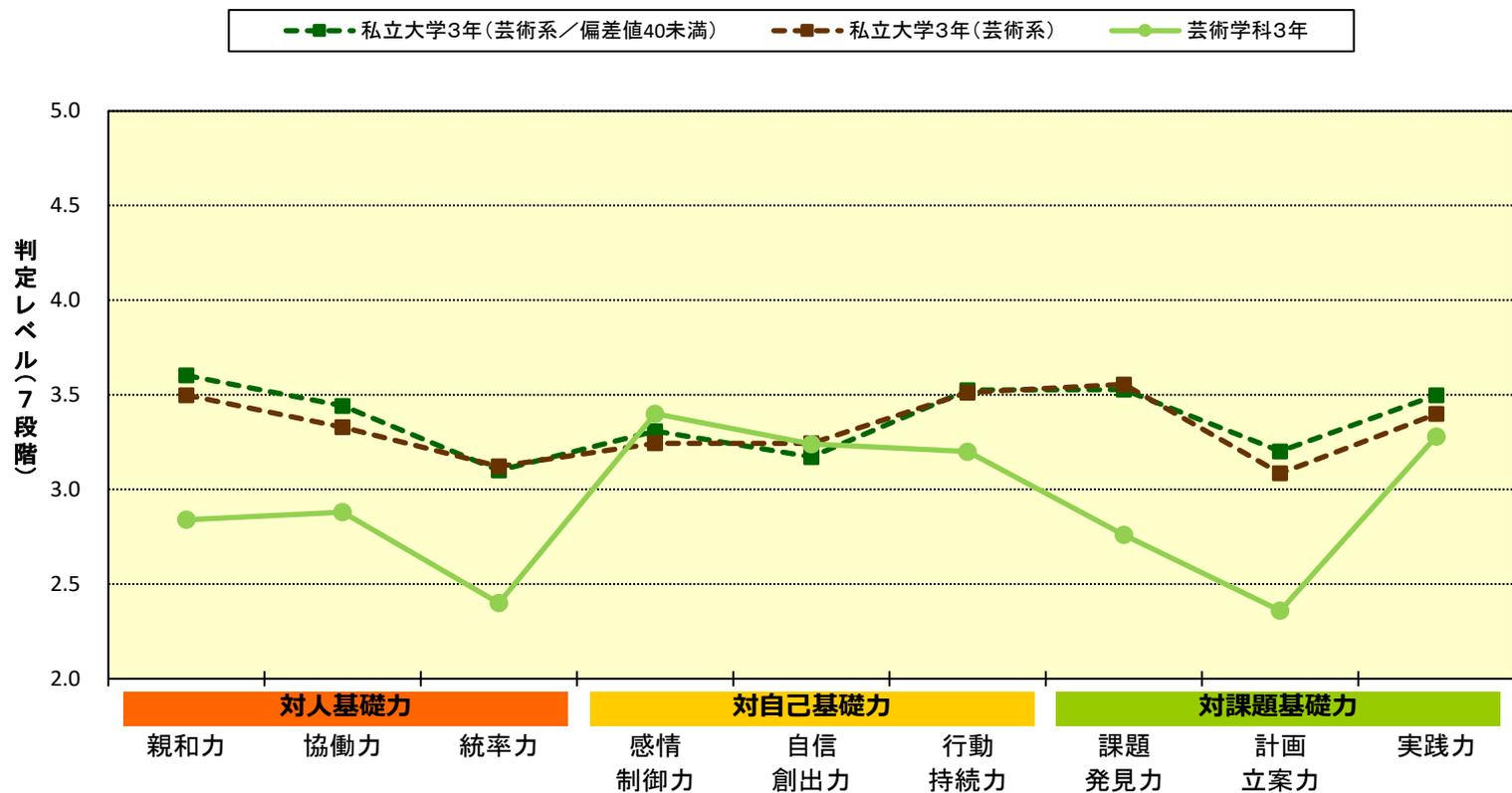


コンピテンシー中分類要素 判定レベルに見る全体傾向②

【芸術学科3年】

基準集団(私立大学3年(芸術系/偏差値40未満))と比較して、感情制御力、自信創出力の平均値は上回る傾向にある。
 一方、実践力の平均値は下回る傾向にあり、親和力、協働力、統率力、行動持続力、課題発見力、計画立案力の平均値は低い。

コンピテンシー中分類要素

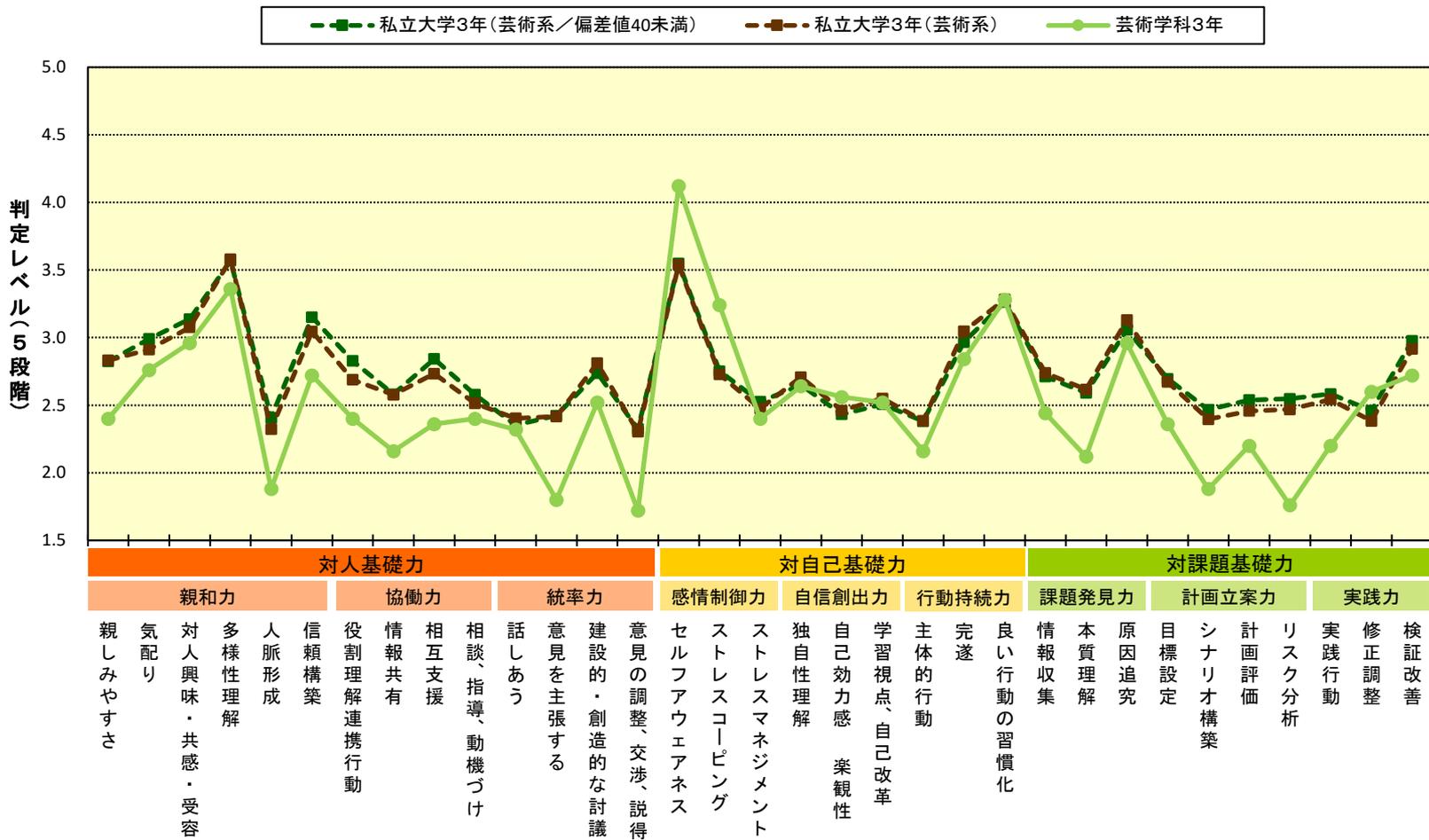


※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

- 1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
- 2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
- 3) 基準集団よりも大きいのが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」
- 4) 基準集団よりも小さいのが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

コンピテンシー小分類要素 判定レベルに見る全体傾向②

コンピテンシー小分類要素



	リテラシー					コンピテンシー									
	総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	総合	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
							親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
芸術学科 1年	-	-	◎	◎	◎	-	▲	-	-	-	-	-	-	-	-
芸術学科 3年	-	◎	◎	◎	◎	■	▲	▲	▲	-	-	-	▲	▲	-

記号のみかた

【リテラシー総合・コンピテンシー総合】

- ・・・基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる
- ▲・・・基準集団と比較して、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる
- △・・・基準集団と比較して、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる

【リテラシー要素・コンピテンシー要素】

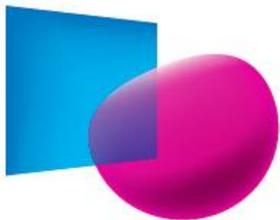
- ◎・・・標準誤差の下限が、基準集団を上回る
- ▲・・・標準誤差の上限が、基準集団を下回る

【芸術学科1年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー ●親和力	親しくない人にも、自分から気軽に話しかけることができる 人から相談された際は相手の話を一生懸命聴き、信頼を得ることができる 相手に対して細やかな気遣いができる 自分の気持ちを素直に表現し人脈を広げることができる	他者の話に注意を傾けて聞く(傾聴する)ようにする 他者の意見を尊重し、柔軟に受け入れる大切さを指導する 文化や価値観の違いを学ぶ機会を設ける 自己と他者「良い点」を認め合い、信頼の基盤を作るようにする

【芸術学科3年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー ●親和力	人に対して笑顔で接することができる 相手の立場や気持ちを考えたり、人間関係に配慮した言動を心がけている 相手に対して自然な気配りができる 自分と異なる考えや意見でも興味深く相手の話を聞き、理解を示すことができる	学生同士がグループやクラスで和やかに(親和的に)話す機会を設ける 事例や実践を通じて、相手(当事者)の立場になって考えさせる 自分のことだけでなく、クラス全体やグループの都合を考えさせる
●協働力	割り当てられたことは自分なりに工夫しながら取り組むことができる 周囲に気を配り、困っている人には手を貸すことができる チームで課題に取り組む場合には、自ら情報発信するなど、チームへの貢献を考えて行動することができる	各自の貢献する領域を定め責任を果たすようにする 集団の中で自分の役割を実感する機会を設ける 各自で調べたことを全体に共有させる機会を設ける 情報を発信したり吸収したり、学生相互に情報をやり取りする機会を設ける
●統率力	自分の考えを整理し、筋道を立てて伝えることができる 話し合いの場では、議論の目的を見失わずに意見を述べるすることができる 自分の考えを論理的かつ気持ちを込めて相手にわかりやすく伝えることができる 意見の異なる相手でも、粘り強く自分の考えを伝えることができる	自分の考えを整理して、相手にわかり易く伝えられるようにする 周囲に対して、自分の要望をはっきり伝えるようにする 表現豊かに話したり、書いたりする機会を設ける 粘り強く周囲に説明をするような機会を設ける
●課題発見力	課題に対し自分なりに情報を集めることができる 集めた情報を客観的に整理しようとする 興味のある分野ならば、情報を集めて客観的に事実を整理・分析することができる 分析を基に自分なりに因果関係の仮説を立てることができる	様々な情報源を適切に活用できるよう指導する 思い込みや常識に捉われず、本質を深く考えるよう指導する 原因を明らかにするために、さまざまな角度から検討・分析するよう指導する
●計画立案力	課題に対して、目標と計画を大まかに立てることができる 立案した計画や目標に自分なりに取り組むことができる 条件が明確な課題であれば、発生しそうな問題を予め考えることができる 起こりうる事象を予測し、計画を立て取り組むことができる	ゴール(目指す姿)をイメージしてから、課題に取り組みせる 想定される障害を考慮して代替案を考えるよう指導する 立てた計画について、達成の見込みや問題点を客観的にあげさせる



PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.5

心理カウンセリング学科

リテラシー総合 判定レベルに見る全体傾向

【リテラシー総合】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

※心理カウンセリング学科1年、心理カウンセリング学科3年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

凡例 (リテラシー総合)			
低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	有意差は認められない
●基準集団の分布と傾向が異なる場合 (有意確率30%未満)			
低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	低・中位層が多く、平均が基準値より低い (問題が内在している可能性がある)
低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

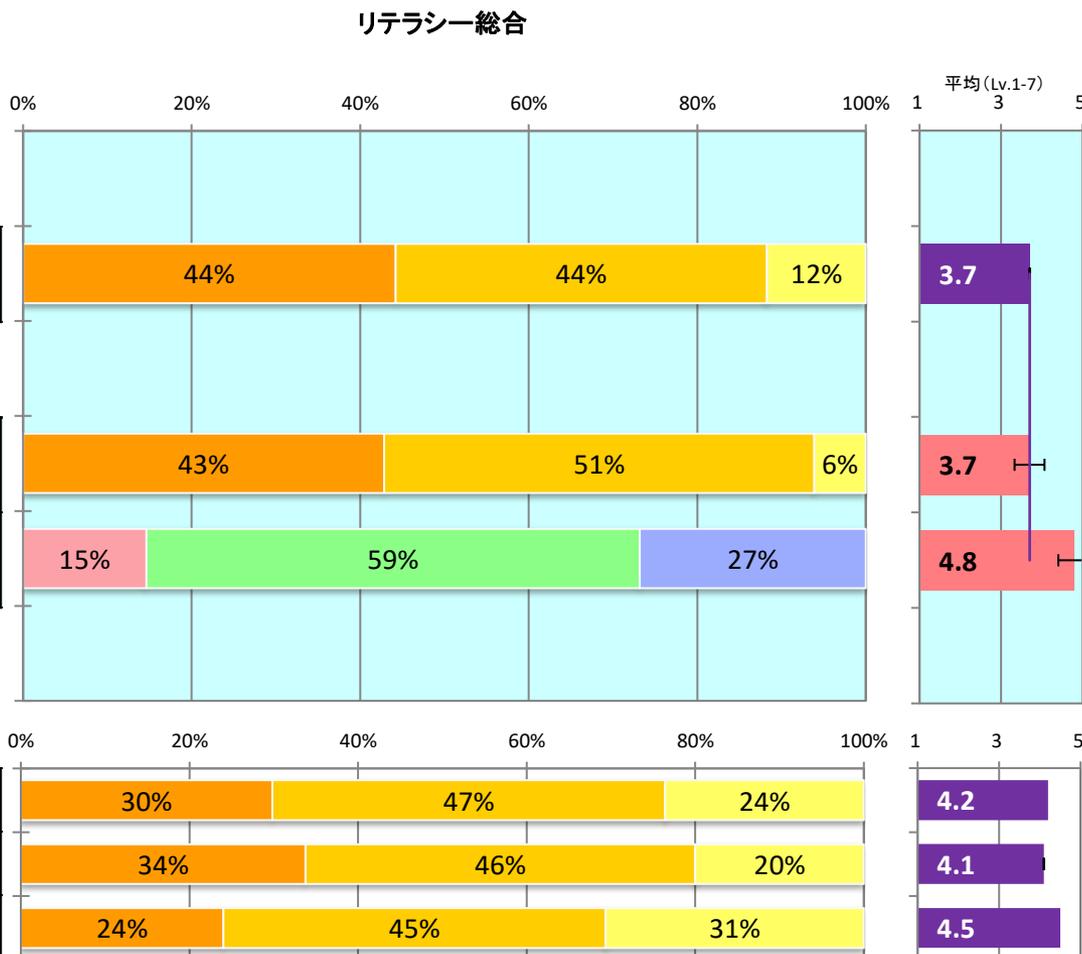
【基準集団】

★私立大学1年(心理学系/偏差値40未満)	12校 N=1,423
-----------------------	-------------

	χ^2 乗値	有意確率
心理カウンセリング学科1年	1.87	0.39
心理カウンセリング学科3年	18.02	0.00

【ご参考基準集団】

私立大学3年(心理学系/偏差値40未満)	13校 N=1,456
私立大学1年(心理学系)	30校 N=5,132
私立大学3年(心理学系)	30校 N=3,401



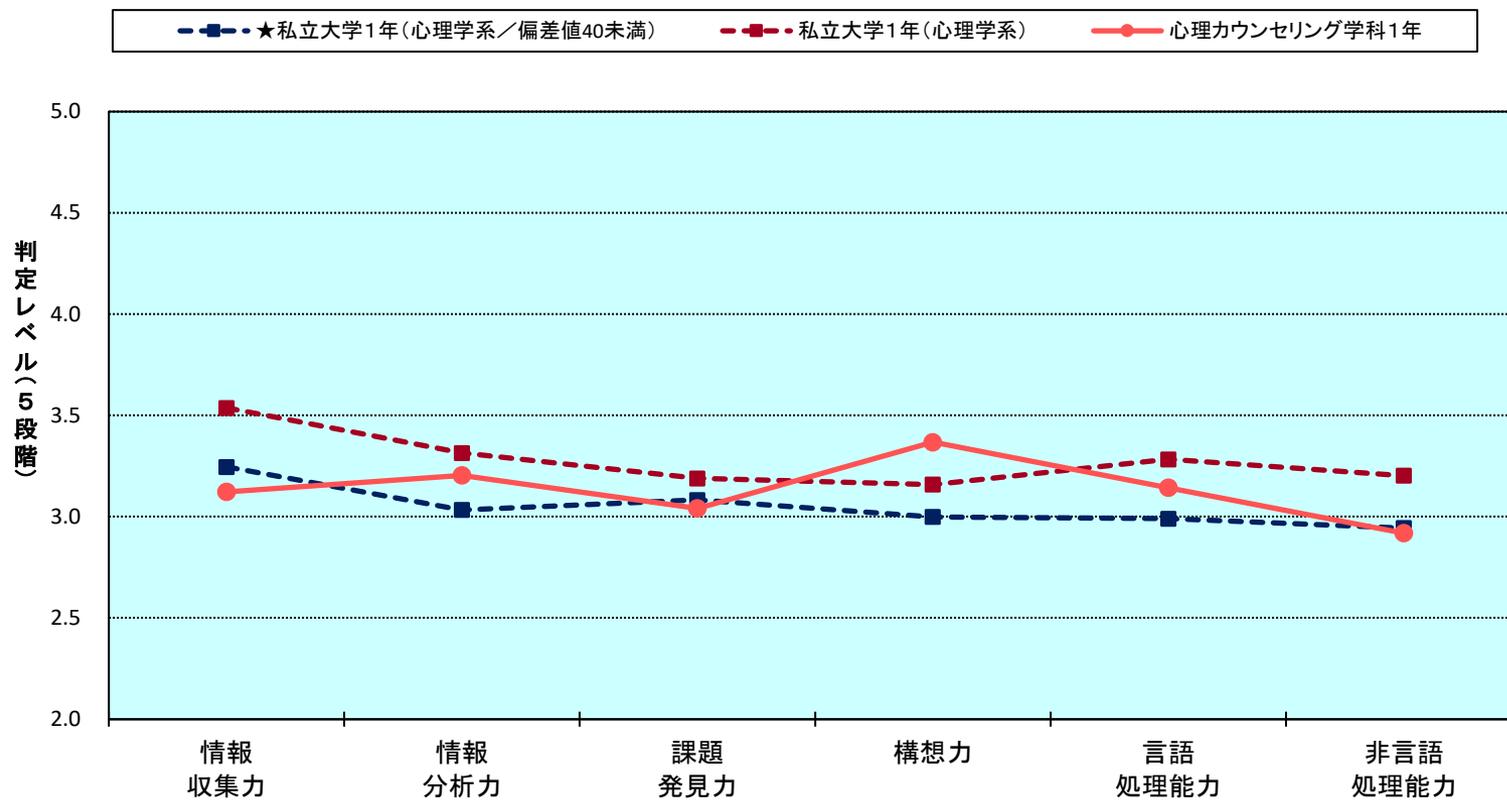
※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。
 ※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向①

【心理カウンセリング学科1年】

基準集団(★印)と比較して、情報分析力、構想力の平均値は高く、言語処理能力の平均値は上回る傾向にある。
一方、情報収集力、課題発見力、非言語処理能力の平均値は下回る傾向にある。

リテラシー要素



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

3) 基準集団よりも大きいのが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

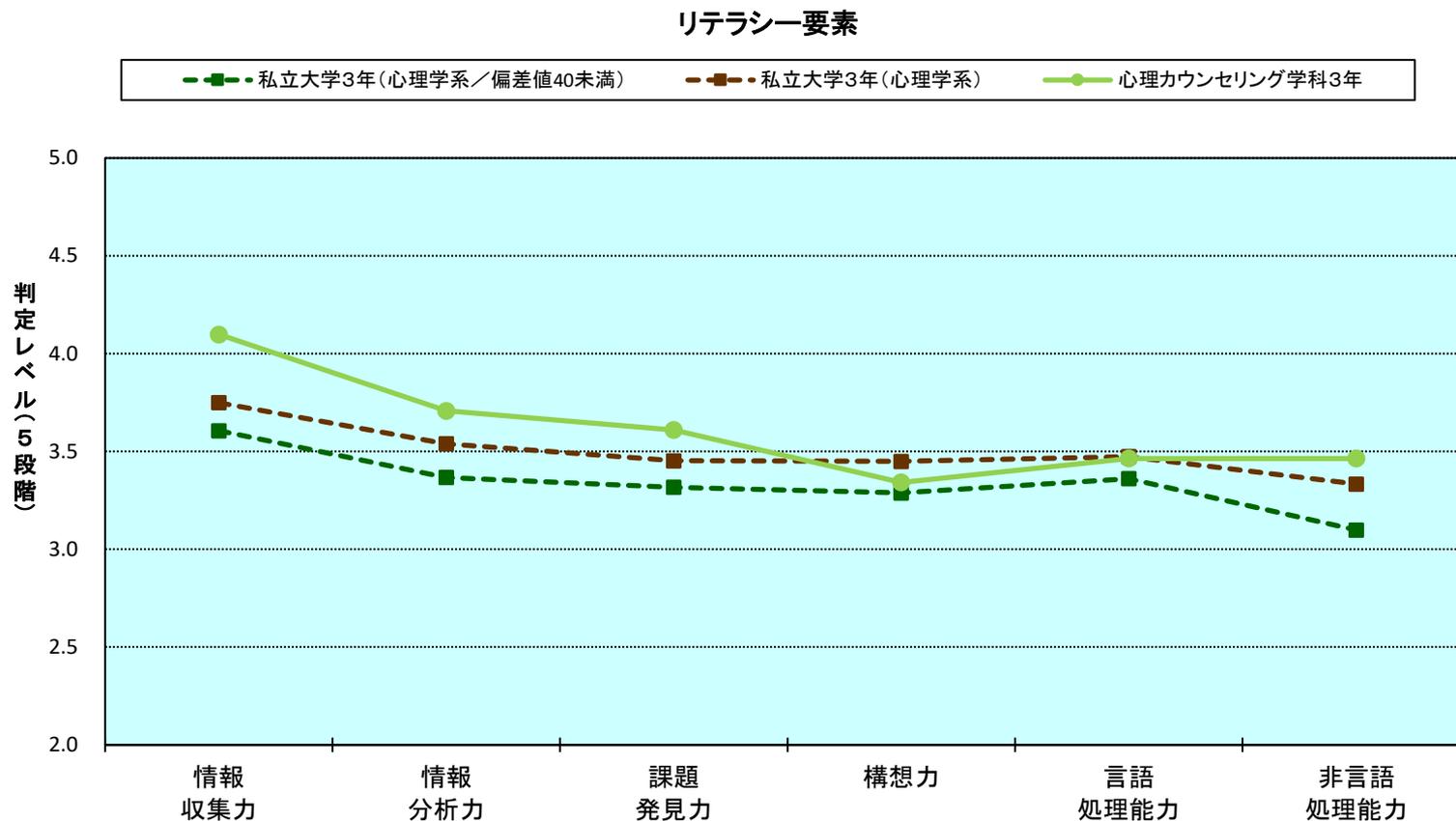
2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さいのが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向②

【心理カウンセリング学科3年】

基準集団(私立大学3年(心理学系/偏差値40未満))と比較して、情報収集力、情報分析力、課題発見力の平均値は高く、構想力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は上回る傾向にある。



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

- 1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
- 3) 基準集団よりも大きいのが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

- 2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
- 4) 基準集団よりも小さいのが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

コンピテンシー総合 判定レベルに見る全体傾向

【コンピテンシー総合】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

※心理カウンセリング学科3年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

凡例 (コンピテンシー総合・大分類)

低 (Lv.1-2)	中 (Lv.3-4)	高 (Lv.5-7)	有意差は認められない
------------	------------	------------	------------

●基準集団の分布と傾向が異なる場合 (有意確率30%未満)

低 (Lv.1-2)	中 (Lv.3-4)	高 (Lv.5-7)	低・中位層が多く、平均が基準値より低い (問題が内在している可能性がある)
低 (Lv.1-2)	中 (Lv.3-4)	高 (Lv.5-7)	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

【基準集団】

★私立大学1年(心理学系/偏差値40未満)	15校 N=3,165
-----------------------	-------------

	χ^2 乗値	有意確率
心理カウンセリング学科1年	0.48	0.79
心理カウンセリング学科3年	0.37	0.83

【ご参考基準集団】

私立大学3年(心理学系/偏差値40未満)	15校 N=2,816
私立大学1年(心理学系)	38校 N=11,588
私立大学3年(心理学系)	37校 N=7,787

コンピテンシー総合



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

コンピテンシー大分類要素 判定レベルに見る全体傾向

Generic Skills

【対人基礎力】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

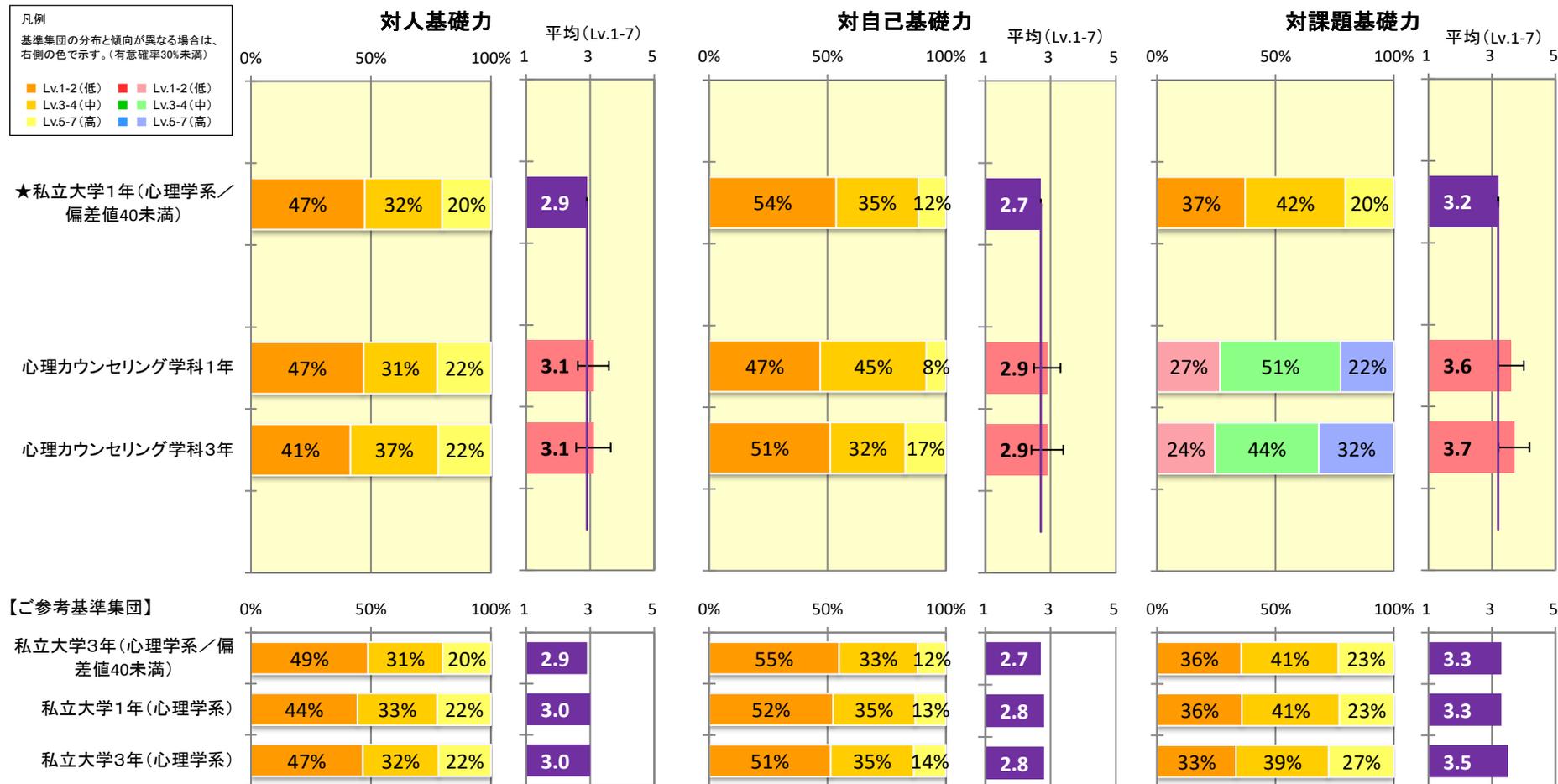
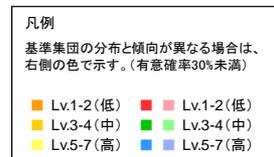
【對自己基礎力】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

※心理カウンセリング学科1年、心理カウンセリング学科3年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

【対課題基礎力】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。



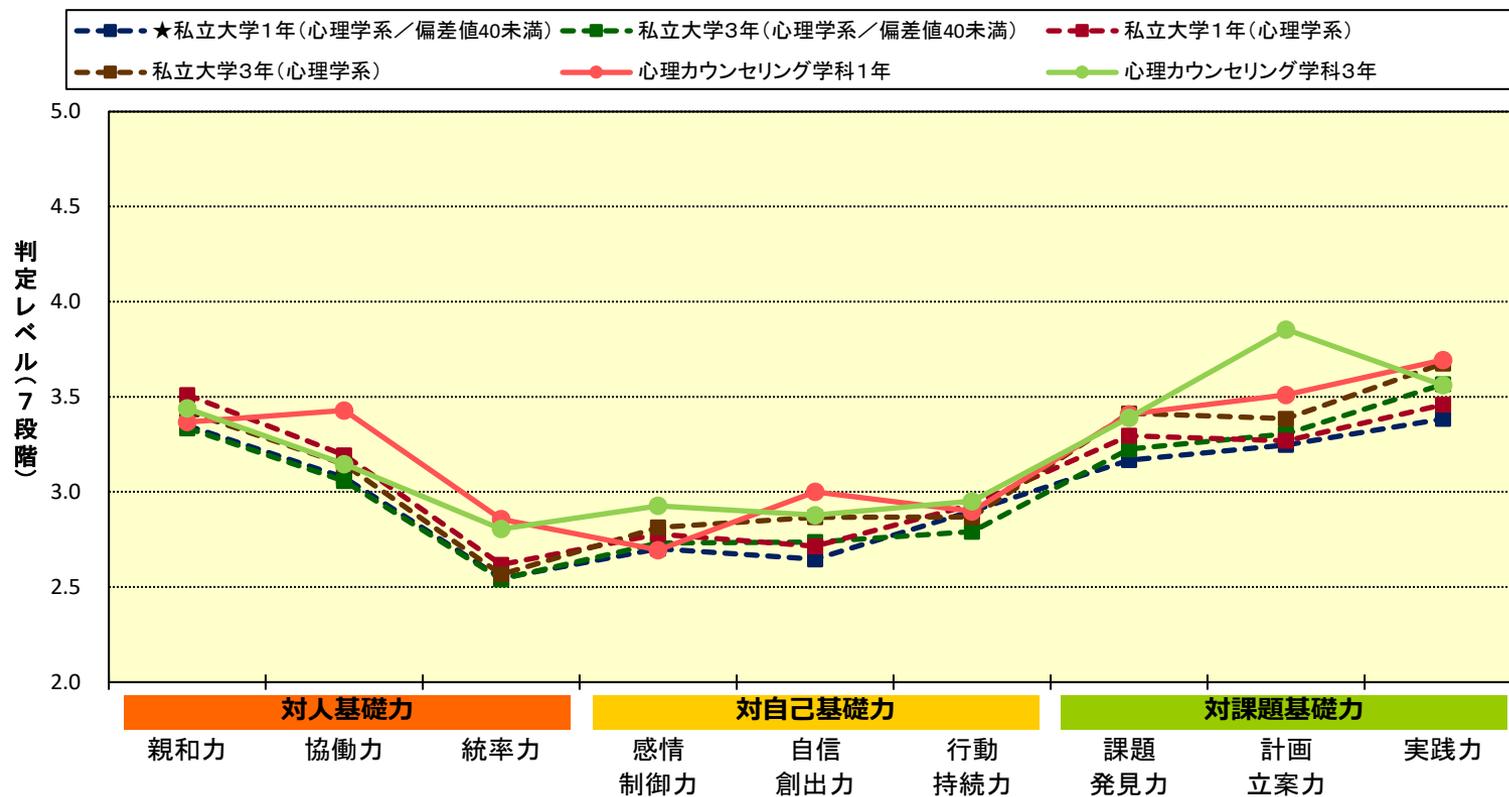
※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。

コンピテンシー中分類要素 判定レベルに見る全体傾向①

【心理カウンセリング学科1年】

基準集団(★印)と比較して、協働力、統率力、自信創出力、課題発見力、計画立案力、実践力の平均値は高く、親和力の平均値は上回る傾向にある。
一方、感情制御力、行動持続力の平均値は下回る傾向にある。

コンピテンシー中分類要素



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

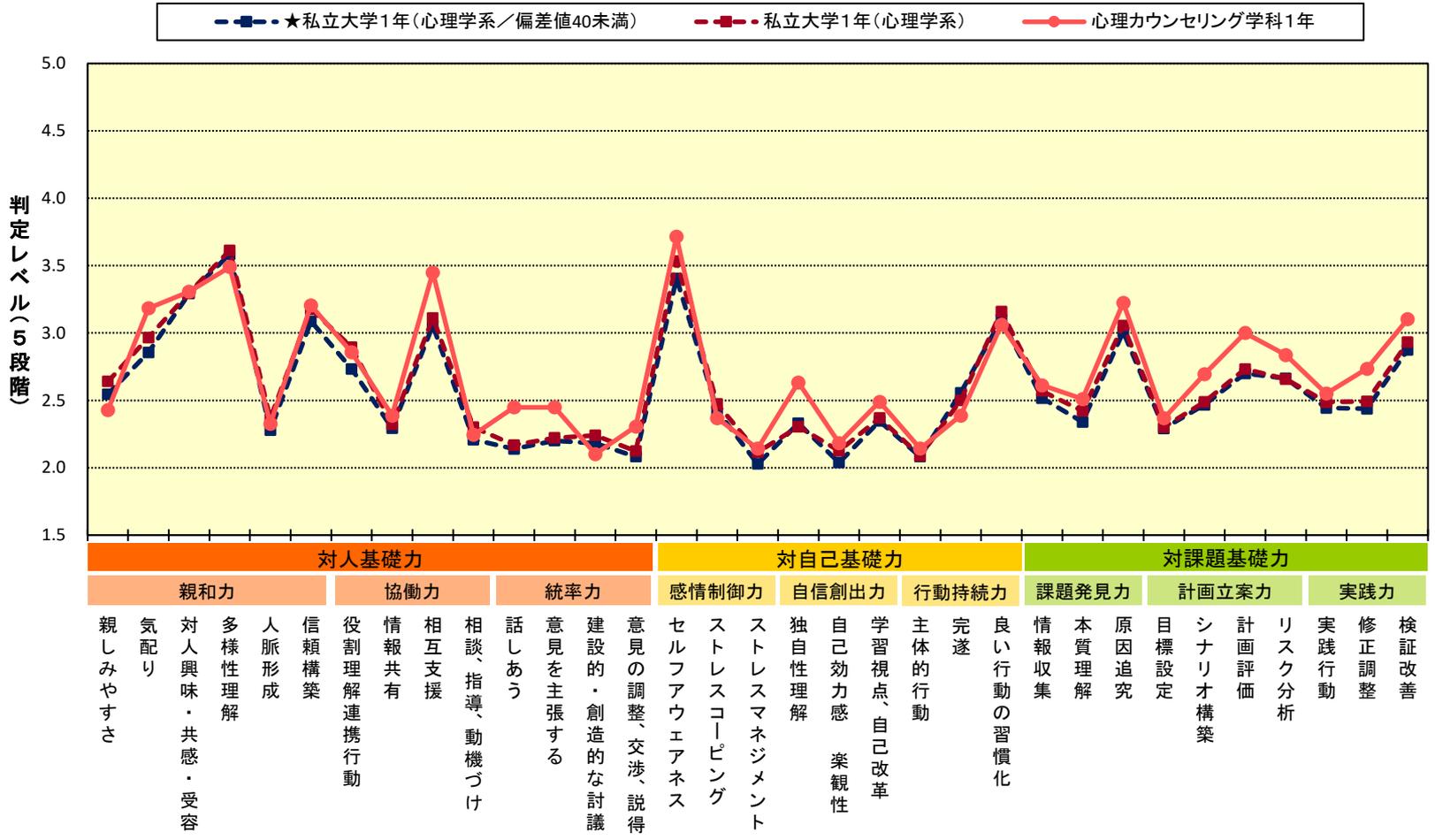
3) 基準集団よりも大きいのが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さいのが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

コンピテンシー小分類要素 判定レベルに見る全体傾向①

コンピテンシー小分類要素

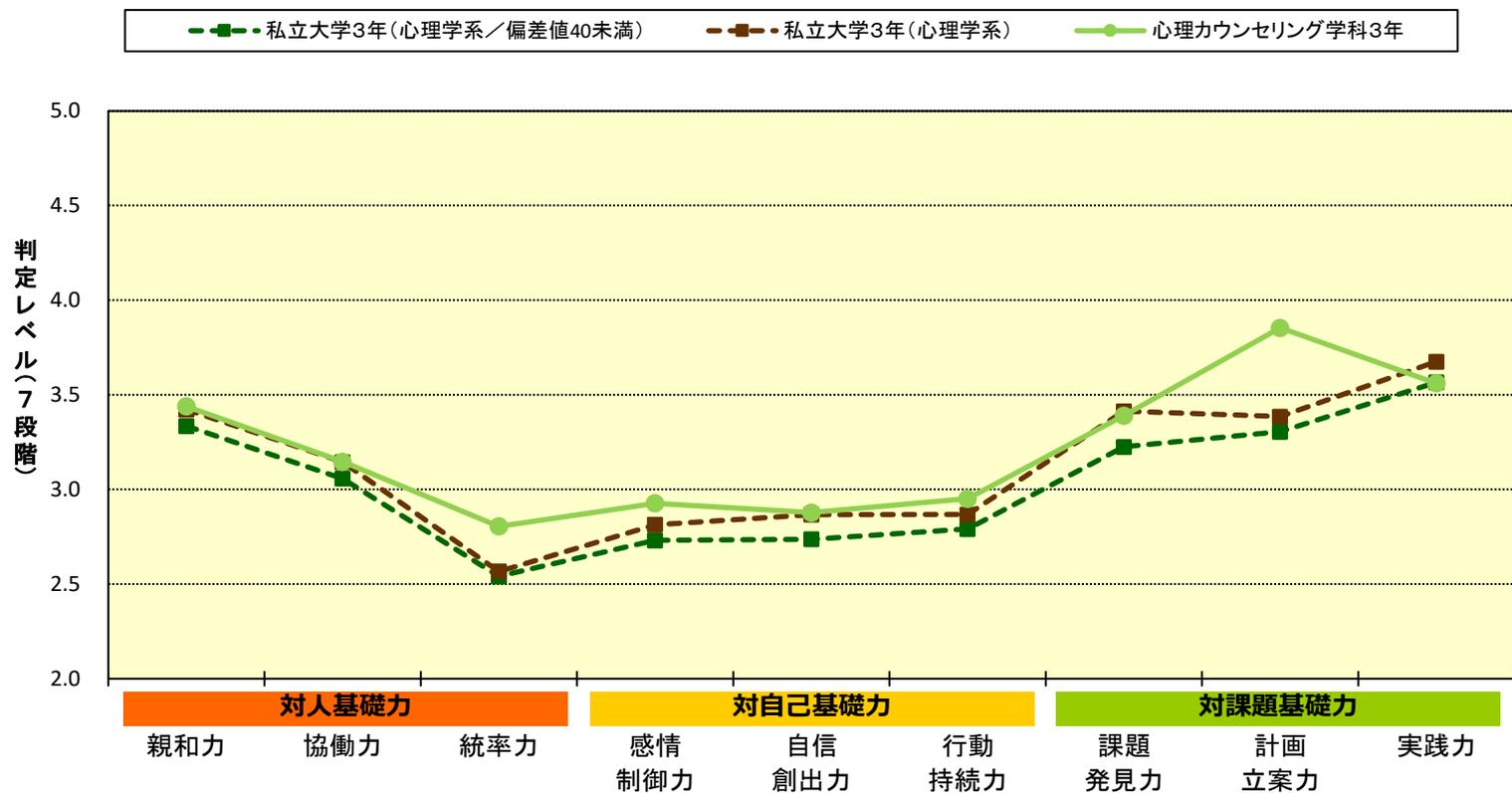


コンピテンシー中分類要素 判定レベルに見る全体傾向②

【心理カウンセリング学科3年】

基準集団(★印)と比較して、計画立案力の平均値は高く、
親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力の平均値は上回る傾向にある。

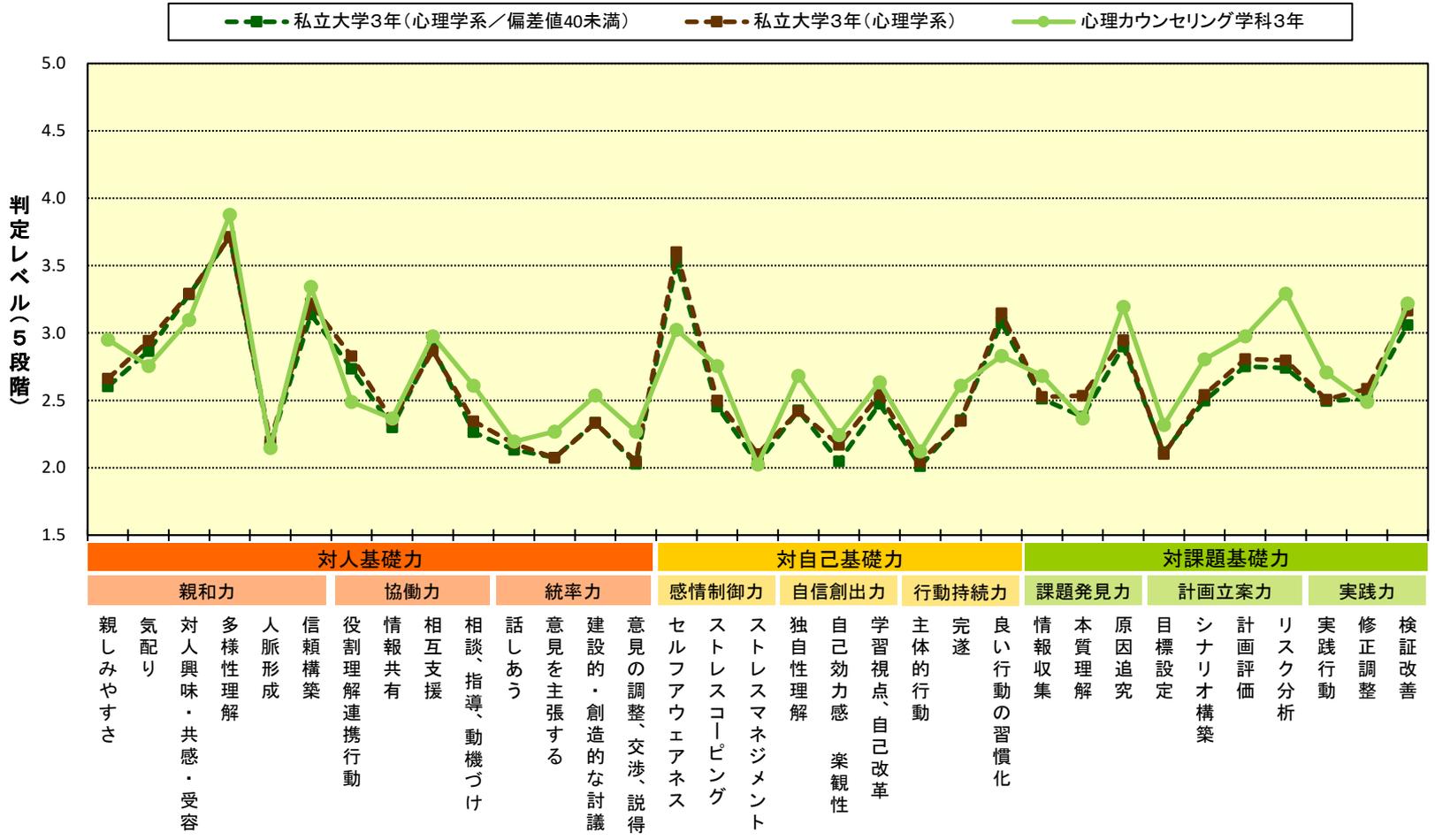
コンピテンシー中分類要素



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

- 1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
- 2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
- 3) 基準集団よりも大きいのが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」
- 4) 基準集団よりも小さいのが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

コンピテンシー小分類要素



	リテラシー					コンピテンシー									
	総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	総合	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
							親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
心理カウンセリング学科 1年	-	-	◎	-	◎	-	-	◎	◎	-	◎	-	◎	◎	◎
心理カウンセリング学科 3年	-	◎	◎	◎	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	◎	-

記号のみかた

【リテラシー総合・コンピテンシー総合】

- ・・・基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる
- ▲・・・基準集団と比較して、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる
- △・・・基準集団と比較して、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる

【リテラシー要素・コンピテンシー要素】

- ◎・・・標準誤差の下限が、基準集団を上回る
- ▲・・・標準誤差の上限が、基準集団を下回る

今後の課題と対策

【心理カウンセリング学科1年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー	基準集団と比較して、統計的に課題のある要素を特定することは出来ないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	

【心理カウンセリング学科3年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー	基準集団と比較して、統計的に課題のある要素を特定することは出来ないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	

情報分析力	<p>事実・情報を思い込みや憶測ではなく、客観的かつ多角的に整理・分類し、それらを統合して隠れた構造を捉え、本質を見極める力</p>	<p>・表やグラフを読み取る 1) 図表・グラフの種類と特性 2) グラフの「読み取り」「分析」のポイント 3) 複数のグラフや表を総合して読み取る ・文献・資料を読む 1) 論理的なテキストの特性 2) 論理的なテキストの読解 3) 見出しをつける 4) 全体像を捉える ・批判的・多角的に分析する 1) 批判的読解とは 2) 批判的読解の具体的あり方</p>	<p>簡単な図表や文章を読み取ることができる</p>	<p>図表や文章から、客観的な事実や因果関係を読み取ることができる</p>	<p>図表や文章から読み取った内容の関係を論理的に思考し、構造化することができる</p>	<p>情報を多角的に理解し、それらを統合して本質をとらえることができる</p>	<p>複雑な情報を捉えられる</p>	
		生涯スポーツ学部 1年全体	3.1					
		スポーツ教育学科 1年	3.1					
		健康福祉学科 1年	3.0					
		教育文化学部 1年全体	3.4					
		教育学科 1年	3.4					
		芸術学科 1年	3.4					
		心理カウンセリング学科 1年	3.2					
		私立大学 1年 (偏差値40未満)	3.0					
		私立大学 1年	3.2					

リテラシー		定義	レベル	1	2	3	4	5	
課題発見力	さまざまな角度、広い視野から現象や事実を捉え、それらの背後に隠れているメカニズムや原因について考察し、解決すべき課題を発見する力	<ul style="list-style-type: none"> ・広い観点から問題点を洗い出す <ol style="list-style-type: none"> 1) 拡散思考について 2) フレーミングで発想を広げる 3) フレームワークで考える ・問題点を整理・分析する <ol style="list-style-type: none"> 1) 収束思考について 2) 収束思考に必要な観点 3) マップ化による整理 ・発見された問題の中から、解決すべき課題を設定する <ol style="list-style-type: none"> 1) 問題点から課題への絞り込み 2) 課題への絞り込みに必要な観点 		簡単な問題において、解決すべき課題を選択することができる	複数の情報を整理し、解決すべき課題を設定することができる	いくつかの問題点の中から、解決すべき課題の優先順位を理解することができる	複数の情報から問題の本質を見極め、解決すべき課題を設定できる	複雑な文脈の中で、複数の情報から問題の本質を見極め、解決すべき課題を設定できる	
		生涯スポーツ学部 1年全体	2.9						
		スポーツ教育学科 1年	2.9						
		健康福祉学科 1年	2.9						
		教育文化学部 1年全体	3.2						
		教育学科 1年	3.3						
		芸術学科 1年	3.0						
		心理カウンセリング学科 1年	3.0						
		私立大学 1年 (偏差値40未満)	2.8						
		私立大学 1年	3.0						

構想力		定義	レベル	1	2	3	4	5
構想力	さまざまな条件・制約を考慮しながら問題解決までのプロセスを構想し、その過程で想定されるリスクやその対処方法を構想する力	<ul style="list-style-type: none"> ・広い観点から解決策を考える ・現実味のある解決策を考える ・計画を立てる <ol style="list-style-type: none"> 1) 必要な作業をきれいに洗い出す 2) 具体的な行動計画を考える 		簡単な問題において、解決策を選択することができる	問題解決のプロセスに即して、解決策を構想することができる	いくつかの解決策の中から、制約条件を踏まえて有効な解決策を選択することができる	制約条件やリスク等をふまえて、有効な解決策や行動計画を構想できる	複雑な文脈の中で、制約条件やリスク等をふまえて、有効な解決策や行動計画を構想できる
		生涯スポーツ学部 1年全体	3.1					
		スポーツ教育学科 1年	3.1					
		健康福祉学科 1年	3.0					
		教育文化学部 1年全体	3.4					
		教育学科 1年	3.5					
		芸術学科 1年	3.4					
		心理カウンセリング学科 1年	3.4					
		私立大学 1年 (偏差値40未満)	2.8					
		私立大学 1年	3.0					

Generic Skills

協働力	目標に向けて協力的に仕事を進める	周囲や集団において、自分の役割を理解した上で互いに連携・協力、助け合ったり、情報を共有して一緒に物事を進めていく。さらに、他者の相談に乗るなど働きかけ、動機づけする力	・他の人と一緒に物事に取り組むのが苦手 ・周囲の人が困っている状況に気づかないことが多い	・集団の中で、割り当てられたことは自分なりに工夫しながら取り組む ・周囲に気を配り、困っている人には手を貸そうとする	・チームで課題に取り組む場合には、自ら情報発信するなど、チームへの貢献を考慮して行動することができる	・人から相談された際に、本人がやる気が出るよう働きかけをすることができる ・雰囲気づくりなどを通じてチームに貢献することができる	・誰かを支援する時には全力でサポートする ・周囲との協力や働きかけを通じて、チームの成果に貢献することができる	・リーダーとして、周囲の状況への気配りや働きかけをすることができる ・チーム全体のやる気を高めることができる	・リーダーとして、状況や相手に応じチームのメンバーを動機づけることができる ・相互支援や情報を共有しあう環境をつくることができる							
										生涯スポーツ学部 1年全体 3.9						
										スポーツ教育学科 1年 3.9						
										健康福祉学科 1年 4.1						
										教育文化学部 1年全体 3.7						
										教育学科 1年 4.0						
										芸術学科 1年 3.2						
										心理カウンセリング学科 1年 3.4						
										私立大学 1年 (偏差値40未満) 3.6						
										私立大学 1年 3.6						

統率力	場をよみ、組織を動かす	集団の中で、自分の意見を主張すると同時に、議論の活発化や発展のために集団に働きかける。また、必要に応じて、意見の調整、交渉、説得し、集団を合意に導く力	・話し合いの場では議論に消極的なことが多い ・発言の際、考えが整理しきれず相手に言いたいことが伝わらないことが多い	・自分の考えを整理し、筋道を立てて伝えることができる ・話し合いの場では、議論の目的を見失わずに意見を述べることができる	・自分の考えを論理的かつ気持ちを込めて相手にわかりやすく伝えることができる ・意見の異なる相手でも、粘り強く自分の考えを話すことができる	・相手や状況に関係なく、はっきりとした主張ができる ・相手の立場や背景も考慮しながら意見調整を進めることができる	・周囲の反対にあっても孤立しても、正しいと思うことは粘り強く主張できる ・建設的、かつ創造的な議論を意識した発言ができる	・全員に発言を促し、整理や方向づけによって議論を進展させていくことができる ・リーダーとして、チームの結論を導くことができる	・意見が対立する中でも、建設的に議論を導くことができる ・聴衆を引き込み納得させるようなプレゼンテーションをすることができる						
										生涯スポーツ学部 1年全体 3.6					
										スポーツ教育学科 1年 3.7					
										健康福祉学科 1年 3.2					
										教育文化学部 1年全体 2.8					
										教育学科 1年 2.7					
										芸術学科 1年 2.9					
										心理カウンセリング学科 1年 2.9					
										私立大学 1年 (偏差値40未満) 3.1					
										私立大学 1年 3.1					

コンピテンシー（対自己）		定義	レベル	1	2	3	4	5	6	7									
感情制御力	気持ちの揺れを制御する	自分の感情や気持ちを認識して客観的に言動をコントロールしたり、ストレスをうまく処理することができる。また、プレッシャーを感じる場面でも、感情をコントロールして力を発揮する力		<ul style="list-style-type: none"> 自分の感情をコントロールするのが苦手 些細なことでも、動揺したり落ち込んだりして、なかなか立ち直れないことが多い 	<ul style="list-style-type: none"> 人間関係など身近な問題が発生した時には、落ち着いて自分なりに対処しようとする 	<ul style="list-style-type: none"> 感情が多少乱れても、冷静になって行動することができる やらなければならないことがたくさんあるような状況でも、こなしていくことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ストレスやプレッシャーがかかる場面でも、落ち着いて対処できる 難しい課題に対して前向きに取り組むことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分がストレスを感じやすい場面を知っており、対処法を考へておくことができる 失敗に向き合い原因を徹底的に考えることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 心を落ち着かせる、自分なりの方法をもっている 緊張やプレッシャーを感じる場面でも、落ち着いて、かつ集中して取り組むことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ストレスの原因に自ら働きかけ、解消することができる 必要に応じて自分の感情を率直に伝えることで、相手との信頼関係を築くことができる 									
			生涯スポーツ学部 1年全体								3.7								
			スポーツ教育学科 1年								3.7								
			健康福祉学科 1年								4.0								
			教育文化学部 1年全体								3.1								
			教育学科 1年								3.2								
			芸術学科 1年								3.2								
			心理カウンセリング学科 1年								2.7								
			私立大学 1年（偏差値40未満）								3.3								
			私立大学 1年								3.2								

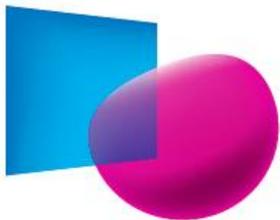
自信創出力		定義	レベル	1	2	3	4	5	6	7								
前向きな考え方ややる気を維持する	自己の強み弱みを認識した上で、自分に自信をもって物事に取り組むことができる。また、常に学ぶ姿勢をもち、経験の機会をうまくとらえて挑戦していく力	<ul style="list-style-type: none"> 自分の強みがわからず、自信をもって行動できない 初めてのことや難しいことには、なかなか挑戦する気になれない 	<ul style="list-style-type: none"> 自分では強みがわからないが、人からほめられることで自信をもつことができる 仕事や課題に対して前向きに取り組むことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の強み・弱みを知っており、多少見通しが立たないことでも自分を信じて行動できる 機会をチャンスと捉え、楽しんで取り組むことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分ならではの強みや持ち味を活かせる場面をイメージすることができる 初めてのことで、臆せず取り組むことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 難しいことでも、積極的に挑戦し、失敗しても何かを学ぼうとする 好きではない仕事でも、自分なりに工夫して取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> 自分ならではの強みや持ち味を活かす機会を見逃さない 常に良い結果をイメージして、自信をもって取り組むことができる 	<ul style="list-style-type: none"> どんな仕事や課題でも主体性と好奇心をもって取り組むことができる 成長の機会を自ら創り出していくことができる 										
									生涯スポーツ学部 1年全体	3.6								
									スポーツ教育学科 1年	3.6								
									健康福祉学科 1年	3.5								
									教育文化学部 1年全体	3.3								
									教育学科 1年	3.5								
									芸術学科 1年	3.1								
									心理カウンセリング学科 1年	3.0								
									私立大学 1年（偏差値40未満）	3.2								
									私立大学 1年	3.2								

行動持続力		定義	レベル	1	2	3	4	5	6	7							
主体的に動き、良い行動を習慣づける	主体的に行動し、物事には最後まで粘り強く取り組むことができる。また、良い行動を習慣化する力	<ul style="list-style-type: none"> 人からの指示を待って行動することが多い 何かに取り組んでも、最後までやり切れないことが多い 	<ul style="list-style-type: none"> 良いやり方や習得した技術・知識は、すぐに試みるような心がけている 	<ul style="list-style-type: none"> 任せられたことは、できるだけ自分でやるべきことを考え行動するようにしている 常に良いやり方を追求し、能力向上を心がけている 	<ul style="list-style-type: none"> 何かに取り組む時には、自発的に考え行動に移す 取り組んだことに対しては、自分なりに工夫しながら最後までやり抜くようにしている 	<ul style="list-style-type: none"> すべきことや他者の期待を自ら考え、責任をもって行動することができる 周囲からの期待以上のことを主体的に行う 	<ul style="list-style-type: none"> 目標を定め、最後まで諦めずにやり遂げる 行動の検証と改善を繰り返しながら、より良い行動に結びつけることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 課題には期限ぎりぎりまで、自分が納得できる結果が出るまで粘り強く取り組む 検証と改善を常に繰り返すことを習慣化している 									
									生涯スポーツ学部 1年全体	3.9							
									スポーツ教育学科 1年	3.9							
									健康福祉学科 1年	3.8							
									教育文化学部 1年全体	3.3							
									教育学科 1年	3.5							
									芸術学科 1年	3.3							
									心理カウンセリング学科 1年	2.9							
									私立大学 1年（偏差値40未満）	3.5							
									私立大学 1年	3.4							

コンピテンシー（対課題）		定義	レベル	1	2	3	4	5	6	7	
課題発見力	課題の所在を明らかにし、必要な情報分析を行う	適切な方法で情報を収集し、事実に基づいて客観的に分析、本質的な問題を見極める。さらに、様々な角度から課題を分析し、原因を明らかにする力		・課題に対しての情報収集が、適切な方法でない場合が多い ・情報整理・分析が甘くなりがちになる	・課題に対し、自分なりに情報を集めることができる ・集めた情報を、客観的に整理しようと努める	・興味のある特定の分野ならば、情報を集めて客観的に事実を整理、分析することができる ・分析を基に、自分なりに因果関係の仮説を立てられる	・課題に応じ、様々な方法で情報を集めることができる ・定性的データを客観的に整理し、複数の因果関係の仮説を立てることができる	・課題に応じて、定性的な情報や、定量的なデータを収集し、適切に整理、分析できる ・より現実的な視点で、複数の因果関係の仮説を立てられる	・事実が複雑に絡み合っている問題でもデータを客観的に整理、分析できる ・因果関係を整理し課題解決につなげることができる	・関心分野については、平日頃から情報収集している ・合理的な判断だけでは難しい問題に対して、関係者の心情を汲んで結論を出すことができる	
			生涯スポーツ学部 1年全体	3.3							
			スポーツ教育学科 1年	3.4							
			健康福祉学科 1年	3.2							
			教育文化学部 1年全体	3.2							
			教育学科 1年	3.0							
			芸術学科 1年	3.3							
			心理カウンセリング学科 1年	3.4							
			私立大学 1年（偏差値40未満）	3.4							
			私立大学 1年	3.4							

計画立案力	課題解決のための適切な計画を立てる	明確な目標を立て、その実現に向けて効果的な計画を立てる。また、立てた計画に対して目標の実現や課題解決に向けての見通しを立てたり、どんな問題が起こり得るかのリスクを想定して事前に対策を講じる力	・自分で目標や計画を立てずに課題に取り組む ・立案した計画や目標が現実的でないなど適切でないことが多い	・課題に対して、目標と計画を大まかに立てることができる ・立案した計画や目標に、自分なりに取り組むことができる	・条件が明確な課題であれば目標や発生しそうな問題を予め考えることができる ・予測をふまえた具体的な計画を立て取り進むことができる	・経験のあることならば不確定な部分があっても具体的に適切な計画を立てられる ・情報整理・分析が甘くなりがちになる	・経験のないことでも、現実的で適切な計画と複数のシナリオを考えることができる ・事前リスクを検討、想定し、手を打つことができる	・長期的な目標と同時に、途中段階の具体的な目標も設定し、実現性を高めることができる ・チームでの取り組みの際、メンバーの負担を適切に際う	・自身やチームにとって挑戦的な目標を設定し挑む ・制約条件や資源を考慮した計画を立て、状況に応じた柔軟に修正することができる						
										生涯スポーツ学部 1年全体	3.5				
										スポーツ教育学科 1年	3.4				
										健康福祉学科 1年	3.8				
										教育文化学部 1年全体	3.4				
										教育学科 1年	3.3				
										芸術学科 1年	3.3				
										心理カウンセリング学科 1年	3.5				
										私立大学 1年（偏差値40未満）	3.4				
										私立大学 1年	3.4				

実践力	実践行動をとる	計画をすずんで実行し、状況に応じて柔軟に行動を修正する。また、行動を振り返って検証し、次の行動の改善に結びつける力	・やるべきことでも、なかなか実行に移せない・実行はできて当初のやりかたで進めがちで、のちに振り返ることも少ない	・やるべきことに対して、自分なりに試行錯誤しながら物事を進めていくことができる	・制約条件を考えて、試行錯誤しながら物事を進めることができる ・終了後は、成功か失敗かを振り返る	・計画を実行しながら、遅れや予想外の事態に応じて行動を修正することができる ・うまくいかなかった場合、原因を追求し次に役立つ	・チームの他の人の様子に気を配りながら、物事を進めることができる ・進捗状況を確認しつつ、自ら率先して行動することができる	・計画の実行中、全体の状況に気を配ることができる ・先行きを予測し必要に応じて、早めに全体の動きを修正することができる	・チームでより良い成果を挙げるため、即行動できる ・活動の振り返りを次に活かして、チームの成果を高めることができる					
										生涯スポーツ学部 1年全体	3.7			
										スポーツ教育学科 1年	3.7			
										健康福祉学科 1年	3.7			
										教育文化学部 1年全体	3.6			
										教育学科 1年	3.6			
										芸術学科 1年	3.4			
										心理カウンセリング学科 1年	3.7			
										私立大学 1年（偏差値40未満）	3.5			
										私立大学 1年	3.6			



PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.6 過去の1年生との比較

学部	学科	2020年度 1年 2020年6月～8月 受験	2021年度 1年 2021年6月～8月 受験	2022年度 1年 2022年5月～8月 受験	2023年度 1年 2023年5月～8月 受験
生涯スポーツ学部	スポーツ教育学科	167	173	130	135
	健康福祉学科	34	26	30	23
		201	199	160	158
教育文化学部	教育学科	142	144	123	121
	芸術学科	38	35	36	55
	心理カウンセリング学科	57	47	44	49
		237	226	203	225
合計		438	425	363	383

※リテラシーテスト受験時間制限45分のところ解答時間20分未満または、全30問中解答数10問以下の学生については解答姿勢が低かったことが想定されるため、各年度の対象学生生のスコアを除いて集計しております。

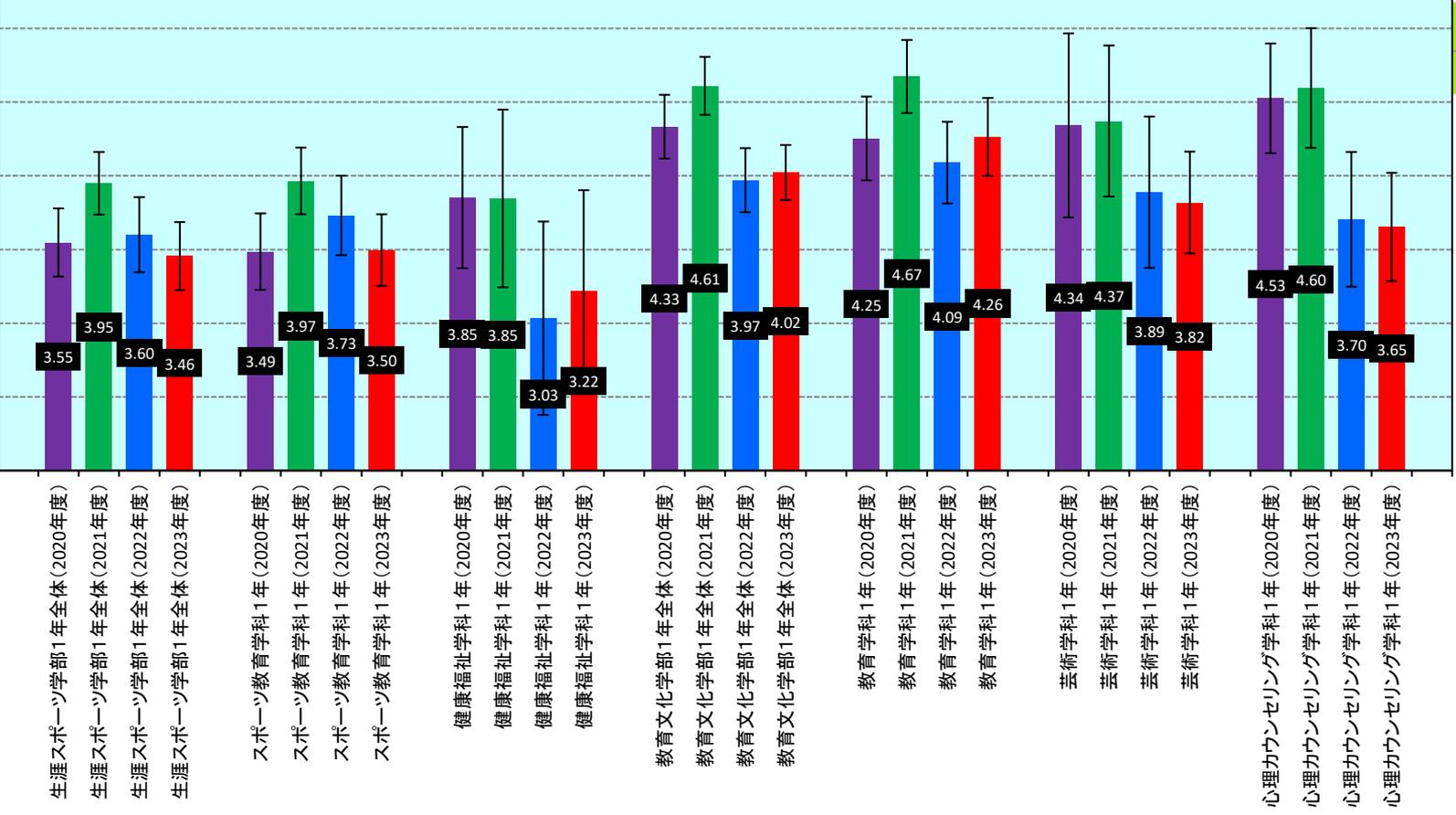
Generic Skills

●健康福祉
●生涯スポ

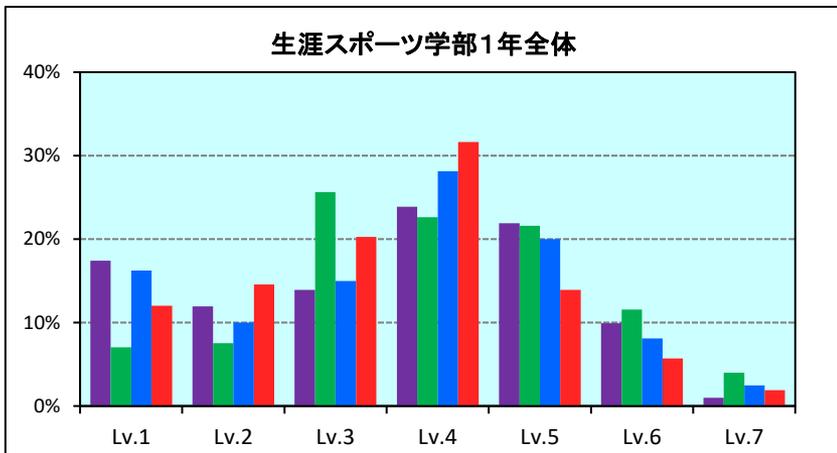
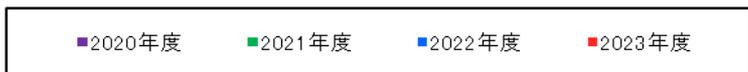
5.0
4.5
4.0
3.5
3.0
2.5
2.0

準科1年
ツ学部

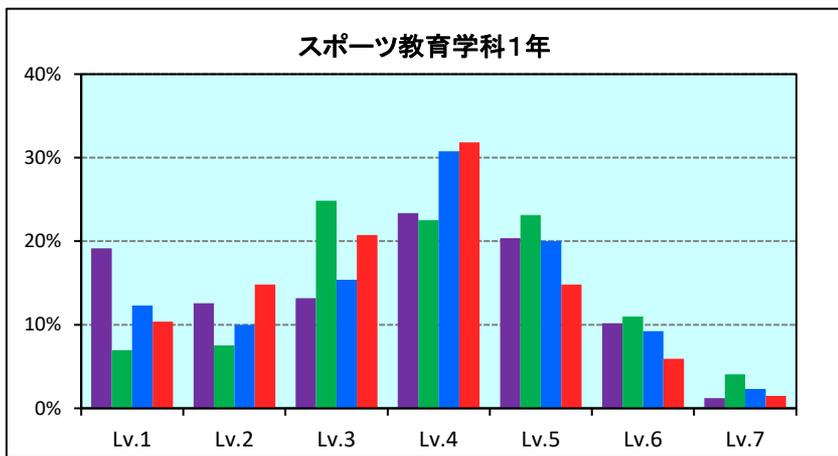
レベル
(7段階)



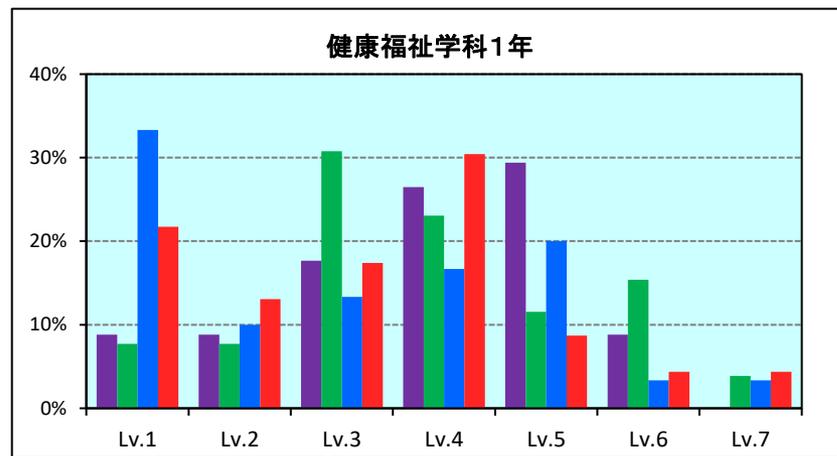
※平均グラフの先端のI状の縦線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。



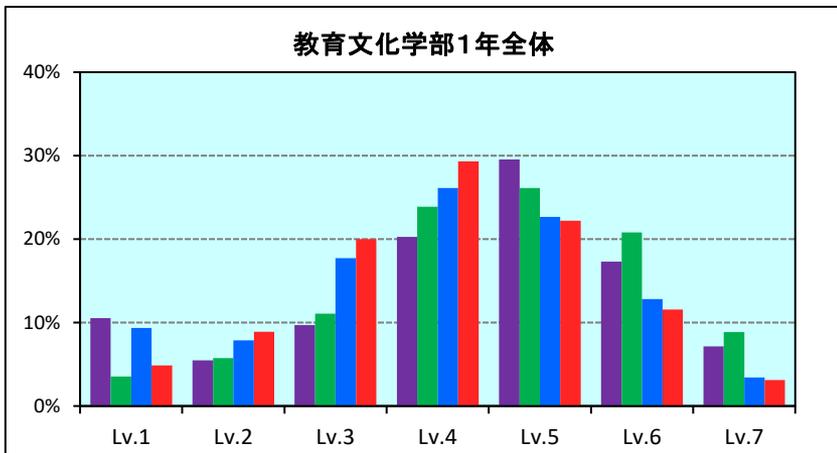
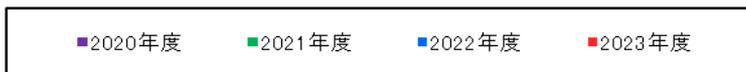
2022年度に比べて、レベル1、レベル5の割合が小さく、レベル2～4のボリュームが大きい。



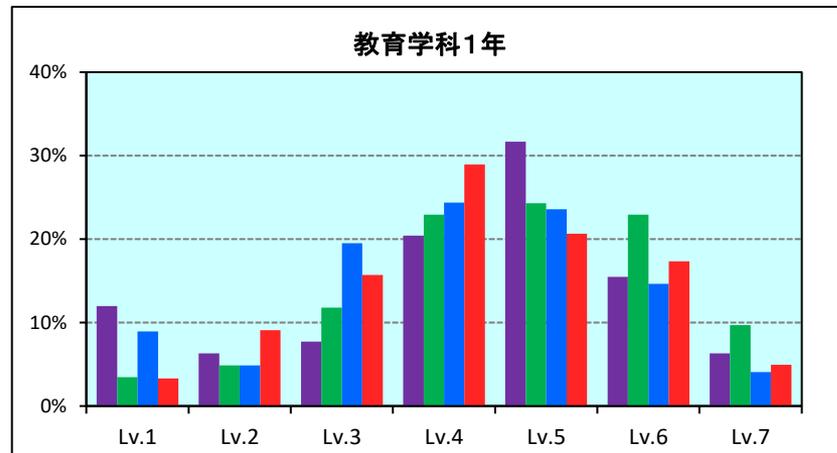
2022年度に比べて、レベル5～6のボリュームが小さく、レベル2～3のボリュームが大きい。



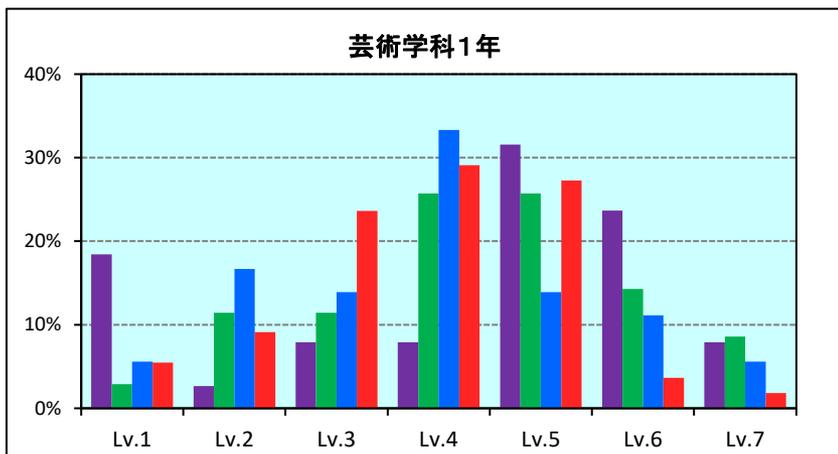
2022年度に比べて、レベル1、レベル5の割合が小さく、レベル2～4のボリュームが大きい。



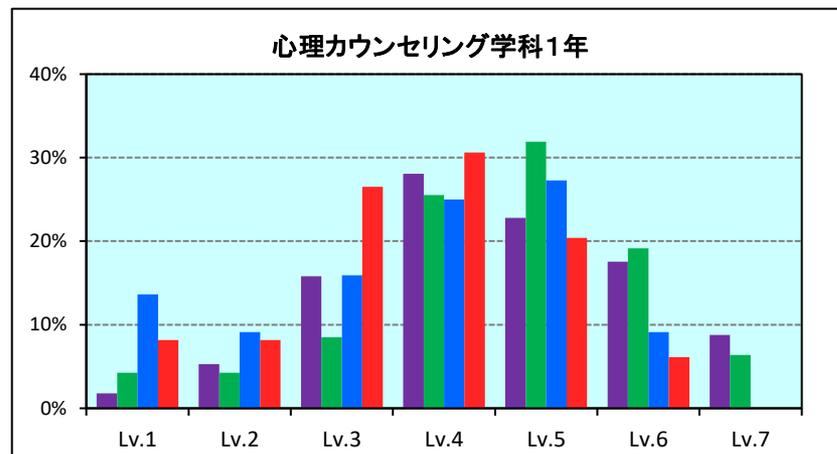
2022年度に比べて、レベル1の割合が小さく、レベル4の割合が大きい。



2022年度に比べて、レベル1、レベル3の割合が小さく、レベル2、レベル4の割合が大きい。



2022年度に比べて、レベル2、レベル4、レベル6～7のボリュームが小さく、レベル3、レベル5の割合が大きい。



2022年度に比べて、レベル1、レベル5の割合が小さく、レベル3～4のボリュームが大きい。

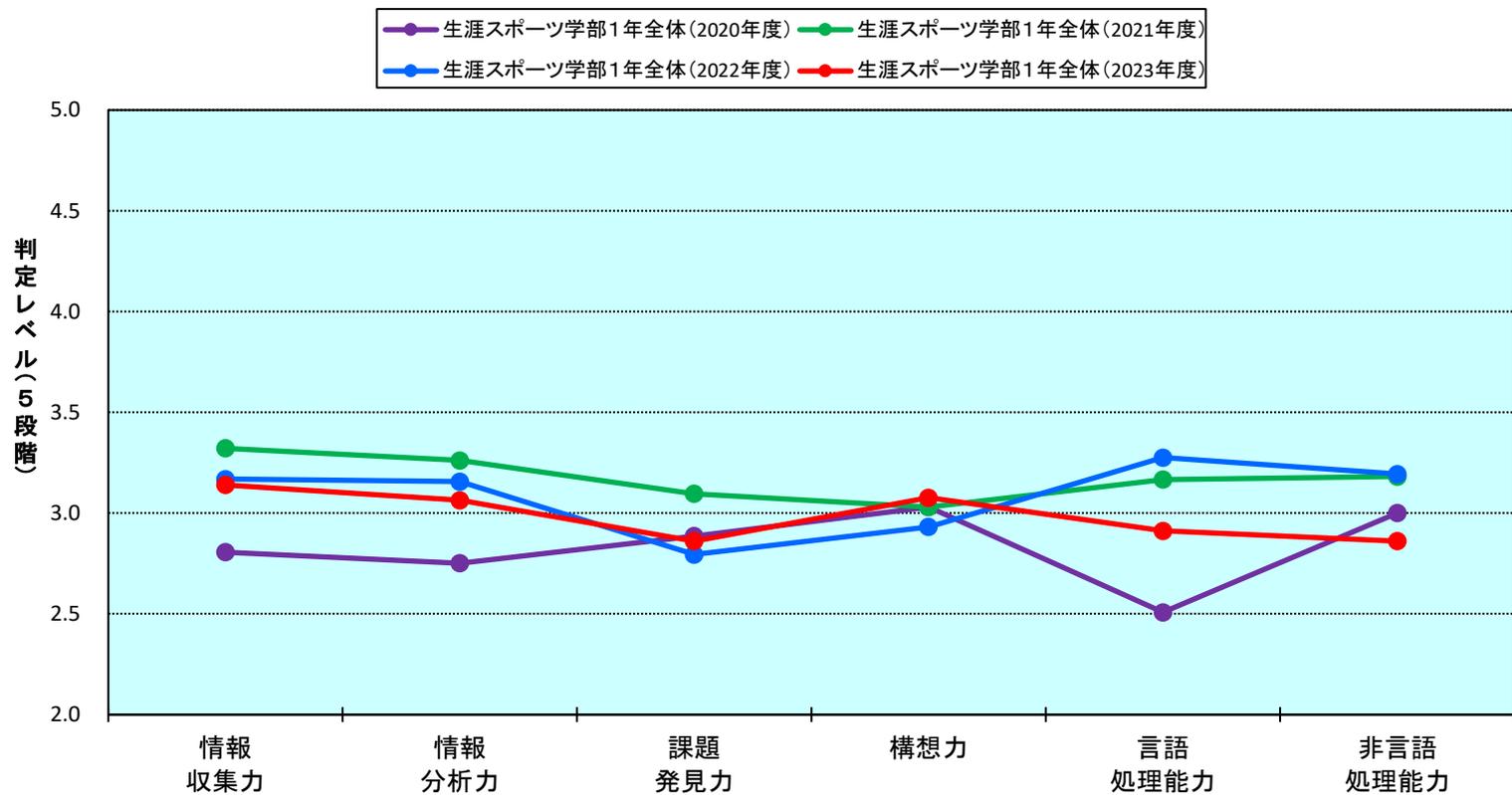
リテラシー要素（過去の受験者との比較）①

【生涯スポーツ学部1年全体】

課題発見力、構想力は、2022年度のスコアを上回る。

一方、情報収集力、情報分析力、言語処理能力、非言語処理能力は、2022年度のスコアを下回る。

リテラシー要素



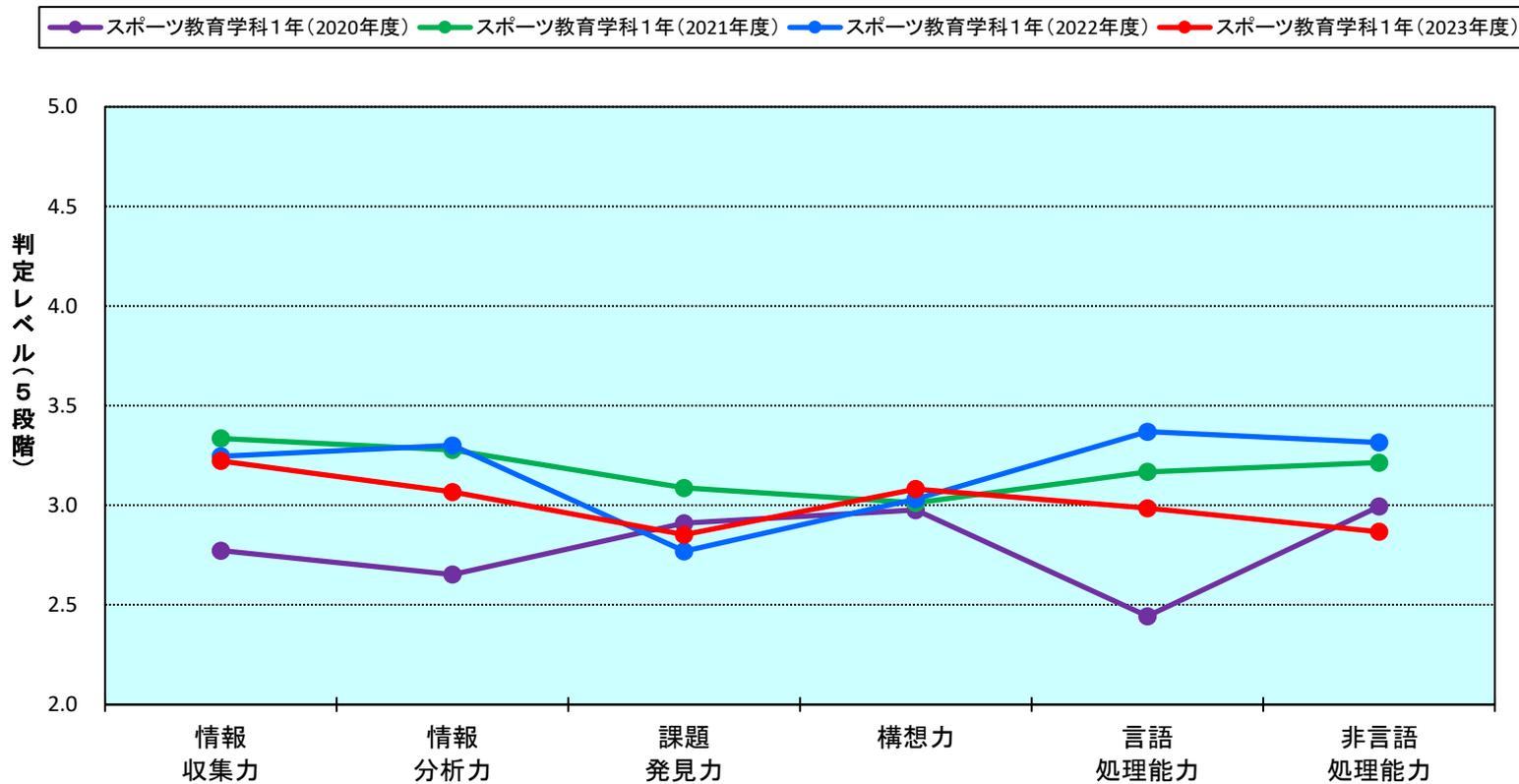
リテラシー要素（過去の受験者との比較）②

【スポーツ教育学科1年】

課題発見力、構想力は、2022年度のスコアを上回る。

一方、情報収集力、情報分析力、言語処理能力、非言語処理能力は、2022年度のスコアを下回る。

リテラシー要素

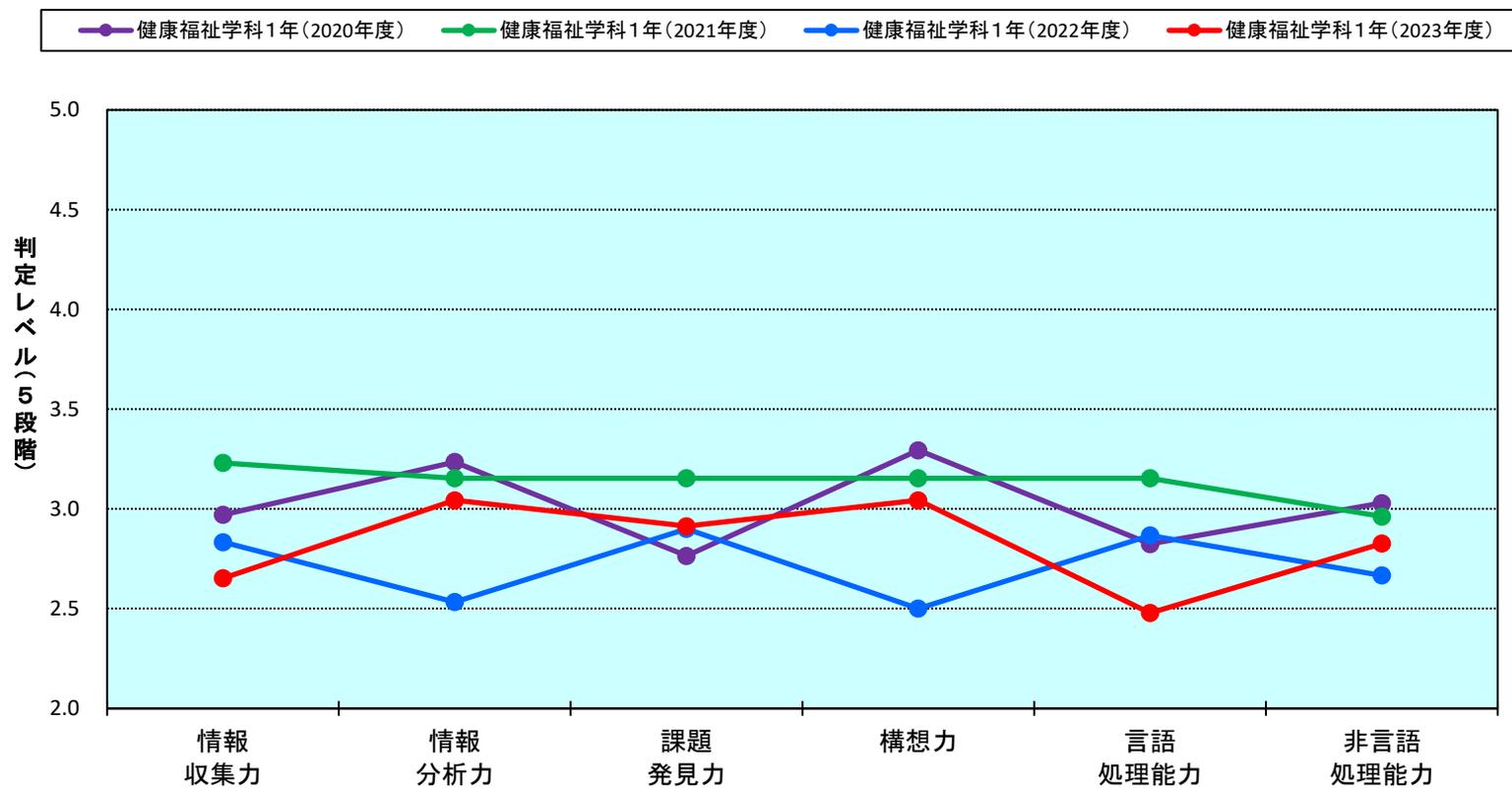


リテラシー要素（過去の受験者との比較）③

【健康福祉学科1年】

情報分析力、課題発見力、構想力、非言語処理能力は、2022年度のスコアを上回る。
一方、情報収集力、言語処理能力は、2022年度のスコアを下回る。

リテラシー要素

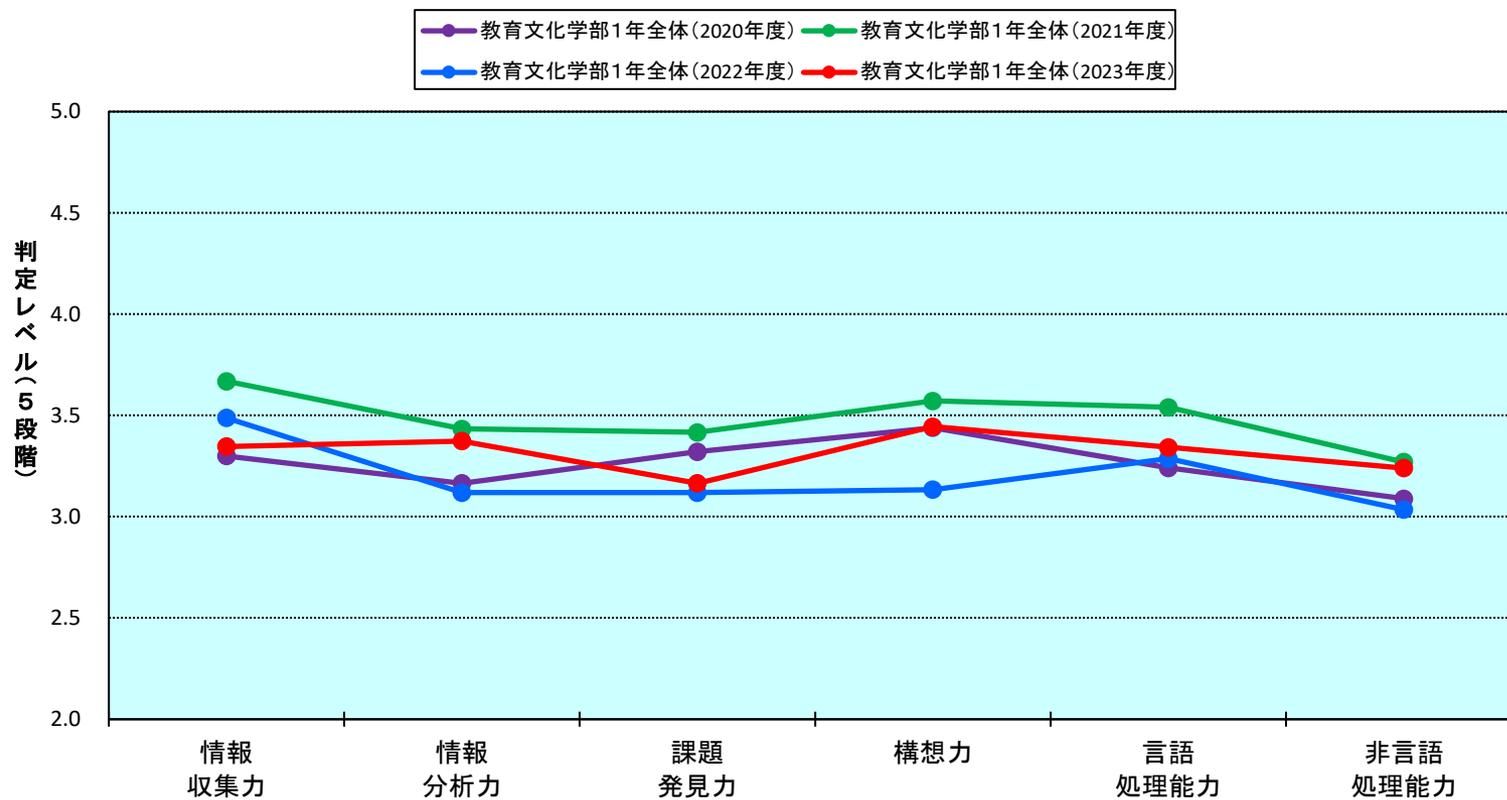


リテラシー要素（過去の受験者との比較）④

【教育文化学部1年全体】

情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、2022年度のスコアを上回る。
一方、情報収集力は、2022年度のスコアを下回る。

リテラシー要素

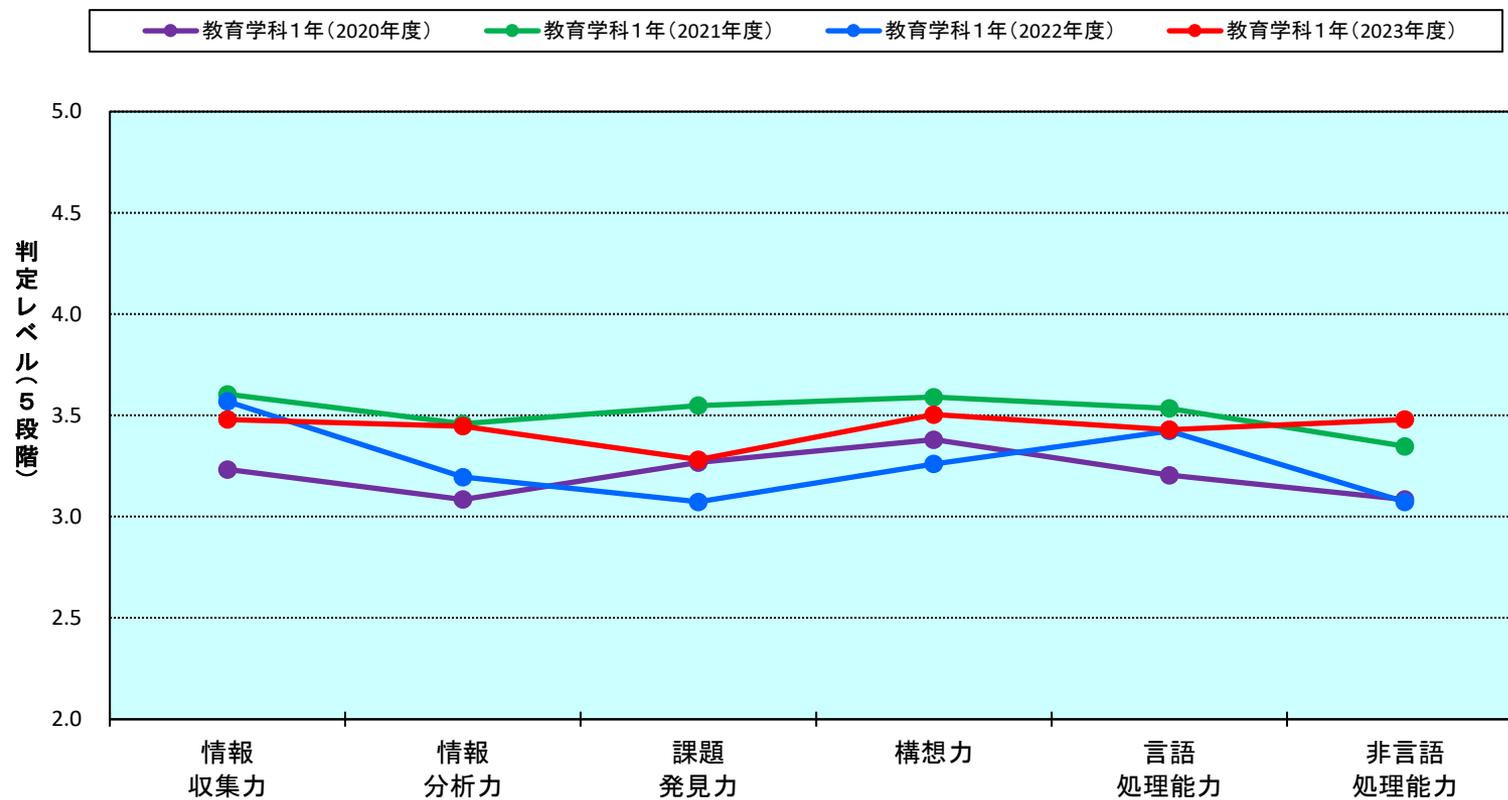


リテラシー要素（過去の受験者との比較）⑤

【教育学科1年】

情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、2022年度のスコアを上回る。
一方、情報収集力は、2022年度のスコアを下回る。

リテラシー要素

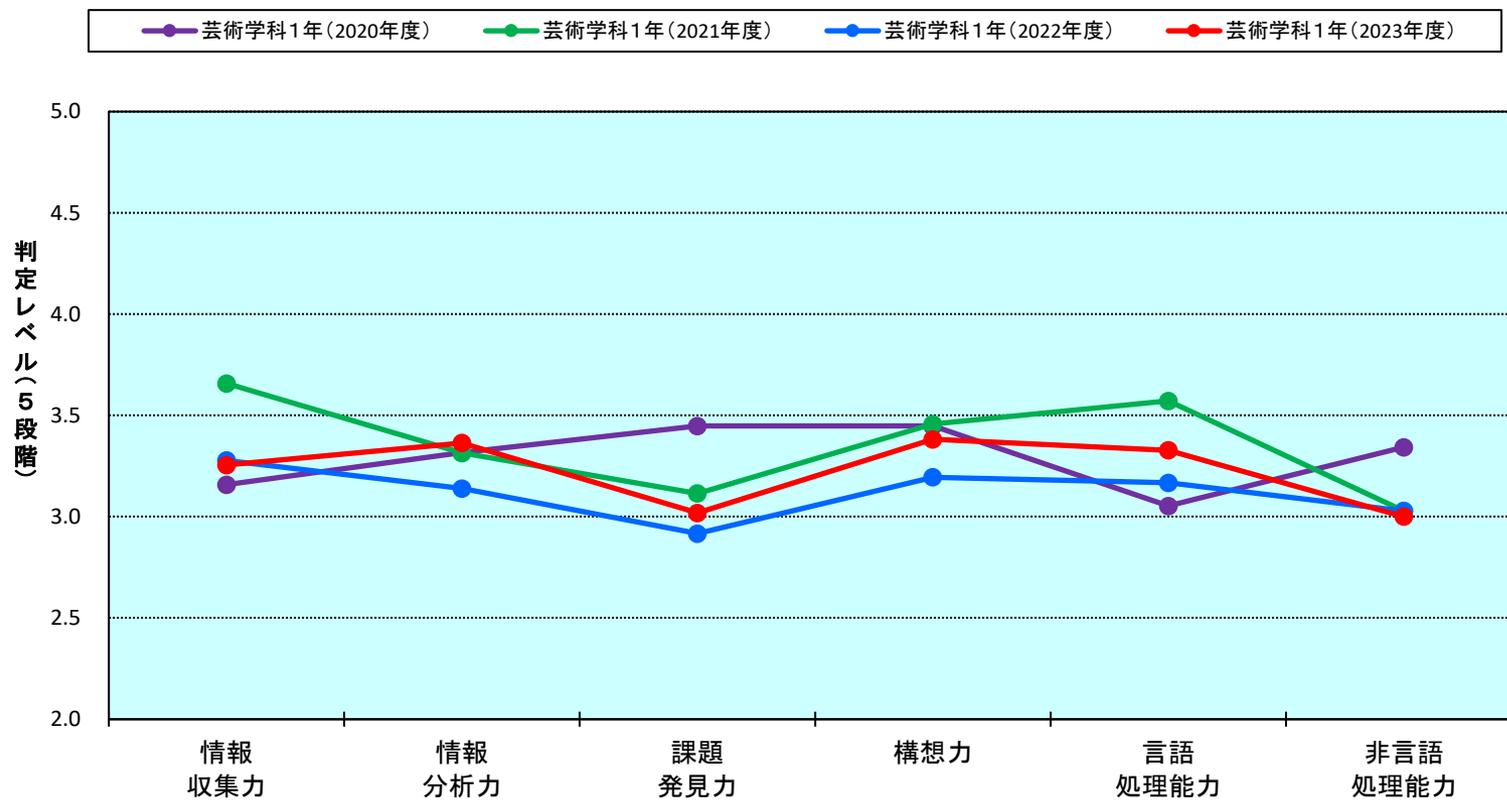


リテラシー要素（過去の受験者との比較）⑥

【芸術学科1年】

情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力は、2022年度のスコアを上回る。
一方、情報収集力、非言語処理能力は、2022年度のスコアを下回る。

リテラシー要素

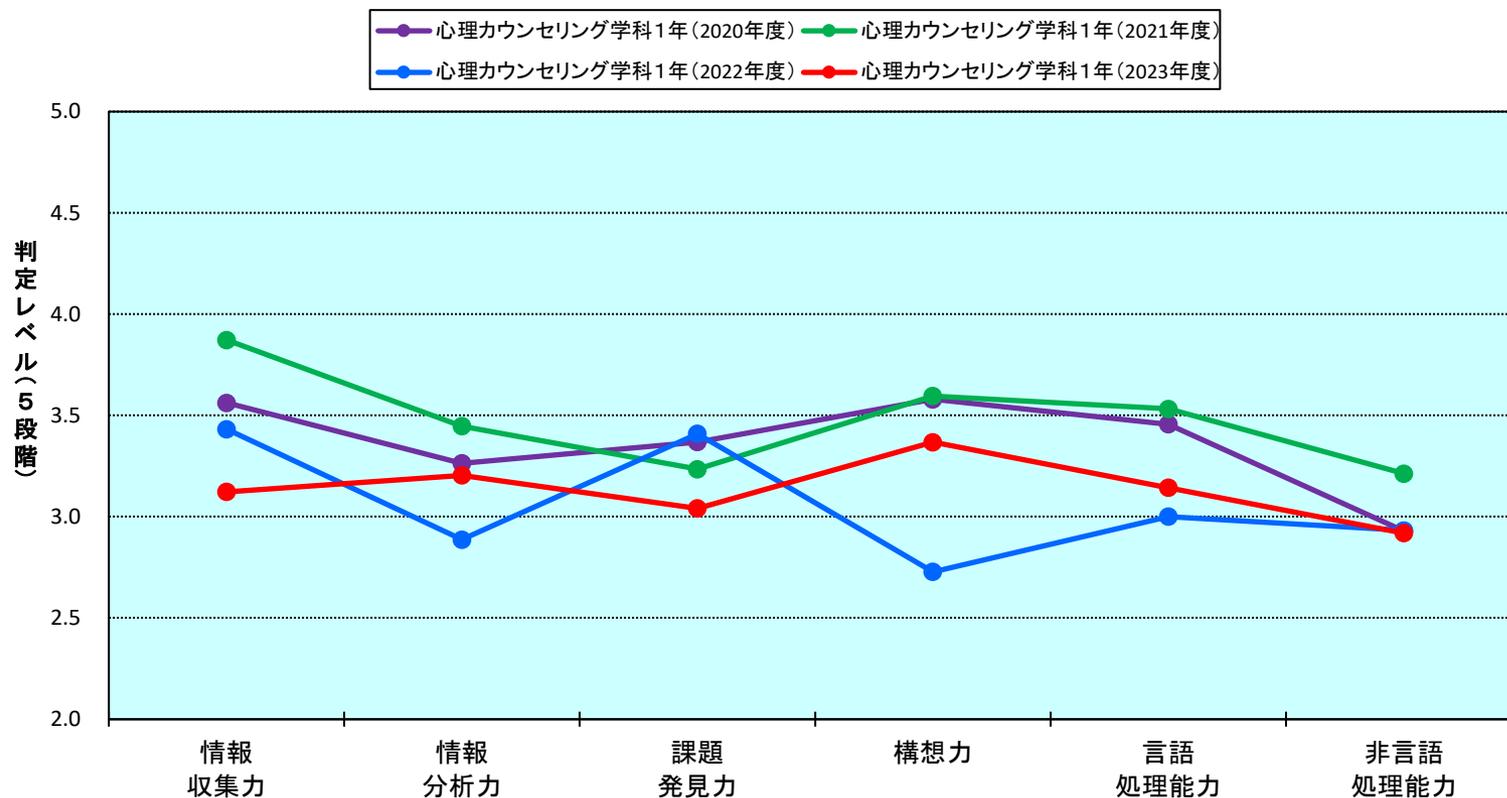


【心理カウンセリング学科1年】

情報分析力、構想力、言語処理能力は、2022年度のスコアを上回る。

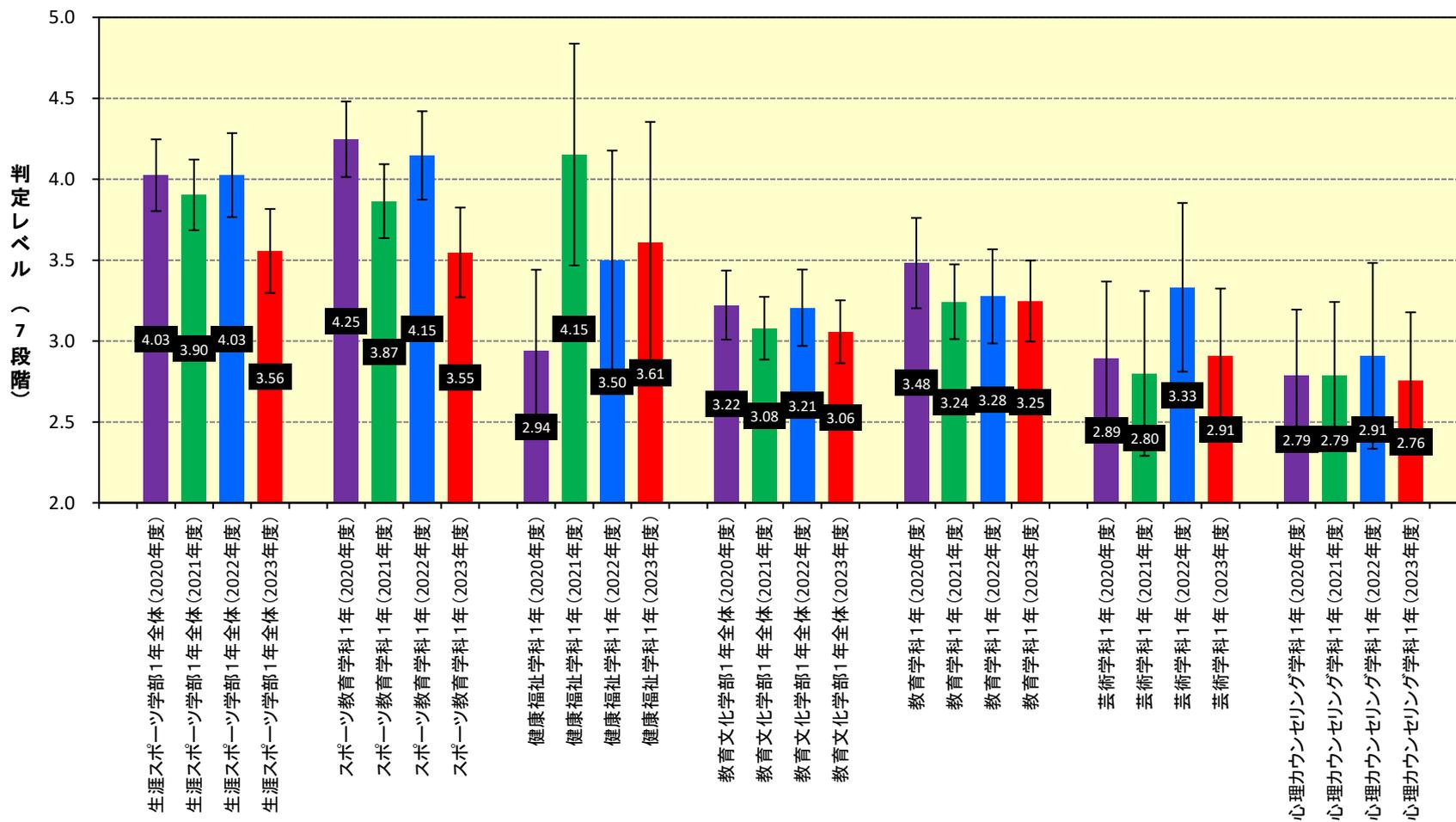
一方、情報収集力、課題発見力、非言語処理能力は、2022年度のスコアを下回る。

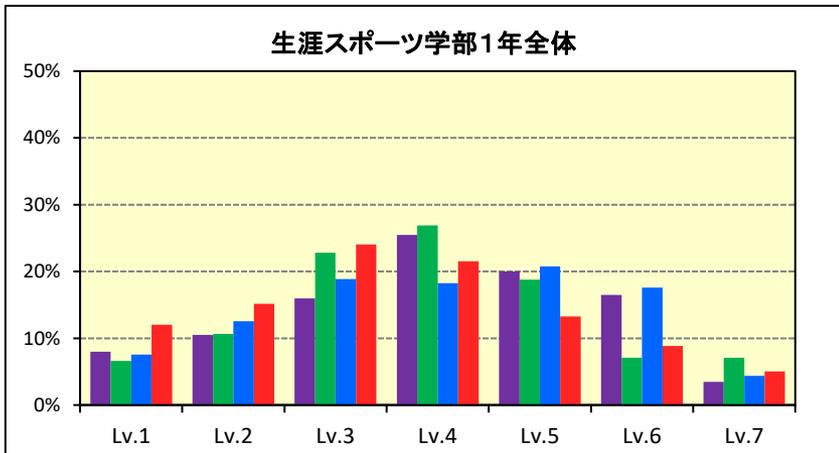
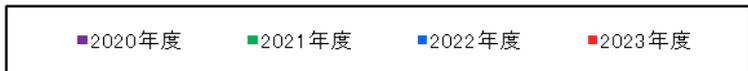
リテラシー要素



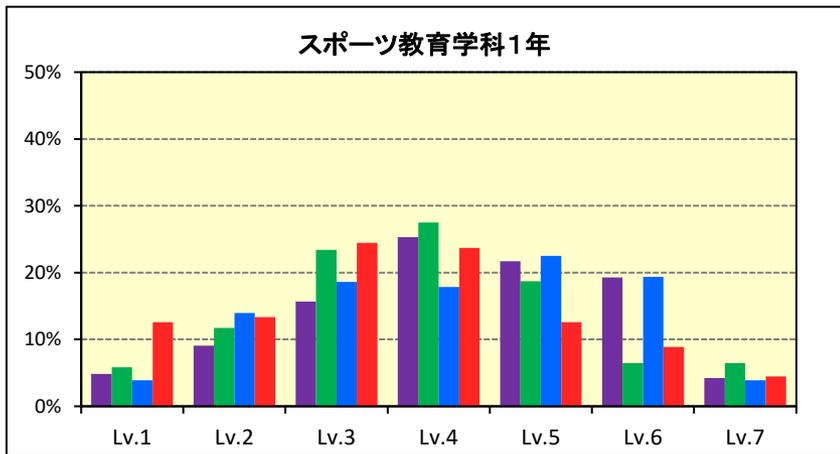
- 健康福祉学科1年は、2022年度のスコアを上回る。
- 生涯スポーツ学部1年全体、スポーツ教育学科1年、教育文化学部1年全体、教育学科1年、芸術学科1年、心理カウンセリング学科1年は、2022年度のスコアを下回る。

コンピテンシー総合

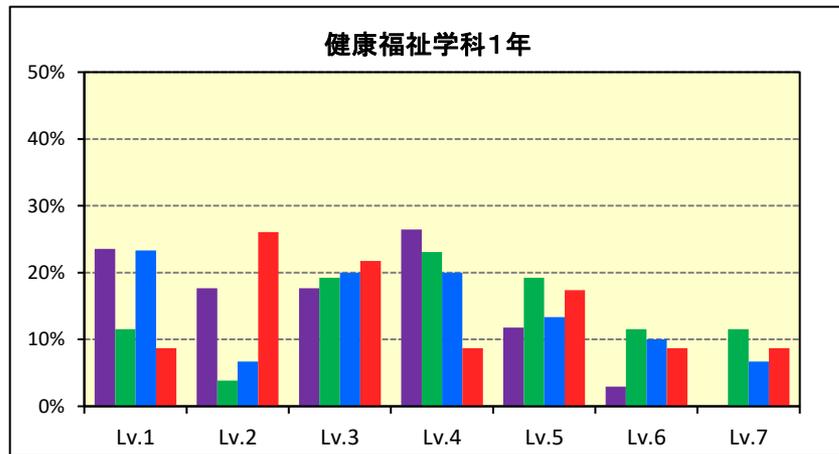




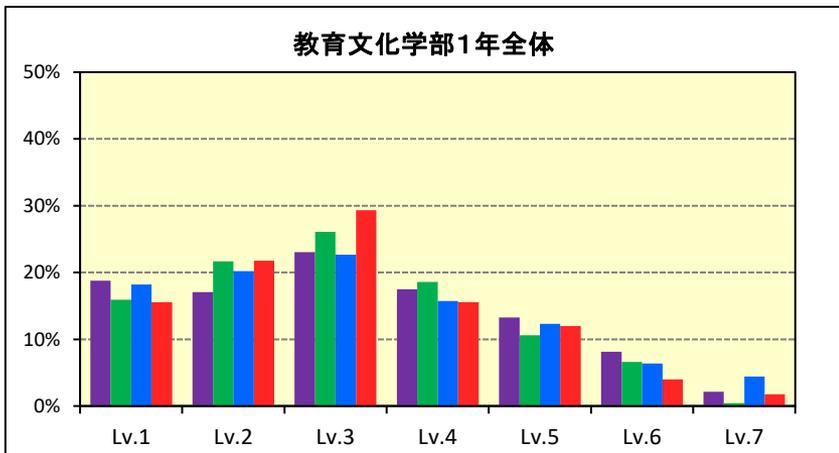
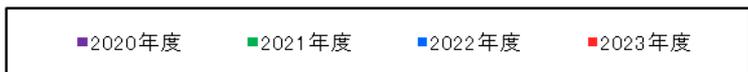
2022年度に比べて、レベル5～6のボリュームが小さく、レベル1、レベル3～4のボリュームが大きい。



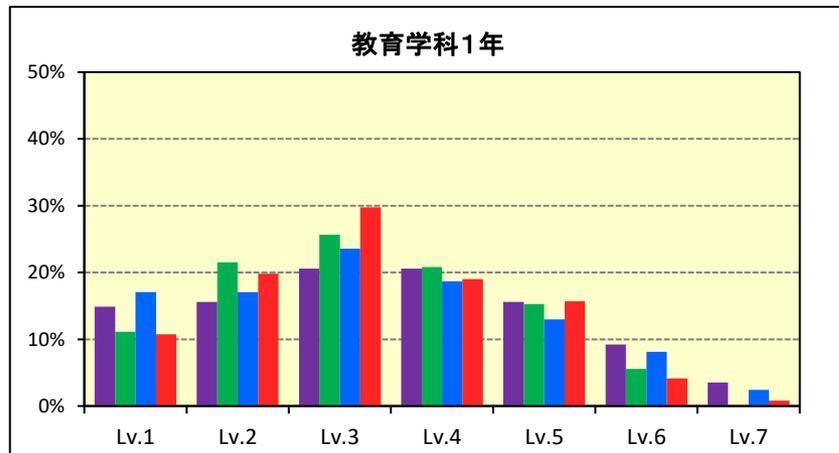
2022年度に比べて、レベル5～6のボリュームが小さく、レベル1、レベル3～4のボリュームが大きい。



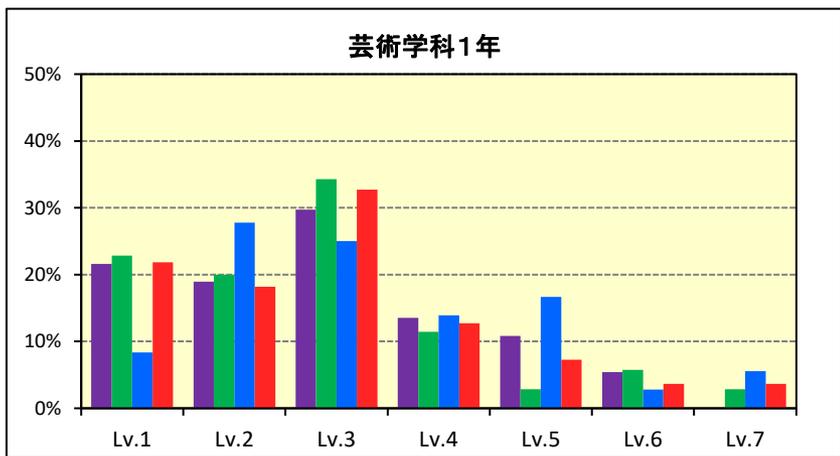
2022年度に比べて、レベル1、レベル4の割合が小さく、レベル2、レベル5の割合が大きい。



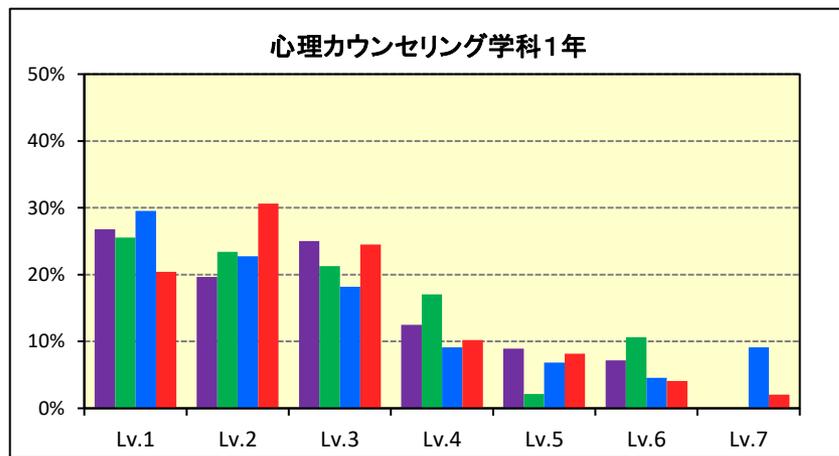
2022年度に比べて、レベル3の割合が大きい。



2022年度に比べて、レベル1、レベル6の割合が小さく、レベル3の割合が大きい。



2022年度に比べて、レベル2、レベル5の割合が小さく、レベル1、レベル3の割合が大きい。



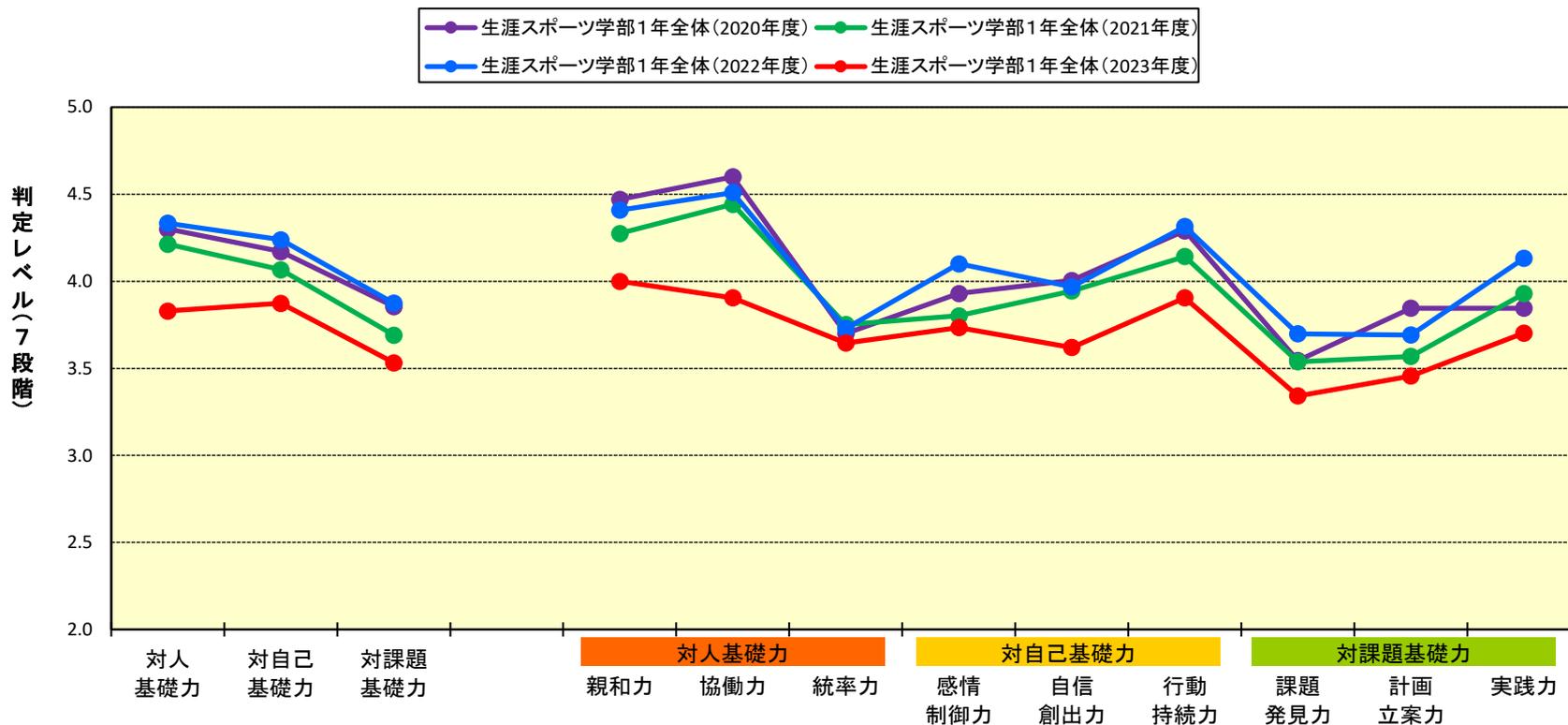
2022年度に比べて、レベル1、レベル7の割合が小さく、レベル2～3のボリュームが大きい。

コンピテンシー大分類要素（過去の受験者との比較）①

【生涯スポーツ学部1年全体】

親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2022年度のスコアを下回る。

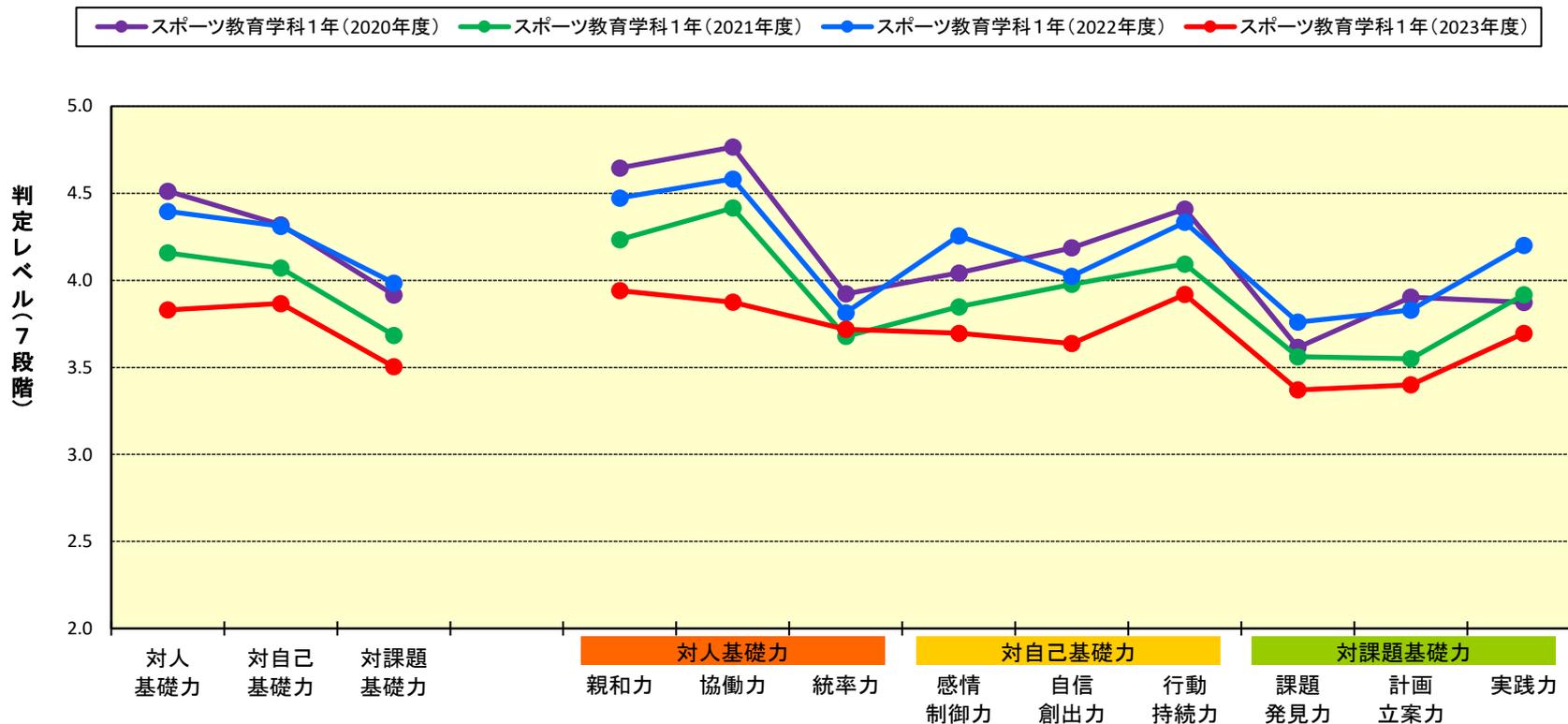
コンピテンシー要素の伸長



【スポーツ教育学科1年】

親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2022年度のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長

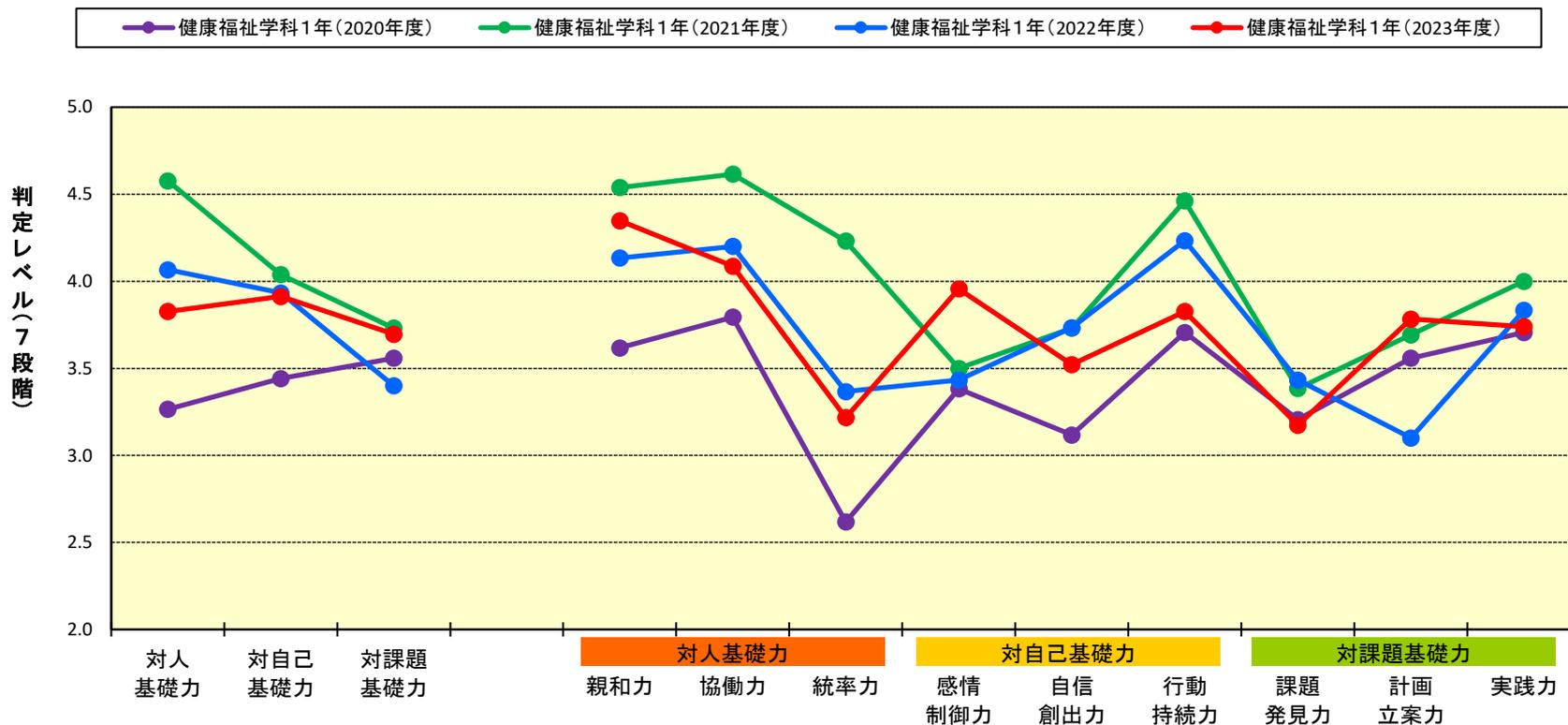


【健康福祉学科1年】

親和力、感情制御力、計画立案力は、2022年度のスコアを上回る。

一方、協働力、統率力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、実践力は、2022年度のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長

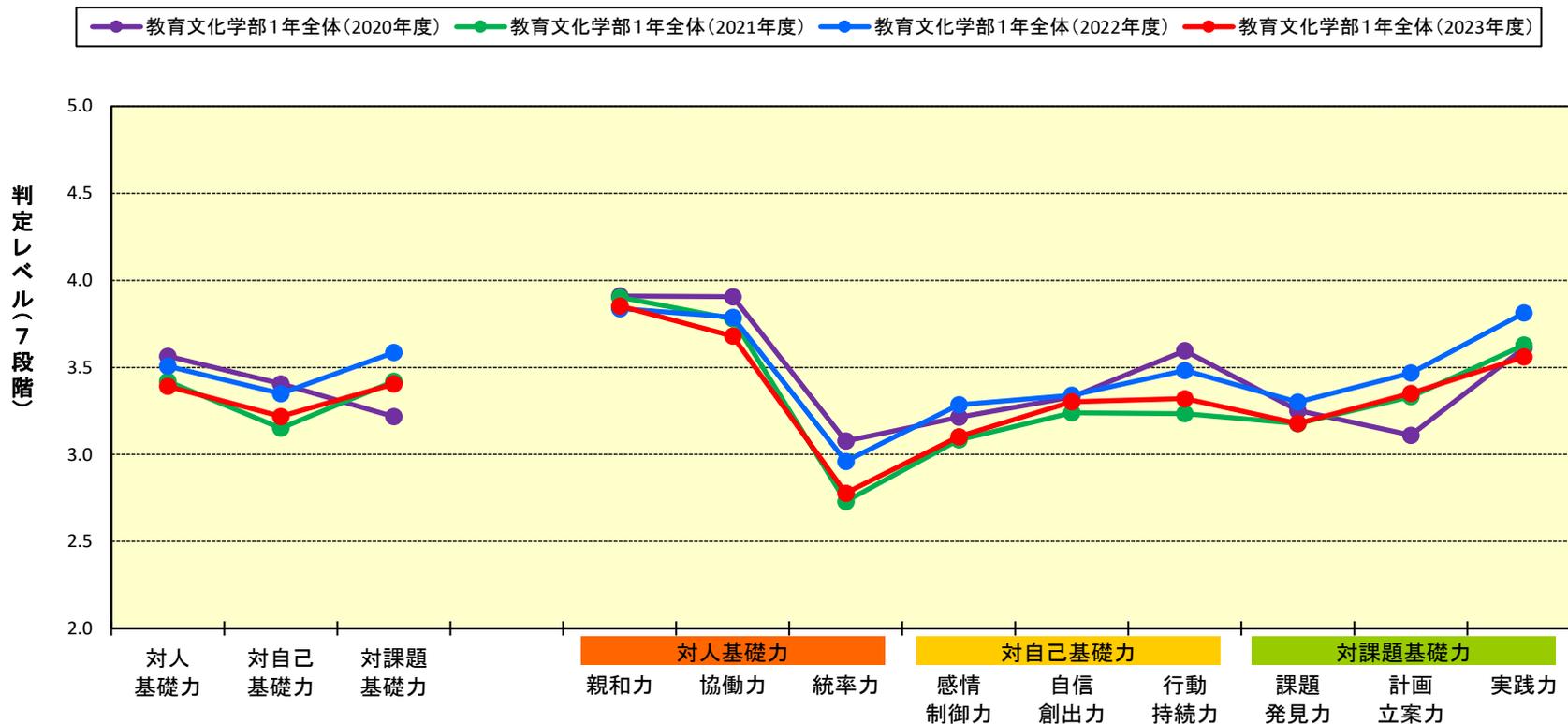


【教育文化学部1年全体】

親和力は、2022年度のスコアを上回る。

一方、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2022年度のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長



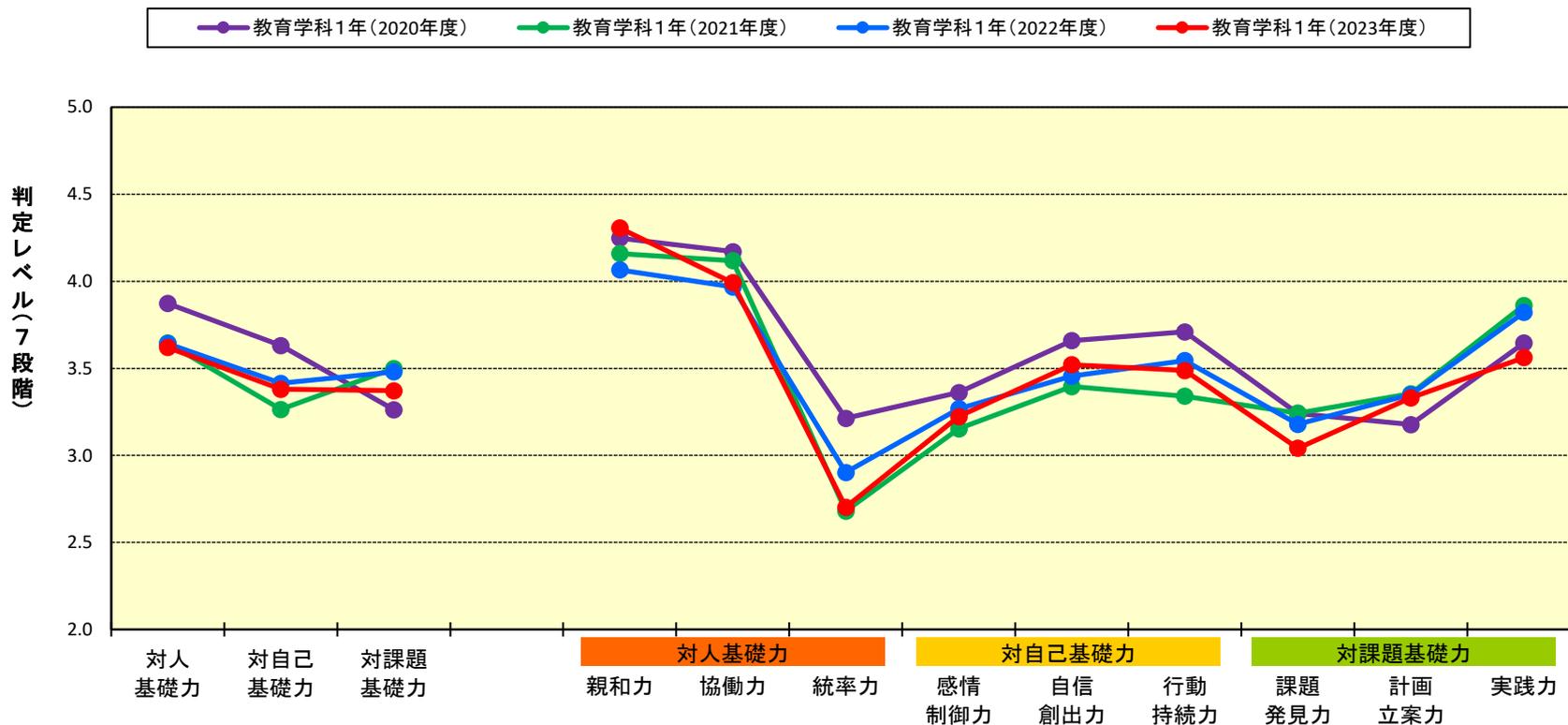
コンピテンシー大分類要素（過去の受験者との比較）⑤

【教育学科1年】

親和力、協働力、自信創出力は、2022年度のスコアを上回る。

一方、統率力、感情制御力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2022年度のスコアを下回る。

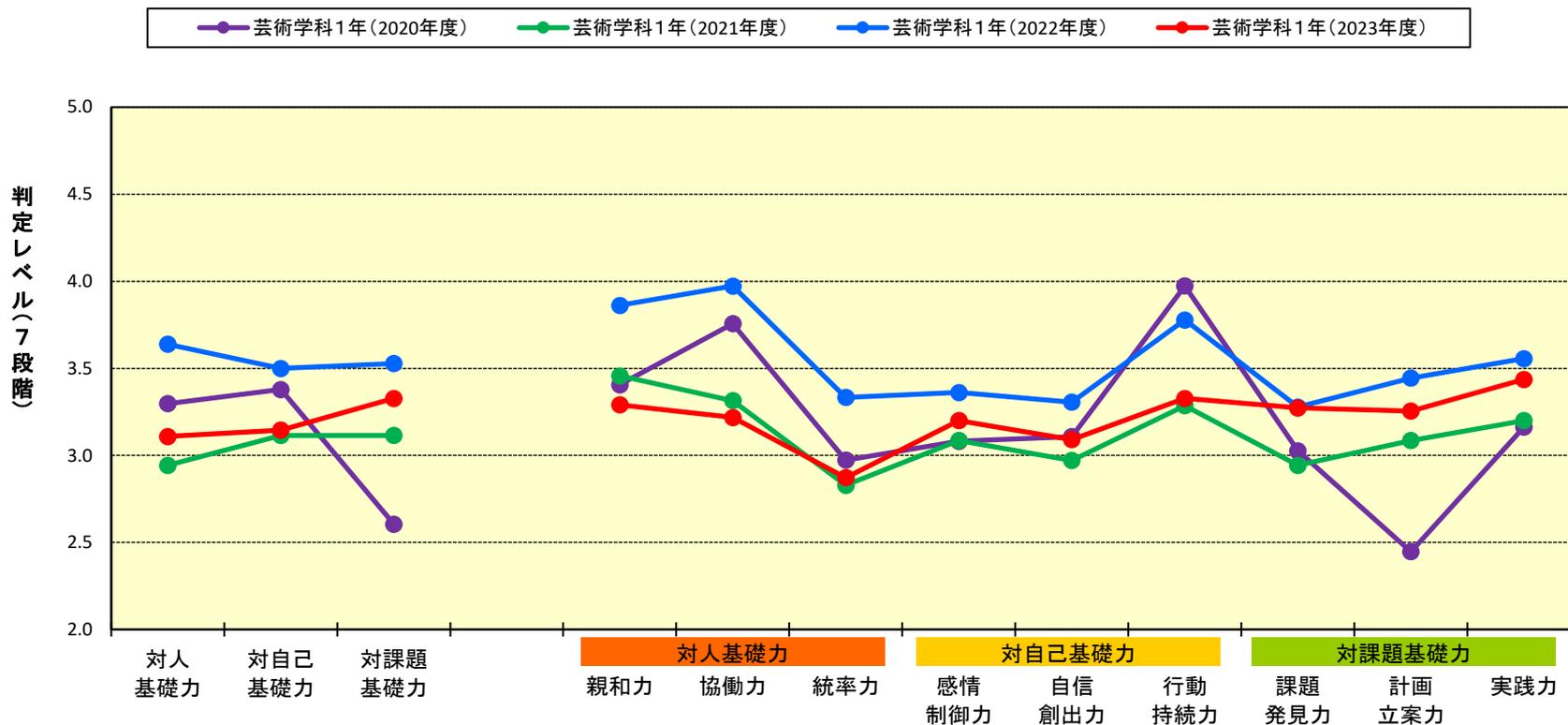
コンピテンシー要素の伸長



【芸術学科1年】

親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2022年度のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長

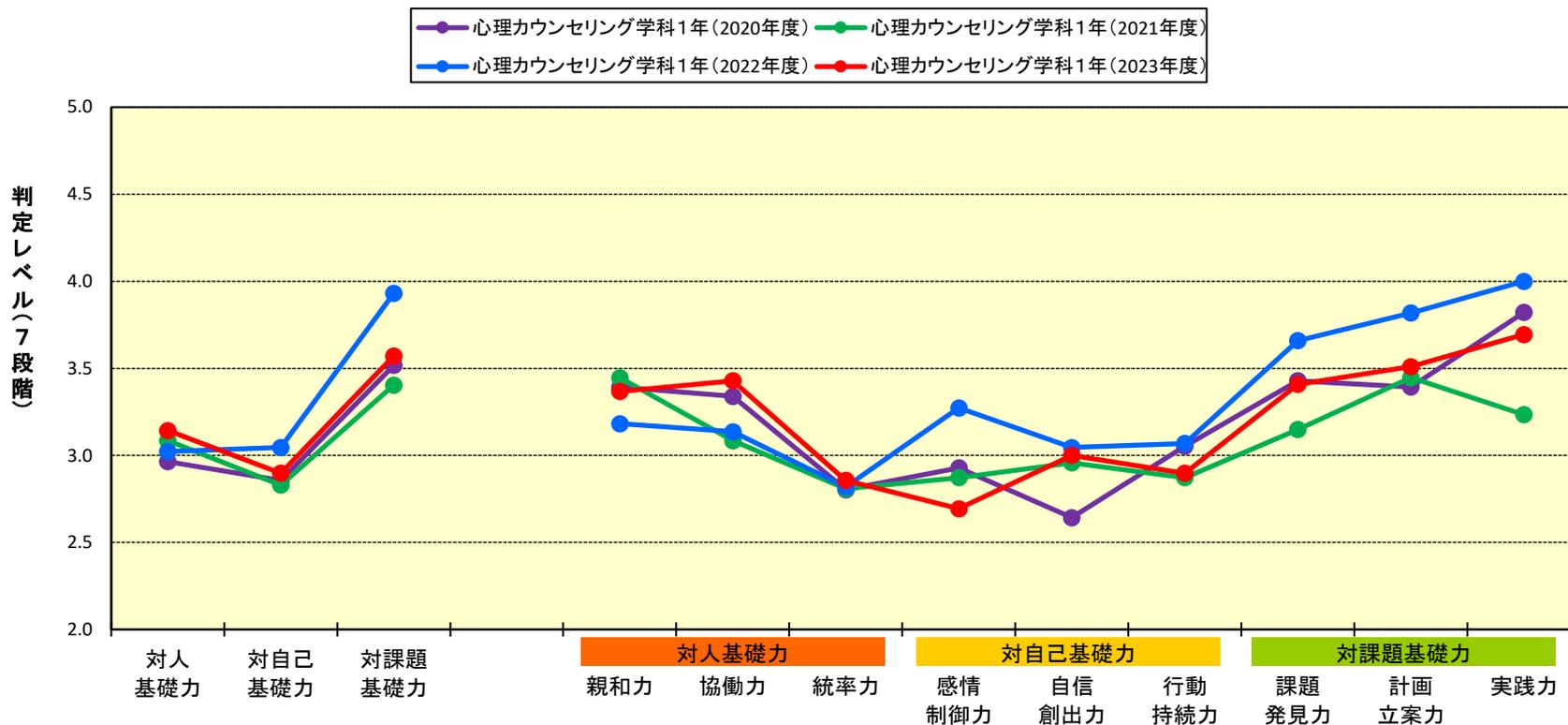


【心理カウンセリング学科1年】

親和力、協働力、統率力は、2022年度のスコアを上回る。

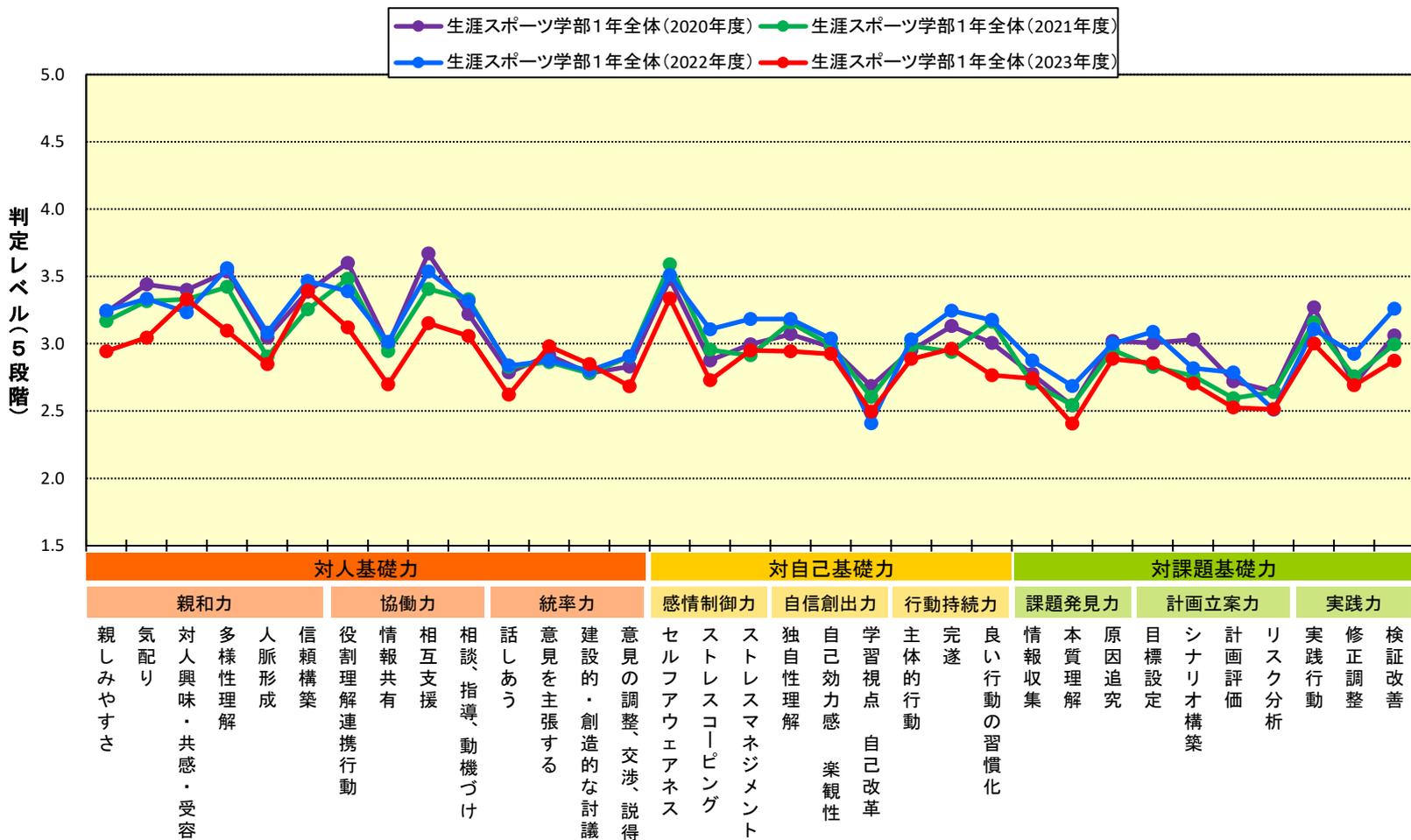
一方、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2022年度のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長



【生涯スポーツ学部1年全体】

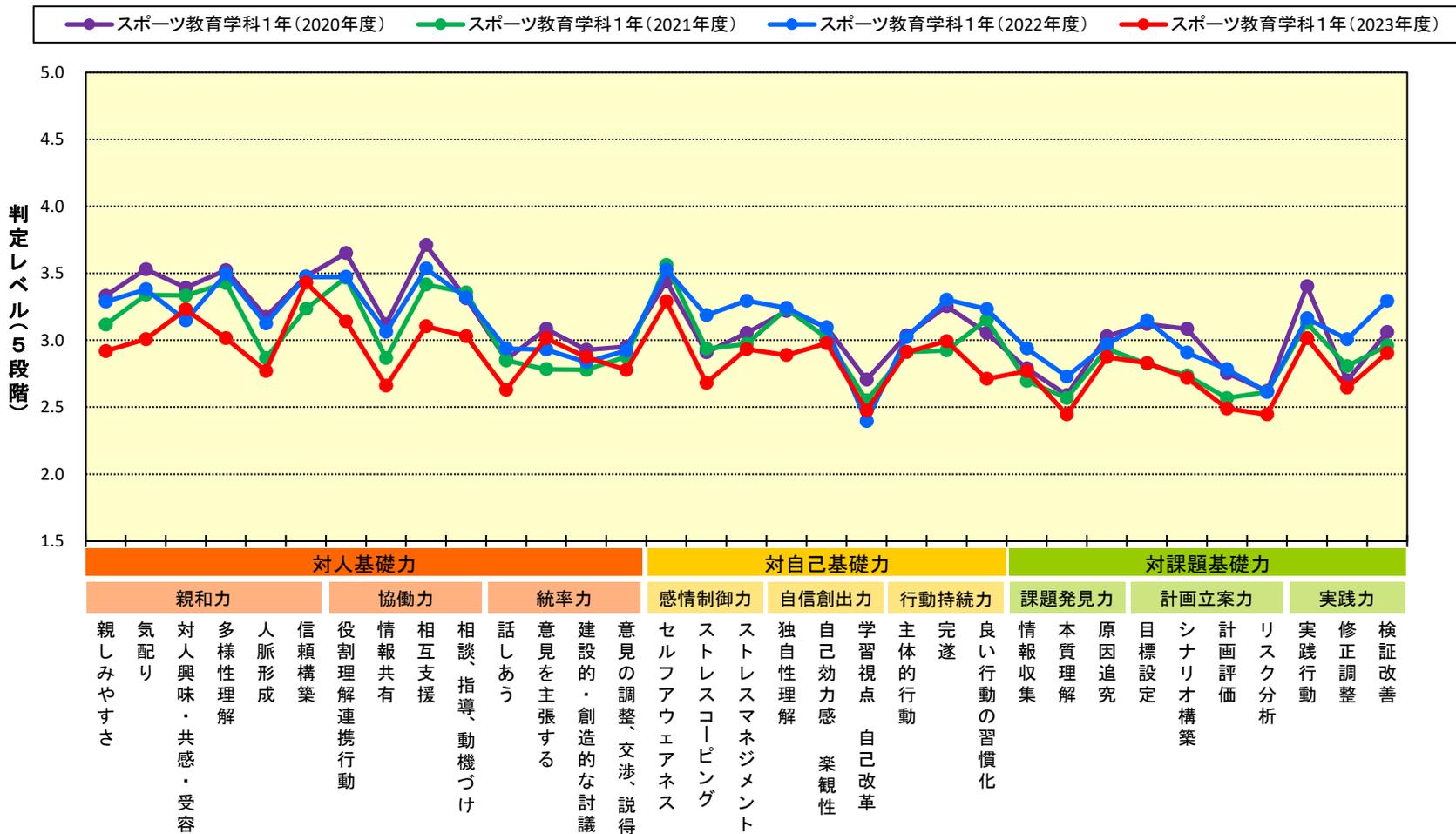
コンピテンシー小分類要素



コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）②

【スポーツ教育学科1年】

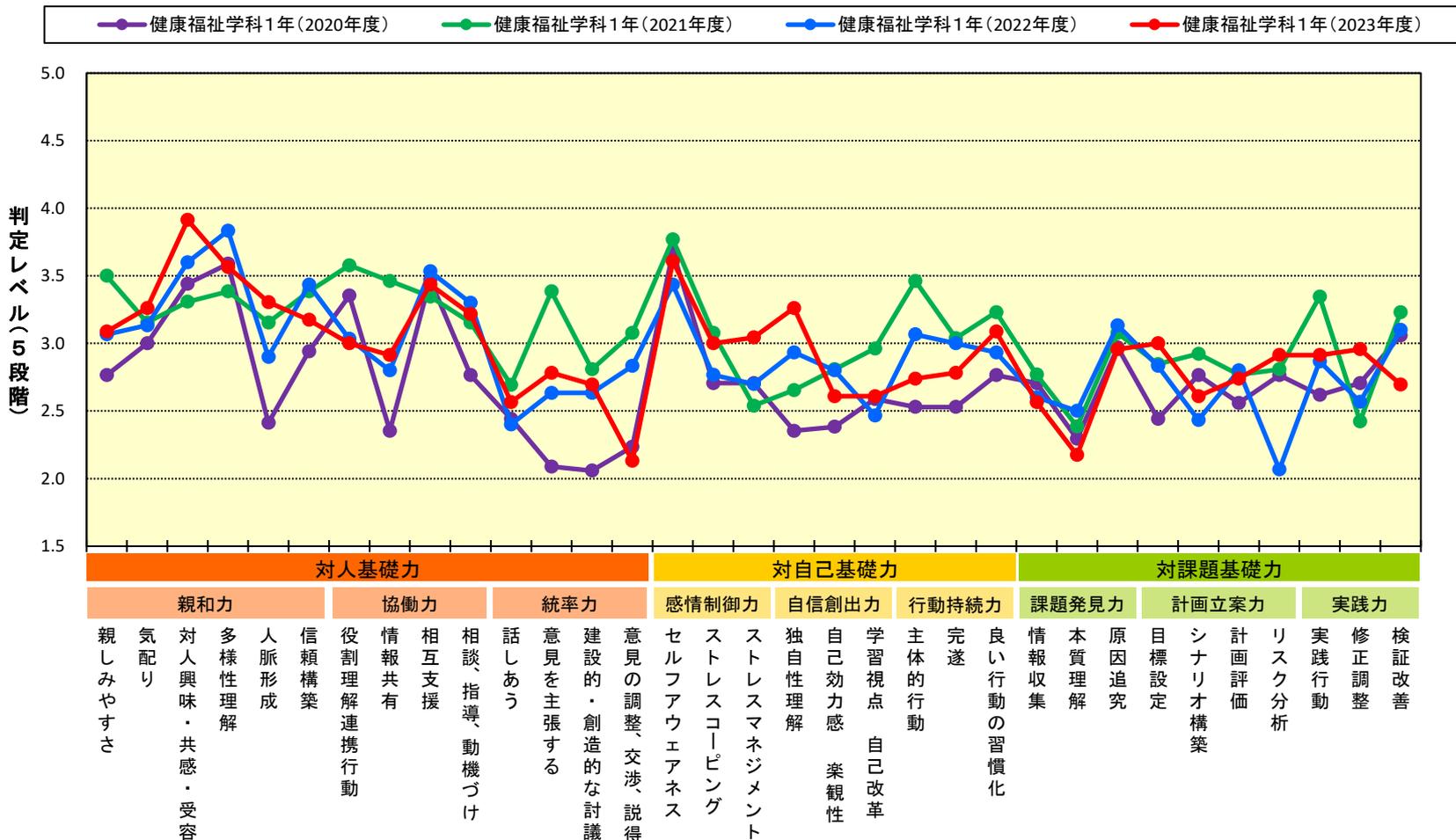
コンピテンシー小分類要素



コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較） ③

【健康福祉学科1年】

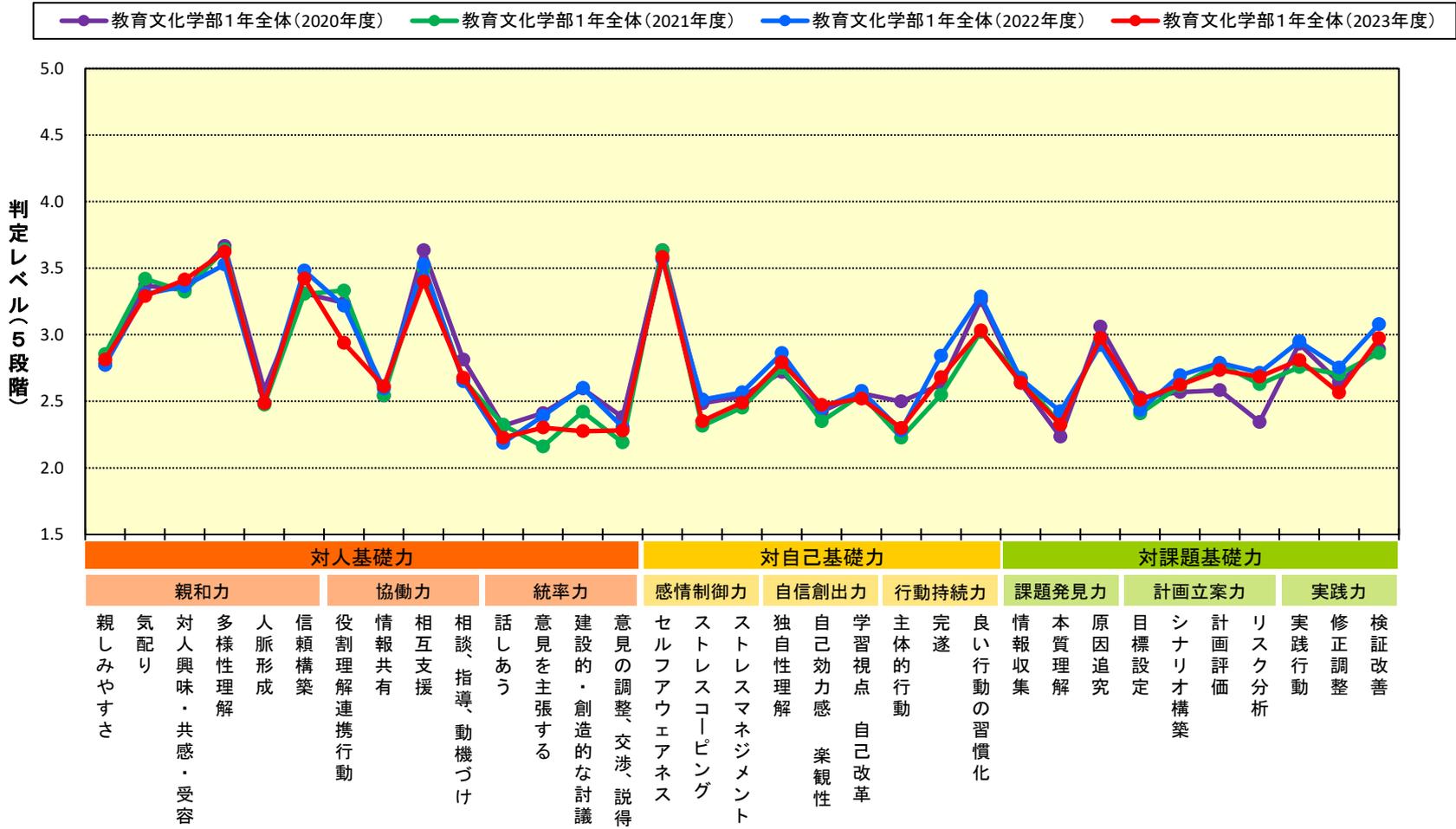
コンピテンシー小分類要素



コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）④

【教育文化学部1年全体】

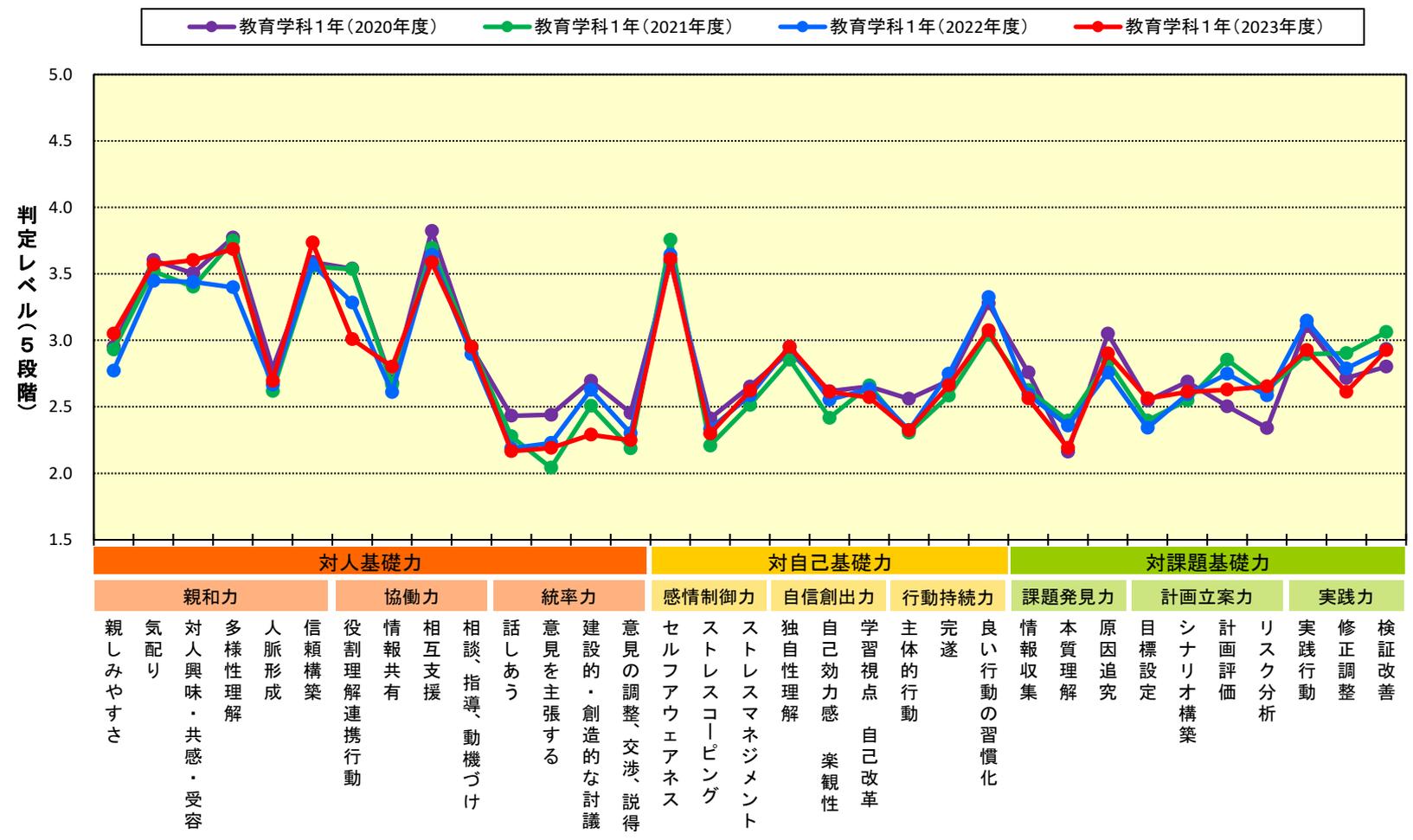
コンピテンシー小分類要素



コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）⑤

【教育学科1年】

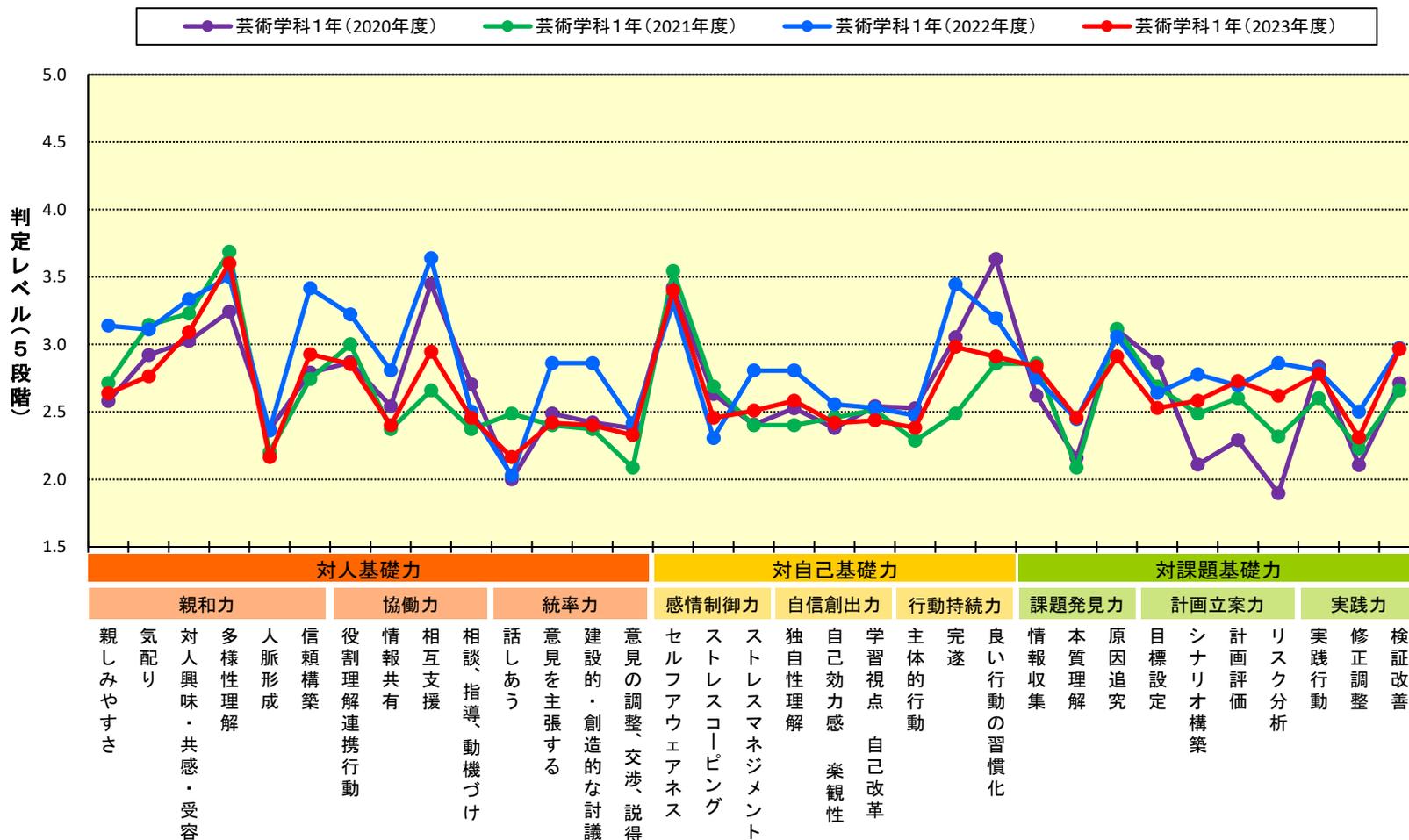
コンピテンシー小分類要素



コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）⑥

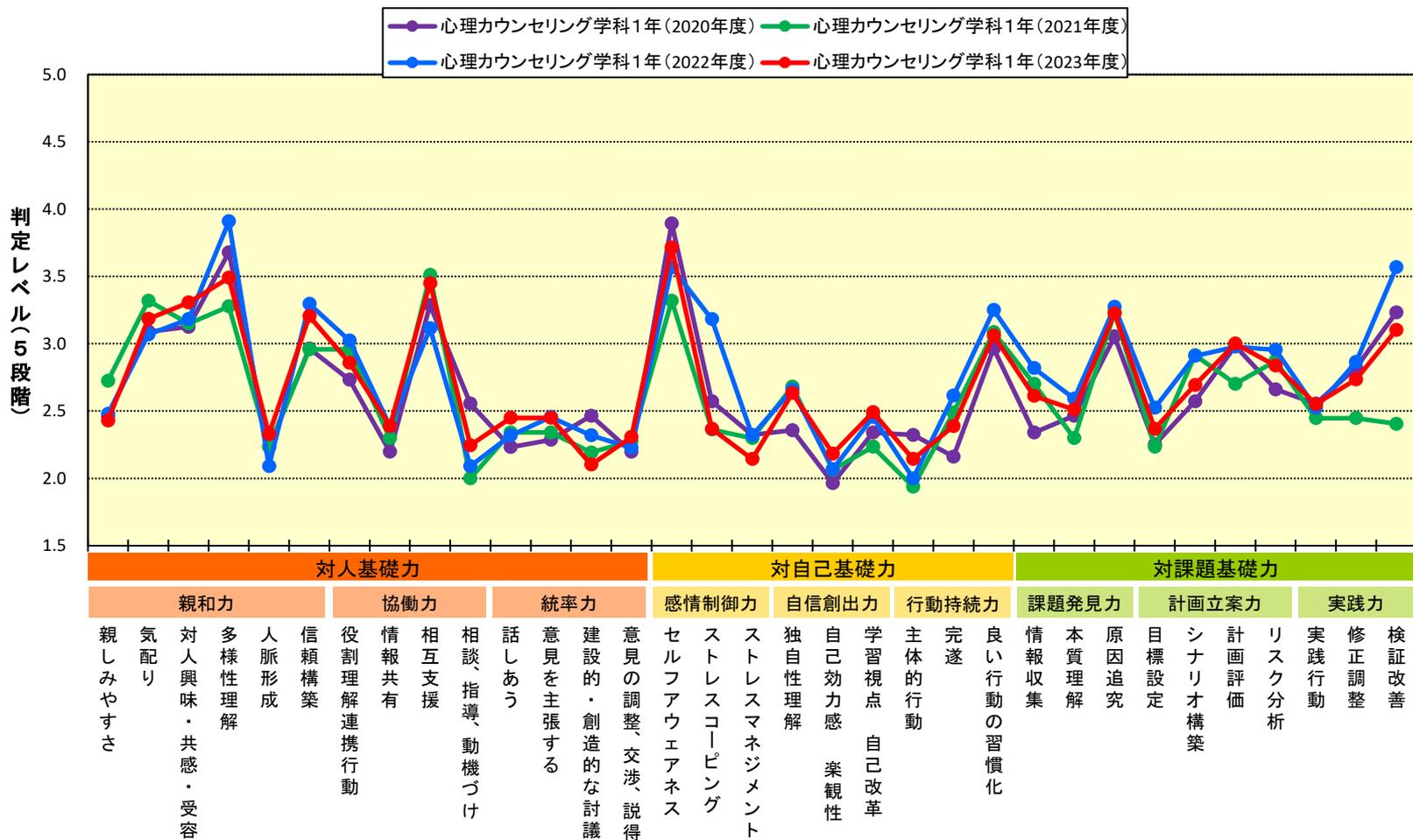
【芸術学科1年】

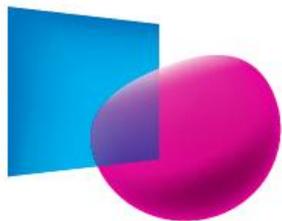
コンピテンシー小分類要素



【心理カウンセリング学科1年】

コンピテンシー小分類要素





PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.7

過去の3年生との比較

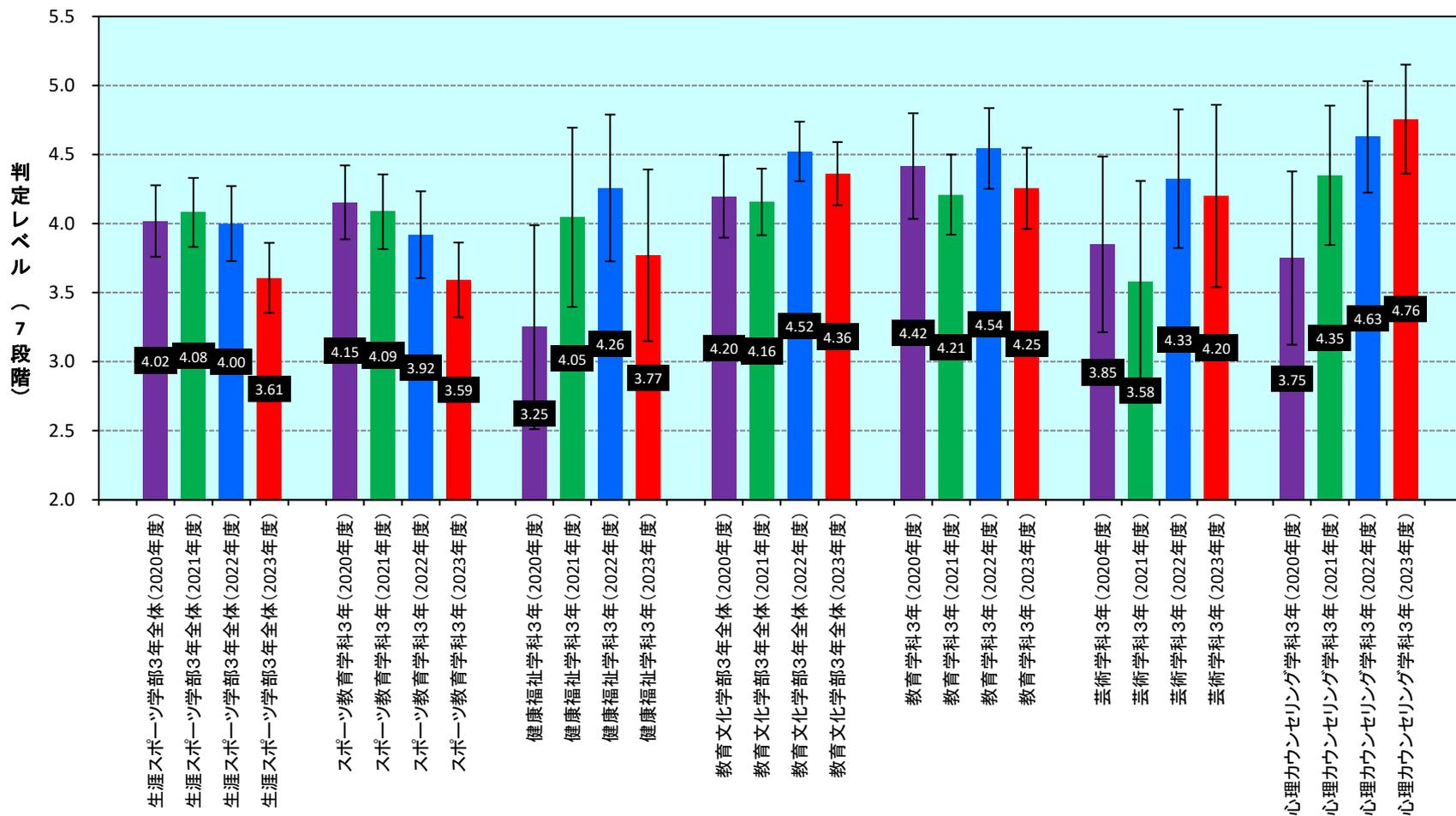
学部	学科	2020年度 3年	2021年度 3年	2022年度 3年	2023年度 3年
		2020年10月～ 2021年1月 受験	2021年11月～ 2022年2月 受験	2022年6月～ 2023年2月 受験	2023年5月～ 2024年2月 受験
生涯スポーツ学部	スポーツ教育学科	137	140	100	142
	健康福祉学科	24	22	31	13
		161	162	131	155
教育文化学部	教育学科	89	129	114	114
	芸術学科	20	26	40	25
	心理カウンセリング学科	28	43	51	41
		137	198	205	180
合計		298	360	336	335

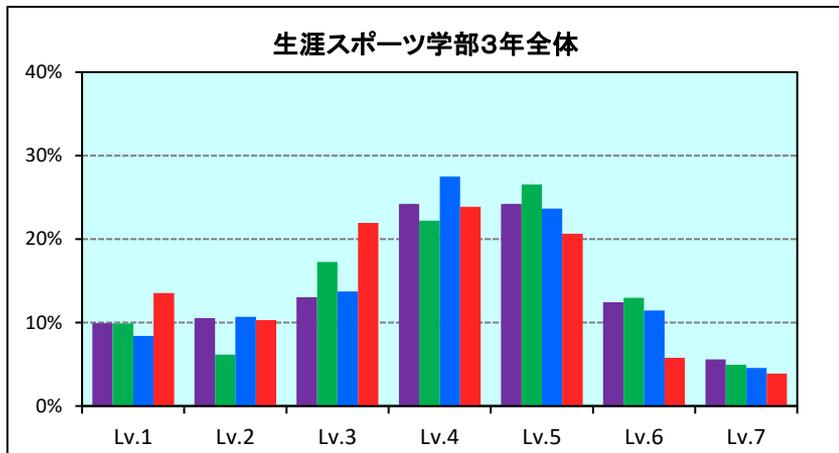
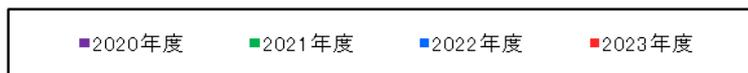
※リテラシーテスト受験時間制限45分のところ解答時間20分未満または、全30問中解答数10問以下の学生については解答姿勢が低かったことが想定されるため、各年度の対象学生のスコアを除いて集計しております。

リテラシー総合（過去の受験者との比較）

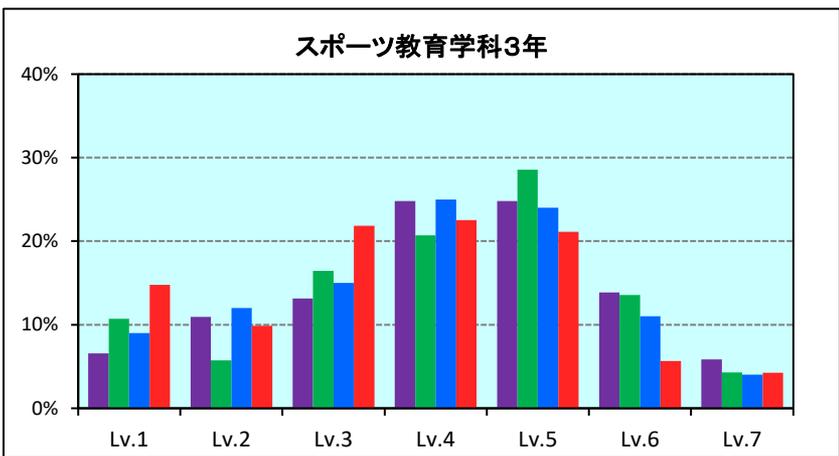
- 心理カウンセリング学科3年は、2022年度のスコアを上回る。
- 生涯スポーツ学部3年全体、スポーツ教育学科3年、健康福祉学科3年、教育文化学部3年全体、教育学科3年、芸術学科3年は、2022年度のスコアを下回る。

（※健康福祉学科3年(2023年度)は、受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。）

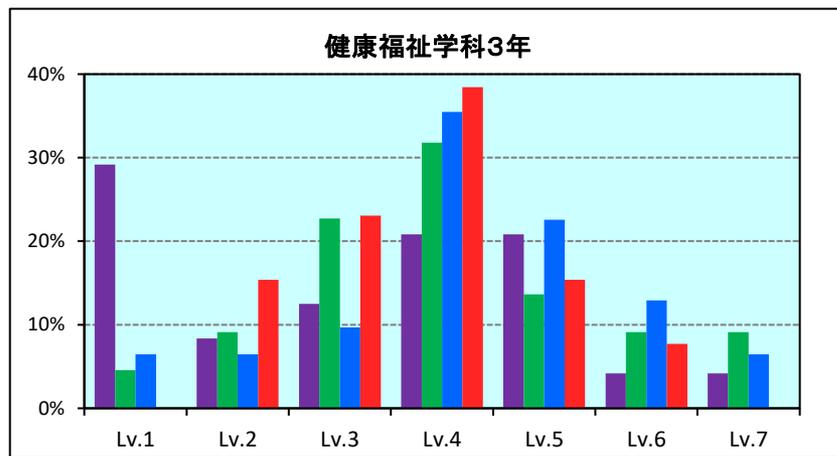




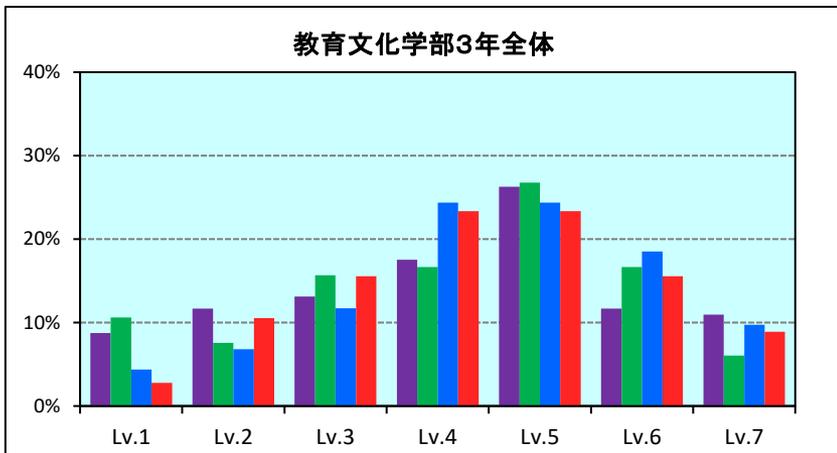
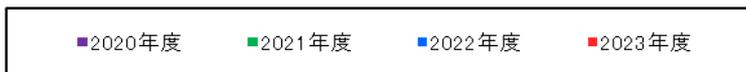
2022年度に比べて、レベル4～6のボリュームが小さく、レベル1、レベル3の割合が大きい。



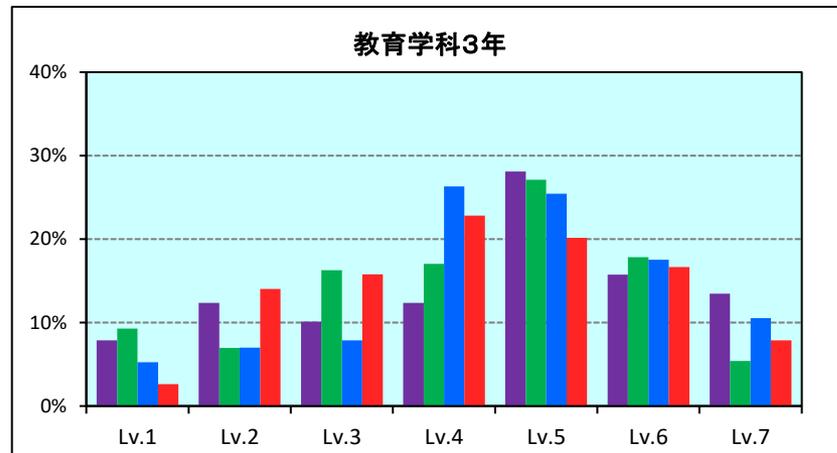
2022年度に比べて、レベル6の割合が小さく、レベル1、レベル3の割合が大きい。



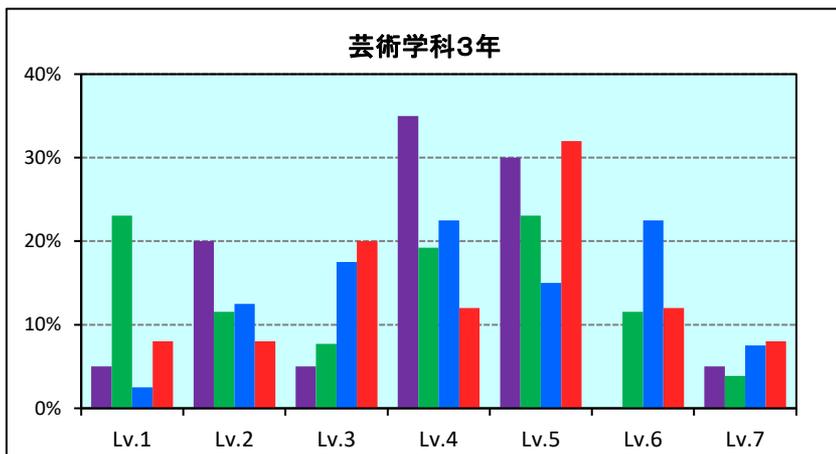
(※2023年度は、受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。)



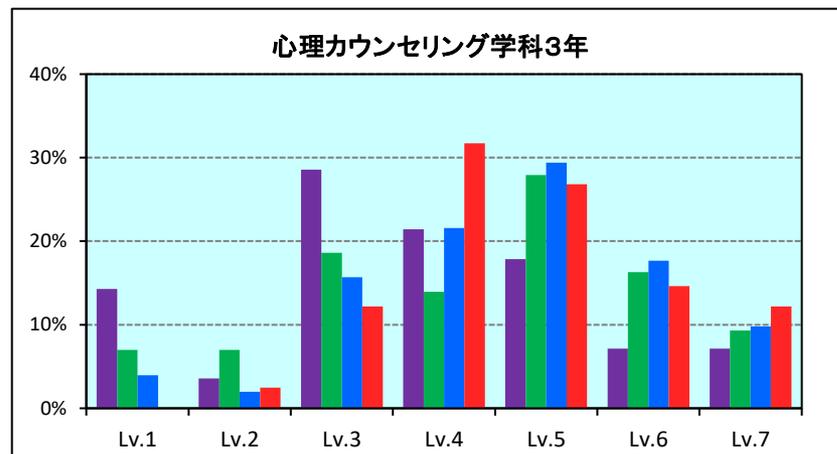
2022年度に比べて、レベル2～3のボリュームが大きい。



2022年度に比べて、レベル4～5のボリュームが小さく、レベル2～3のボリュームが大きい。



2022年度に比べて、レベル2、レベル4、レベル6の割合が小さく、レベル1、レベル5の割合が大きい。



2022年度に比べて、レベル1、レベル3、レベル6の割合が小さく、レベル4の割合が大きい。

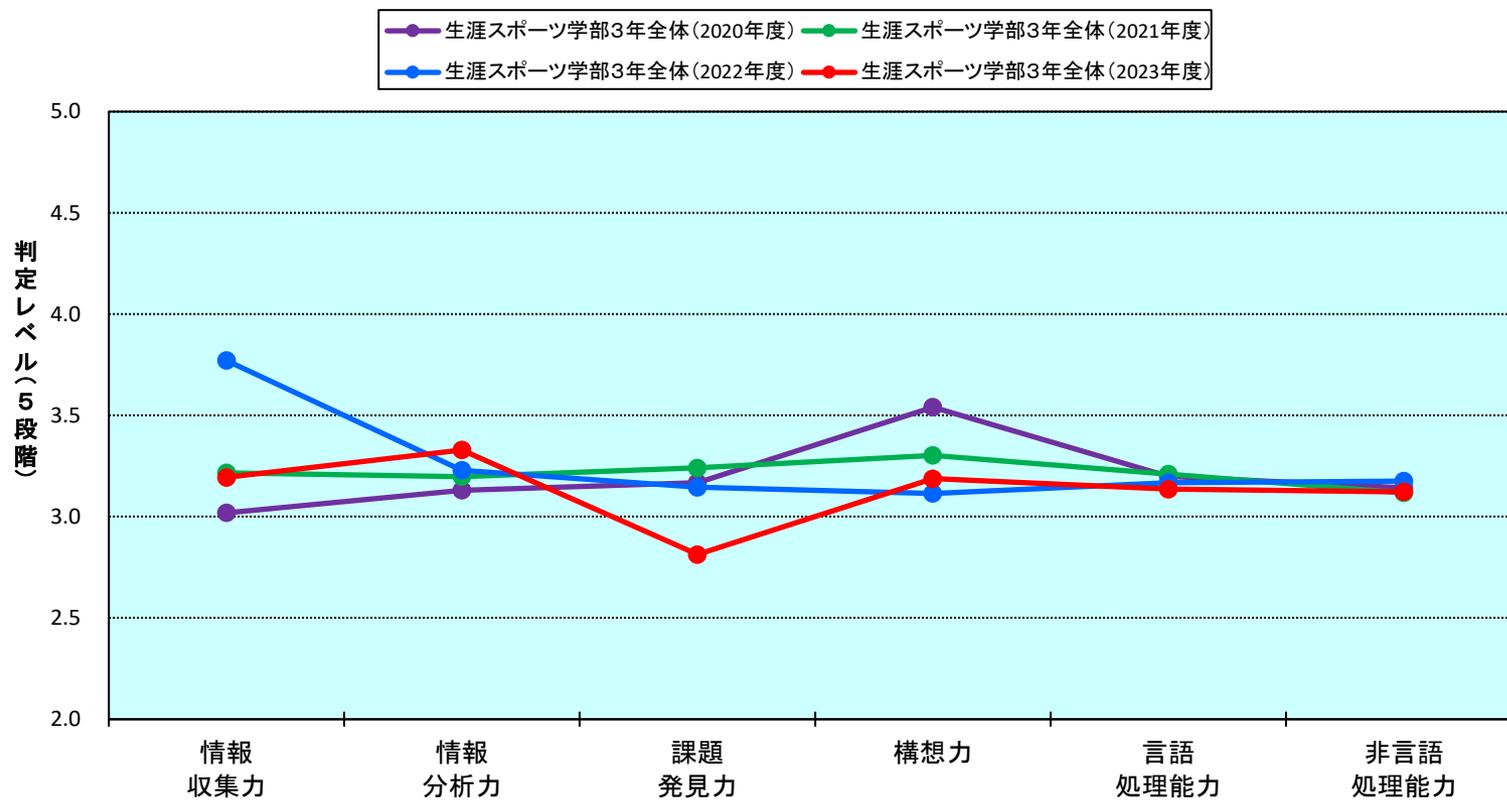
リテラシー要素（過去の受験者との比較）①

【生涯スポーツ学部3年全体】

情報分析力、構想力は、2022年度のスコアを上回る。

一方、情報収集力、課題発見力、言語処理能力、非言語処理能力は、2022年度のスコアを下回る。

リテラシー要素



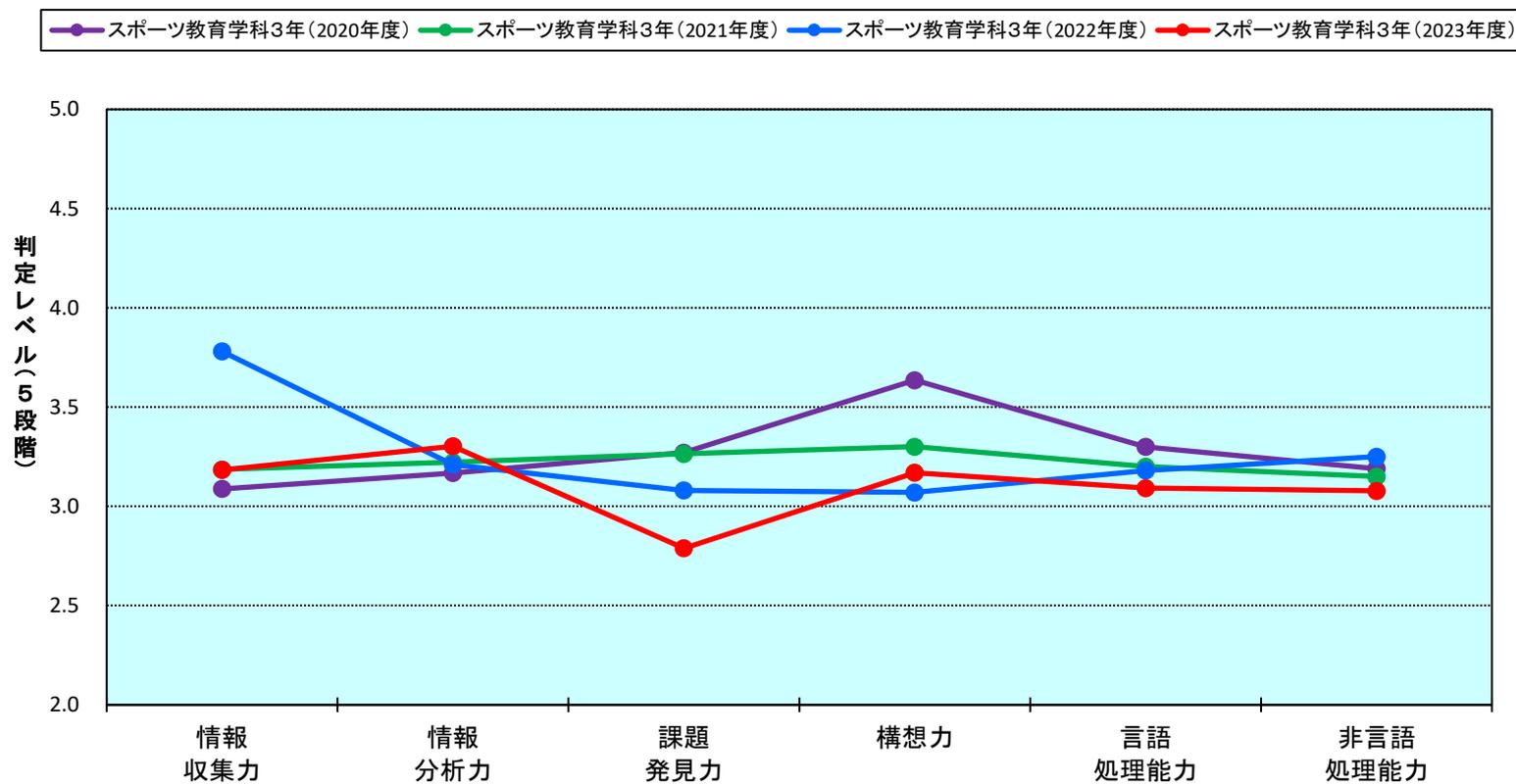
リテラシー要素（過去の受験者との比較）②

【スポーツ教育学科3年】

情報分析力、構想力は、2022年度のスコアを上回る。

一方、情報収集力、課題発見力、言語処理能力、非言語処理能力は、2022年度のスコアを下回る。

リテラシー要素



リテラシー要素（過去の受験者との比較）③

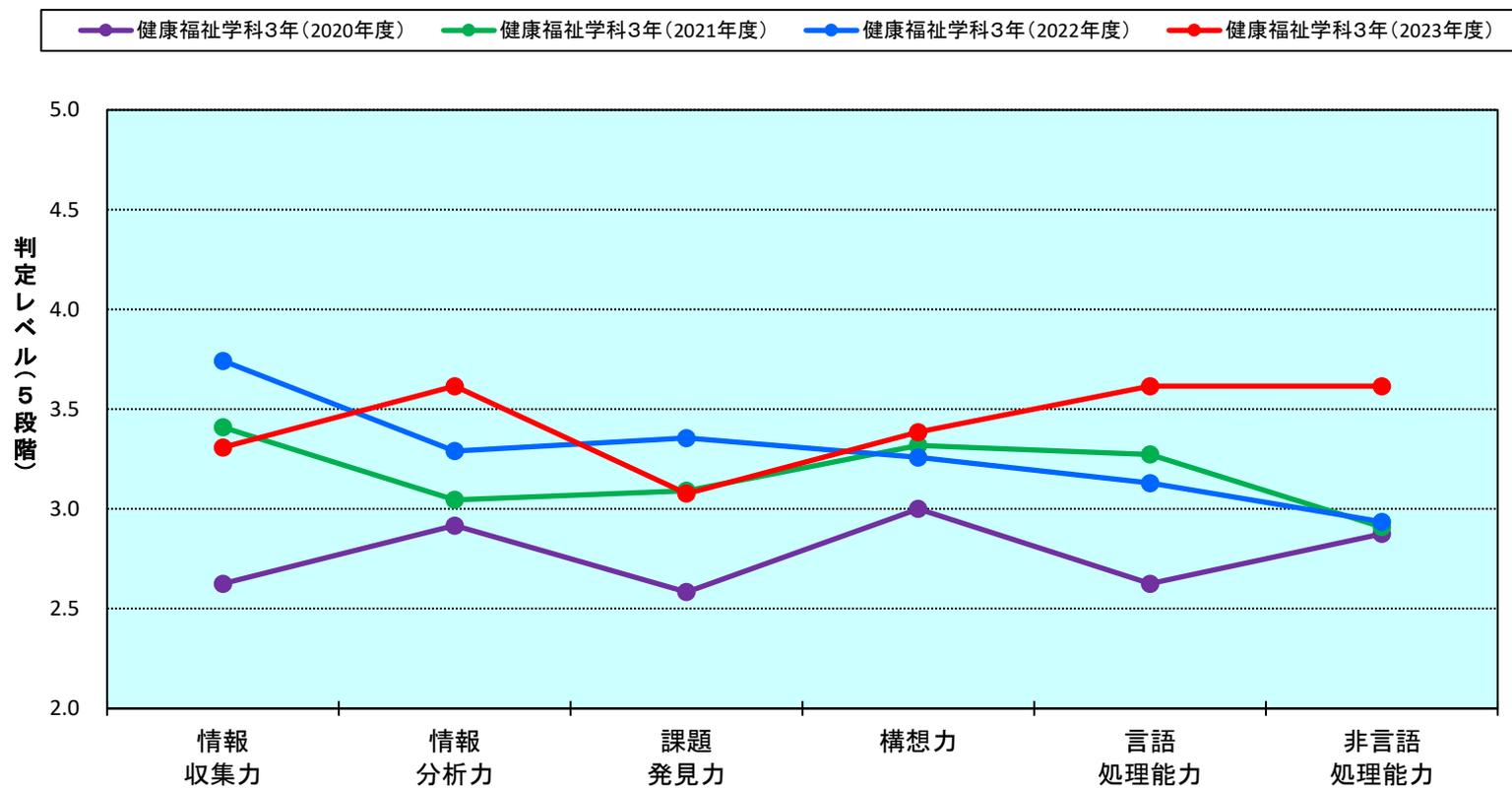
【健康福祉学科3年】

情報分析力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、2022年度のスコアを上回る。

一方、情報収集力、課題発見力は、2022年度のスコアを下回る。

（※2023年度は、受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。）

リテラシー要素

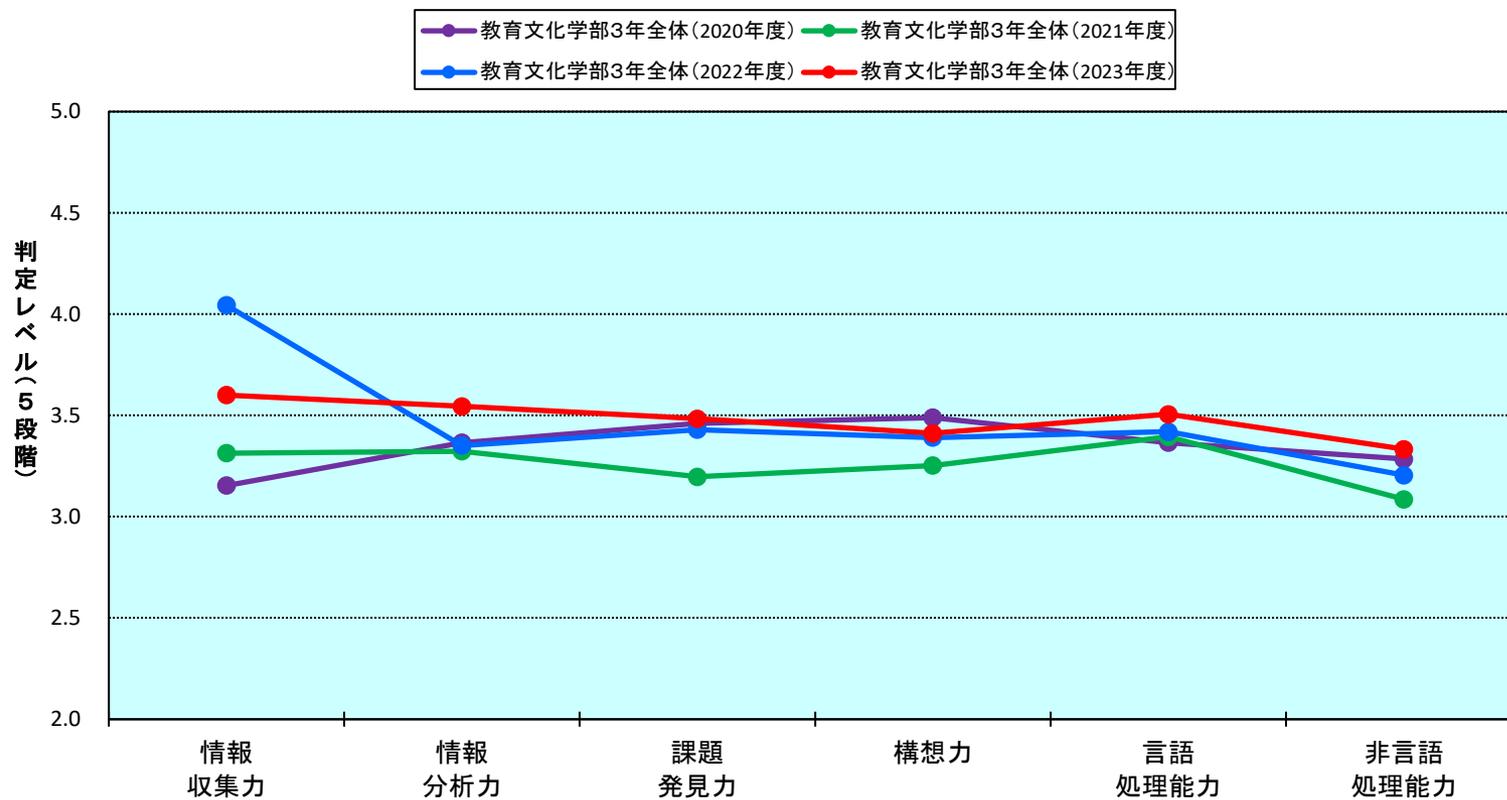


リテラシー要素（過去の受験者との比較）④

【教育文化学部3年全体】

情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、2022年度のスコアを上回る。
一方、情報収集力は、2022年度のスコアを下回る。

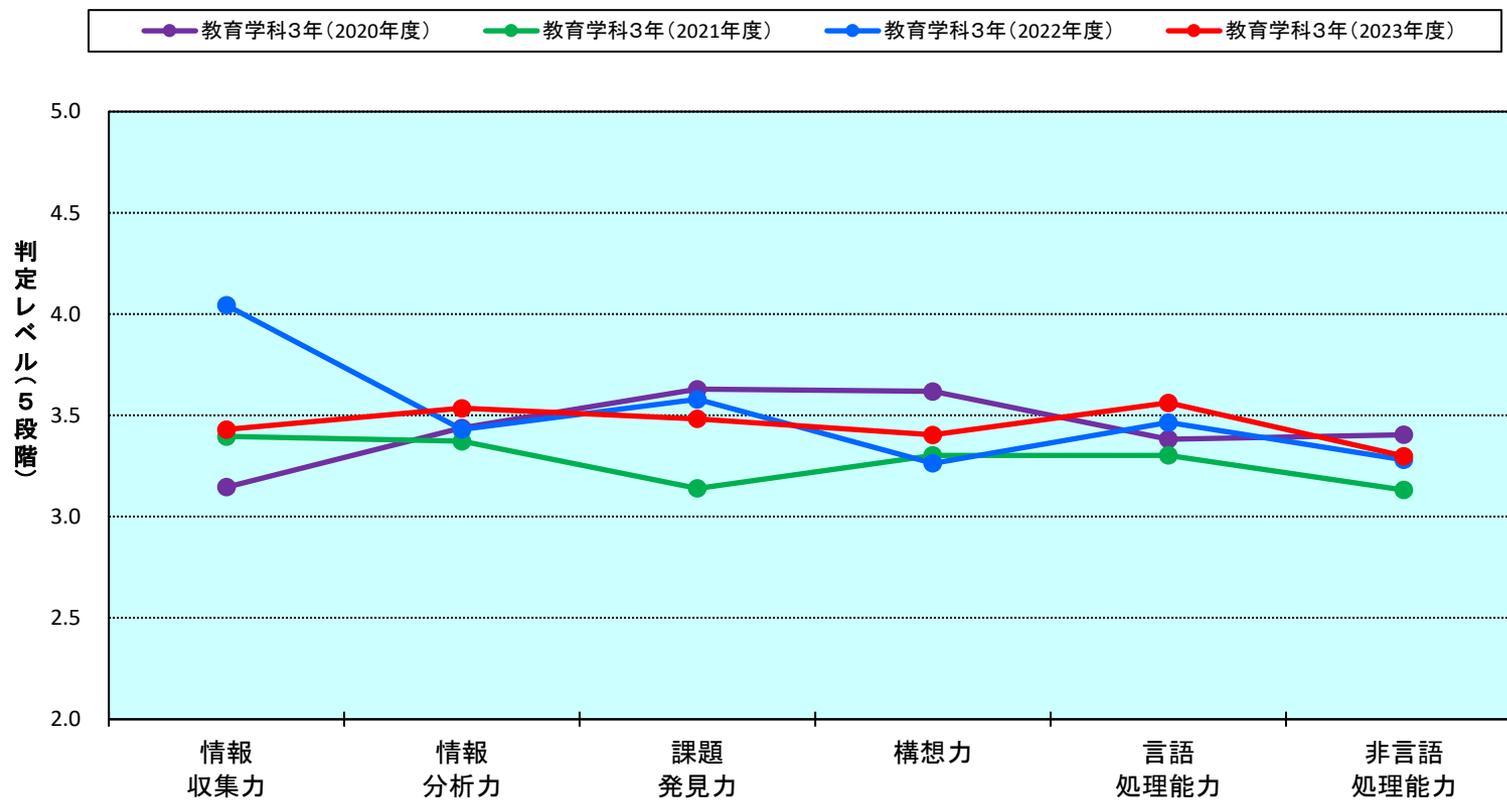
リテラシー要素



【教育学科3年】

情報分析力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、2022年度のスコアを上回る。
一方、情報収集力、課題発見力は、2022年度のスコアを下回る。

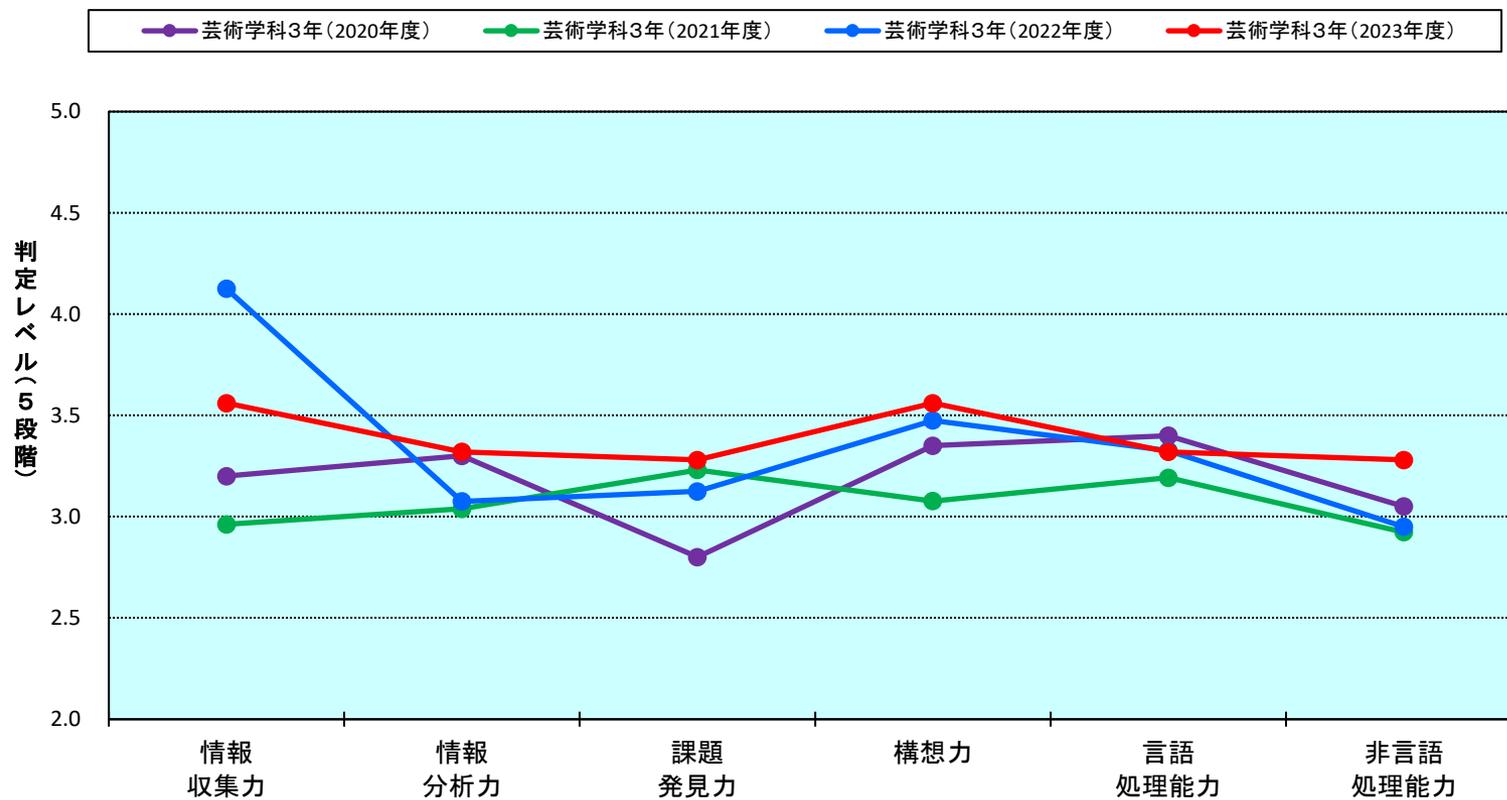
リテラシー要素



【芸術学科3年】

情報分析力、課題発見力、構想力、非言語処理能力は、2022年度のスコアを上回る。
一方、情報収集力、言語処理能力は、2022年度のスコアを下回る。

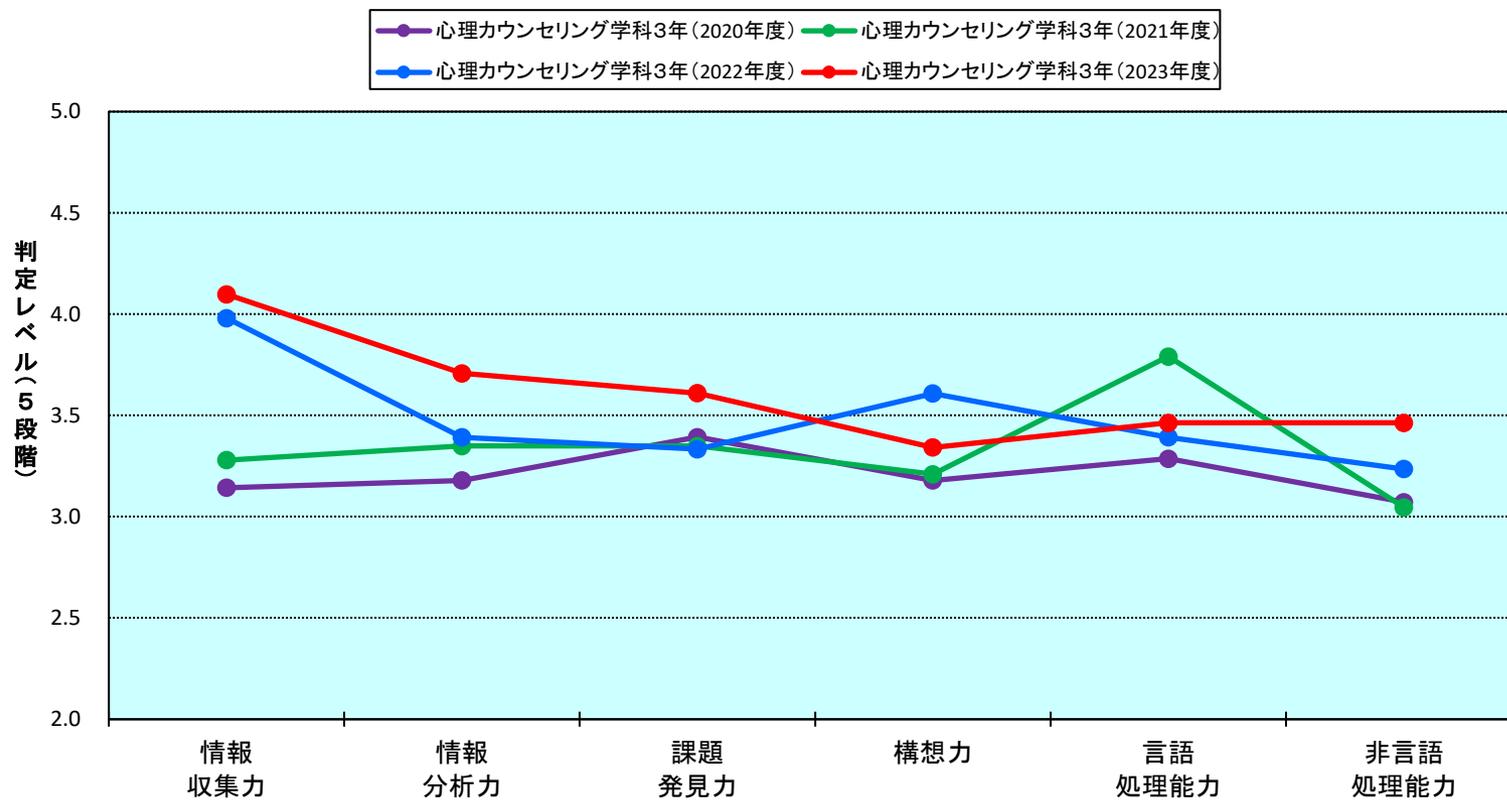
リテラシー要素



【心理カウンセリング学科3年】

情報収集力、情報分析力、課題発見力、言語処理能力、非言語処理能力は、2022年度のスコアを上回る。
一方、構想力は、2022年度のスコアを下回る。

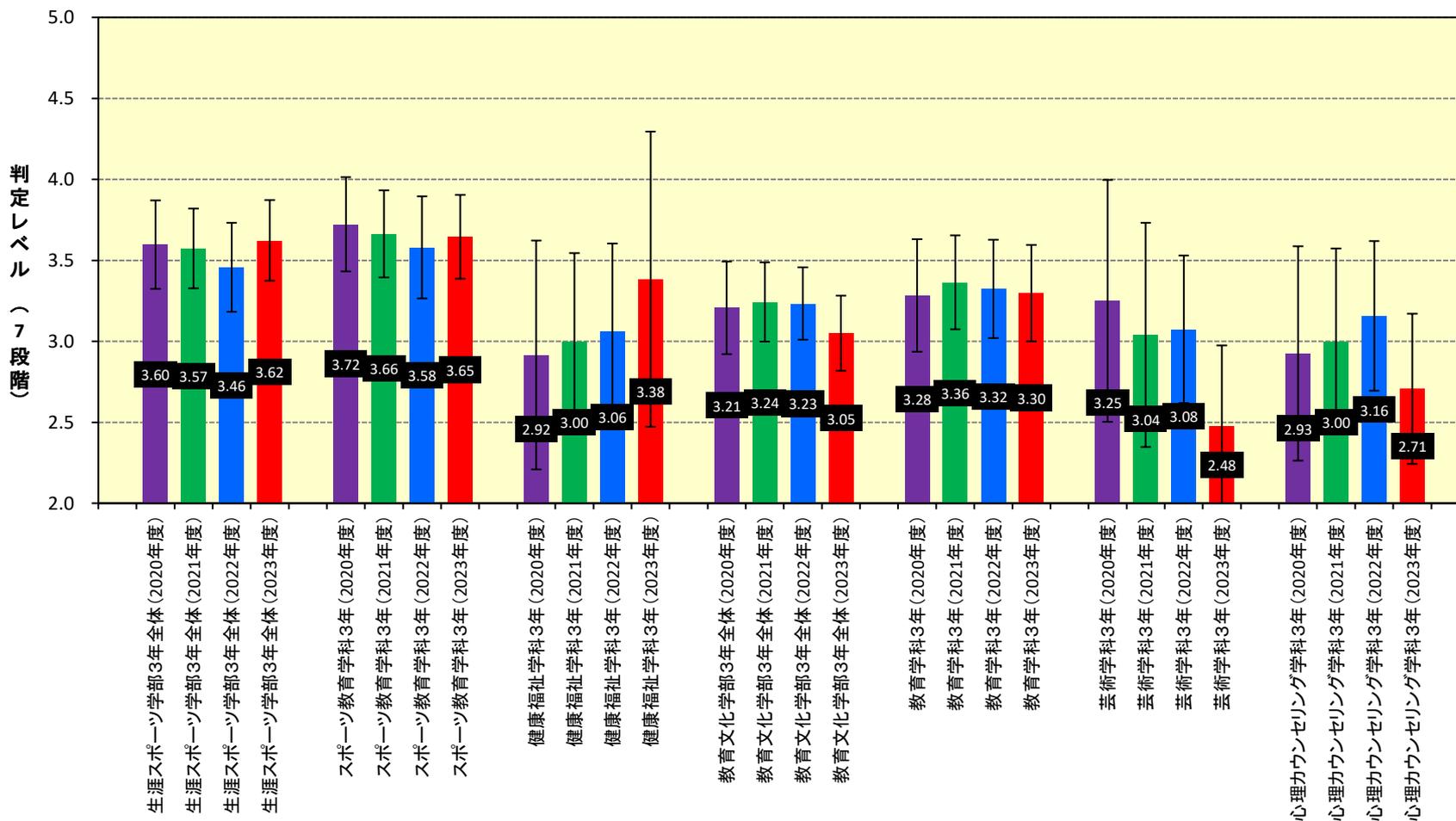
リテラシー要素

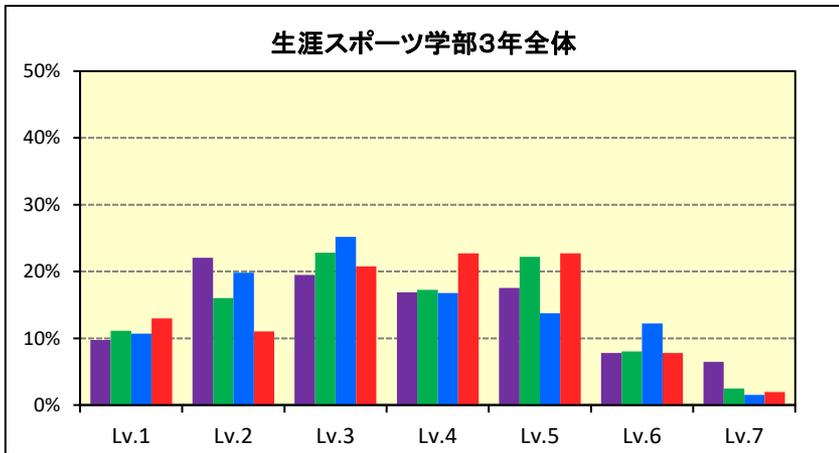
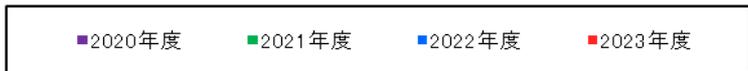


コンピテンシー総合（過去の受験者との比較）

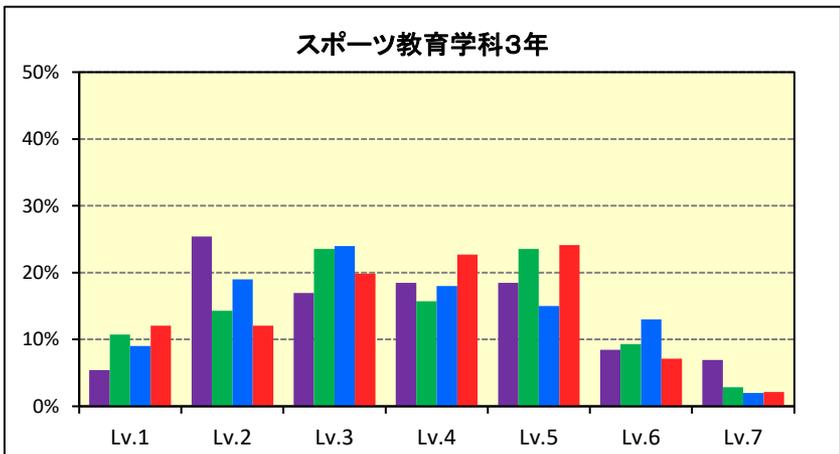
- 生涯スポーツ学部3年全体、スポーツ教育学科3年、健康福祉学科3年は、2022年度のスコアを上回る。
 - 教育文化学部3年全体、教育学科3年、芸術学科3年、心理カウンセリング学科3年は、2022年度のスコアを下回る。
- （※健康福祉学科3年(2023年度)は、受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。）

コンピテンシー総合

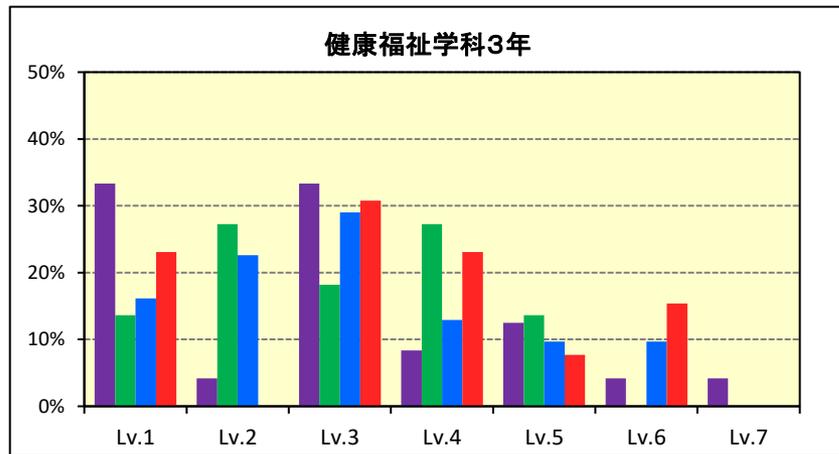




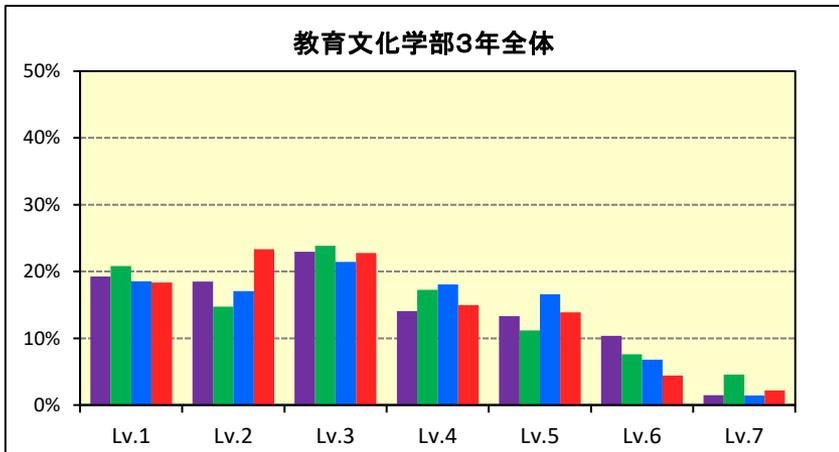
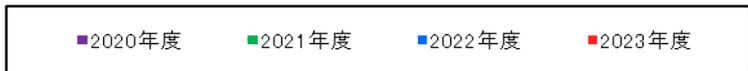
2022年度に比べて、レベル2～3、レベル6のボリュームが小さく、レベル4～5のボリュームが大きい。



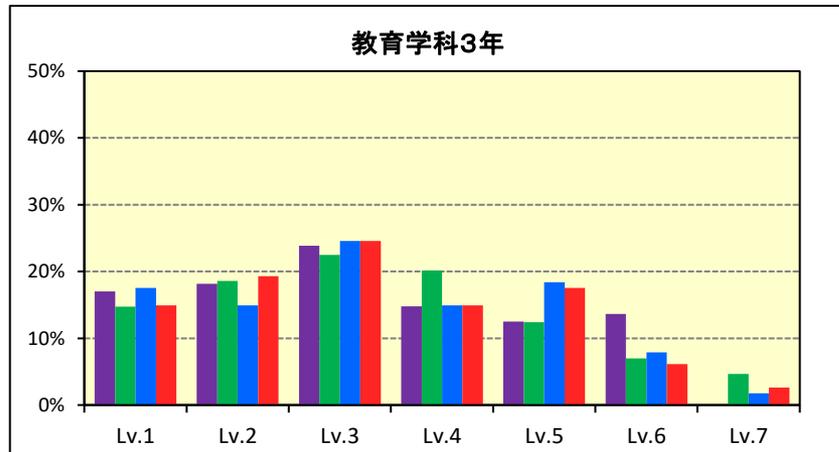
2022年度に比べて、レベル2～3、レベル6のボリュームが小さく、レベル1、レベル4～5のボリュームが大きい。



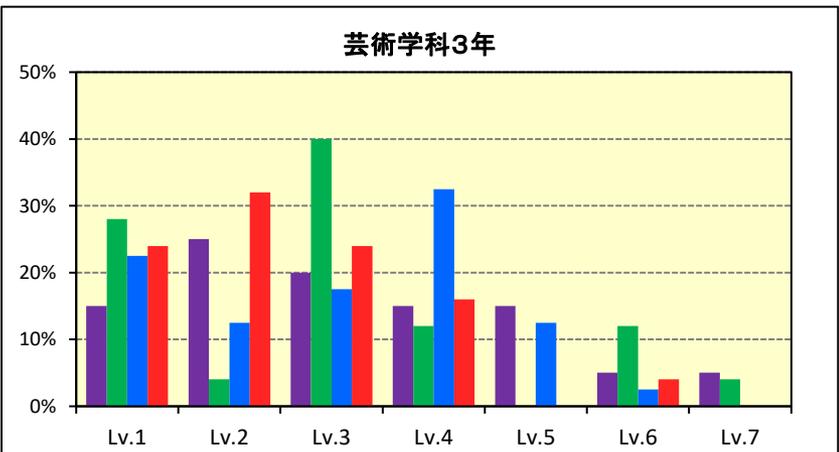
(※2023年度は、受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。)



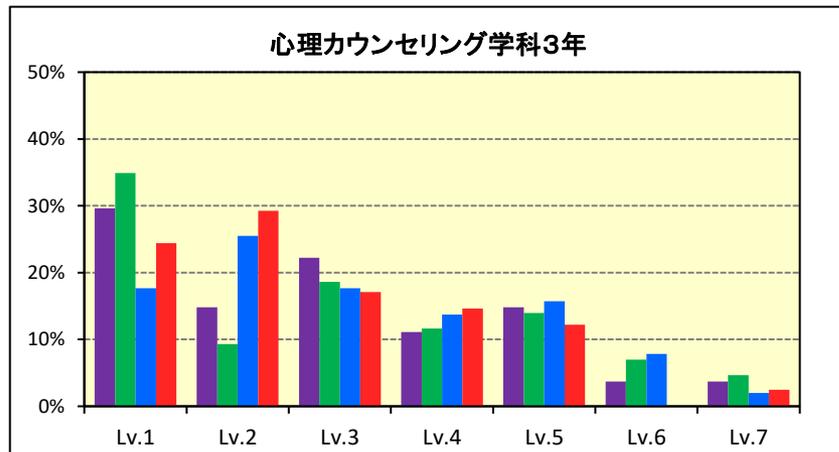
2022年度に比べて、レベル4の割合が小さく、レベル2の割合が大きい。



2022年度に比べて、レベル2の割合が大きい。



2022年度に比べて、レベル4~5のボリュームが小さく、レベル2~3のボリュームが大きい。



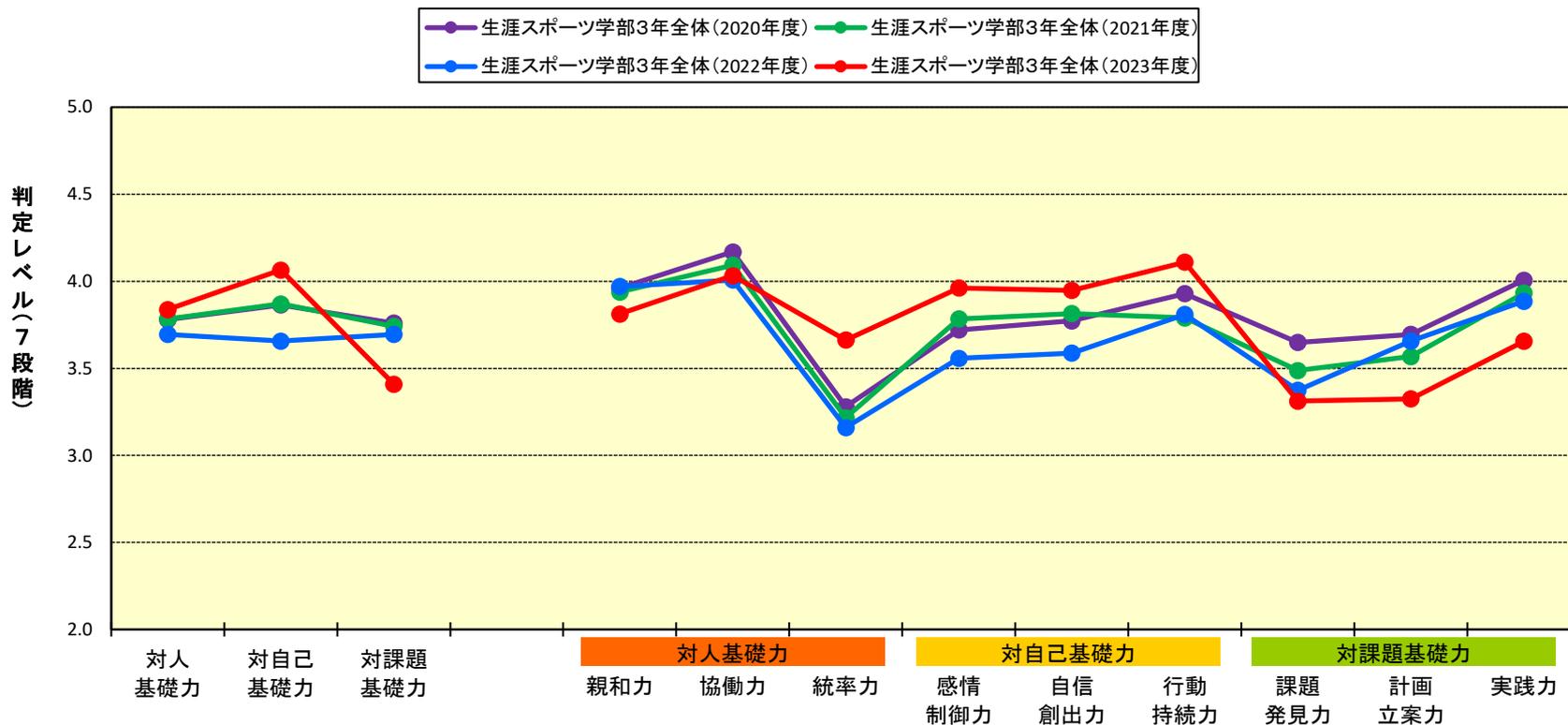
2022年度に比べて、レベル5~6のボリュームが小さく、レベル1~2のボリュームが大きい。

コンピテンシー大分類要素（過去の受験者との比較）①

【生涯スポーツ学部3年全体】

協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力は、2022年度のスコアを上回る。
 一方、親和力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2022年度のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長

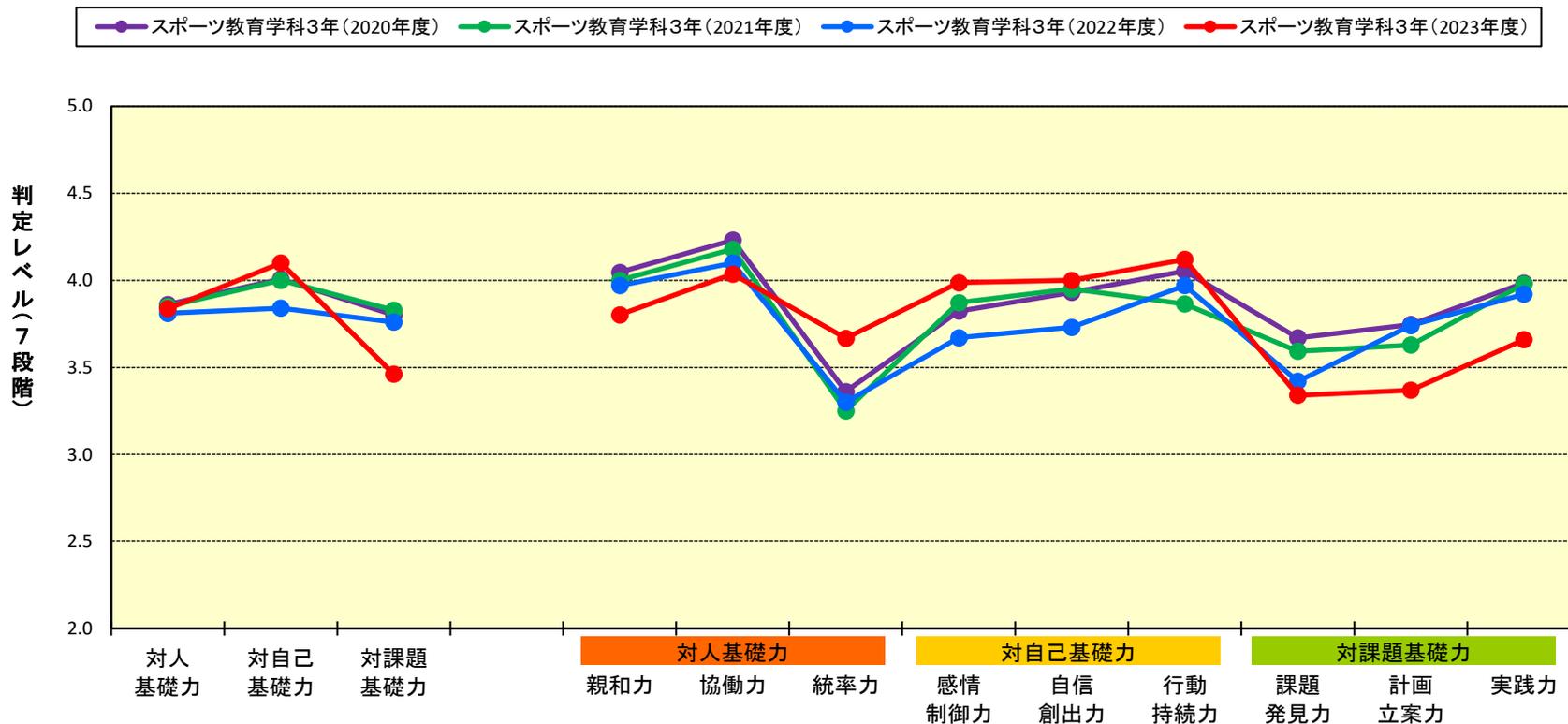


【スポーツ教育学科3年】

統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力は、2022年度のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2022年度のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長



コンピテンシー大分類要素（過去の受験者との比較）③

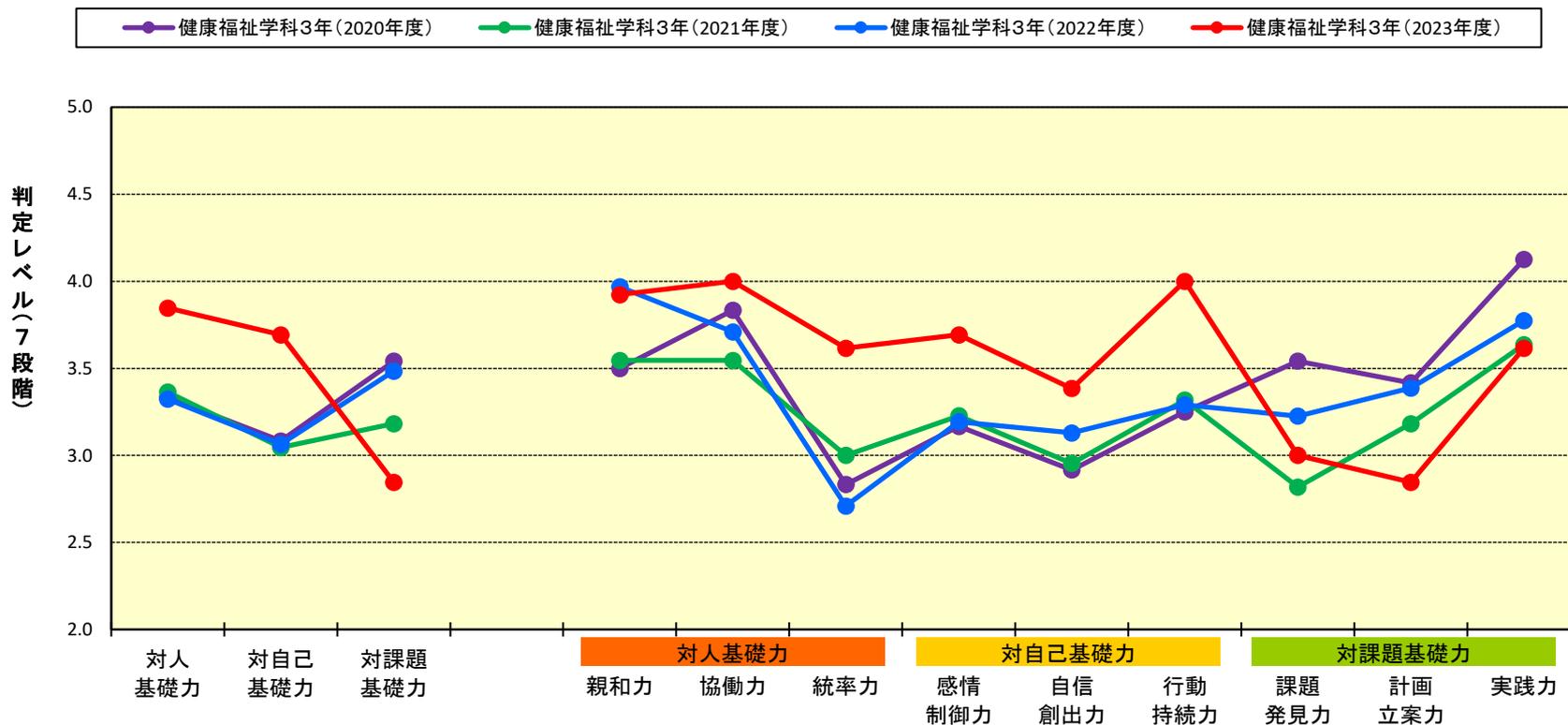
【健康福祉学科3年】

協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力は、2022年度のスコアを上回る。

一方、親和力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2022年度のスコアを下回る。

（※2023年度は、受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。）

コンピテンシー要素の伸長

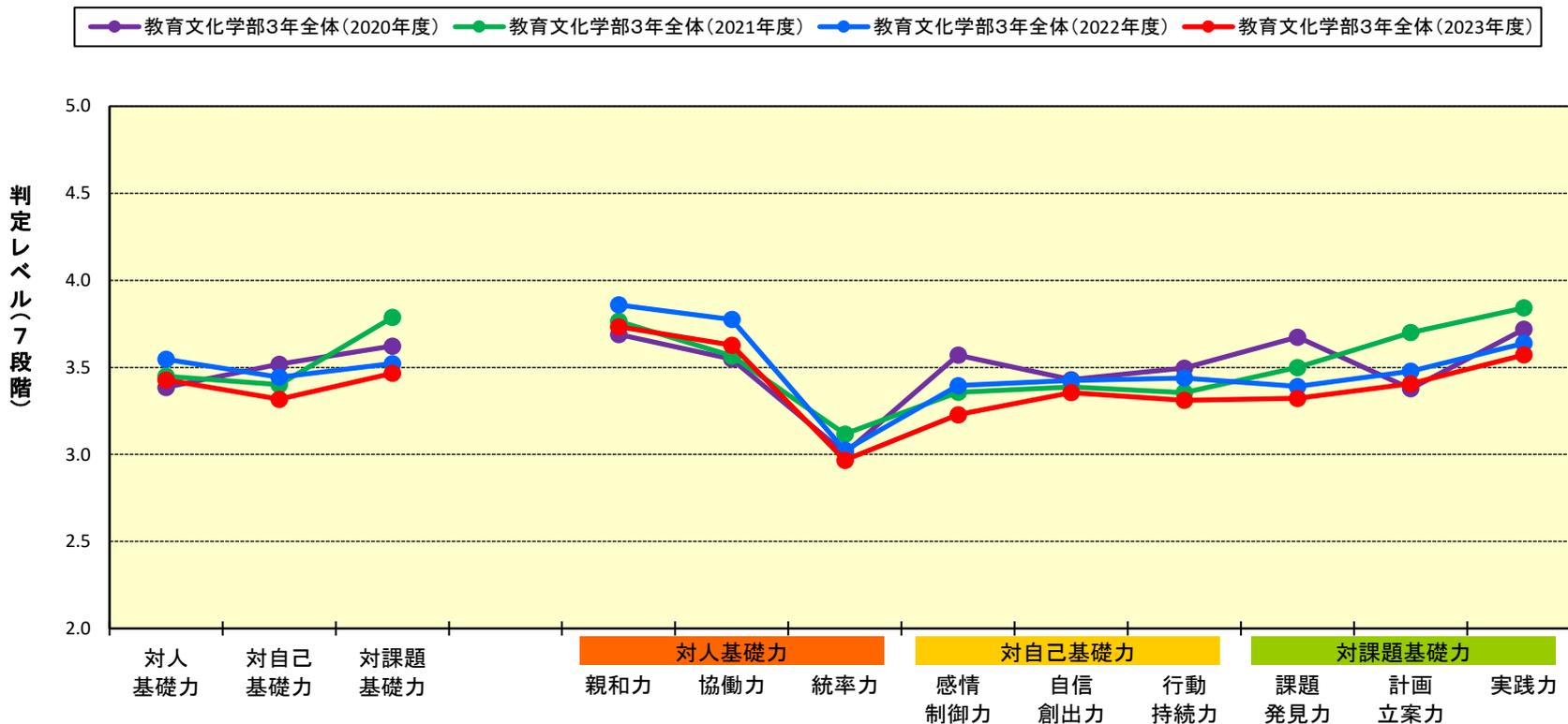


コンピテンシー大分類要素（過去の受験者との比較）④

【教育文化学部3年全体】

親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2022年度のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長

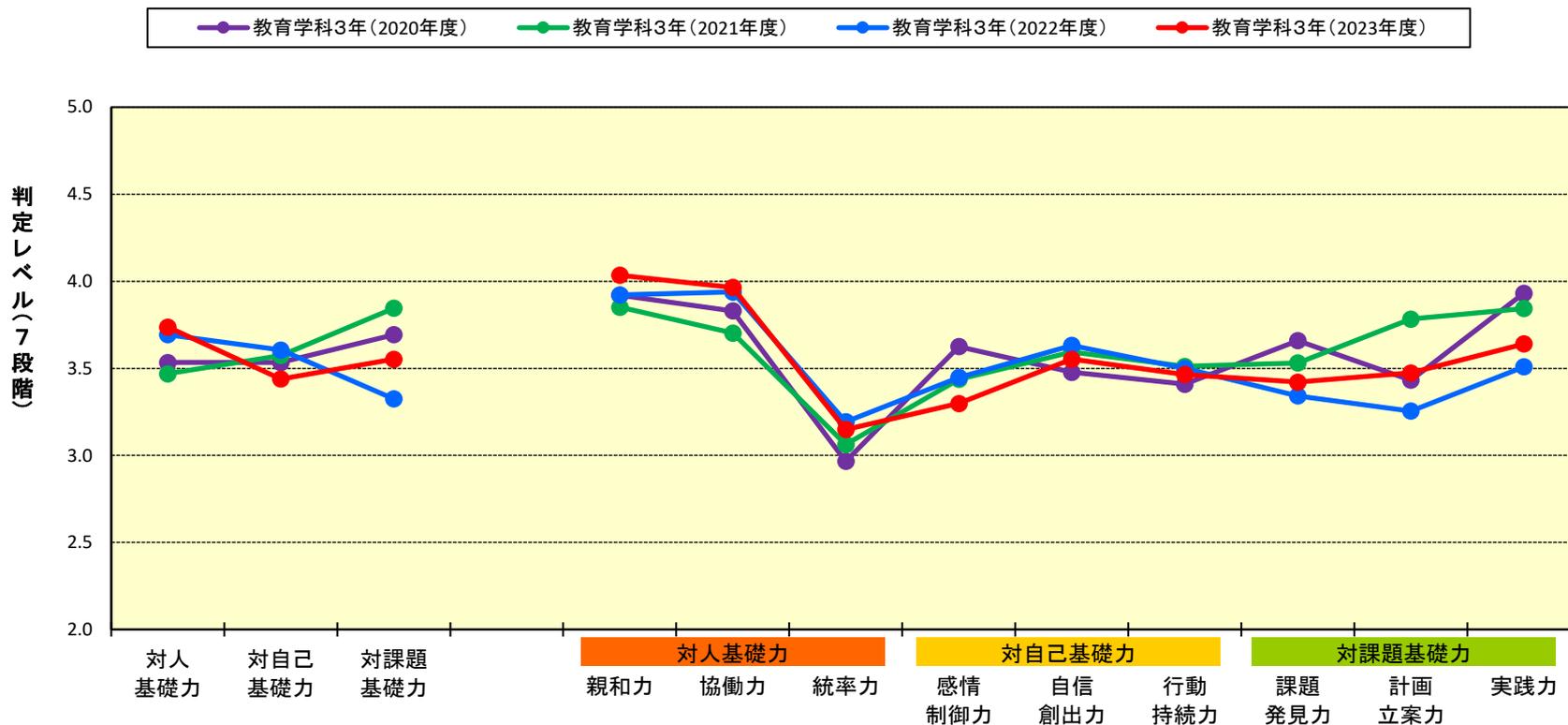


コンピテンシー大分類要素（過去の受験者との比較）⑤

【教育学科3年】

親和力、協働力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2022年度のスコアを上回る。
 一方、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力は、2022年度のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長



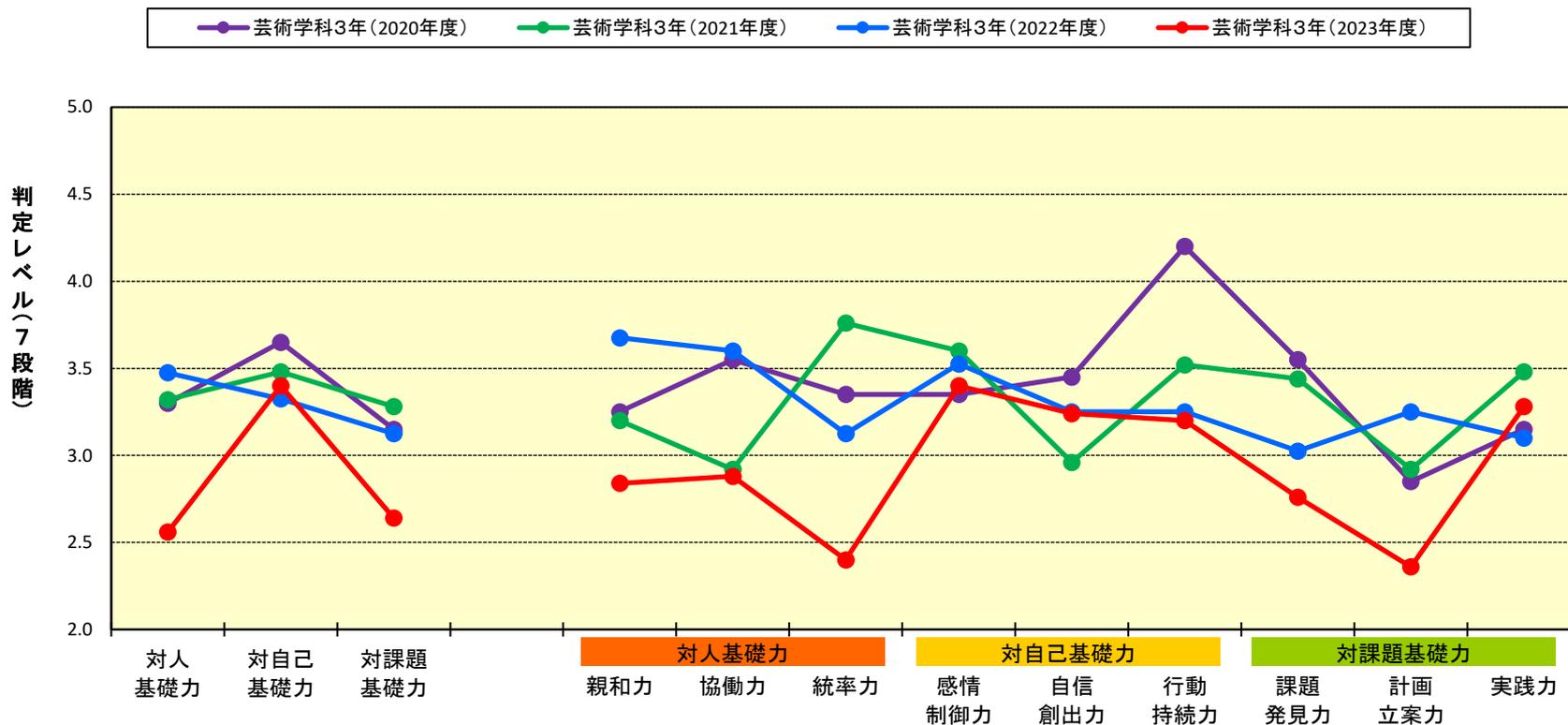
コンピテンシー大分類要素（過去の受験者との比較）⑥

【芸術学科3年】

実践力は、2022年度のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力は、2022年度のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長

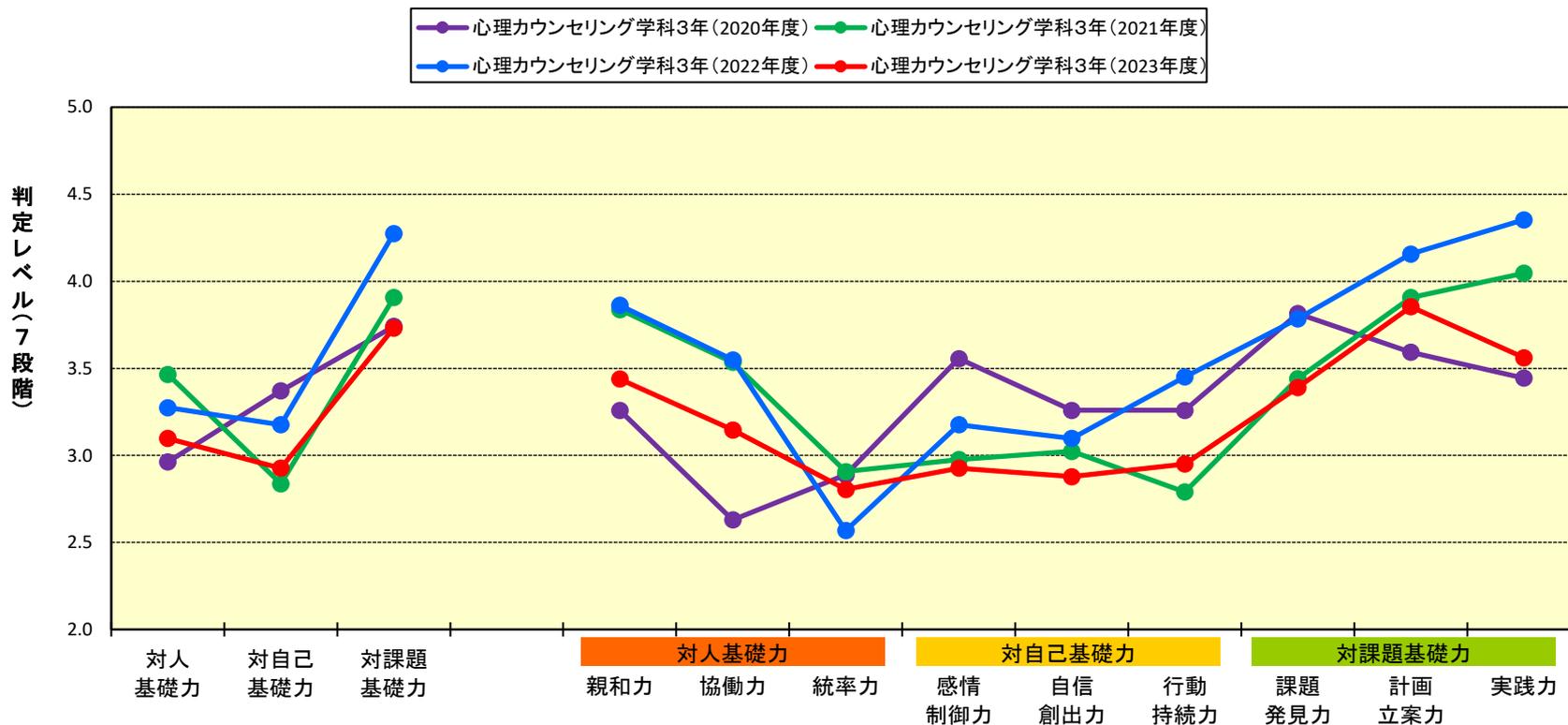


【心理カウンセリング学科3年】

統率力は、2022年度のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2022年度のスコアを下回る。

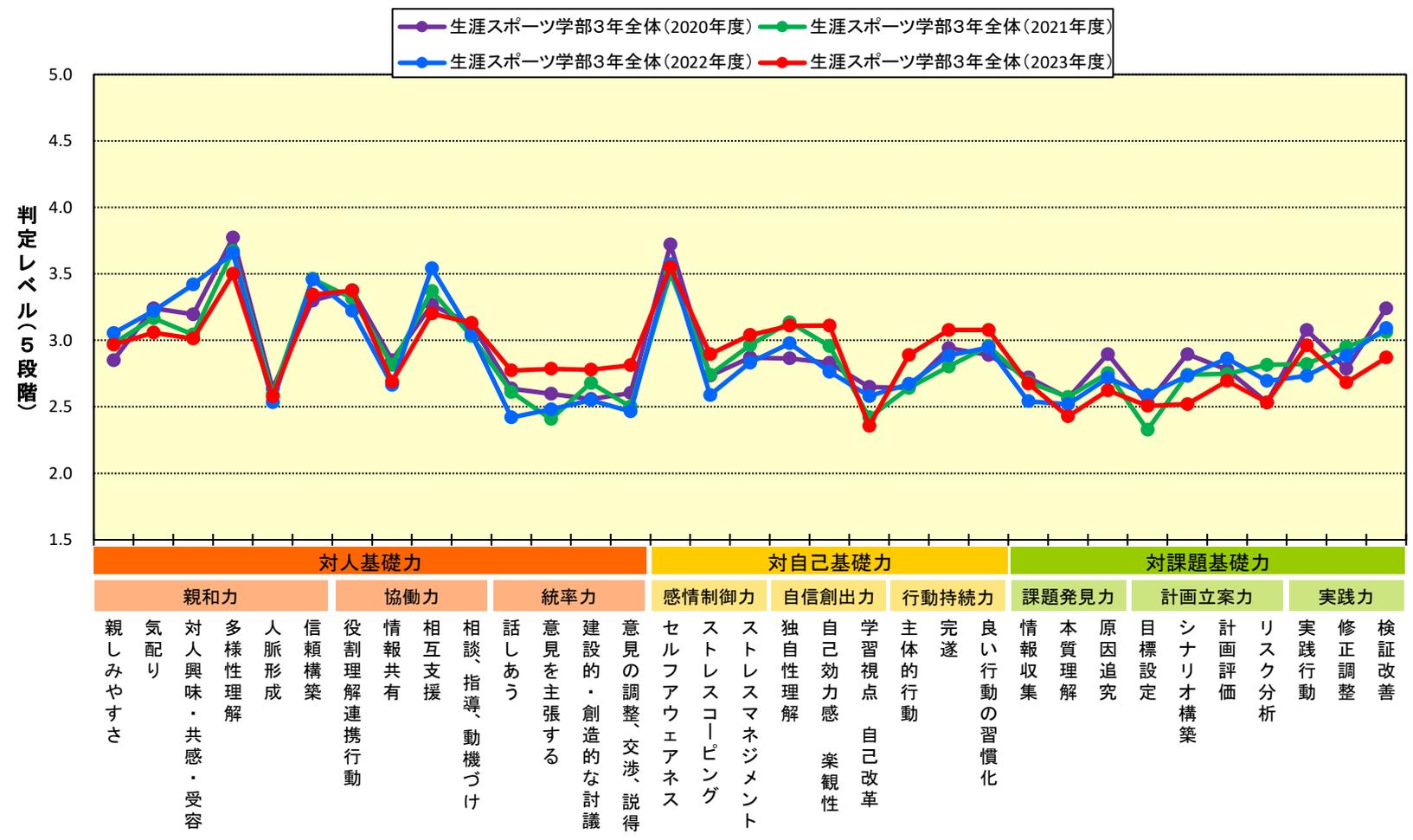
コンピテンシー要素の伸長



コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）①

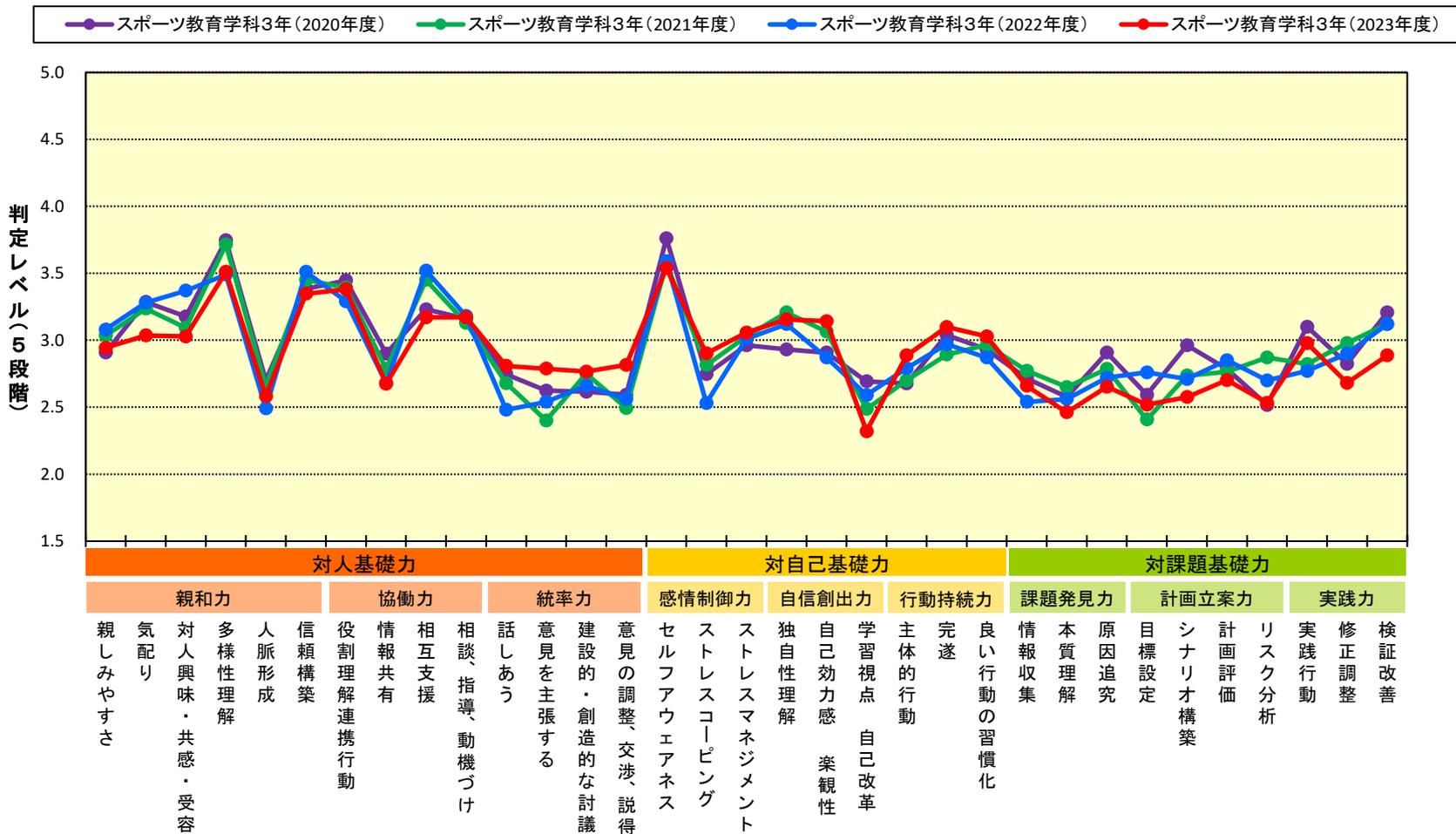
【生涯スポーツ学部3年全体】

コンピテンシー小分類要素



【スポーツ教育学科3年】

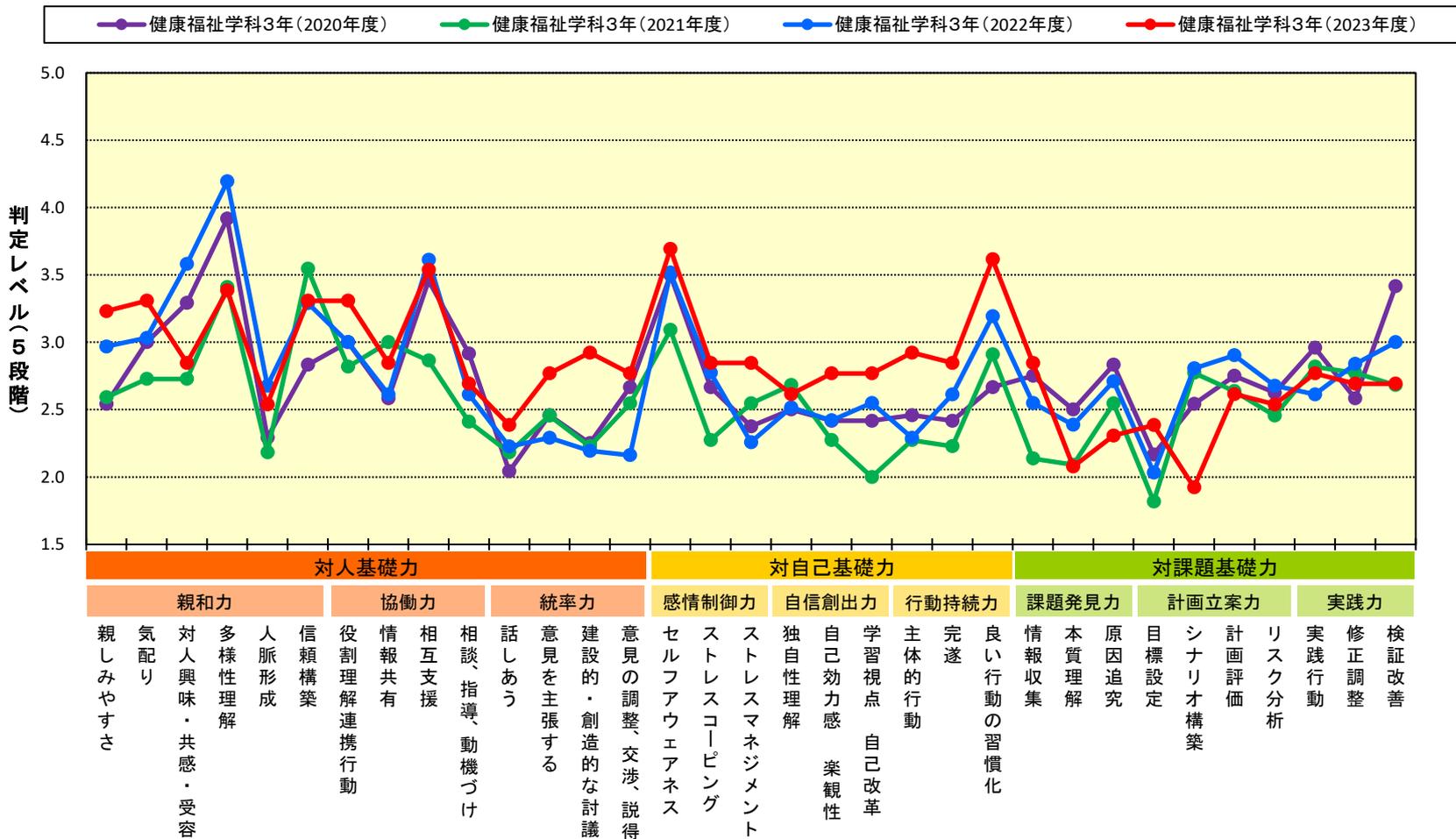
コンピテンシー小分類要素



コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）③

【健康福祉学科3年】
 (※2023年度は、受験者のサンプル数が少ないため参考値とお考えください。)

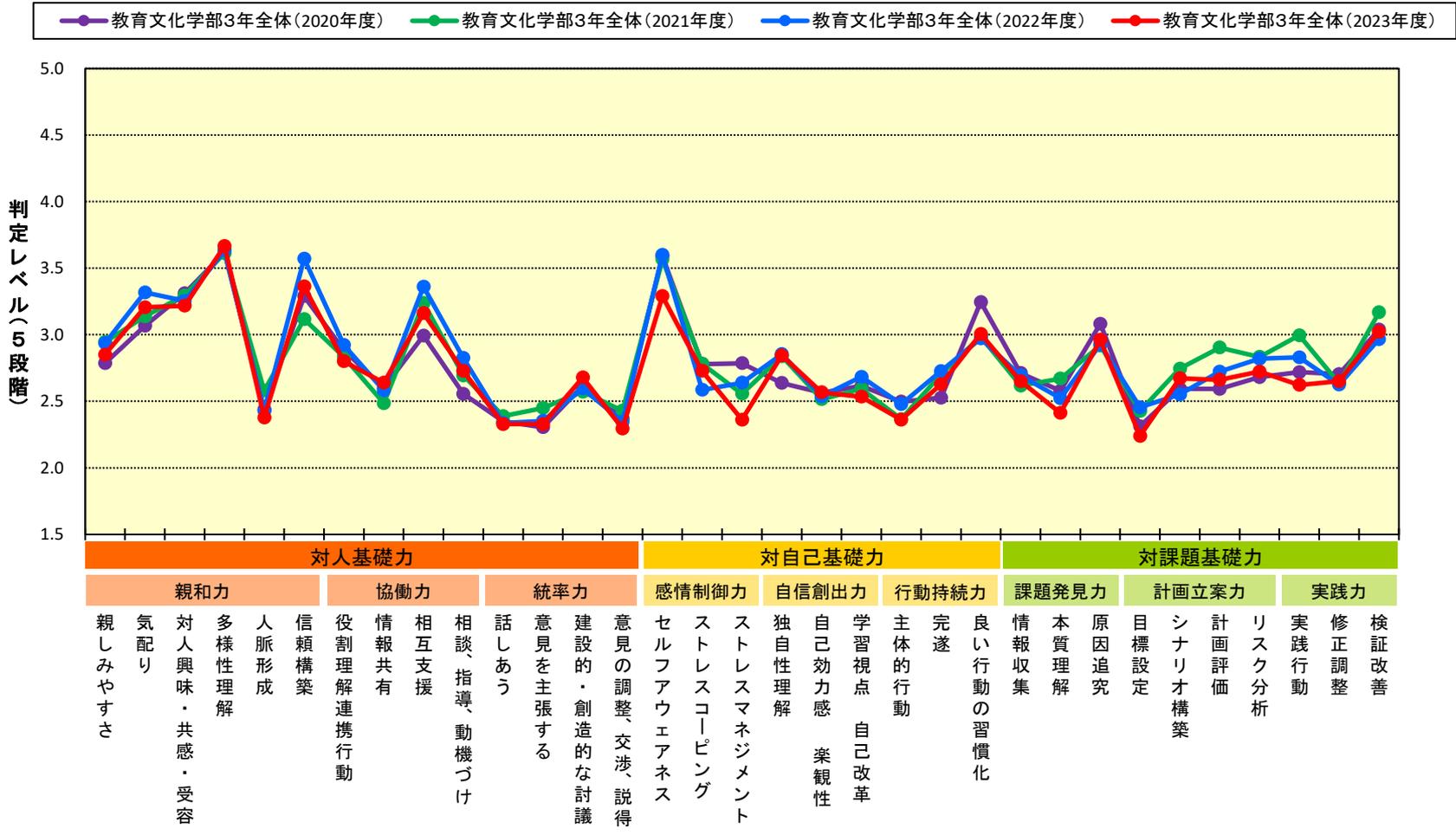
コンピテンシー小分類要素



コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）④

【教育文化学部3年全体】

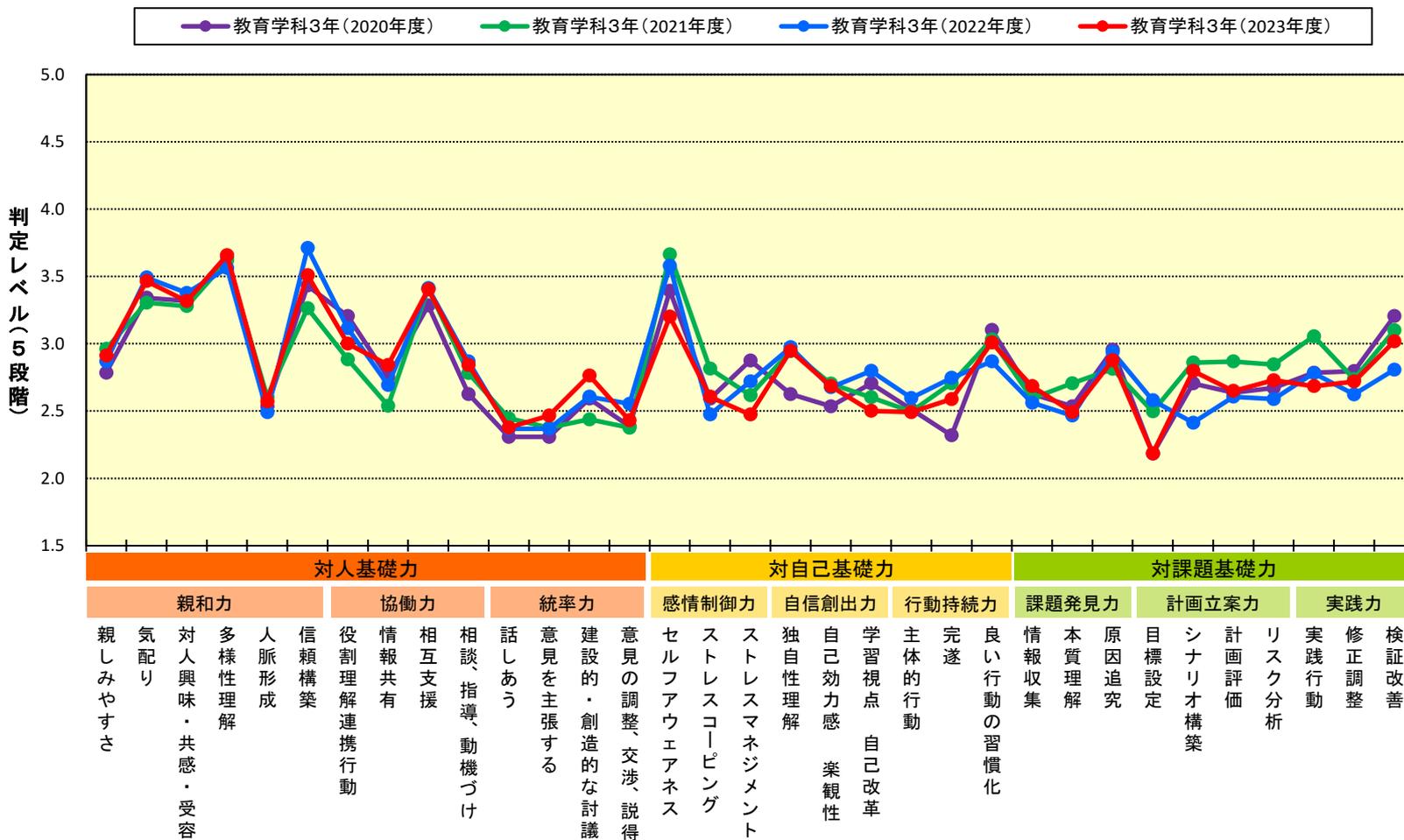
コンピテンシー小分類要素



コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）⑤

【教育学科3年】

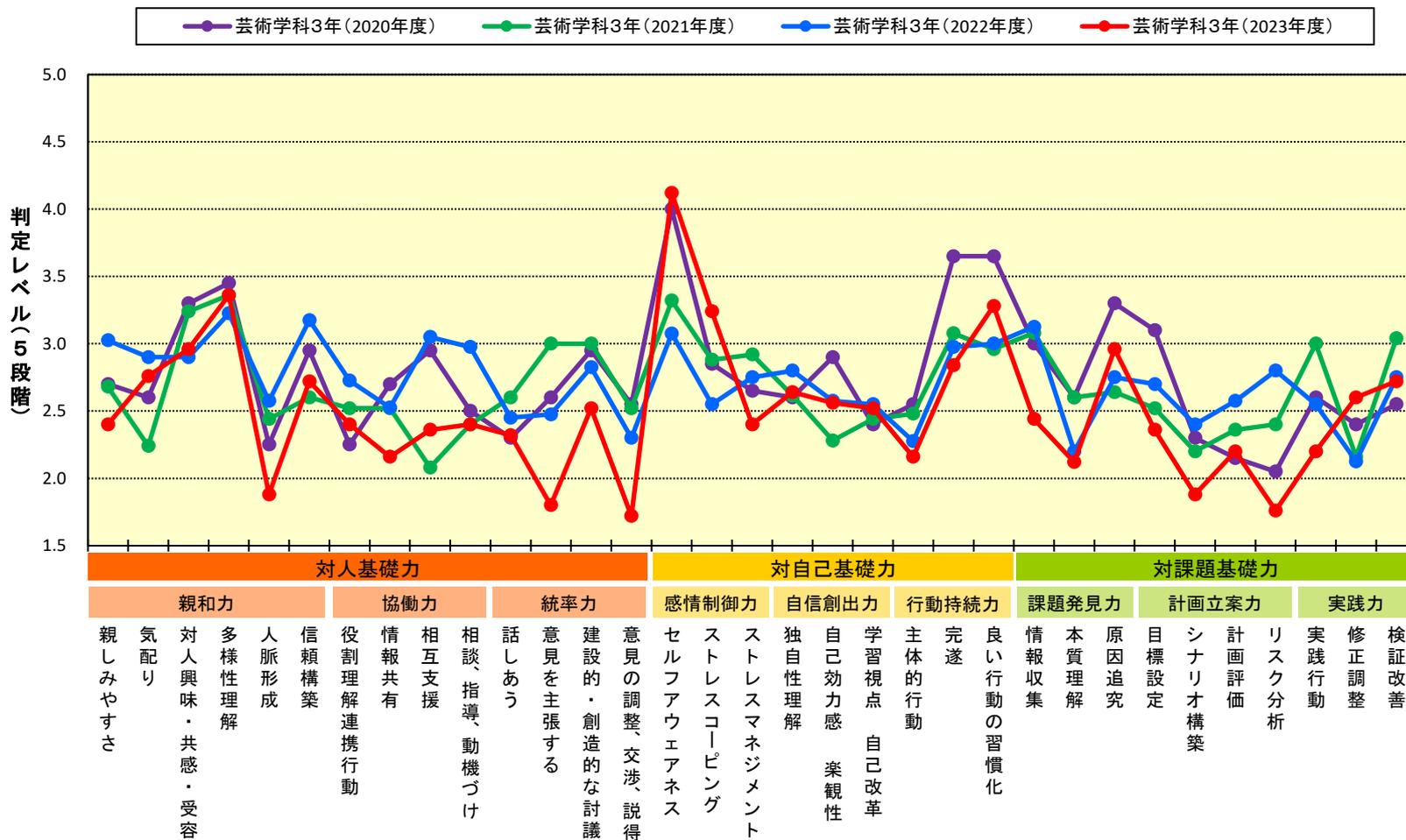
コンピテンシー小分類要素



コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）⑥

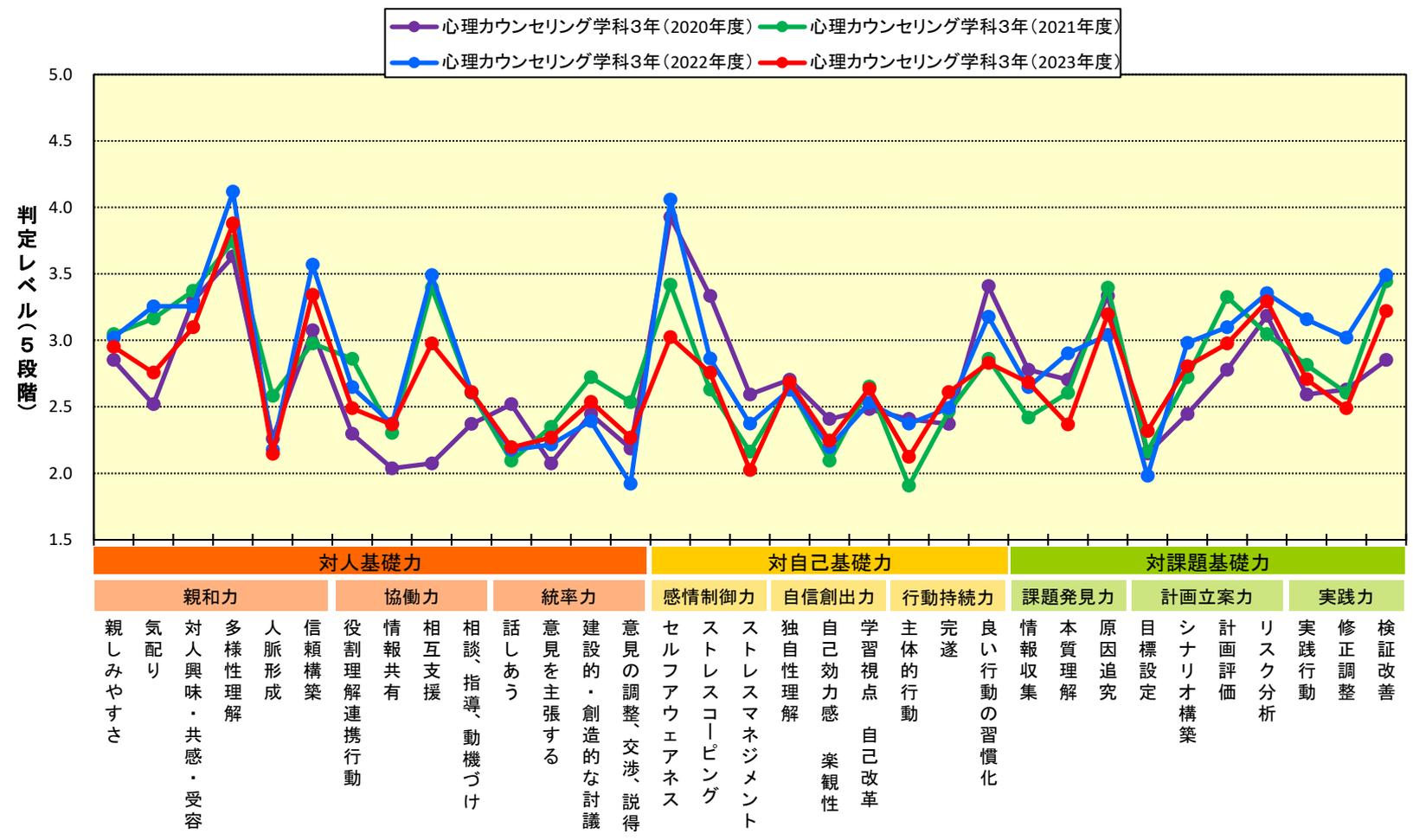
【芸術学科3年】

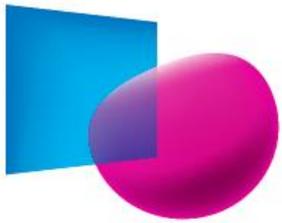
コンピテンシー小分類要素



【心理カウンセリング学科3年】

コンピテンシー小分類要素





PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

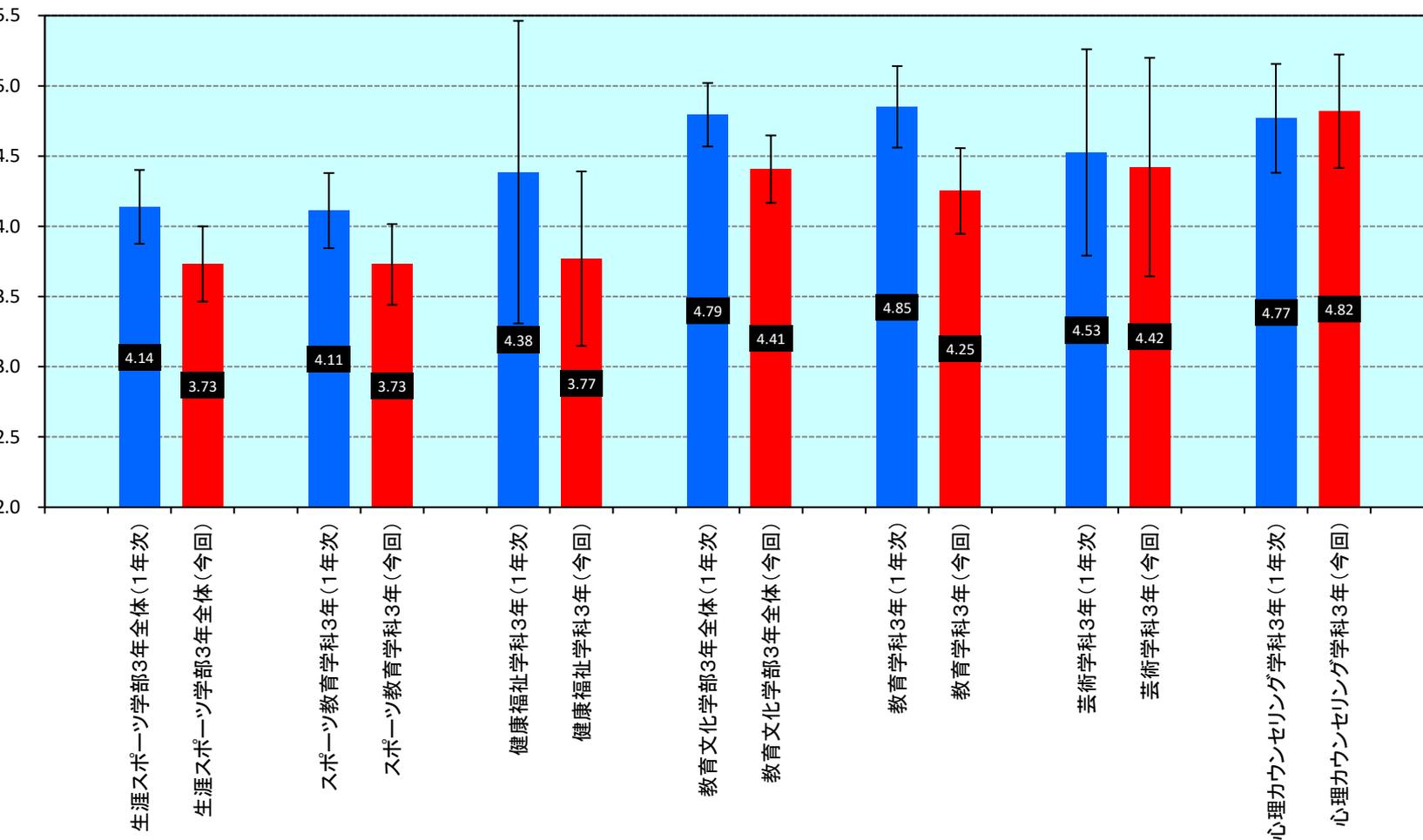
Part.8
3年生
成長分析

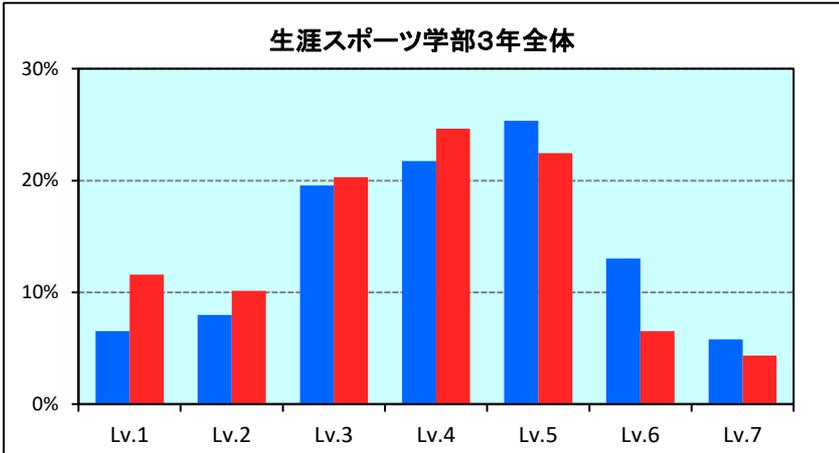
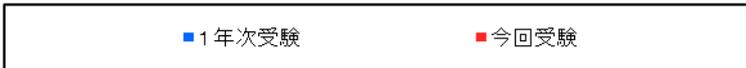
学部	学科	1年次 2021年6月～8月 受験	3年次(今回) 2023年5月～ 2024年2月 受験	集計対象者 (1年次・3年次 いずれも受験)
生涯スポーツ学部	スポーツ教育学科	173	142	125
	健康福祉学科	26	13	13
		199	155	138
教育文化学部	教育学科	144	114	107
	芸術学科	35	25	19
	心理カウンセリング学科	47	41	39
		226	180	165
合計		425	335	303

※リテラシーテスト受験時間制限45分のところ解答時間20分未満または、全30問中解答数10問以下の学生については解答姿勢が低かったことが想定されるため、各年度の対象学生生のスコアを除いて集計しております。

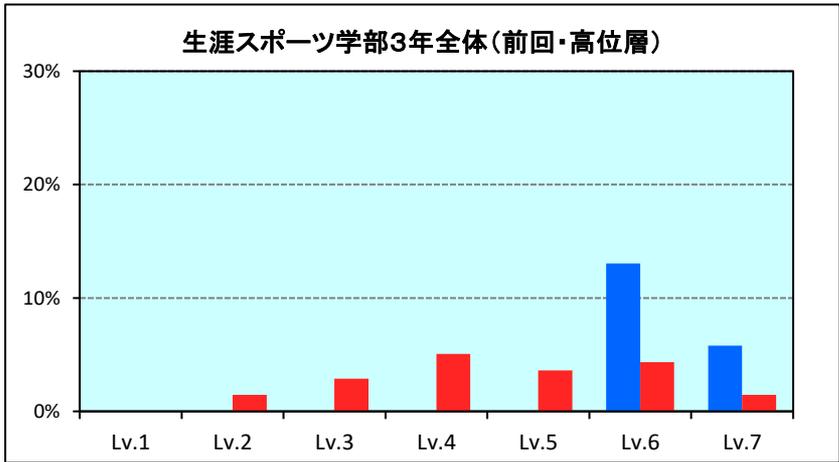
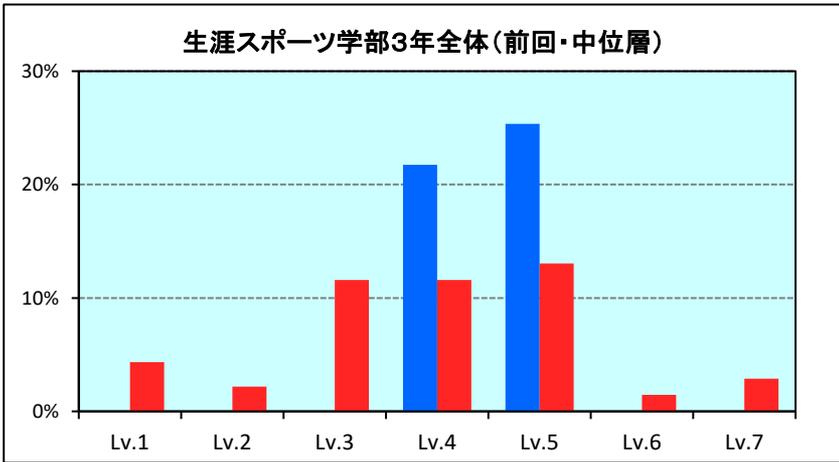
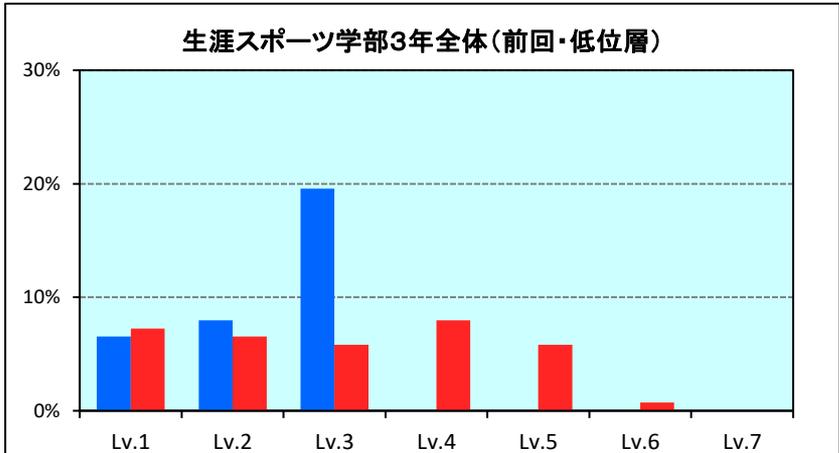
- 心理カウンセリング学科3年は、1年次受験のスコアを上回る。
- 生涯スポーツ学部3年全体、スポーツ教育学科3年、健康福祉学科3年、教育文化学部3年全体、教育学科3年、芸術学科3年は、1年次受験のスコアを下回る。

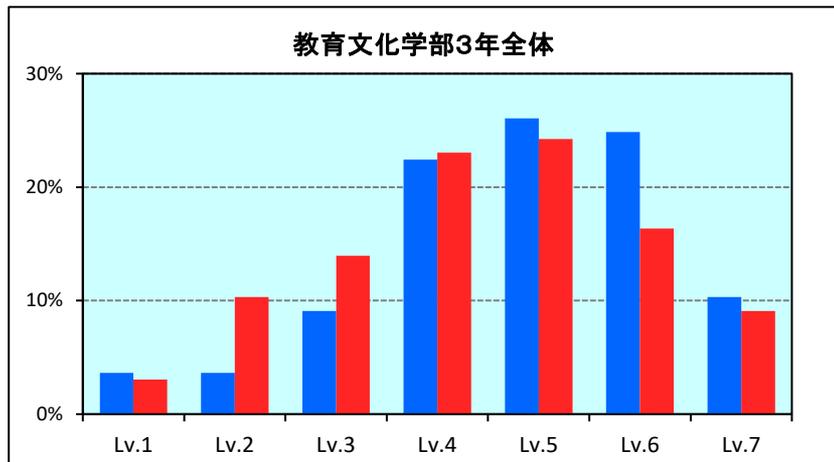
（※健康福祉学科3年は、受験者のサンプル数が少ないため参考値とお考えください。）



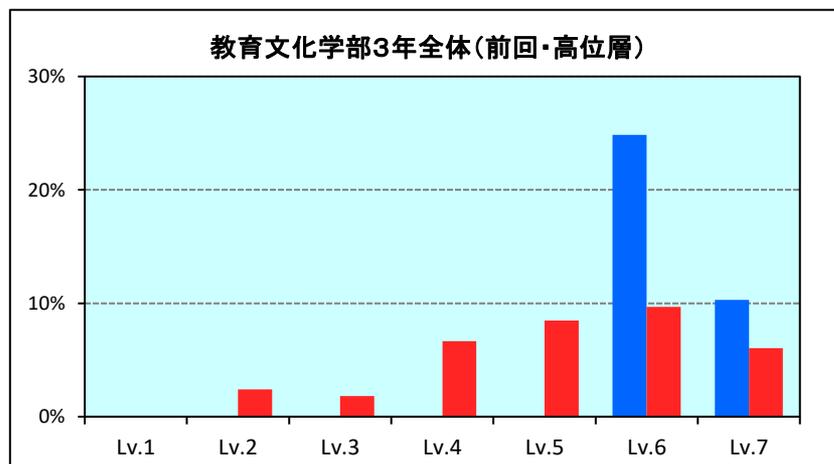
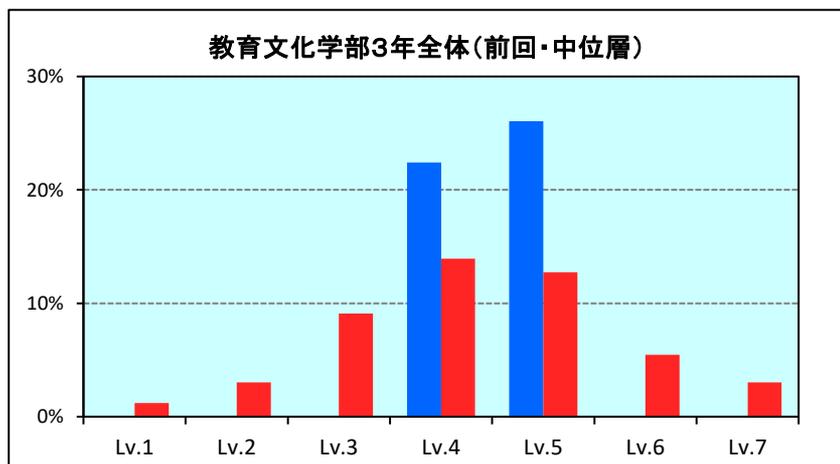
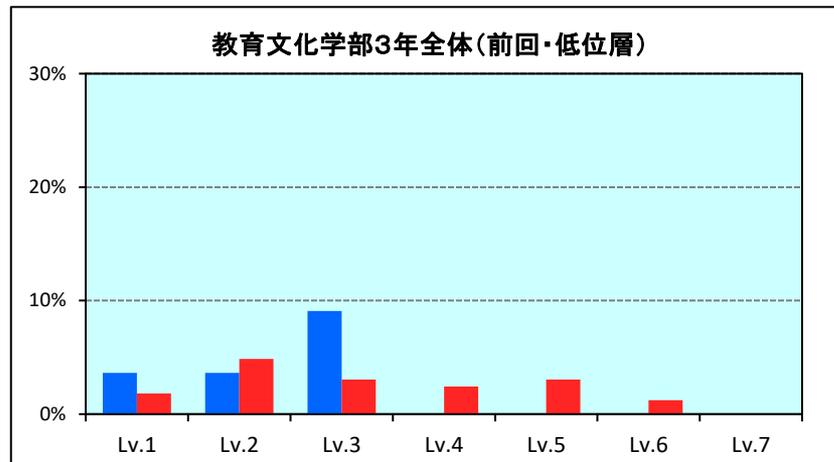


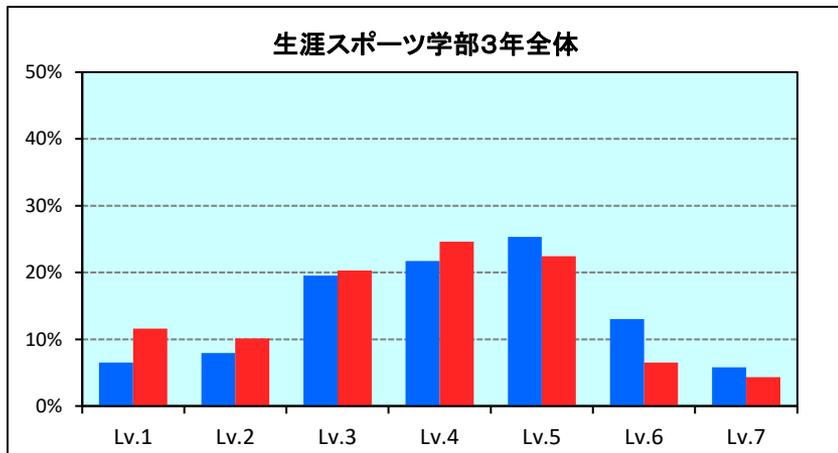
1年次受験に比べて、レベル6の割合が小さく、レベル1の割合が大きい。



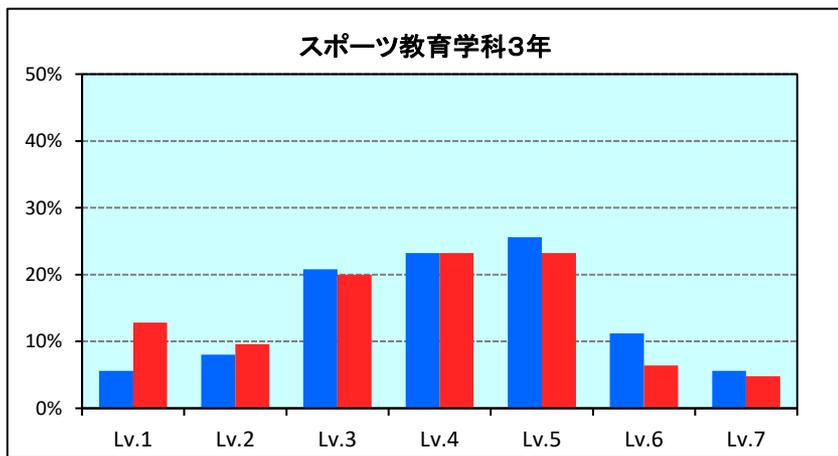


1年次受験に比べて、レベル6の割合が小さく、レベル2～3のボリュームが大きい。

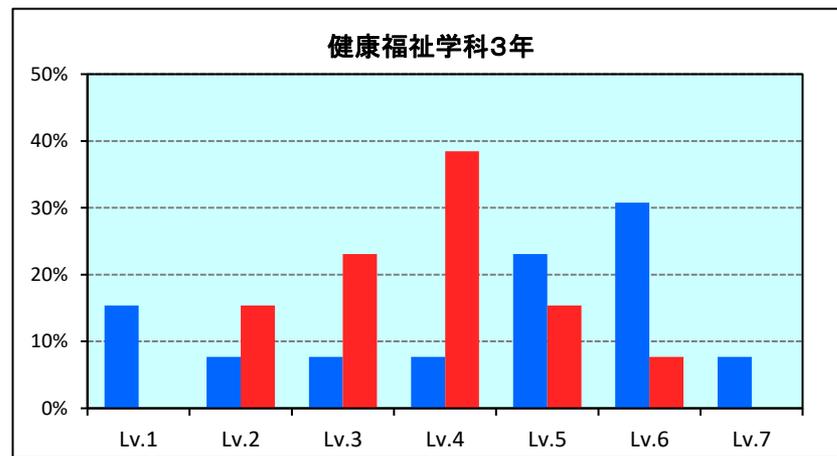




1年次受験に比べて、レベル6の割合が小さく、レベル1の割合が大きい。

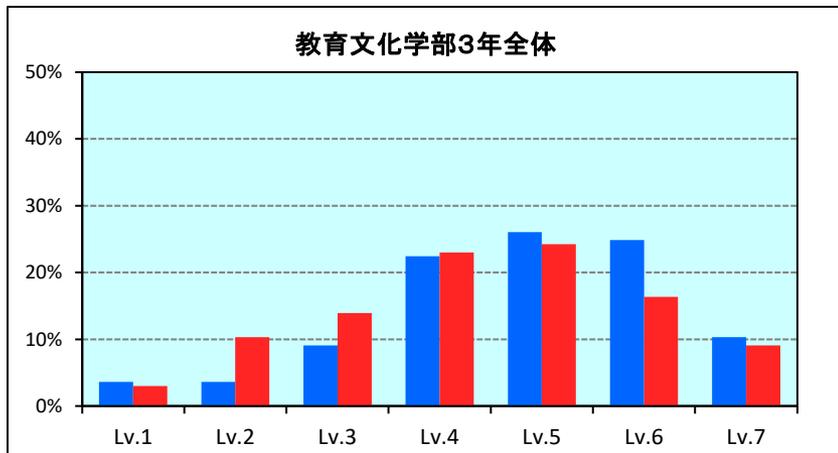


1年次受験に比べて、レベル6の割合が小さく、レベル1の割合が大きい。

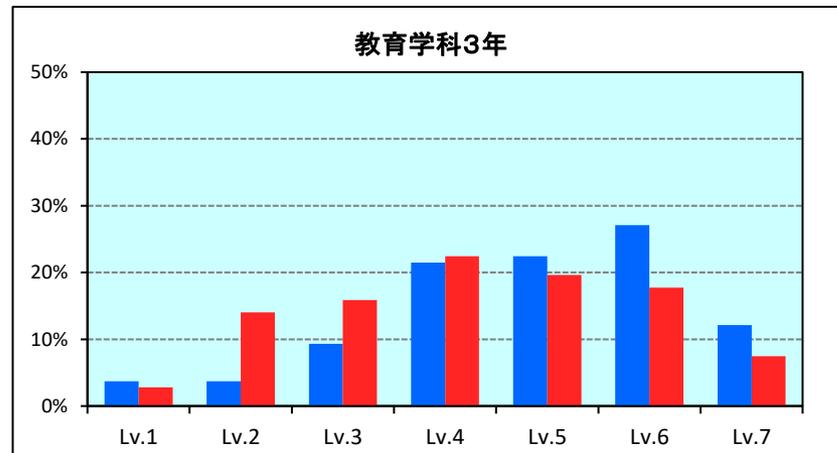


(※受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。)

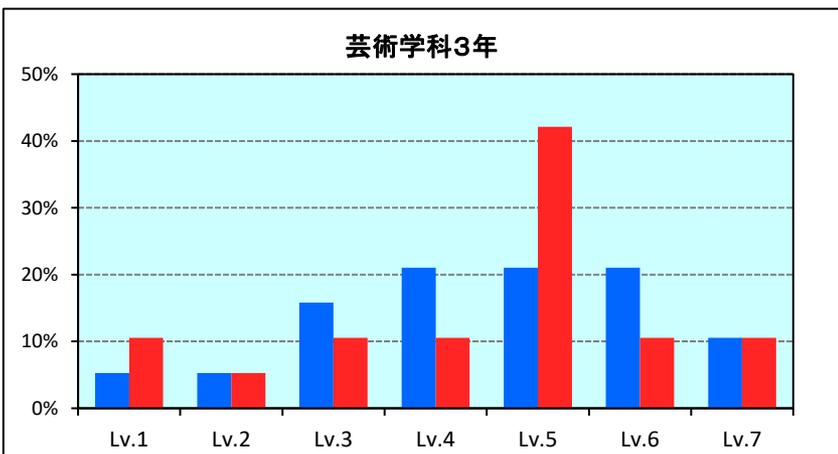
■ 1年次受験 ■ 今回受験



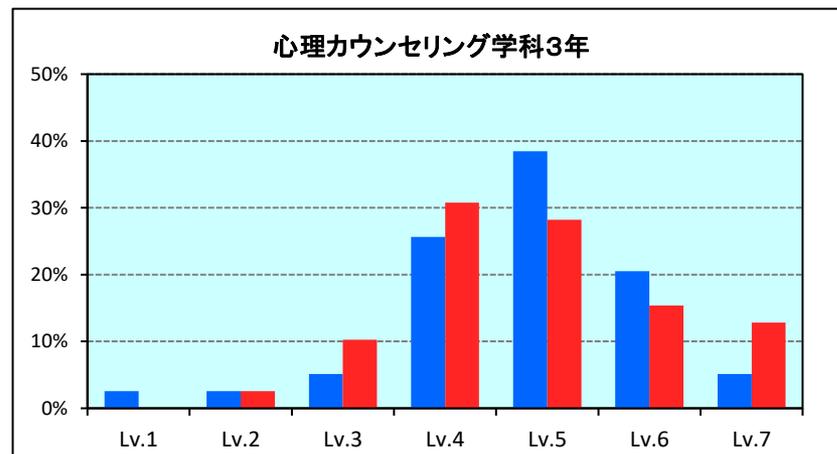
1年次受験に比べて、レベル6の割合が小さく、レベル2～3のボリュームが大きい。



1年次受験に比べて、レベル6～7のボリュームが小さく、レベル2～3のボリュームが大きい。



1年次受験に比べて、レベル3～4、レベル6のボリュームが小さく、レベル1、レベル5の割合が大きい。



1年次受験に比べて、レベル5～6のボリュームが小さく、レベル3～4、レベル7のボリュームが大きい。

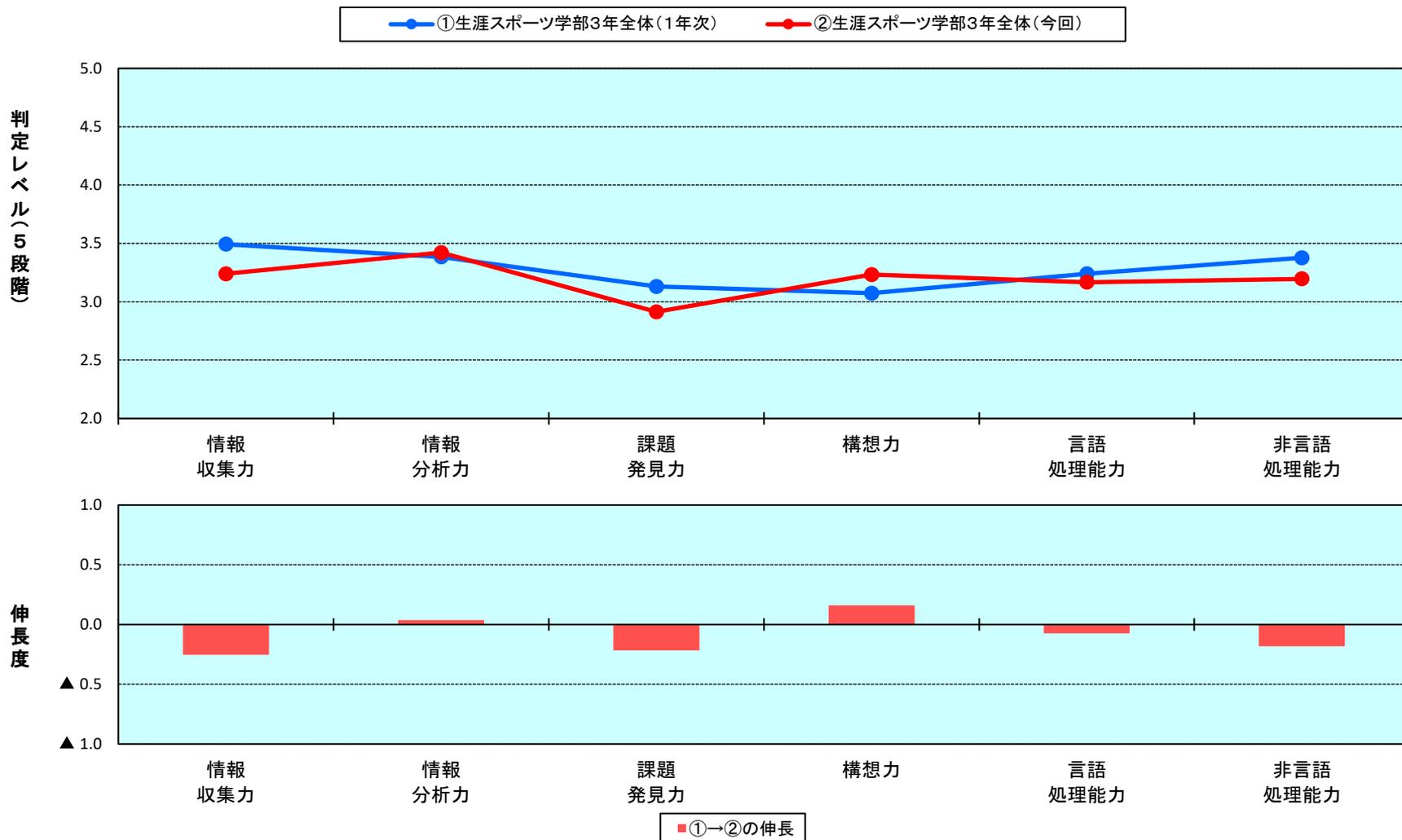
リテラシー要素（成長分析）①

【生涯スポーツ学部3年全体】

情報分析力、構想力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、情報収集力、課題発見力、言語処理能力、非言語処理能力は、1年次受験のスコアを下回る。

リテラシー要素 の伸長



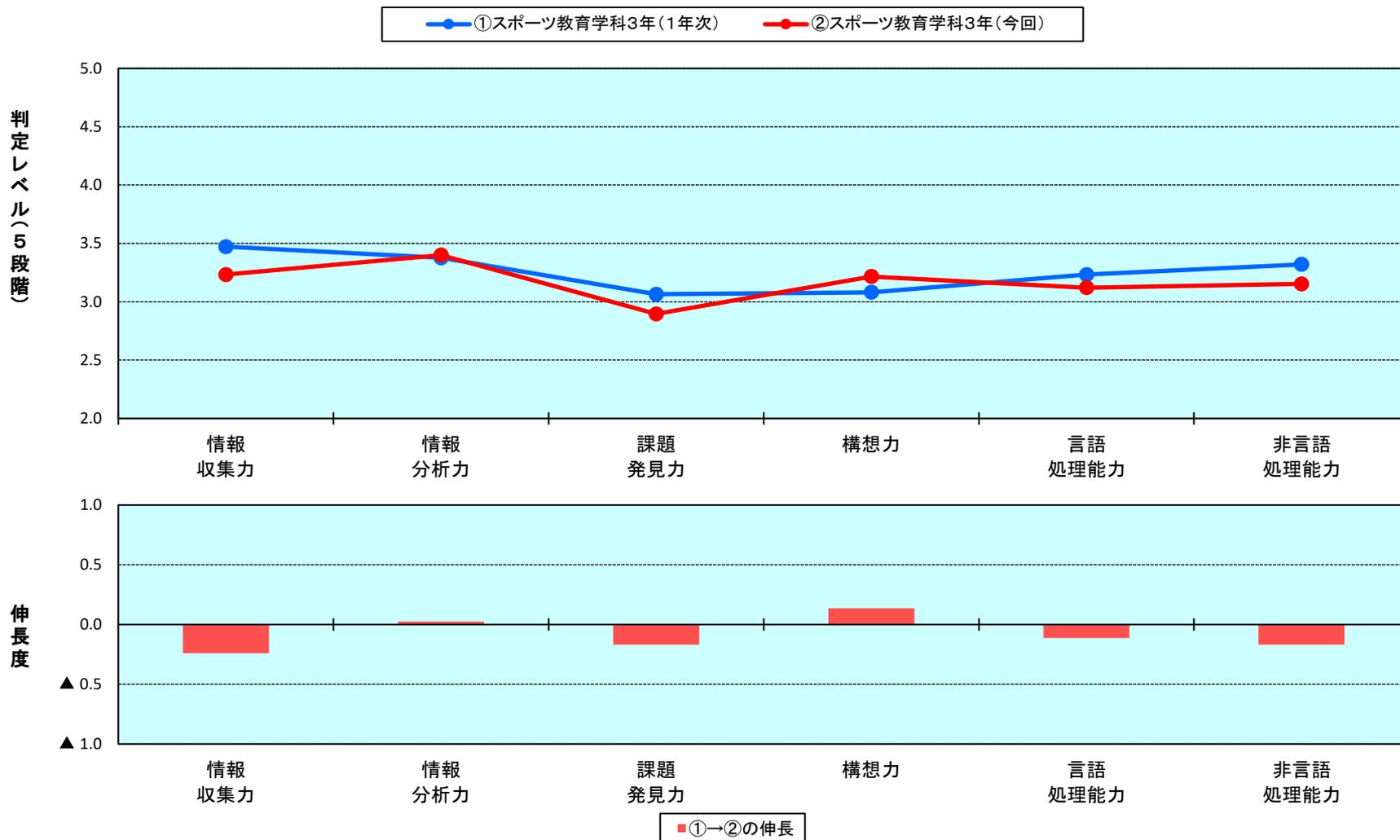
リテラシー要素（成長分析）②

【スポーツ教育学科3年】

情報分析力、構想力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、情報収集力、課題発見力、言語処理能力、非言語処理能力は、1年次受験のスコアを下回る。

リテラシー要素 の伸長



リテラシー要素（成長分析）③

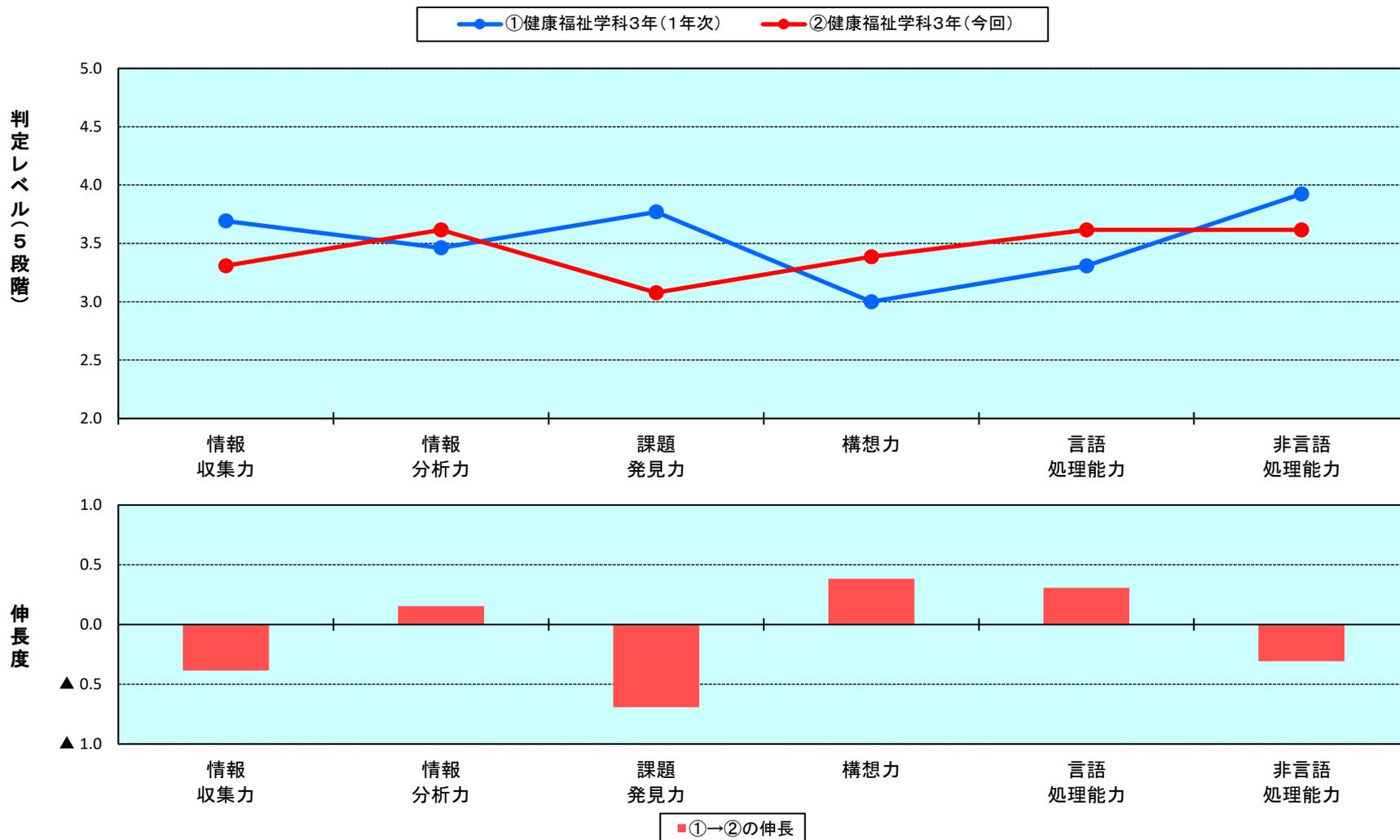
【健康福祉学科3年】

情報分析力、構想力、言語処理能力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、情報収集力、課題発見力、非言語処理能力は、1年次受験のスコアを下回る。

(※受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。)

リテラシー要素 の伸長



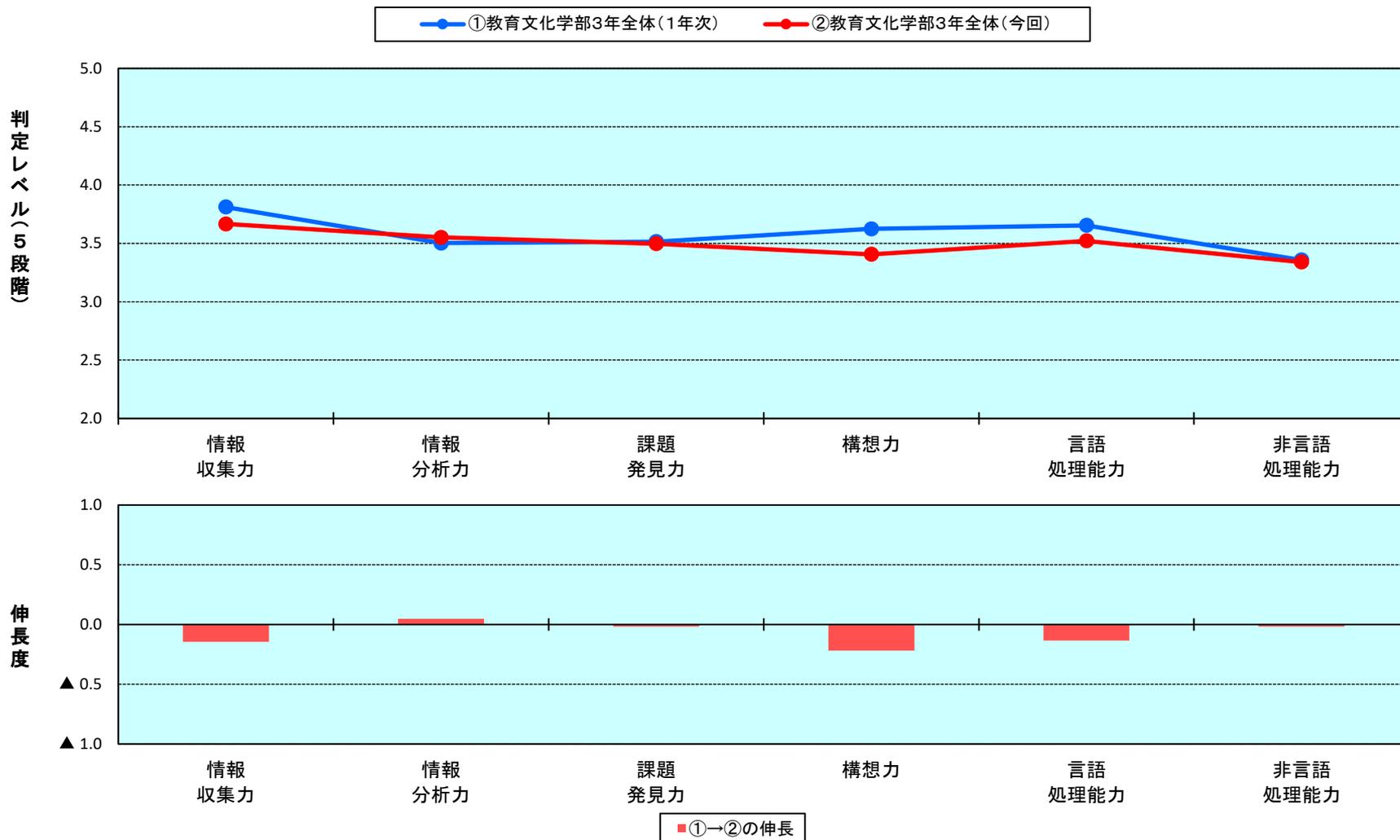
リテラシー要素（成長分析）④

【教育文化学部3年全体】

情報分析力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、情報収集力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、1年次受験のスコアを下回る。

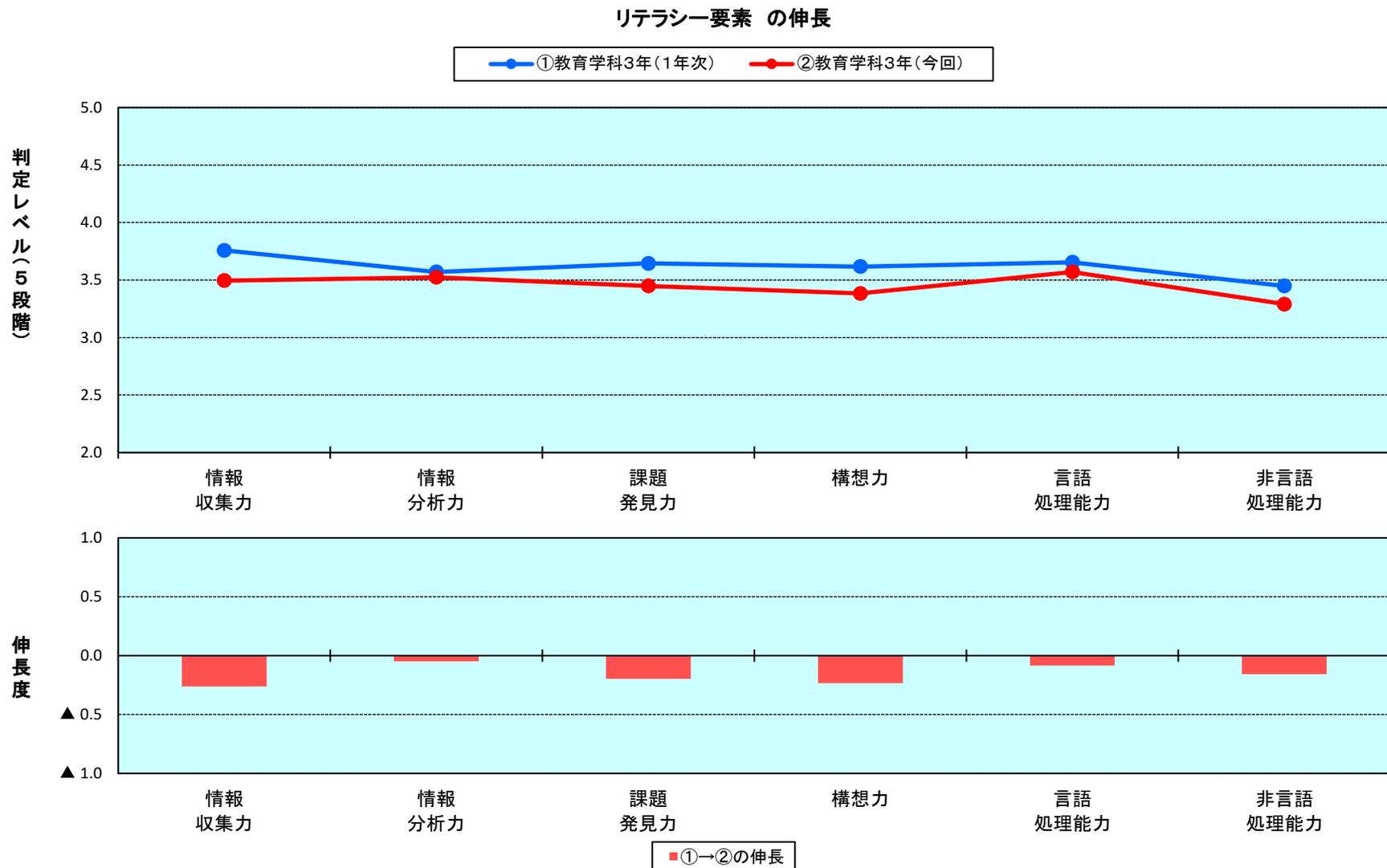
リテラシー要素 の伸長



リテラシー要素（成長分析）⑤

【教育学科3年】

情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、1年次受験のスコアを下回る。



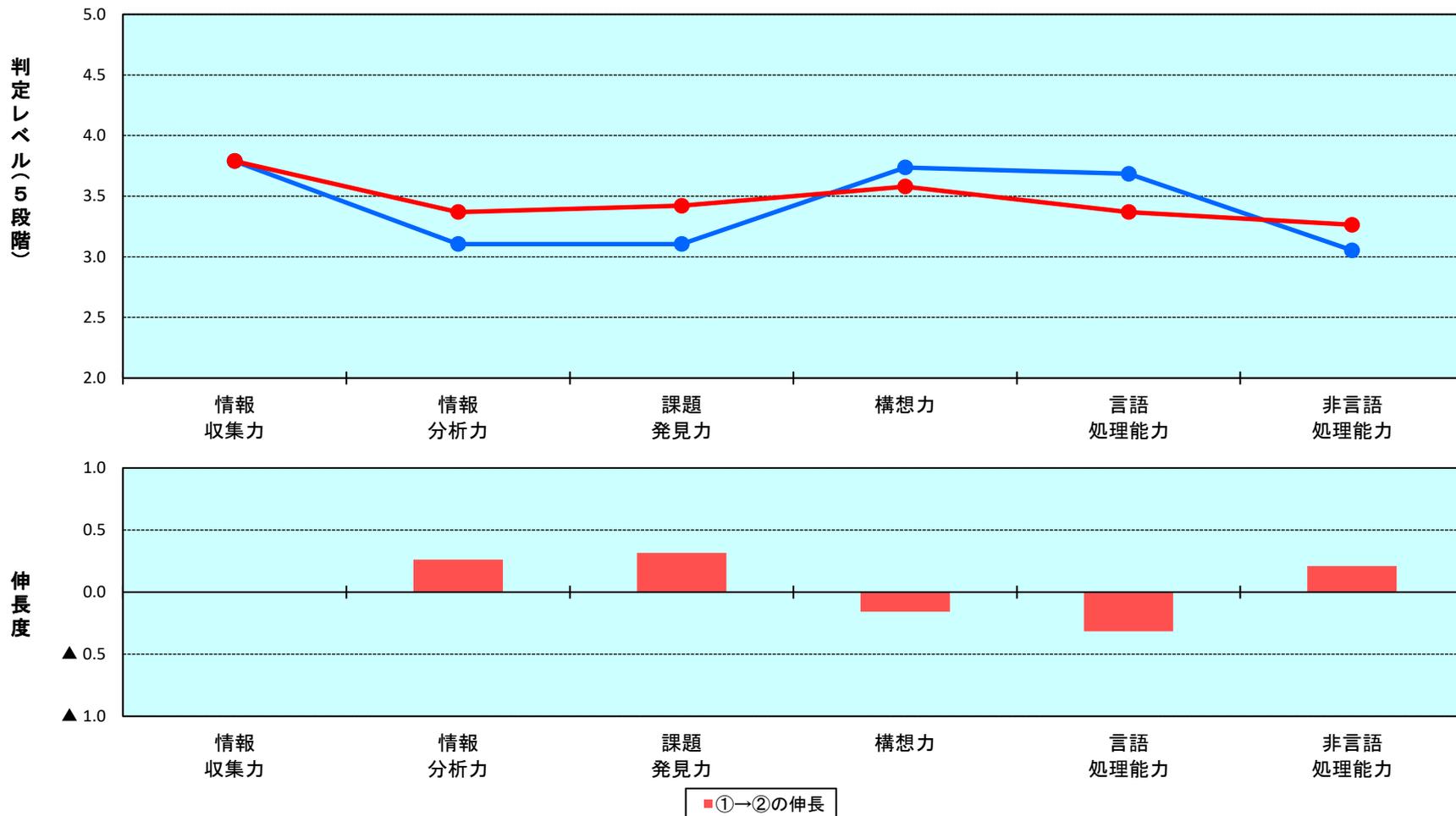
リテラシー要素（成長分析）⑥

【芸術学科3年】

情報分析力、課題発見力、非言語処理能力は、1年次受験のスコアを上回る。
一方、構想力、言語処理能力は、1年次受験のスコアを下回る。

リテラシー要素 の伸長

①芸術学科3年(1年次) ②芸術学科3年(今回)

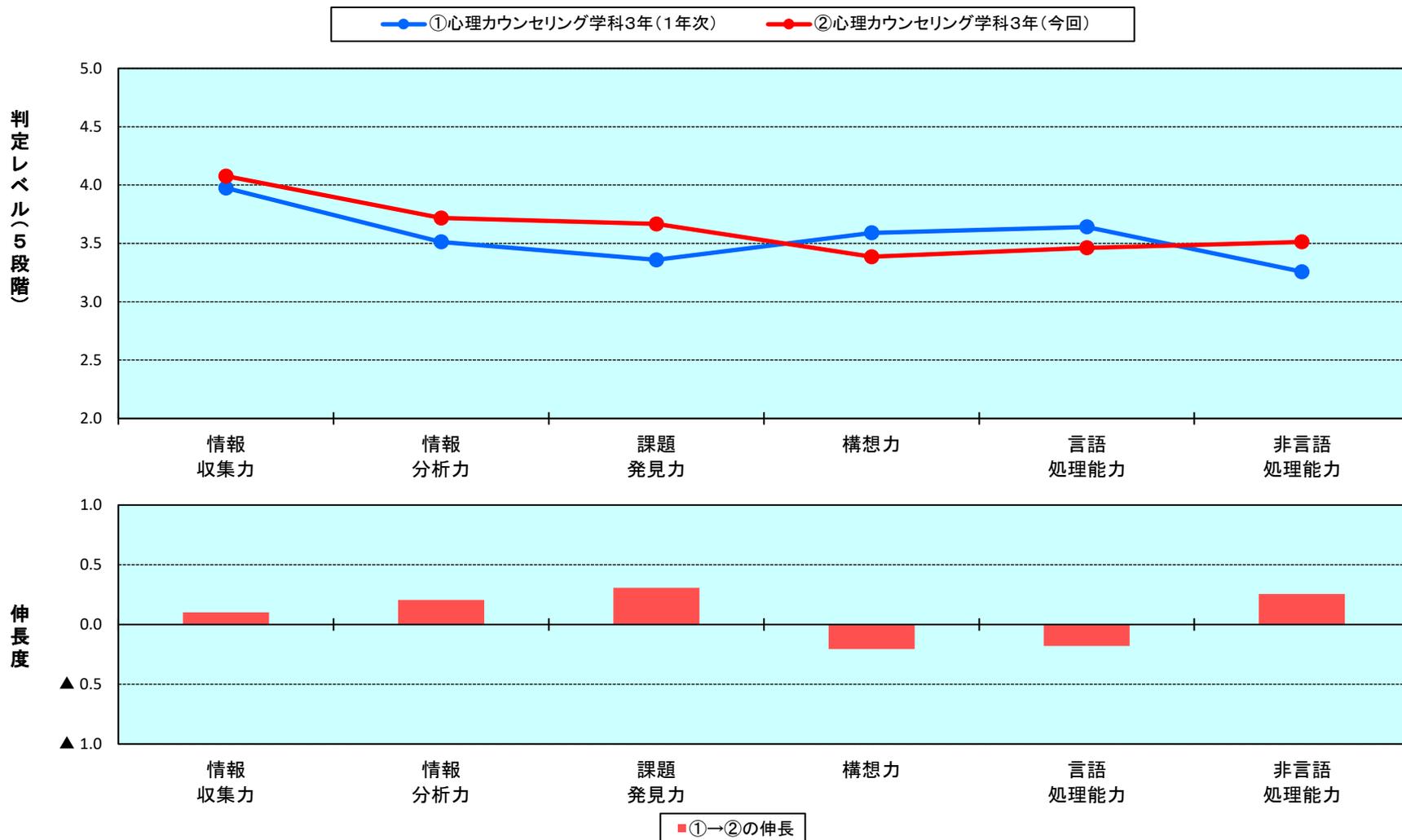


リテラシー要素（成長分析）⑦

【心理カウンセリング学科3年】

情報収集力、情報分析力、課題発見力、非言語処理能力は、1年次受験のスコアを上回る。
一方、構想力、言語処理能力は、1年次受験のスコアを下回る。

リテラシー要素 の伸長

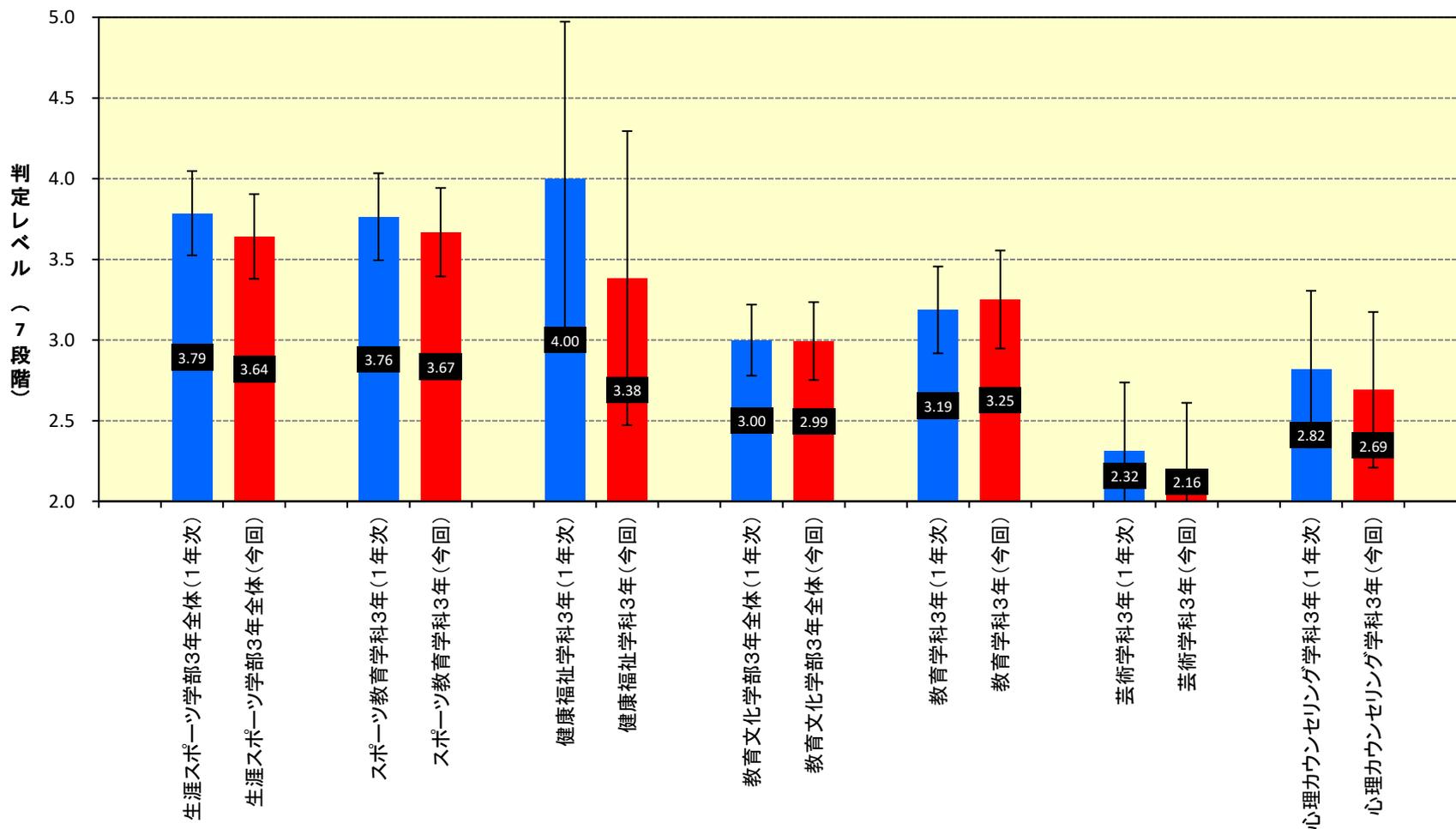


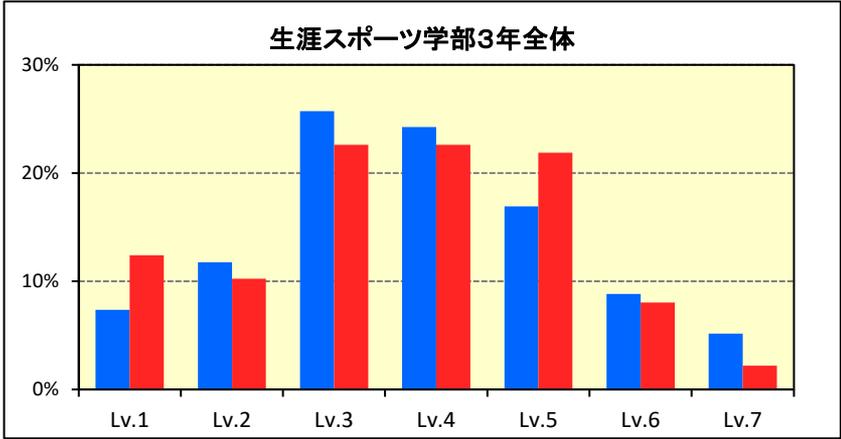
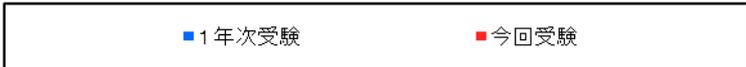
コンピテンシー総合（成長分析）

- 教育学科3年は、1年次受験のスコアを上回る。
- 生涯スポーツ学部3年全体、スポーツ教育学科3年、健康福祉学科3年、教育文化学部3年全体、芸術学科3年、心理カウンセリング学科3年は、1年次受験のスコアを下回る。

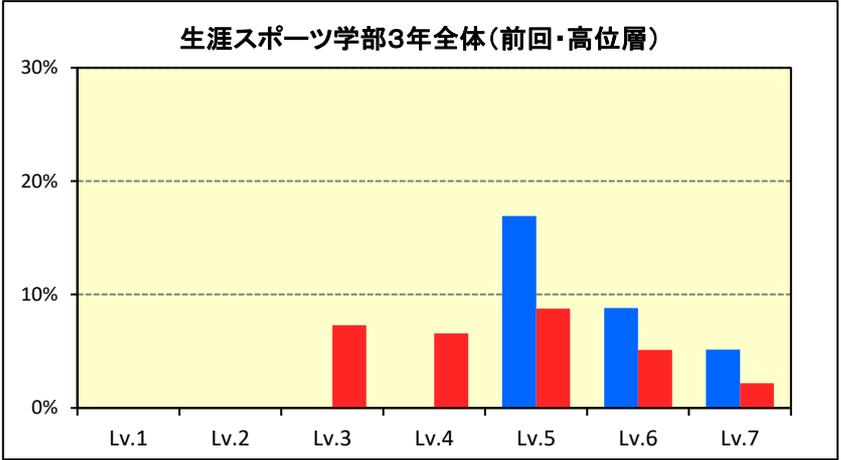
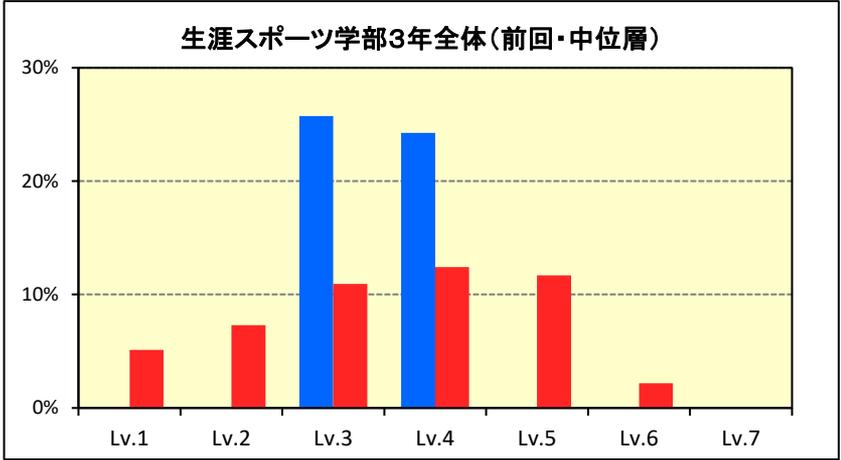
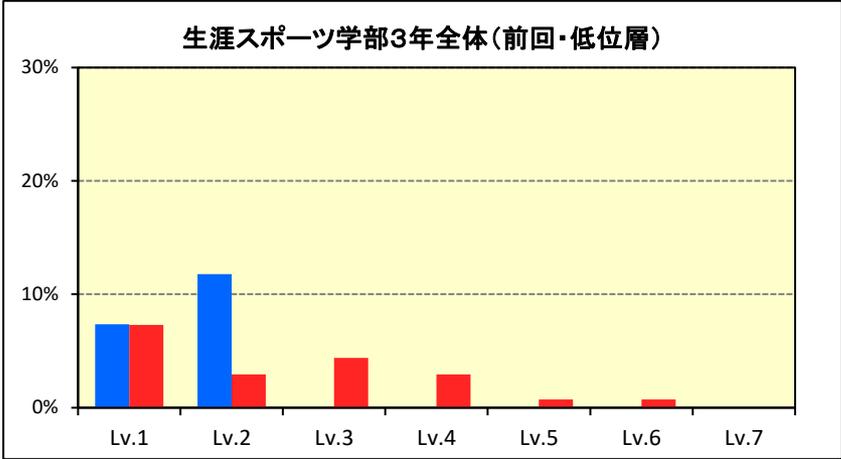
（※健康福祉学科3年は、受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。）

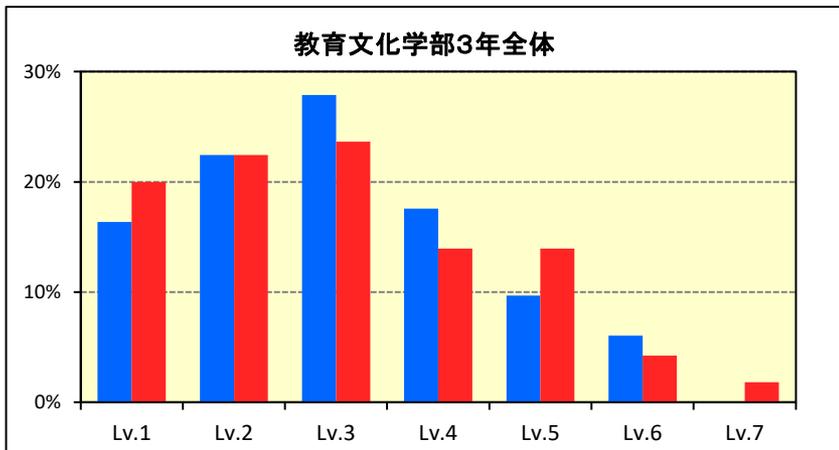
コンピテンシー総合



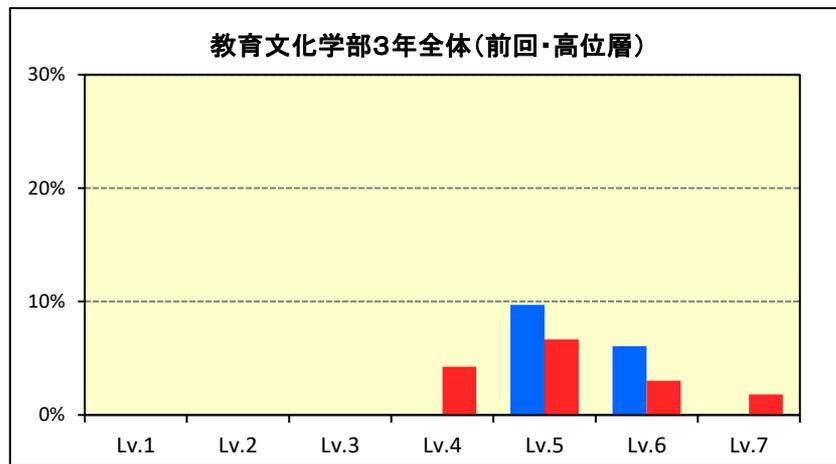
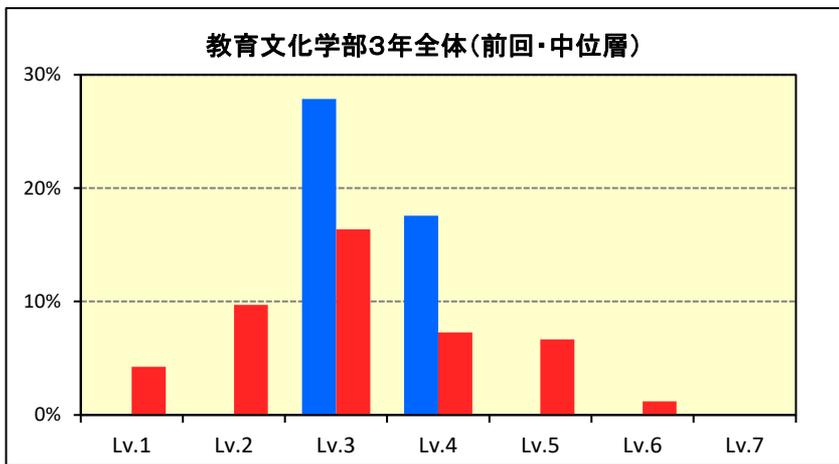
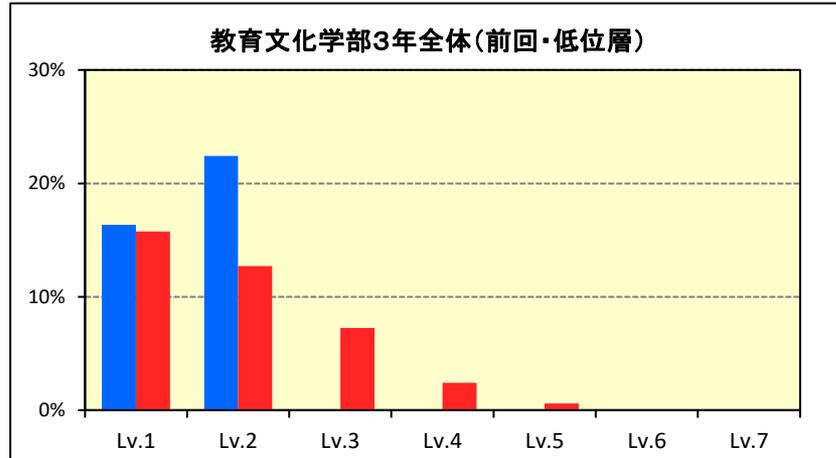


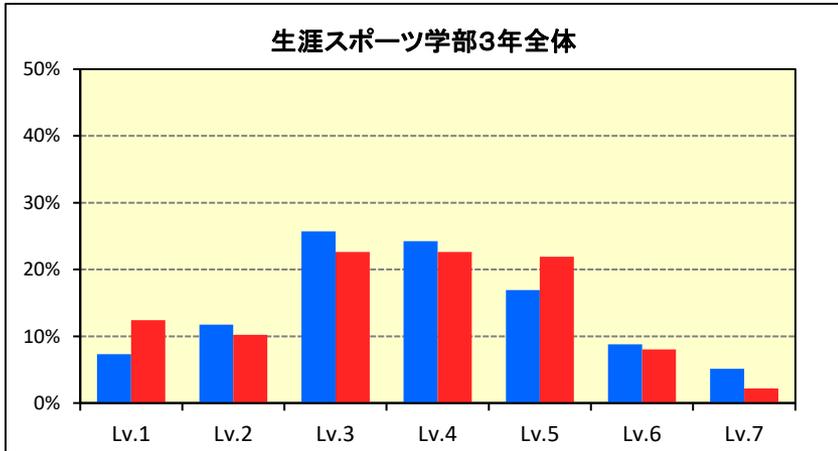
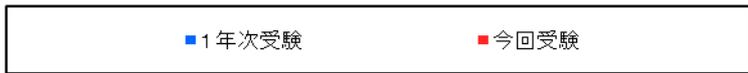
1年次受験に比べて、レベル3の割合が小さく、レベル1、レベル5の割合が大きい。



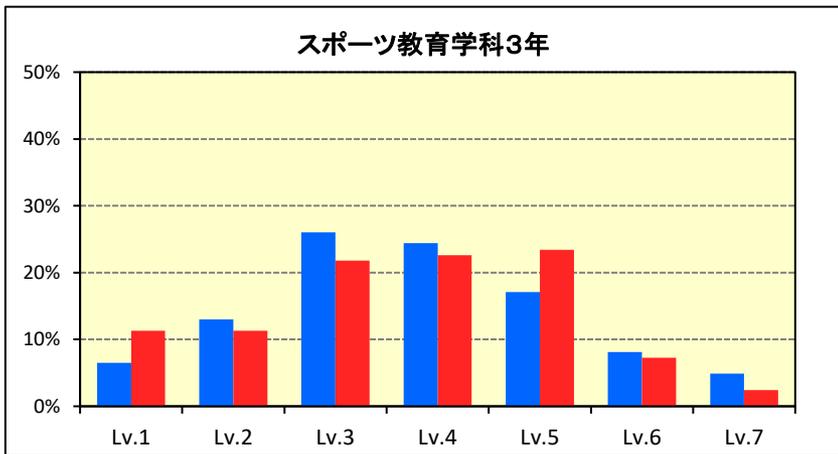


1年次受験に比べて、レベル3～4のボリュームが小さく、レベル1、レベル5の割合が大きい。

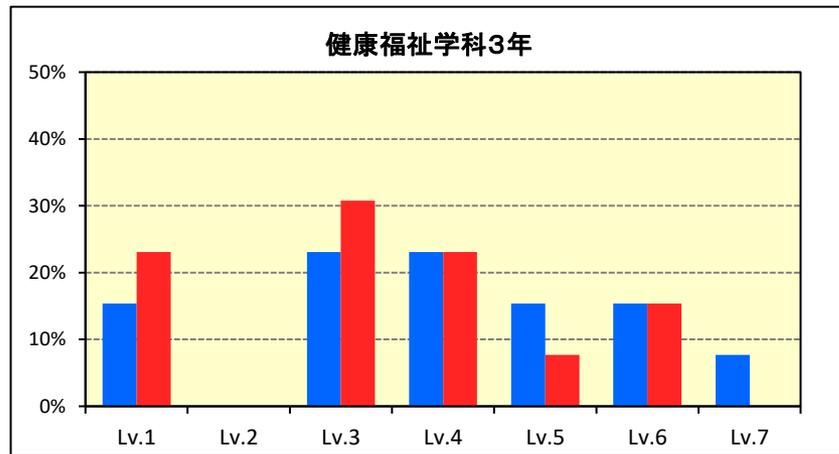




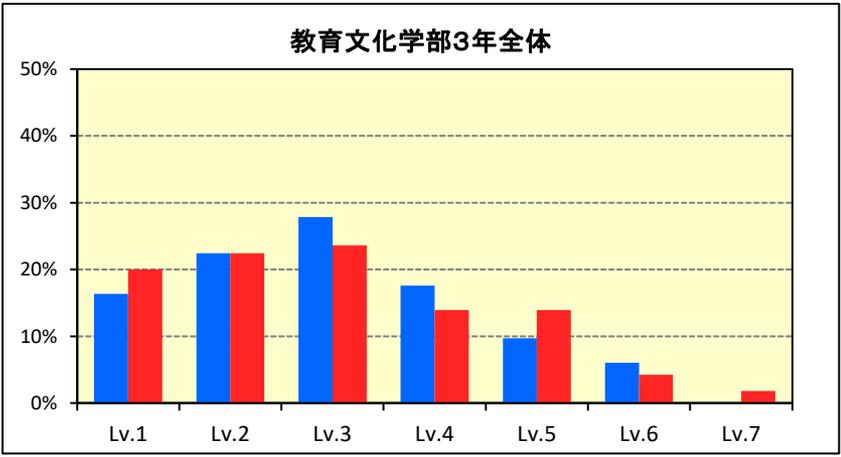
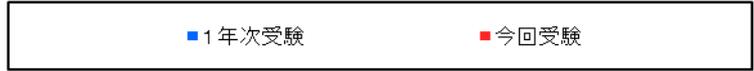
1年次受験に比べて、レベル3の割合が小さく、レベル1、レベル5の割合が大きい。



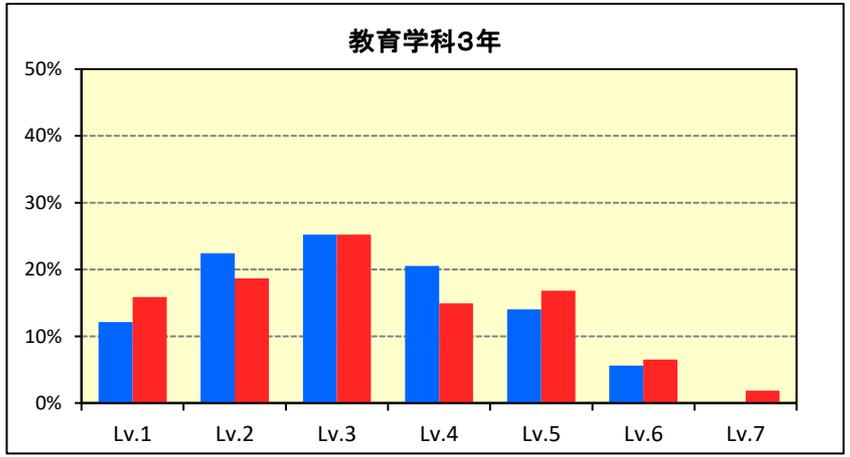
1年次受験に比べて、レベル3の割合が小さく、レベル1、レベル5の割合が大きい。



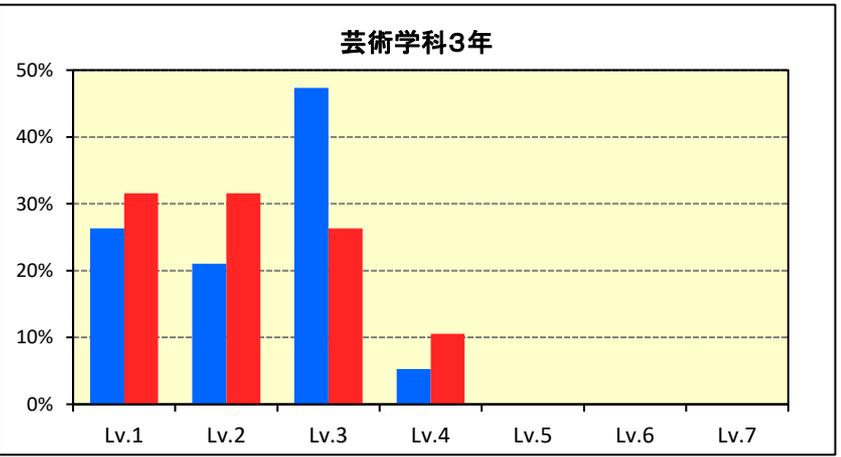
(※受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。)



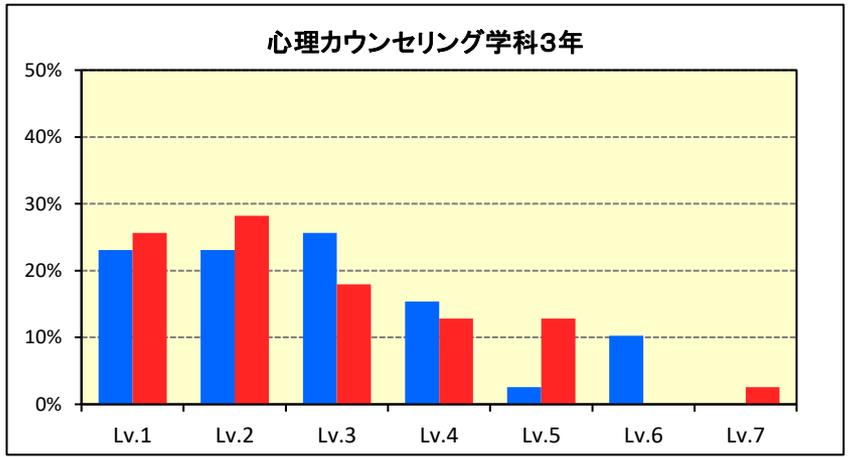
1年次受験に比べて、レベル3~4のボリュームが小さく、レベル1、レベル5の割合が大きい。



1年次受験に比べて、レベル2、レベル4の割合が小さく、レベル1の割合が大きい。



1年次受験に比べて、レベル3の割合が小さく、レベル1~2、レベル4のボリュームが大きい。



1年次受験に比べて、レベル3、レベル6の割合が小さく、レベル2、レベル5の割合が大きい。

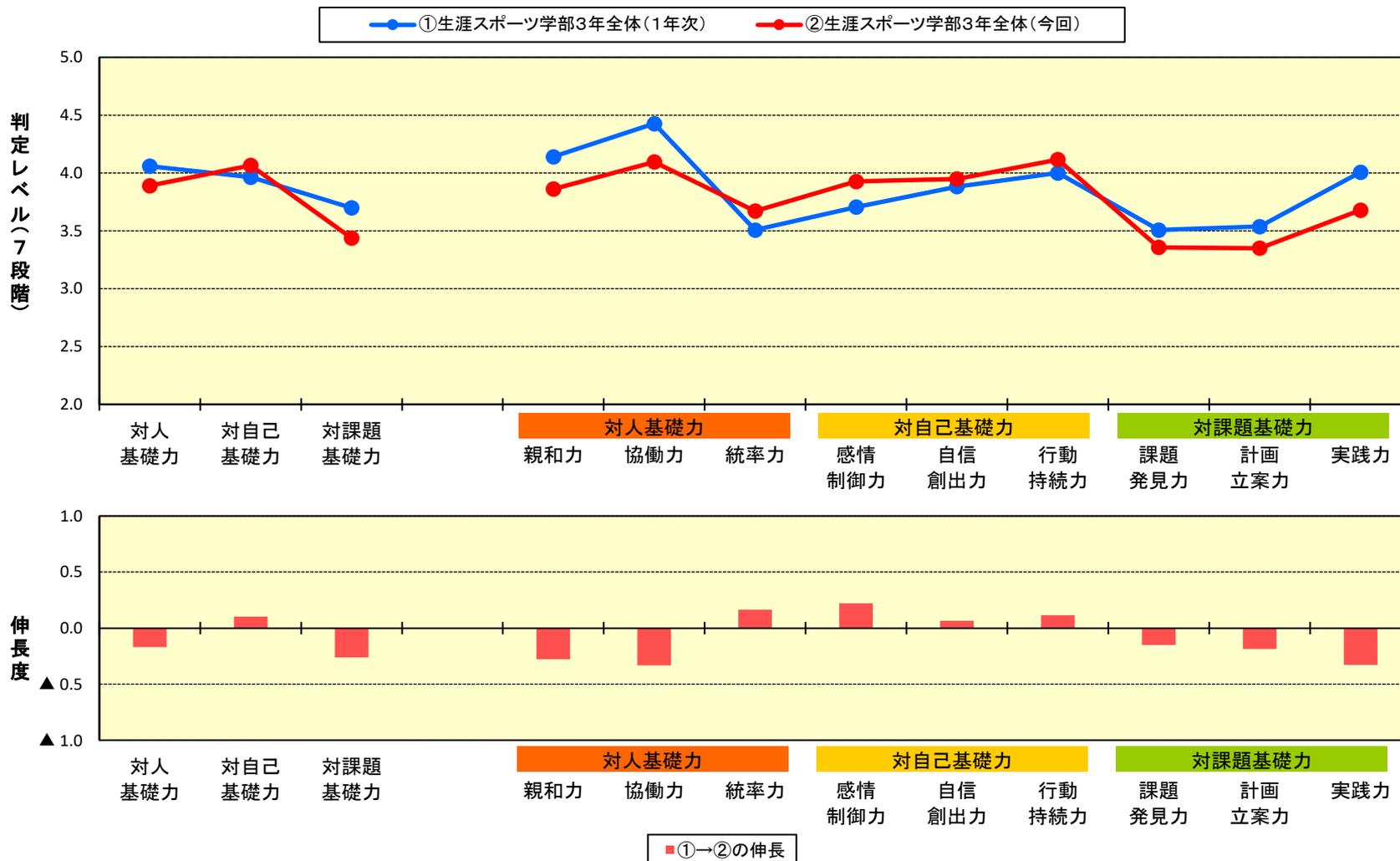
コンピテンシー大分類要素（成長分析）①

【生涯スポーツ学部3年全体】

統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、課題発見力、計画立案力、実践力は、1年次受験のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長

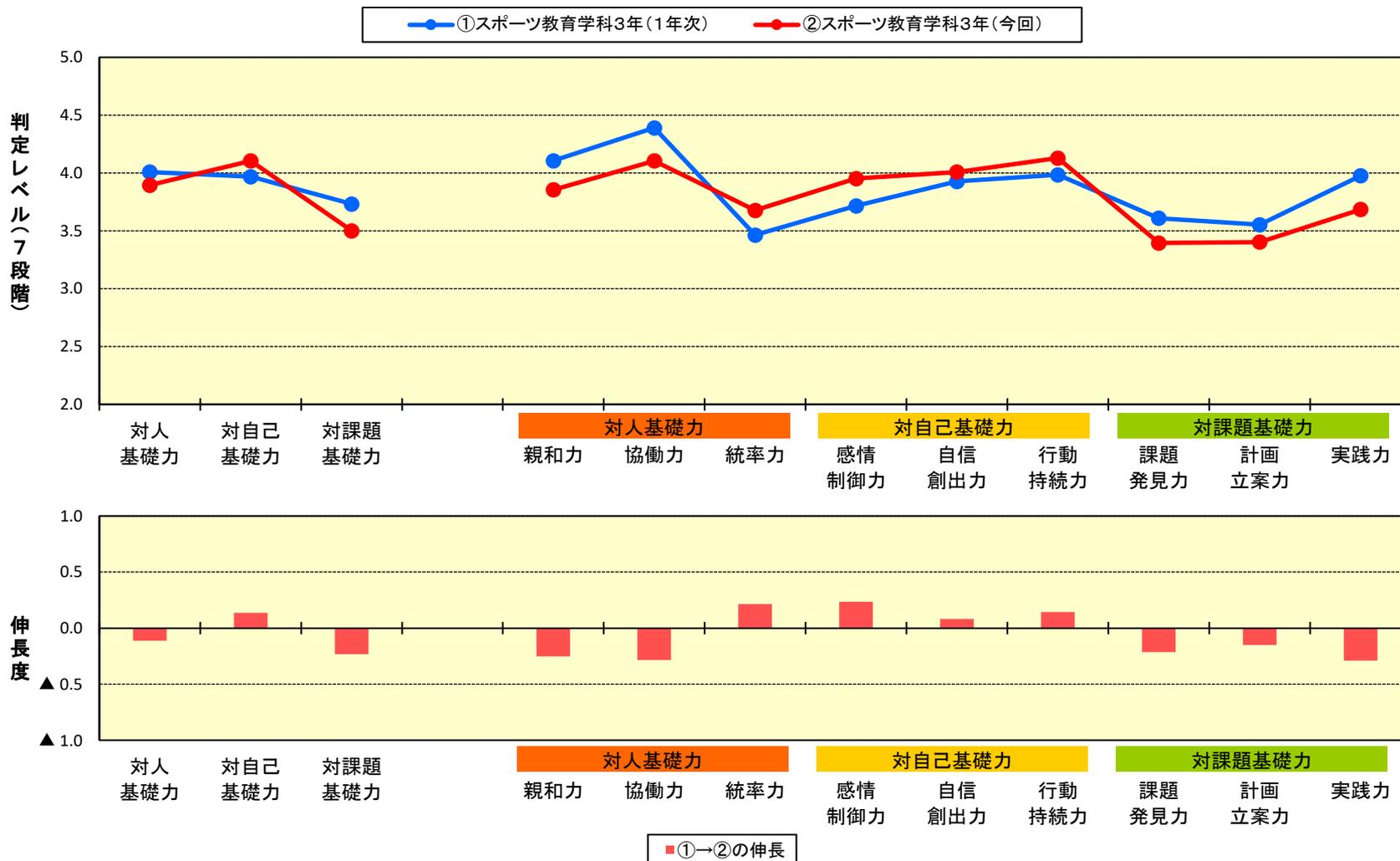


【スポーツ教育学科3年】

統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、課題発見力、計画立案力、実践力は、1年次受験のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長



コンピテンシー大分類要素（成長分析）③

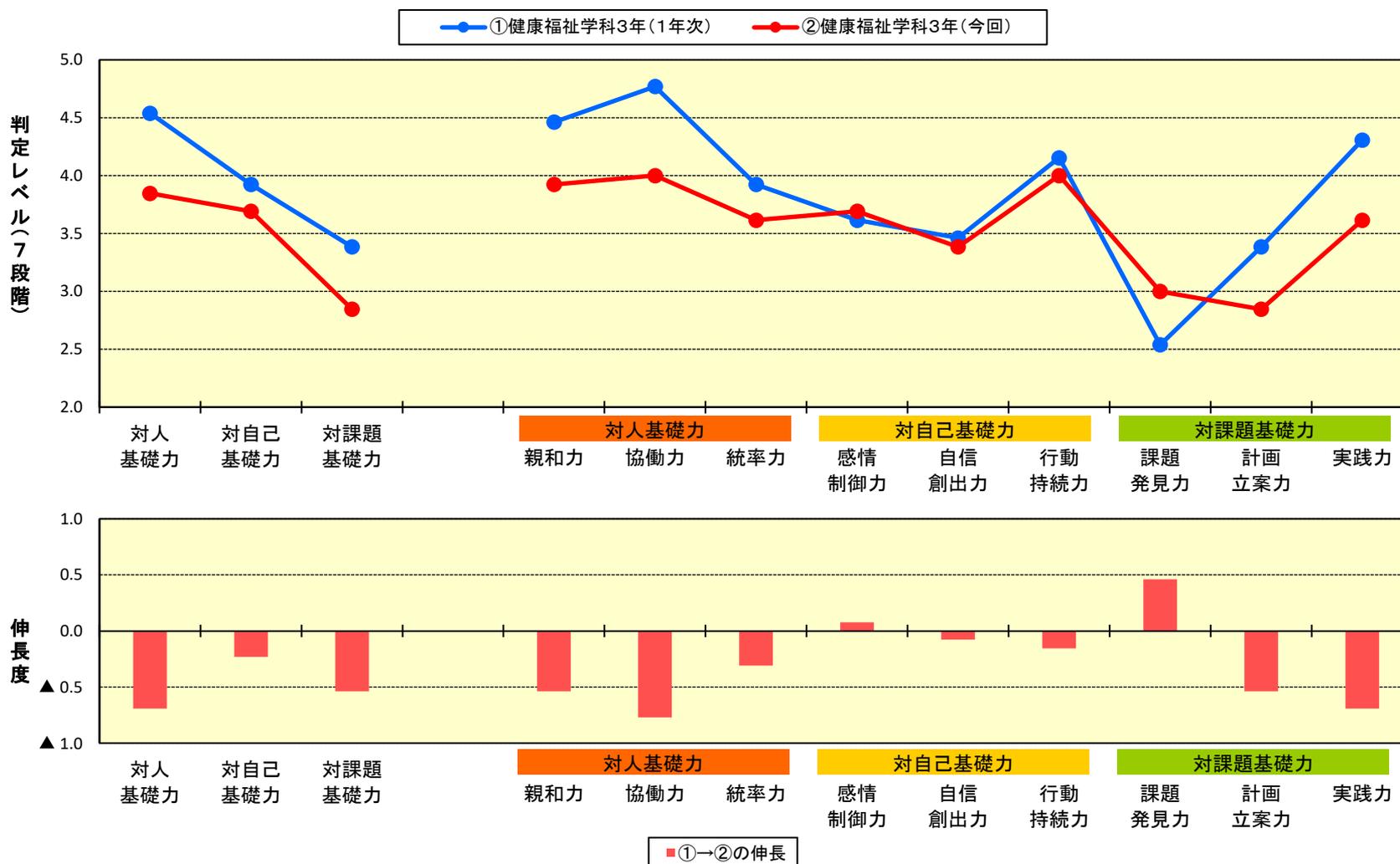
【健康福祉学科3年】

感情制御力、課題発見力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、統率力、自信創出力、行動持続力、計画立案力、実践力は、1年次受験のスコアを下回る。

（※受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。）

コンピテンシー要素の伸長

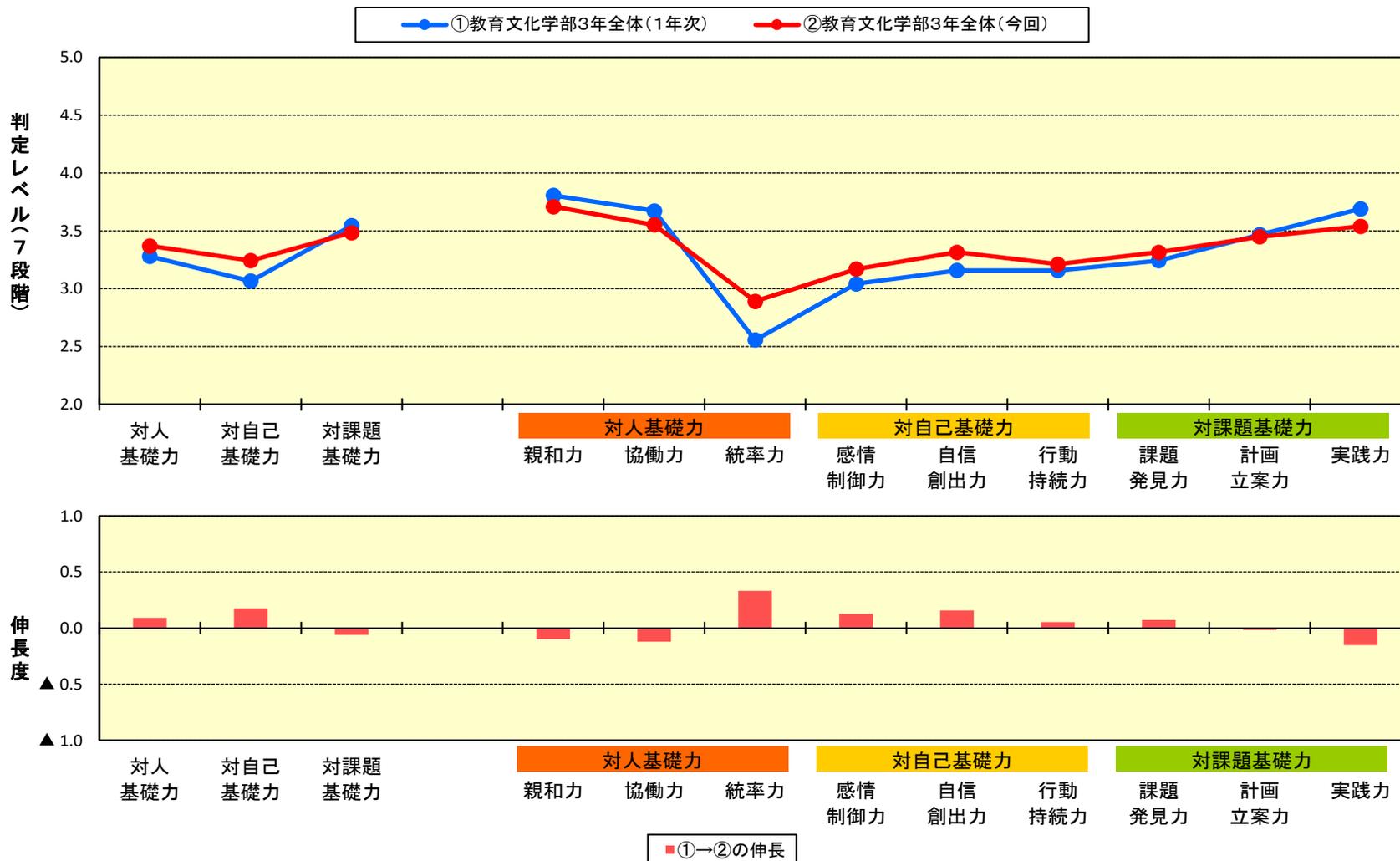


コンピテンシー大分類要素（成長分析）④

【教育文化学部3年全体】

統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力は、1年次受験のスコアを上回る。
 一方、親和力、協働力、計画立案力、実践力は、1年次受験のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長

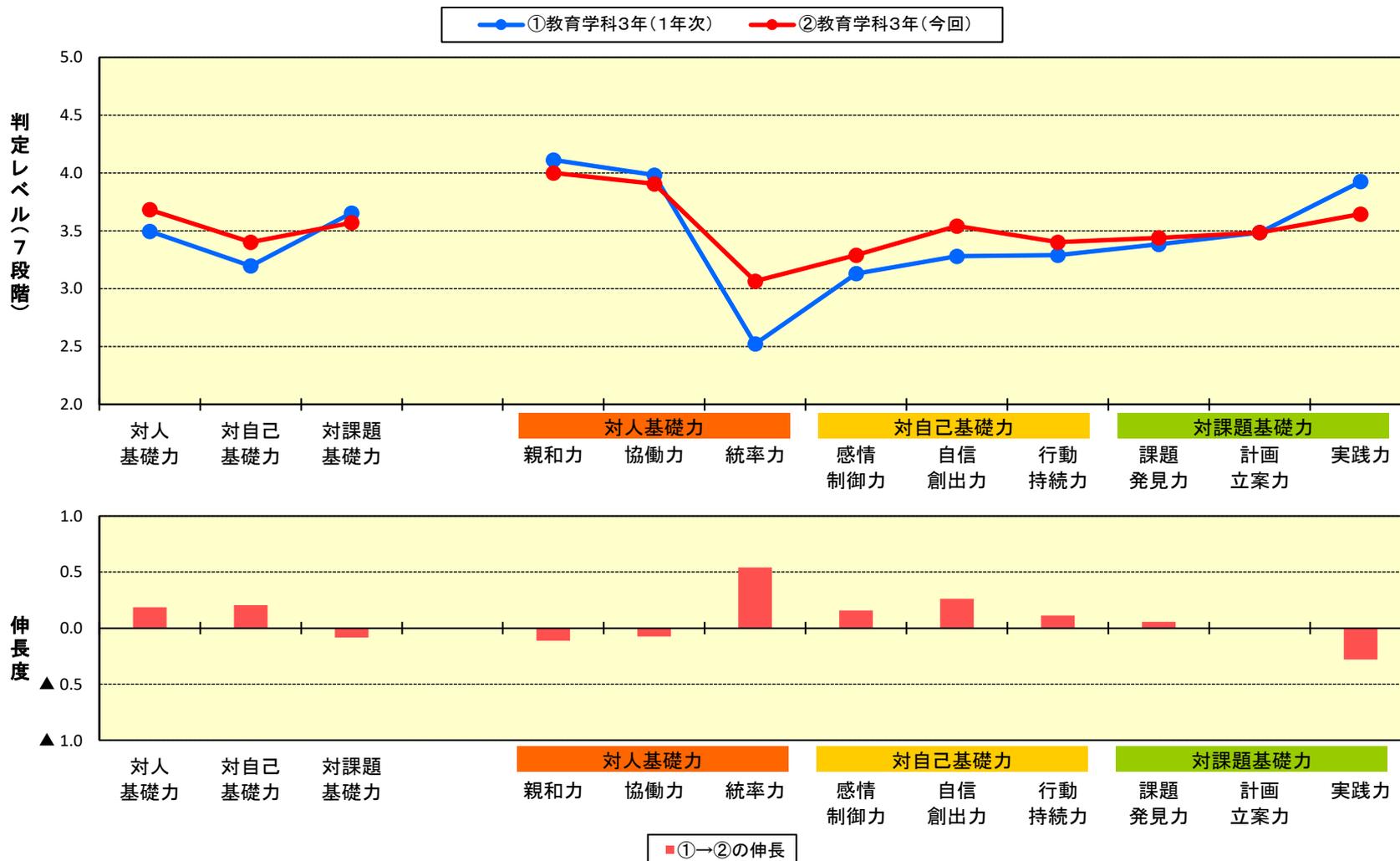


コンピテンシー大分類要素（成長分析）⑤

【教育学科3年】

統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力は、1年次受験のスコアを上回る。
一方、親和力、協働力、実践力は、1年次受験のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長

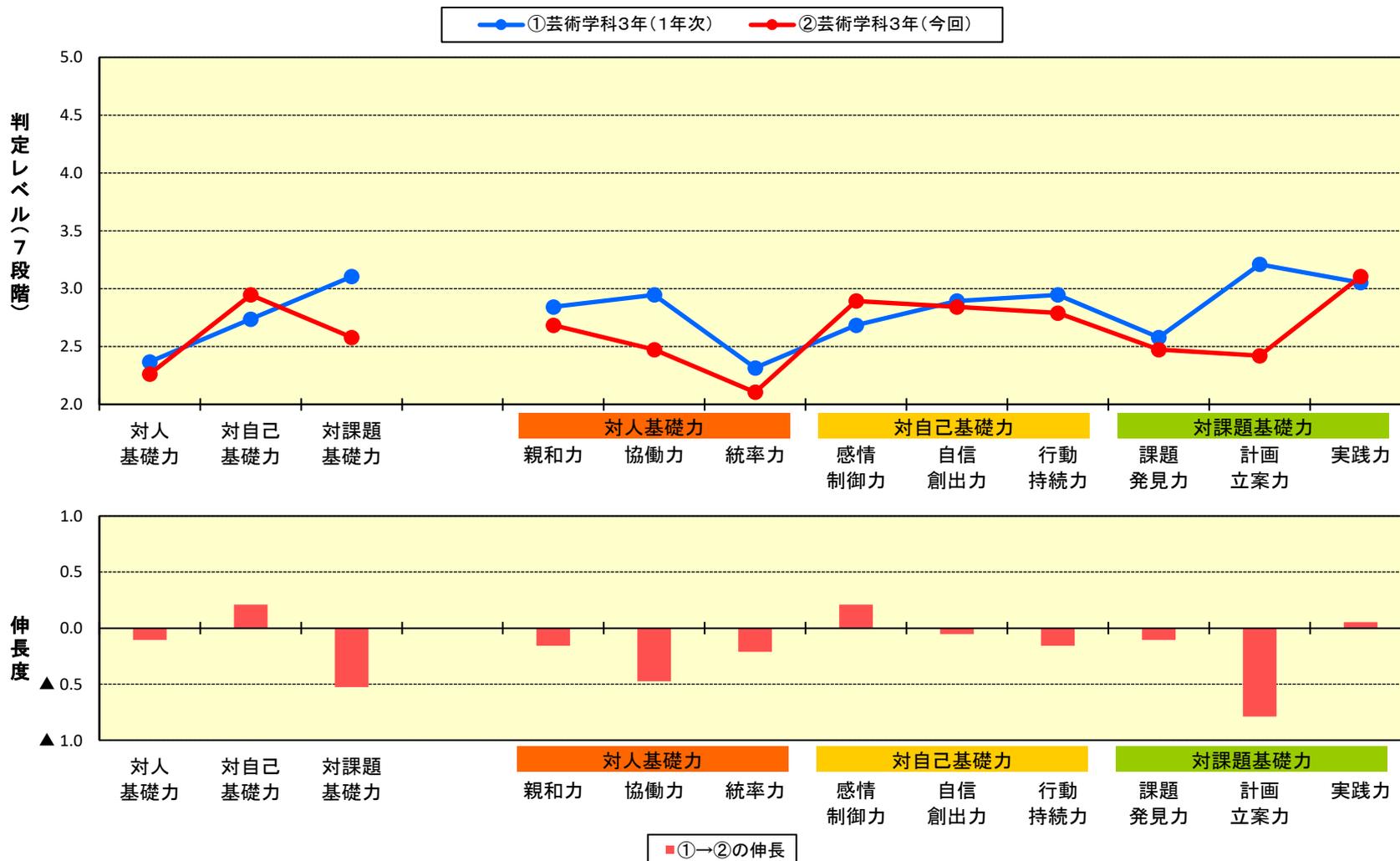


【芸術学科3年】

感情制御力、実践力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、統率力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力は、1年次受験のスコアを下回る。

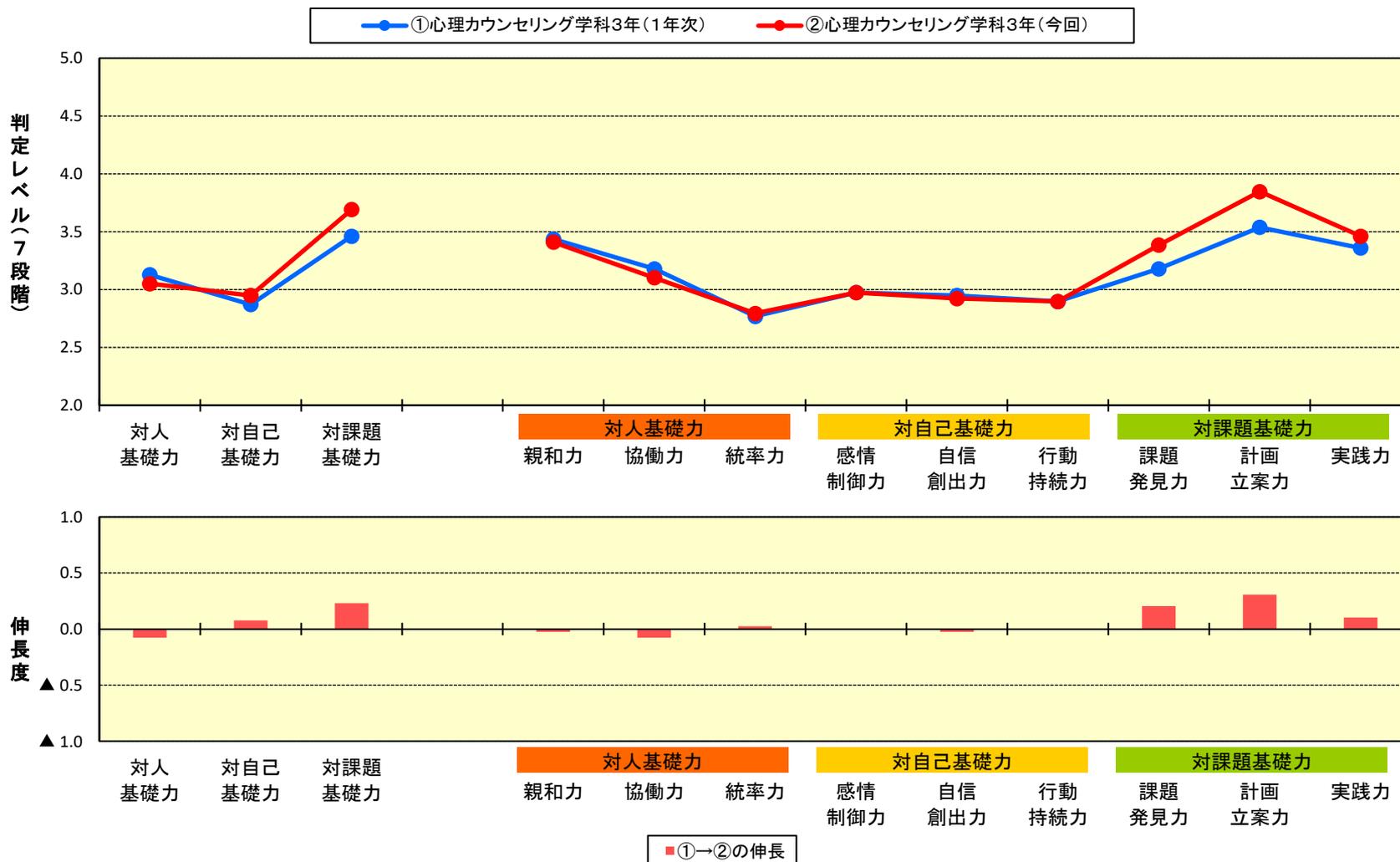
コンピテンシー要素の伸長



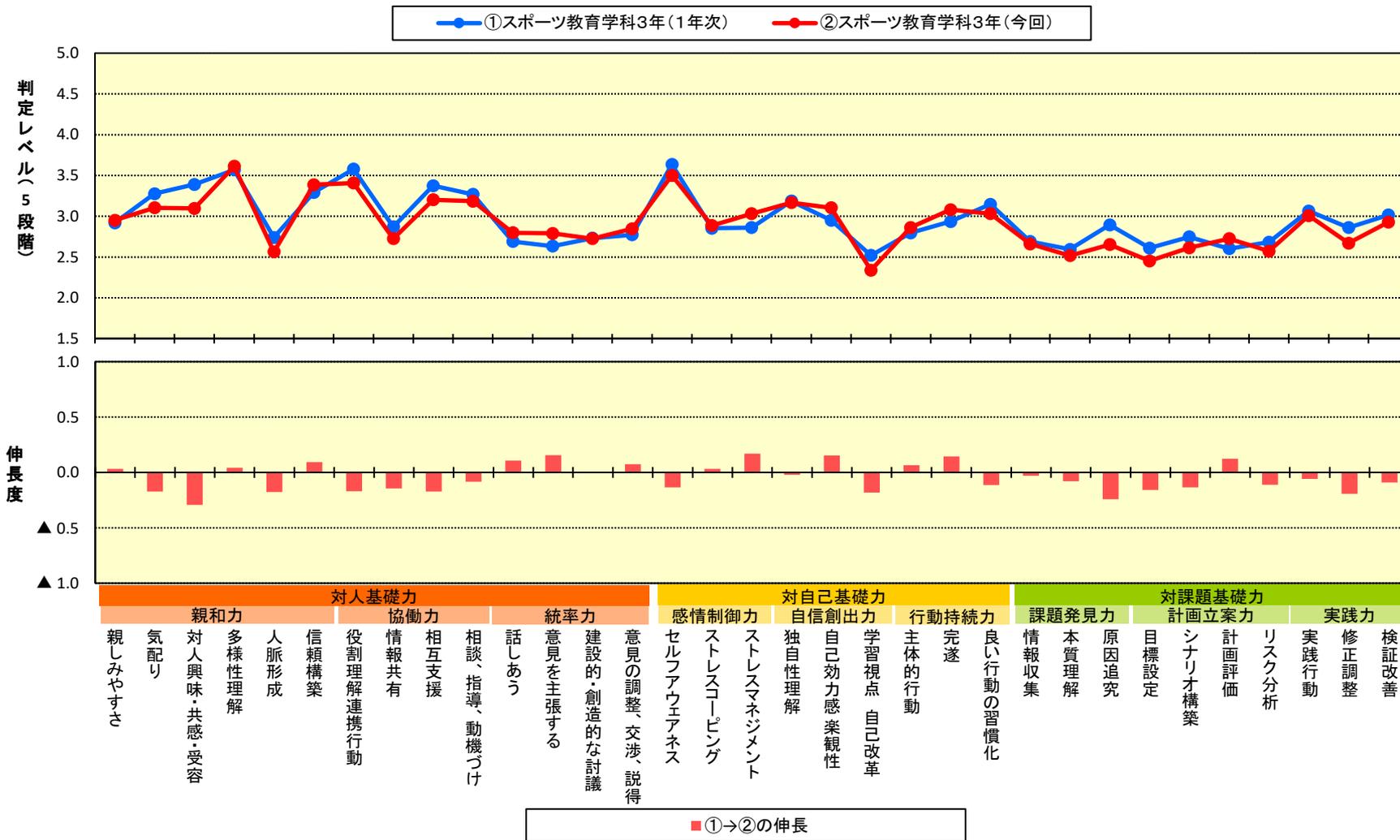
【心理カウンセリング学科3年】

統率力、課題発見力、計画立案力、実践力は、1年次受験のスコアを上回る。
 一方、親和力、協働力、自信創出力は、1年次受験のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長



コンピテンシー小分類要素

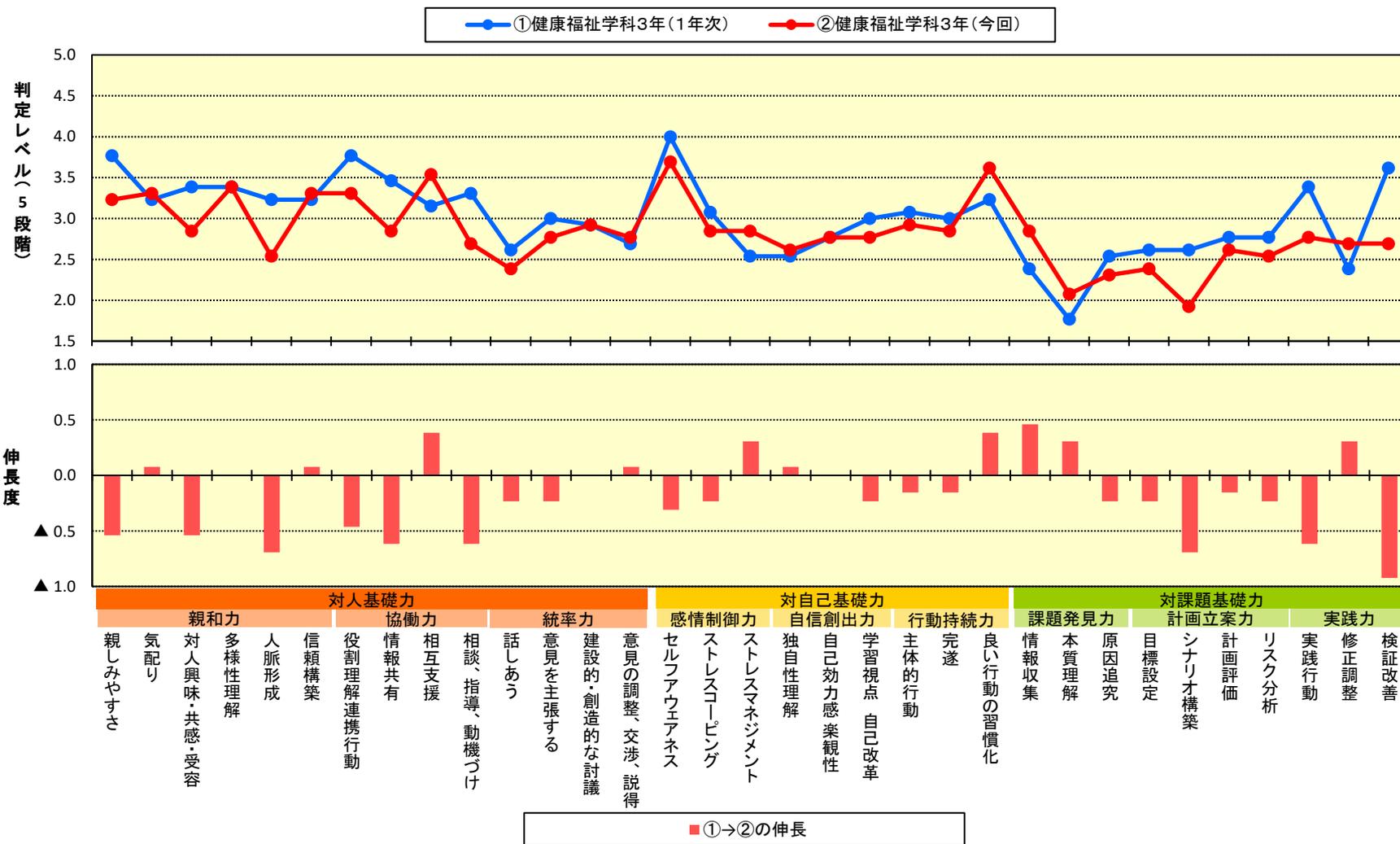


コンピテンシー小分類要素（成長分析）③

【健康福祉学科3年】

（※受験者のサンプル数が少ないため、参考値とお考えください。）

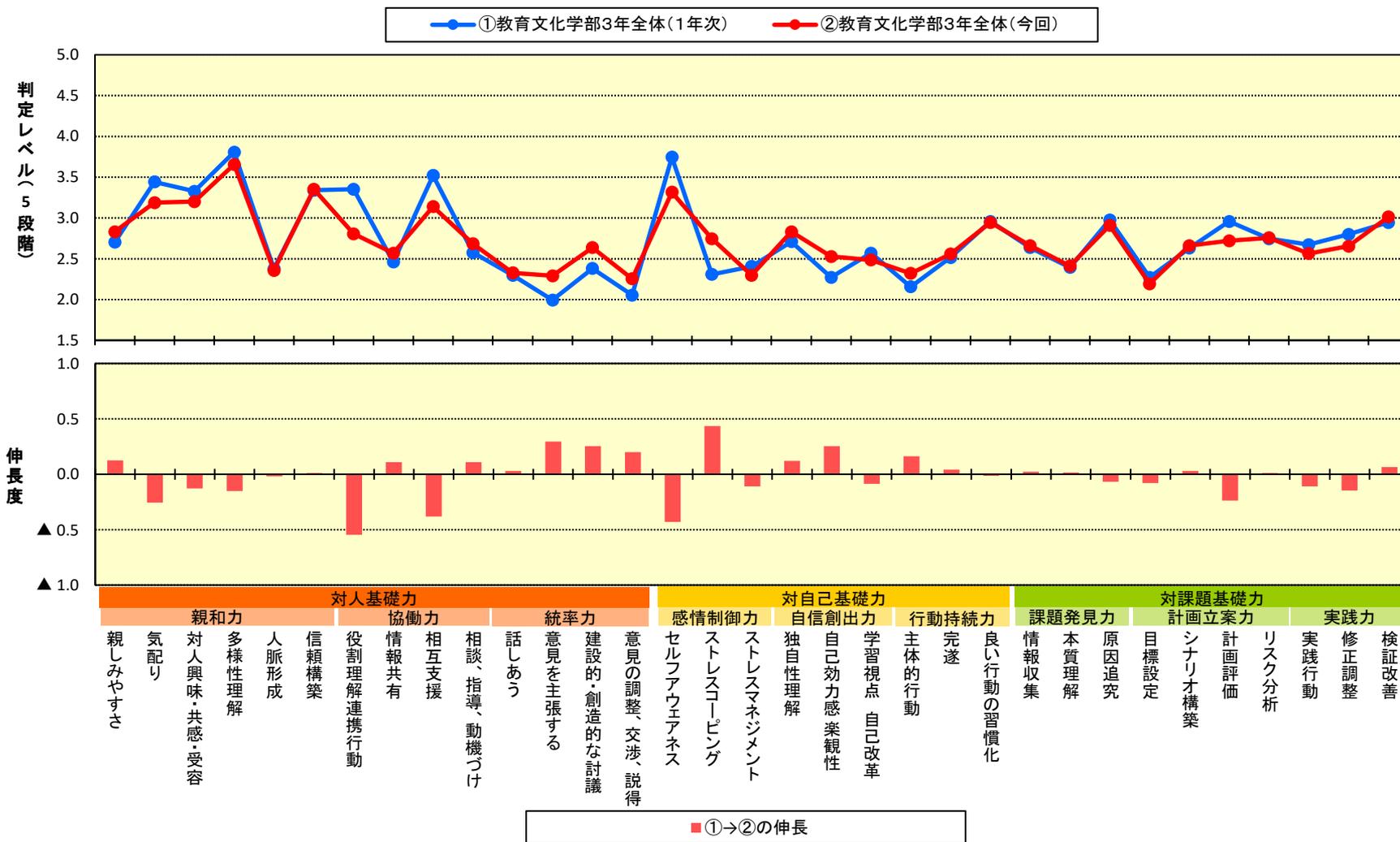
コンピテンシー小分類要素



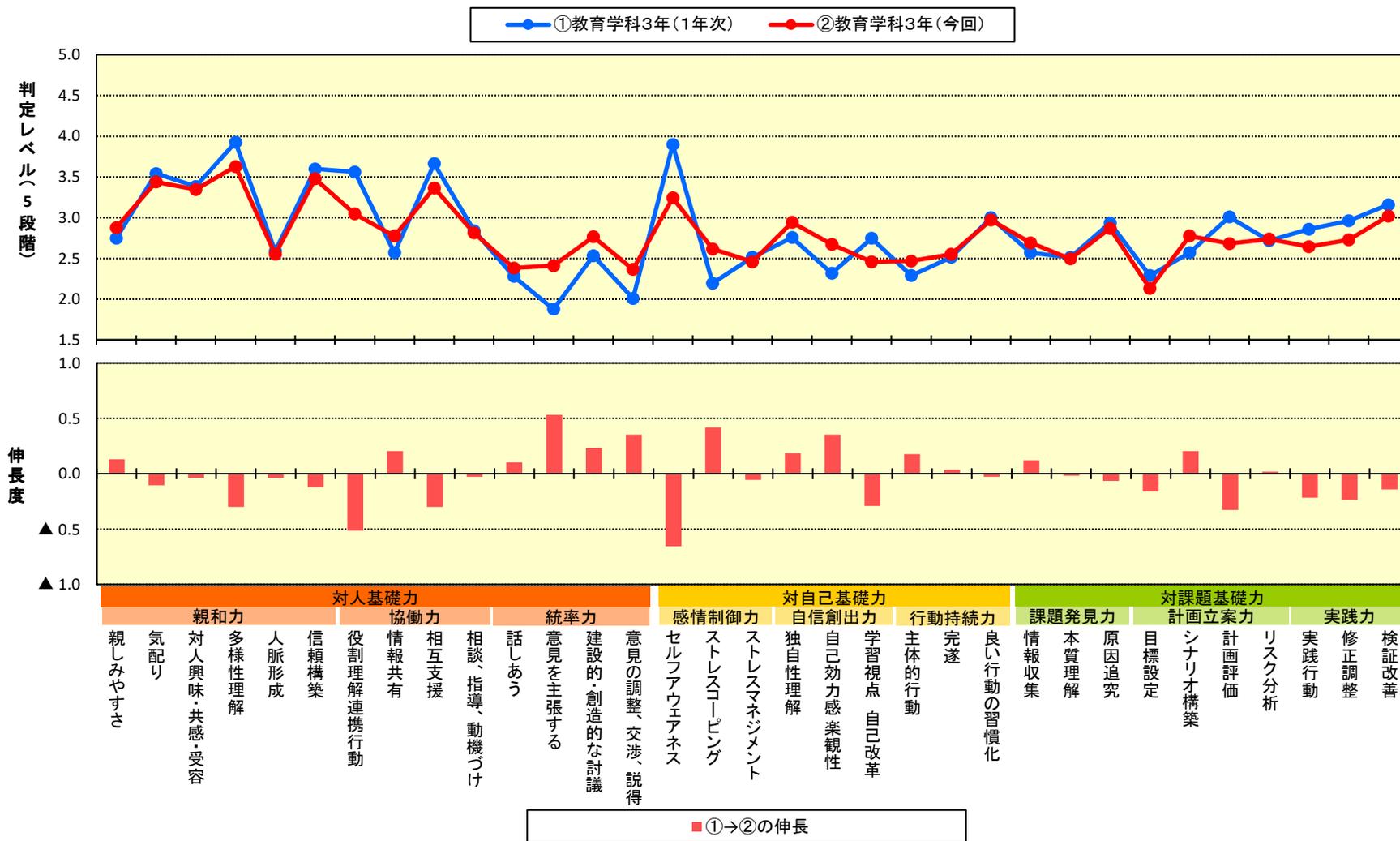
コンピテンシー小分類要素（成長分析）④

【教育文化学部3年全体】

コンピテンシー小分類要素



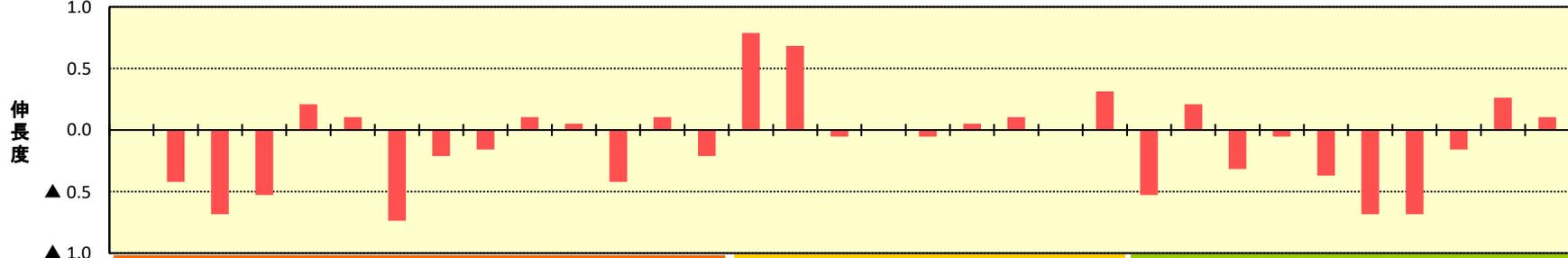
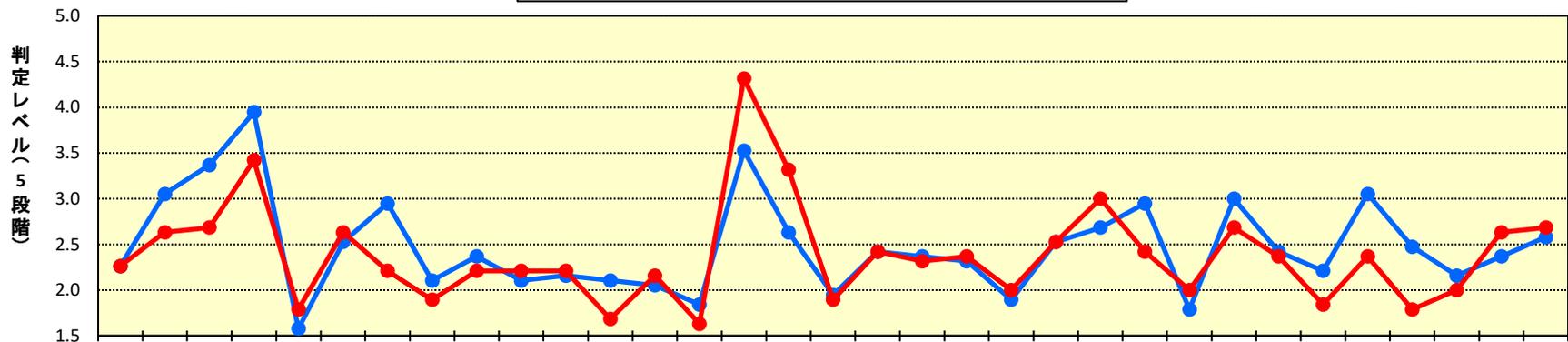
コンピテンシー小分類要素



【芸術学科3年】

コンピテンシー小分類要素

●①芸術学科3年(1年次) ●②芸術学科3年(今回)



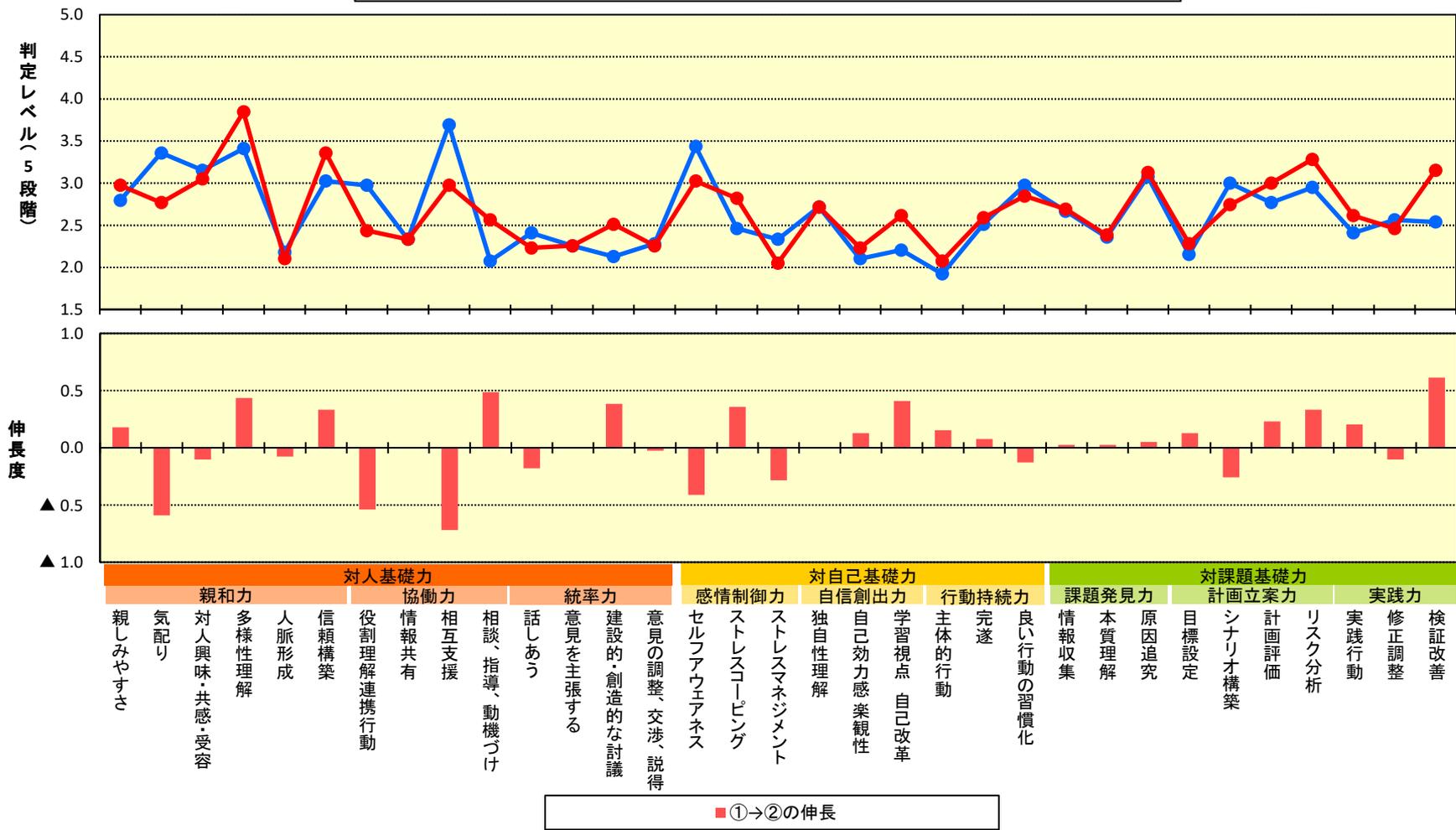
対人基礎力				対自己基礎力				対課題基礎力																										
親和力		協働力		統率力		感情制御		自信創出力		行動持続力		課題発見力		計画立案力		実践力																		
親しみやすさ	気配り	対人興味・共感・受容	多様性理解	人脈形成	信頼構築	役割理解連携行動	情報共有	相互支援	相談・指導・動機づけ	話しあう	意見を主張する	建設的・創造的な討議	意見の調整、交渉、説得	セルフアウェアネス	感情制御	カストレスマネジメント	独自性理解	自己効力感楽観性	学習視点 自己改革	主体的行動	行動持続力	完了	良い行動の習慣化	課題発見力	本質理解	原因追究	目標設定	計画立案力	シナリオ構築	計画評価	リスク分析	実践行動	修正調整	検証改善

■①→②の伸長

【心理カウンセリング学科3年】

コンピテンシー小分類要素

①心理カウンセリング学科3年(1年次) ②心理カウンセリング学科3年(今回)



生涯スポーツ学部

親和力

(1)幅広い教養と豊かな人間性をもとに、実践的コミュニケーション力により、多様な人々との関係づくりと協働を可能とする総合的な力を備えている。

協働力

(2)スポーツや学校教育、健康・福祉等の分野や社会の中で生まれる事柄に取り組むための科学的な知見と客観的な判断力を備えている。

情報分析力

(3)培った知識・技術を活用してスポーツや学校教育、健康・福祉の分野や地域社会の様々な活動に取り組むための実践者としての指導力・組織力を備えている。

統率力

(4)スポーツや学校教育、健康・福祉の分野における専門的職業人としての素養を身につけ、保健体育教諭、競技者、スポーツトレーナー、健康運動指導士、社会福祉士、介護福祉士などになるための基礎的な能力を備えている。

教育文化学部

- (1) 専門的な知職を総合的な**実践力**へとつなげ、教育現場や関係諸機関・企業、そして広く地域社会において、教育文化の継承・発展に寄与する専門職業人としての力を備えている。
- 実践力**
- (2) 豊かな人間性と**柔軟な思考力**をもち、高い専門性と実践力を身につけ、幼児や児童・生徒の生活や学び活動を支援できる能力を備えている。
- 情報分析力**
- (3) 幅広い芸術文化の基礎理解と確かな専門技術を獲得し、多様な職種において芸術性を活かし、社会貢献できる能力を備えている。
- (4) 心理学および精神保健福祉学の専門知識をもち、人間援助の総合的アプローチとしてのカウンセリングの素養を身につけ、対人支援ができる能力を備えている。



リテラシー		定義	レベル	1	2	3	4	5
情報収集力	課題発見・課題解決に向けて、幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力	<ul style="list-style-type: none"> 情報源の特性を知る 1) さまざまな情報源 2) インターネットで検索する 3) 図書館で調べる 情報を整理・保存する 1) ノートテイキング（講義を聴く） 2) 情報をファイリングする アンケートとインタビュー 1) アンケートを実施する 2) インタビューを行う 		簡単な情報収集の仕方について、理解している	様々な情報収集の手段について、その利便性と問題点を理解できる	収集すべき情報の特性や情報源の信憑性が理解できる	仮説を検証するために必要な情報を見定めて収集し、整理保存ができる	複雑な文脈の中で、仮説を検証するために必要な情報を見定めて収集し、整理保存ができる
		生涯スポーツ学部 3年全体	3.2					
		スポーツ教育学科 3年	3.2					
		健康福祉学科 3年	3.3					
		教育文化学部 3年全体	3.6					
		教育学科 3年	3.4					
		芸術学科 3年	3.6					
		心理カウンセリング学科 3年	4.1					
		私立大学 3年（偏差値40未満）	3.4					
		私立大学 3年	3.6					

情報分析力	事実・情報を思い込みや臆測ではなく、客観的かつ多角的に整理・分類し、それらを統合して隠れた構造を捉え、本質を見極める力	<ul style="list-style-type: none"> 表やグラフを読み取る 1) 図表・グラフの種類と特性 2) グラフの「読み取り」「分析」のポイント 3) 複数のグラフや表を総合して読み取る 文献・資料を読む 1) 論理的なテキストの特性 2) 論理的なテキストの読解 3) 見出しをつける 4) 全体像を捉える 批判的・多角的に分析する 1) 批判的読解とは 2) 批判的読解の具体的あり方 		簡単な図表や文章を読み取ることができる	図表や文章から、客観的な事実や因果関係を読み取ることができる	図表や文章から読み取った内容の関係を論理的に思考し、構造化することができる	情報を多角的に理解し、それらを統合して本質をとらえることができる	複雑な文脈の中で、情報を多角的に理解し、それらを統合して本質をとらえることができる
		生涯スポーツ学部 3年全体	3.3					
		スポーツ教育学科 3年	3.3					
		健康福祉学科 3年	3.6					
		教育文化学部 3年全体	3.5					
		教育学科 3年	3.5					
		芸術学科 3年	3.3					
		心理カウンセリング学科 3年	3.7					
		私立大学 3年（偏差値40未満）	3.2					
		私立大学 3年	3.4					

リテラシー		定義	レベル	1	2	3	4	5	
課題発見力	さまざまな角度、広い視野から現象や事実を捉え、それらの背後に隠れているメカニズムや原因について考察し、解決すべき課題を発見する力	<ul style="list-style-type: none"> ・広い観点から問題点を洗い出す <ol style="list-style-type: none"> 1) 拡散思考について 2) フレーミングで発想を広げる 3) フレームワークで考える ・問題点を整理・分析する <ol style="list-style-type: none"> 1) 収束思考について 2) 収束思考に必要な観点 3) マップ化による整理 ・発見された問題の中から、解決すべき課題を設定する <ol style="list-style-type: none"> 1) 問題点から課題への絞り込み 2) 課題への絞り込みに必要な観点 		簡単な問題において、解決すべき課題を選択することができる	複数の情報を整理し、解決すべき課題を設定することができる	いくつかの問題点の中から、解決すべき課題の優先順位を理解することができる	複数の情報から問題の本質を見極め、解決すべき課題を設定できる	複雑な文脈の中で、複数の情報から問題の本質を見極め、解決すべき課題を設定できる	
		生涯スポーツ学部 3年全体	2.8						
		スポーツ教育学科 3年	2.8						
		健康福祉学科 3年	3.1						
		教育文化学部 3年全体	3.5						
		教育学科 3年	3.5						
		芸術学科 3年	3.3						
		心理カウンセリング学科 3年	3.6						
		私立大学 3年 (偏差値40未満)	3.1						
		私立大学 3年	3.2						

構想力		定義	レベル	1	2	3	4	5	
構想力	さまざまな条件・制約を考慮しながら問題解決までのプロセスを構想し、その過程で想定されるリスクやその対処方法を構想する力	<ul style="list-style-type: none"> ・広い観点から解決策を考える ・現実味のある解決策を考える ・計画を立てる <ol style="list-style-type: none"> 1) 必要な作業をきれいに洗い出す 2) 具体的な行動計画を考える 		簡単な問題において、解決策を選択することができる	問題解決のプロセスに即して、解決策を構想することができる	いくつかの解決策の中から、制約条件を踏まえて有効な解決策を選択することができる	制約条件やリスク等をふまえて、有効な解決策や行動計画を構想できる	複雑な文脈の中で、制約条件やリスク等をふまえて、有効な解決策や行動計画を構想できる	
		生涯スポーツ学部 3年全体	3.2						
		スポーツ教育学科 3年	3.2						
		健康福祉学科 3年	3.4						
		教育文化学部 3年全体	3.4						
		教育学科 3年	3.4						
		芸術学科 3年	3.6						
		心理カウンセリング学科 3年	3.3						
		私立大学 3年 (偏差値40未満)	3.1						
		私立大学 3年	3.2						



ルーブリック コンピテンシー領域 対人基礎力 3年生

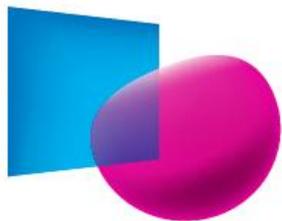
コンピテンシー (対人)		定義	レベル	1	2	3	4	5	6	7										
親和力	他者との豊かな関係を築く	人に対して、興味をもって相手の話を聞き、相手の立場や気持ちを思いやり、共感し受けとめる。また多様な価値観を受け入れる。さらに、そうした関わりから、相手と信頼関係を築いたり、人脈を広げていく力		<ul style="list-style-type: none"> 親しくない人には無愛想になりがち 興味をもって相手の話をきいたり相手の立場を考えた言動をとることが苦手 	<ul style="list-style-type: none"> 人に対して笑顔で接することができる 相手の立場や気持ちを考えた言動を心がけている 	<ul style="list-style-type: none"> 相手に対して自然な気配りができる 自分と異なる考えや意見でも興味深く相手の話を聞き、理解を示すことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 親しくない人に対しても、自分から気軽に話しかける 人から相談された際は相手の話を一生懸命聴き、信頼を得ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 個人や周囲の状況に対して細やかな気遣いができる 必要に応じて自分の気持ちを素直に表現し人脈を広げる行動をとることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 相談された際は、相手の置かれた立場や背景をも汲み取り理解しようとする 誰に対しても臆せず接し人脈を広げていくことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 築いた人脈や関係性の維持に努めることができる 人脈ネットワークを広げるために自ら場を創り、維持・運営することができる 										
											生涯スポーツ学部 3年全体	3.8								
											スポーツ教育学科 3年	3.8								
											健康福祉学科 3年	3.9								
											教育文化学部 3年全体	3.7								
											教育学科 3年	4.0								
											芸術学科 3年	2.8								
											心理カウンセリング学科 3年	3.4								
											私立大学 3年 (偏差値40未満)	3.7								
											私立大学 3年	3.7								
協働力	目標に向けて協力的に仕事を進める	周囲や集団において、自分の役割を理解した上で互いに連携・協力、助け合ったり、情報を共有して一緒に物事を進めていく。さらに、他者の相談に乗るなど働きかけ、動機づける力	<ul style="list-style-type: none"> 他の人と一緒に物事に取り組むのが苦手 周囲の人が困っている状況に気づかないことが多い 	<ul style="list-style-type: none"> 集団の中で、割り当てられたことは自分なりに工夫しながら取り組む 周囲に気を配り、困っている人には手を貸そうとする 	<ul style="list-style-type: none"> チームで課題に取り組む場合には、自ら情報発信するなど、チームへの貢献を考えて行動することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 人から相談された際に、本人がやる気が出るよう働きかけをすることができる 雰囲気づくりなどを通じてチームに貢献することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 誰かを支援する時には全力でサポートする 周囲との協力や働きかけを通じて、チームの成果に貢献することができる 	<ul style="list-style-type: none"> リーダーとして、周囲の状況への気配りや働きかけをすることができる チーム全体のやる気高めることができる 	<ul style="list-style-type: none"> リーダーとして、状況や相手に応じチームのメンバーを動機づけることができる 相互支援や情報を共有しあう環境をつくることができる 											
										生涯スポーツ学部 3年全体	4.0									
										スポーツ教育学科 3年	4.0									
										健康福祉学科 3年	4.0									
										教育文化学部 3年全体	3.6									
										教育学科 3年	4.0									
										芸術学科 3年	2.9									
										心理カウンセリング学科 3年	3.1									
										私立大学 3年 (偏差値40未満)	3.5									
										私立大学 3年	3.5									
統率力	場をよみ、組織を動かす	集団の中で、自分の意見を主張すると同時に、議論の活発化や発展のために集団に働きかける。また、必要に応じて、意見の調整、交渉、説得し、集団を合意に導く力	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの場では議論に消極的なことが多い 発言の際、考えが整理しきれず相手に言いたいことが伝わらないことが多い 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを整理し、筋道を立てて伝えることができる 話し合いの場では、議論の目的を見失わずに意見を述べる事ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを論理的かつ気持ちを込めて相手にわかりやすく伝えることができる 意見の異なる相手でも、粘り強く自分の考えを話すことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 相手や状況に関係なく、はっきりとした主張ができる 相手の立場や背景も考慮しながら意見調整を進めることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 周囲の反対にあっても、正しいと思うことは粘り強く主張できる 建設的、かつ創造的な議論を意識した発言ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 全員に発言を促し、整理や方向づけによって議論を進展させていくことができる リーダーとして、チームの結論を導くことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 意見が対立する中でも、建設的に議論を導くことができる 聴衆を引き込み納得させるようなプレゼンテーションをすることができる 											
										生涯スポーツ学部 3年全体	3.7									
										スポーツ教育学科 3年	3.7									
										健康福祉学科 3年	3.6									
										教育文化学部 3年全体	3.0									
										教育学科 3年	3.1									
										芸術学科 3年	2.4									
										心理カウンセリング学科 3年	2.8									
										私立大学 3年 (偏差値40未満)	3.0									
										私立大学 3年	3.0									

コンピテンシー（対自己）		定義	レベル	1	2	3	4	5	6	7		
感情制御力	気持ちの揺れを制御する	自分の感情や気持ちを認識して客観的に言動をコントロールしたり、ストレスをうまく処理することができる。また、プレッシャーを感じる場面でも、感情をコントロールして力を発揮する力		・自分の感情をコントロールするのが苦手 ・些細なことでも、動揺したり落ち込んだりして、なかなか立ち直れないことが多い	・人間関係など身近な問題が発生した時には、落ち着いて自分なりに対処しようとする	・感情が多少乱れても、冷静になって行動することができる ・やらなければならないことがたくさんあるような状況でも、こなしていくことができる	・ストレスやプレッシャーがかかる場面でも、落ち着いて対処できる ・難しい課題に対して前向きに取り組むことができる	・自分がストレスを感じやすい場面を知っており、対処法を考えておくことができる ・失敗に向き合い原因を徹底的に考えることができる	・心を落ち着かせる、自分なりの方法をもっている ・緊張やプレッシャーを感じる場面でも、落ち着いて、かつ集中して取り組むことができる	・ストレスの原因に自ら働きかけ、解消することができる ・必要に応じて自分の感情を率直に伝えることで、相手との信頼関係を築くことができる		
			生涯スポーツ学部 3年全体	4.0								
			スポーツ教育学科 3年	4.0								
			健康福祉学科 3年	3.7								
			教育文化学部 3年全体	3.2								
			教育学科 3年	3.3								
			芸術学科 3年	3.4								
			心理カウンセリング学科 3年	2.9								
			私立大学 3年（偏差値40未満）	3.3								
			私立大学 3年	3.3								

自信創出力		定義	レベル	1	2	3	4	5	6	7	
前向きな考え方ややる気を維持する	自己の強み弱みを認識した上で、自分に自信をもって物事に取り組むことができる。また、常に学ぶ姿勢をもち、経験の機会をうまくとらえて挑戦していく力	・自分の強みがわからず、自信をもって行動できない ・初めてのことや難しいことには、なかなか挑戦する気になれない		・自分では強みがわからないが、人からほめられることで自信をもつことができる ・仕事や課題に対して前向きに取り組むことができる	・自分の強み・弱みを知っており、多少見通しが立たないことでも自分を信じて行動できる ・機会をチャンスと捉え、楽しんで取り組むことができる	・自分ならではの強みや持ち味を活かせる場面をイメージすることができる ・初めてのことで、臆せず取り組むことができる	・難しいことでも、積極的に挑戦し、失敗しても何かを学ぶとする ・好きではない仕事でも、自分なりに工夫して取り組む	・自分ならではの強みや持ち味を活かす機会を見逃さない ・常に良い結果をイメージして、自信をもって取り組むことができる	・どんな仕事や課題でも主体性と好奇心をもって取り組むことができる ・成長の機会を自ら創り出していくことができる		
			生涯スポーツ学部 3年全体	3.9							
			スポーツ教育学科 3年	4.0							
			健康福祉学科 3年	3.4							
			教育文化学部 3年全体	3.4							
			教育学科 3年	3.6							
			芸術学科 3年	3.2							
			心理カウンセリング学科 3年	2.9							
			私立大学 3年（偏差値40未満）	3.2							
			私立大学 3年	3.2							

行動持続力		定義	レベル	1	2	3	4	5	6	7	
主体的に動き、良い行動を習慣づける	主体的に行動し、物事には最後まで粘り強く取り組むことができる。また、良い行動を習慣化する力	・人からの指示を待って行動することが多い ・何かに取り組んでも、最後までやり切れないことが多い		・良いやり方や習得した技術・知識は、すぐに試みるような心がけている	・任せられたことは、できるだけ自分でやるべきことを考え行動するようにしている ・常に良いやり方を追求し、能力向上を心がけている	・何かに取り組む時には、自発的に考え行動に移す ・取り組んだことに対しては、自分なりに工夫しながら最後までやり抜くようにしている	・すべきことや他者の期待を自ら考え、責任をもって行動することができる ・周囲からの期待以上のことを主体的に行う	・目標を定め、最後まで諦めずにやり遂げる ・行動の検証と改善を繰り返しながら、より良い行動に結びつけることができる	・課題には期限ぎりぎりまで、自分が納得できる結果が出るまで粘り強く取り組む ・検証と改善を常に繰り返すことを習慣化している		
			生涯スポーツ学部 3年全体	4.1							
			スポーツ教育学科 3年	4.1							
			健康福祉学科 3年	4.0							
			教育文化学部 3年全体	3.3							
			教育学科 3年	3.5							
			芸術学科 3年	3.2							
			心理カウンセリング学科 3年	3.0							
			私立大学 3年（偏差値40未満）	3.4							
			私立大学 3年	3.4							

コンピテンシー（対課題）		定義	レベル	1	2	3	4	5	6	7	
課題発見力	課題の所在を明らかにし、必要な情報分析を行う	適切な方法で情報を収集し、事実に基づいて客観的に分析、本質的な問題を見極める。さらに、様々な角度から課題を分析し、原因を明らかにする力		・課題に対しての情報収集が、適切な方法でない場合が多い ・情報整理・分析が甘くなりがちになる	・課題に対し、自分なりに情報を集めることができる ・集めた情報を、客観的に整理しようと努める	・興味のある特定の分野ならば、情報を集めて客観的に事実を整理、分析することができる ・分析を基に、自分なりに因果関係の仮説を立てられる	・課題に応じ、様々な方法で情報を集めることができる ・定性的データを客観的に整理し、複数の因果関係の仮説を立てることができる	・課題に応じて、定性的な情報や、定量的なデータを収集し、適切に整理、分析できる ・より現実的な視点で、複数の因果関係の仮説を立てられる	・事実が複雑に絡み合っている問題でもデータを客観的に整理、分析できる ・因果関係を整理し課題解決につなげることができる	・関心分野については、常日頃から情報収集している ・合理的な判断だけでは難しい問題に対して、関係者の心情を汲んで結論を出すことができる	
			生涯スポーツ学部 3年全体	3.3							
			スポーツ教育学科 3年	3.3							
			健康福祉学科 3年	3.0							
			教育文化学部 3年全体	3.3							
			教育学科 3年	3.4							
			芸術学科 3年	2.8							
			心理カウンセリング学科 3年	3.4							
			私立大学 3年（偏差値40未満）	3.5							
			私立大学 3年	3.6							
計画立案力	課題解決のための適切な計画を立てる	明確な目標を立て、その実現に向けて効果的な計画を立てる。また、立てた計画に対して目標の実現や課題解決に向けての見通しを立てたり、どんな問題が起こり得るかのリスクを想定して事前に対策を講じる力		・自分で目標や計画を立てずに課題に取り組む ・立案した計画や目標が現実的でないなど適切でないことが多い	・課題に対して、目標と計画を大まかに立てることができる ・立案した計画や目標に、自分なりに取り組むことができる	・条件が明確な課題であれば目標や発生しそうな問題を予め考えることができる ・予測をふまえた具体的な計画を立て取り組むことができる	・経験のあることならば不確定な部分があっても具体的に適切な計画を立てられる ・情報整理・分析が甘くなりがちになる	・経験のないことでも、現実的で妥当な計画と複数のシナリオを考えることができる ・事前リスクを検討、想定し、手を打つことができる	・長期的な目標と同時に、途中段階の具体的な目標も設定し、実現性を高めることができる ・チームでの取り組みの際、メンバーの負担を適切に行う	・自身やチームにとって挑戦的な目標を設定し挑む ・制約条件や資源を考慮した計画を立て、状況に応じて柔軟に修正することができる	
			生涯スポーツ学部 3年全体	3.3							
			スポーツ教育学科 3年	3.4							
			健康福祉学科 3年	2.8							
			教育文化学部 3年全体	3.4							
			教育学科 3年	3.5							
			芸術学科 3年	2.4							
			心理カウンセリング学科 3年	3.9							
			私立大学 3年（偏差値40未満）	3.4							
			私立大学 3年	3.4							
実践力	実践行動をとる	計画をすすんで実行し、状況に応じて柔軟に行動を修正する。また、行動を振り返って検証し、次の行動の改善に結びつける力		・やるべきことでも、なかなか実行に移せない ・実行はできて当初のやりかたで進めがちで、のちに振り返ることも少ない	・やるべきことに対して、自分なりに試行錯誤しながら物事を進めていくことができる	・制約条件を考えて、試行錯誤しながら物事を進めることができる ・終了後には、成功か失敗かを振り返る	・計画を実行しながら、遅れや予想外の事態に応じて行動を修正することができる ・うまくいかなかった場合、原因を追求し次に役立てる	・チームの他の人の様子に気を配りながら、物事を進めることができる ・進捗状況を確認しつつ、自ら率先して行動することができる	・計画の実行中、全体の状況に気を配ることができる ・先行きを予測し必要に応じて、早めに全体の動きを修正することができる	・チームでより良い成果を挙げるため、即行動できる ・活動の振り返りを次に活かして、チームの成果を高めることができる	
			生涯スポーツ学部 3年全体	3.7							
			スポーツ教育学科 3年	3.7							
			健康福祉学科 3年	3.6							
			教育文化学部 3年全体	3.6							
			教育学科 3年	3.6							
			芸術学科 3年	3.3							
			心理カウンセリング学科 3年	3.6							
			私立大学 3年（偏差値40未満）	3.7							
			私立大学 3年	3.7							



PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

学生アンケートと基礎力の関連分析 ＜2023年度1年生、3年生＞

調査概要

- 調査対象：PROGとアンケートに回答した、1年生383名、3年生333名
※解答姿勢が低かったと想定される学生は除いて集計しております。
- PROG受験時期（1年生）：2023年5月～8月
- PROG受験時期（3年生）：（1回目）2021年5月～8月、（2回目）2023年11月～2024年1月

●相関係数とは

2群のデータの関連性を示す指標のことで、-1.0～1.0の範囲に値を取り、1に近いほど関連性が強いといえます。一般的には0.5以上で強い相関、0.2以上で弱い相関があるとしています。

●有意確率とは

2群のデータの偏りが偶然生じる、たまたま得られたものであるという確率。0.05以下であれば5%有意とし、95%の確率で生じる確率ということになります。

0.01以下であれば1%有意とし、99%の確率で生じる確率ということになります。

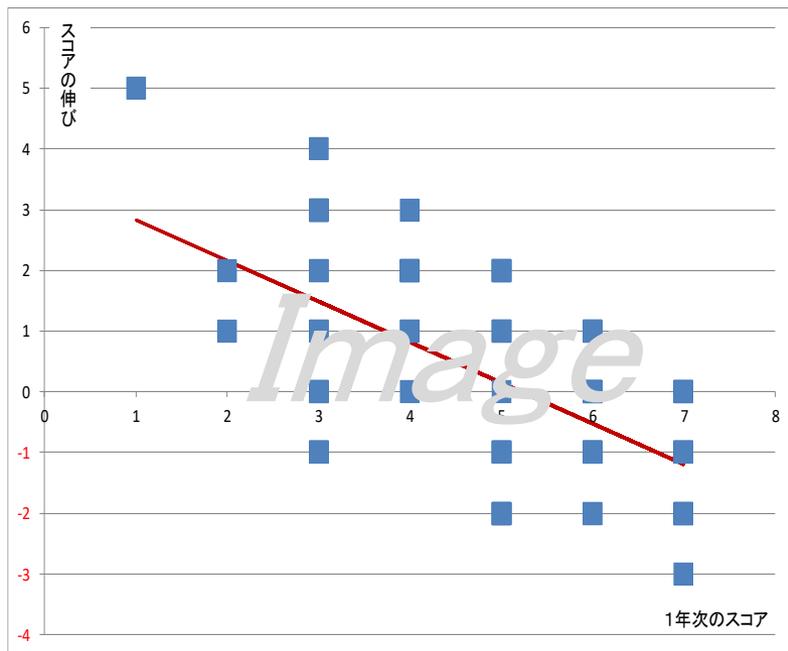
※各設問の加重平均値

※以下のように得点化し、相関分析を実施している。

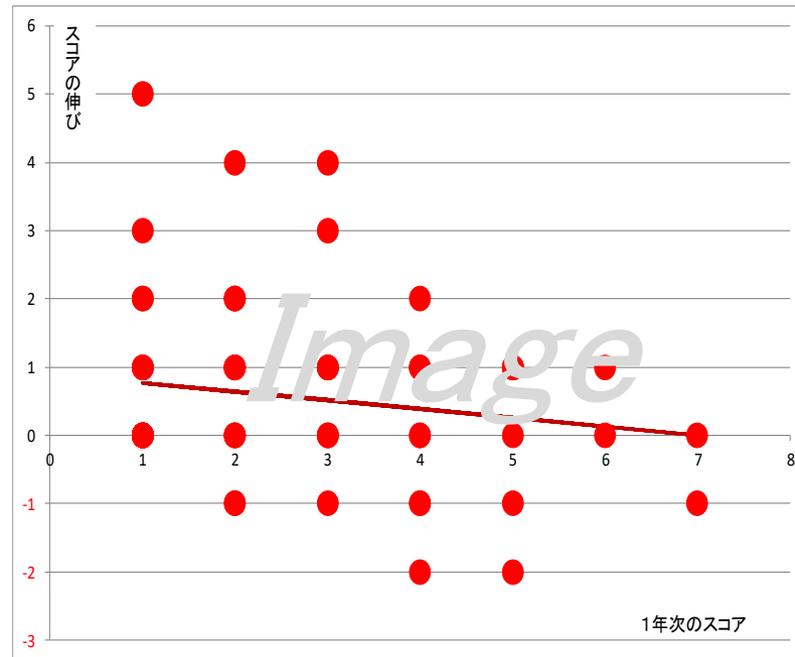
設問	5点	4点	3点	2点	1点
Q3,Q16		①とても思う	②まあ思う	③あまりそう思わない	④全くそう思わない
Q5		①とても熱心に取り組んでいる	②熱心に取り組んでいる	③あまり熱心には取り組んでいない	④所属していない
Q6		①とても熱心に取り組んでいる	②熱心に取り組んでいる	③あまり熱心には取り組んでいない	④ボランティア活動をしたことがない
Q7		①とても熱心に取り組んでいる	②熱心に取り組んでいる	③あまり熱心には取り組んでいない	④アルバイトをしていない
Q8		①全く不安はない	②あまり不安はない	③少し不安である	④とても不安である
Q9		①はっきりとした考えがある	②これから考える	③考えているがはっきりしていない	④まったく考えていない
Q10		①とても楽しみだ	②まあ楽しみだ	③あまり楽しみでない	④全く楽しみでない
Q11,Q12		①大変満足している	②満足している	③あまり満足していない	④満足していない
Q13		①とても熱心に取り組んでいる	②熱心に取り組んでいる	③あまり熱心に取り組んでいない	④熱心に取り組んでいない
Q15		①とても感じている	②やや感じている	③あまり感じていない	④まったく感じない
設問	53点	2.5点	1.5点	1点	0点
Q14	①3時間以上	②2時間～3時間	③1時間～2時間	④1時間程度	⑤していない

リテラシー、コンピテンシーとも、事前（初期値）のスコアが低いほど、事後の伸び幅が大きい。
 変化量の分析の際には、この初期値の影響を除去して考える必要がある。

■リテラシー総合

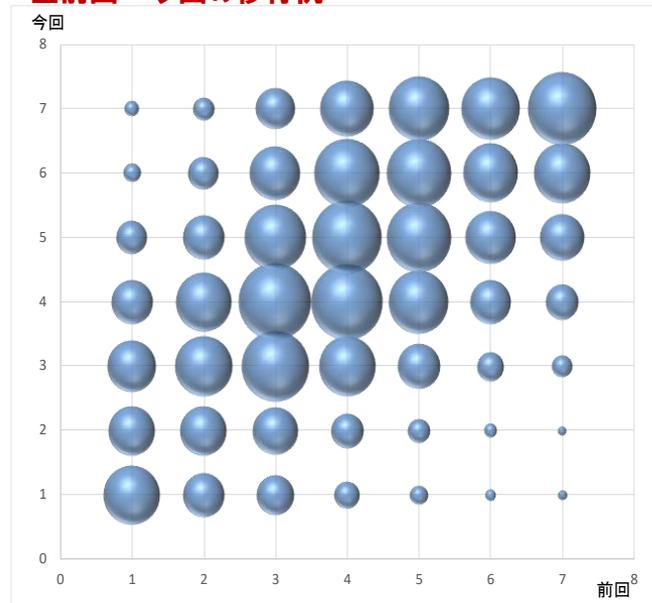


■コンピテンシー総合

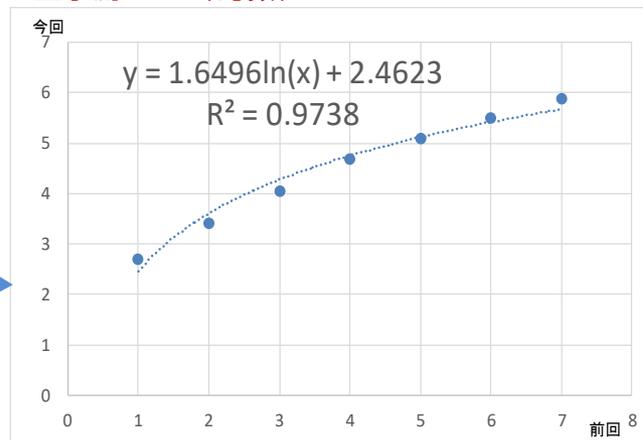


初期値の影響を除く方法として、PROGの経年変化のデータから、前回レベルから今回レベルを予測するモデルを作成し、各レベル間の変化量（実測値）と、モデルから求められる想定変化量の差を、「望ましさ」と考えて各レベル間のウェイトを設定した。このウェイトを[Progress Index]と呼ぶこととし、以下ではPI値と記す。

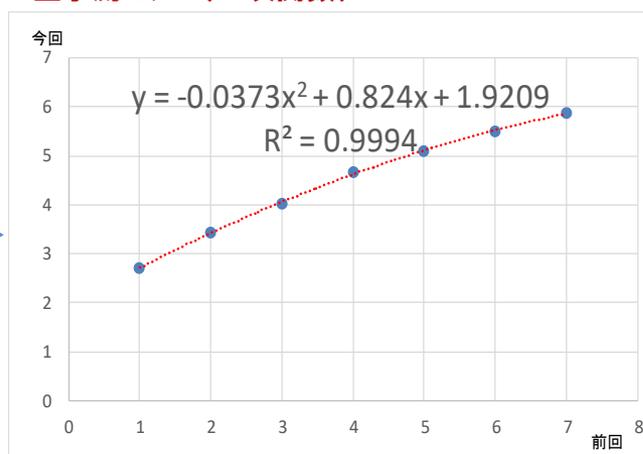
■ 前回→今回の移行例



■ 予測モデル(対数)



■ 予測モデル(二次関数)



リテラシー／コンピテンシーの要素ごとに、フィッティングの良い方を採用

分析の前提 —PI値[Progress Index]の導入—

各レベル間の変化量（実測値）と、モデルから求められる
想定変化量の差を、「望ましき指標」として想定

前回 今回 レベル	①実測値 (前回)	②実測値 (今回)	③想定値 (今回)	望ましき指標 ②-③ 実測値-想定値 (今回)
11	1	1	2.71	-1.71
12	1	2	2.71	-0.71
13	1	3	2.71	0.29
14	1	4	2.71	1.29
15	1	5	2.71	2.29
16	1	6	2.71	3.29
17	1	7	2.71	4.29
21	2	1	3.42	-2.42
22	2	2	3.42	-1.42
23	2	3	3.42	-0.42
24	2	4	3.42	0.58
25	2	5	3.42	1.58
26	2	6	3.42	2.58
27	2	7	3.42	3.58
31	3	1	4.06	-3.06
32	3	2	4.06	-2.06
33	3	3	4.06	-1.06
34	3	4	4.06	-0.06
...
57	5	7	5.11	1.89
61	6	1	5.52	-4.52
62	6	2	5.52	-3.52
63	6	3	5.52	-2.52
64	6	4	5.52	-1.52
65	6	5	5.52	-0.52
66	6	6	5.52	0.48
67	6	7	5.52	1.48
71	7	1	5.86	-4.86
72	7	2	5.86	-3.86
73	7	3	5.86	-2.86
74	7	4	5.86	-1.86
75	7	5	5.86	-0.86
76	7	6	5.86	0.14
77	7	7	5.86	1.14

「望ましき指標」を大きさ順に並べ、
ハンドリングのし易さを考慮して1~100点に変換

順位 (降順)	移動	望ましき 指標		100点 変換
49	1⇒7	4.29	→	100
48	2⇒7	3.58	→	98
47	1⇒6	3.29	→	96
46	3⇒7	2.94	→	94
45	2⇒6	2.58	→	92
44	4⇒7	2.38	→	90
43	1⇒5	2.29	→	88
42	3⇒6	1.94	→	86
41	5⇒7	1.89	→	84
40	2⇒5	1.58	→	81
39	6⇒7	1.48	→	79
38	4⇒6	1.38	→	77
37	1⇒4	1.29	→	75
36	7⇒7	1.14	→	73
35	3⇒5	0.94	→	71
34	5⇒6	0.89	→	69
33	2⇒4	0.58	→	67
32	6⇒6	0.48	→	65
...
15	7⇒4	-1.86	→	30
14	3⇒2	-2.06	→	28
13	5⇒3	-2.11	→	26
12	2⇒1	-2.42	→	24
11	6⇒3	-2.52	→	22
10	4⇒2	-2.62	→	20
9	7⇒3	-2.86	→	18
8	3⇒1	-3.06	→	15
7	5⇒2	-3.11	→	13
6	6⇒2	-3.52	→	11
5	4⇒1	-3.62	→	9
4	7⇒2	-3.86	→	7
3	5⇒1	-4.11	→	5
2	6⇒1	-4.52	→	3
1	7⇒1	-4.86	→	1





今回の分析には、1年から3年の2ヶ年の変化量指標として、以下のPI値を用いた。

★2学年変化

リテラシー総合

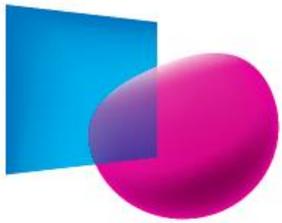
		最新値						
		1	2	3	4	5	6	7
初期値	1	26	40	55	69	84	96	100
	2	18	32	46	61	75	90	98
	3	9	22	36	51	65	79	94
	4	7	20	34	48	63	77	92
	5	5	15	30	44	59	73	88
	6	3	13	28	42	57	71	86
	7	1	11	24	38	53	67	81

リテラシー中分類

		最新値				
		1	2	3	4	5
初期値	1	26	46	67	88	100
	2	13	34	55	75	96
	3	9	30	51	71	92
	4	5	22	42	63	84
	5	1	18	38	59	79

コンピテンシー

		最新値						
		1	2	3	4	5	6	7
初期値	1	40	55	69	81	90	96	100
	2	28	42	57	71	84	92	98
	3	20	32	46	61	75	86	94
	4	11	22	34	48	63	77	88
	5	7	15	26	38	53	67	79
	6	3	9	18	30	44	59	73
	7	1	5	13	24	36	51	65



PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

1. 1年生基礎力関連分析



1-1. 1年生基礎力スコアの回答別平均一覧・相関係数一覧

N≥10の場合

全体+0.5以上

全体-0.5以下

設問	選択肢	N数	リテラシー								コンピテンシー												
			総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	言語処理能力	非言語処理能力	総合	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力			
														親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力	
全体		383	3.79	3.26	3.25	3.04	3.29	3.16	3.08	3.26	3.57	3.49	3.46	3.91	3.77	3.14	3.36	3.43	3.56	3.25	3.39	3.62	
Q1.入試形式について教えてください。	①【2021年度以降の入学生】学校推薦型入試	195	3.65	3.15	3.14	3.01	3.23	3.15	2.97	3.33	3.63	3.59	3.52	4.10	3.91	2.97	3.45	3.58	3.60	3.25	3.50	3.66	
	②【2021年度以降の入学生】総合型入試	98	3.58	3.23	3.14	2.90	3.21	3.01	2.91	3.20	3.46	3.40	3.35	3.68	3.59	3.31	3.44	3.09	3.60	3.12	3.26	3.41	
	③【2021年度以降の入学生】一般入試	38	4.05	3.47	3.45	3.26	3.34	3.16	3.24	3.03	3.58	3.24	3.21	4.00	3.68	3.11	2.89	3.34	3.26	3.29	2.95	3.47	
	④【2021年度以降の入学生】共通テスト利用入試	34	4.82	3.76	3.97	3.41	3.62	3.85	4.00	3.18	3.35	3.24	3.71	3.44	3.35	3.29	3.15	3.29	3.41	3.71	3.59	4.00	
	⑤【2021年度以降の入学生】その他	16	3.88	3.06	3.38	2.94	3.50	2.88	3.25	3.69	4.13	4.00	3.56	3.94	4.50	3.69	3.50	4.25	3.75	2.81	3.75	4.06	
	⑥【2020年度以前の入学生】の方はこちらにチェックしてください	2	4.50	4.00	1.00	3.50	5.00	3.00	3.00	2.50	2.50	3.00	2.50	3.00	3.00	2.00	4.00	3.00	3.00	4.50	3.50	2.50	3.00
Q2.入試形式について教えてください。	①【2020年度以前の入学生】推薦入試	52	3.27	3.00	2.90	2.90	2.96	2.79	2.81	3.60	4.08	3.71	3.79	4.31	4.27	3.38	3.46	3.65	3.73	3.48	3.69	3.87	
	②【2020年度以前の入学生】AO入試	17	2.88	2.88	2.82	2.47	2.82	2.71	2.47	3.29	3.76	3.53	3.06	4.12	3.41	3.41	3.12	3.41	3.82	3.35	2.76	2.76	
	③【2020年度以前の入学生】一般入試	4	5.25	4.50	4.25	3.50	3.75	3.50	4.00	3.75	4.75	3.00	3.75	5.75	5.00	3.00	2.25	3.25	3.00	3.75	3.00	4.00	
	④【2020年度以前の入学生】センター入試	1	6.00	5.00	4.00	4.00	5.00	4.00	5.00	2.00	2.00	3.00	3.00	4.00	1.00	1.00	3.00	3.00	2.00	2.00	4.00	2.00	
	⑤【2020年度以前の入学生】その他	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	⑥【2021年度以降の入学生】の方はこちらにチェックしてください	309	3.90	3.30	3.31	3.08	3.36	3.25	3.15	3.20	3.47	3.46	3.42	3.81	3.70	3.09	3.38	3.40	3.53	3.20	3.38	3.62	
Q4.あなたが思う新型コロナウィルス感染症によるマイナスの影響として、最も大きいものは次のどれですか。	①授業への取り組み意欲	97	3.68	3.11	3.09	2.98	3.34	3.11	2.82	3.02	3.40	3.27	3.36	3.79	3.64	2.86	3.08	3.19	3.37	3.22	3.40	3.51	
	②部活・サークル活動	245	3.78	3.30	3.26	3.04	3.26	3.20	3.18	3.40	3.69	3.65	3.45	4.00	3.86	3.29	3.54	3.62	3.68	3.22	3.34	3.67	
	③ボランティア活動	13	5.00	3.92	3.85	3.85	3.54	3.31	3.69	2.77	2.85	2.62	3.92	3.38	3.38	2.46	2.77	2.31	2.92	3.00	4.00	4.23	
	④アルバイト	9	3.67	3.33	3.33	3.33	3.00	2.44	2.89	3.00	3.33	3.11	3.56	3.22	3.44	3.22	3.00	3.33	3.00	3.89	3.33	3.00	
	⑤学費の支払い	1	4.00	4.00	4.00	3.00	4.00	5.00	3.00	1.00	1.00	2.00	2.00	1.00	1.00	1.00	2.00	3.00	1.00	3.00	2.00	1.00	
	⑥卒業後の進路	13	3.46	2.62	3.46	2.54	3.38	2.92	3.00	3.38	3.69	3.46	3.69	4.31	4.00	2.92	2.77	3.15	4.15	3.62	3.69	3.62	
	⑦Q3で「全くそう思わない」を選択した方はこちらにチェックしてください	5	4.20	4.00	3.20	2.80	3.60	3.80	2.60	3.40	3.80	3.20	3.80	4.40	3.80	3.40	4.20	3.20	3.00	3.80	3.80	3.20	

相関係数

【全体】N=383 (ただし各設問無回答は除く)

** 相関係数は1%水準で有意

* 相関係数は5%水準で有意

0.2以上
0.3未満

0.3以上
0.35未満

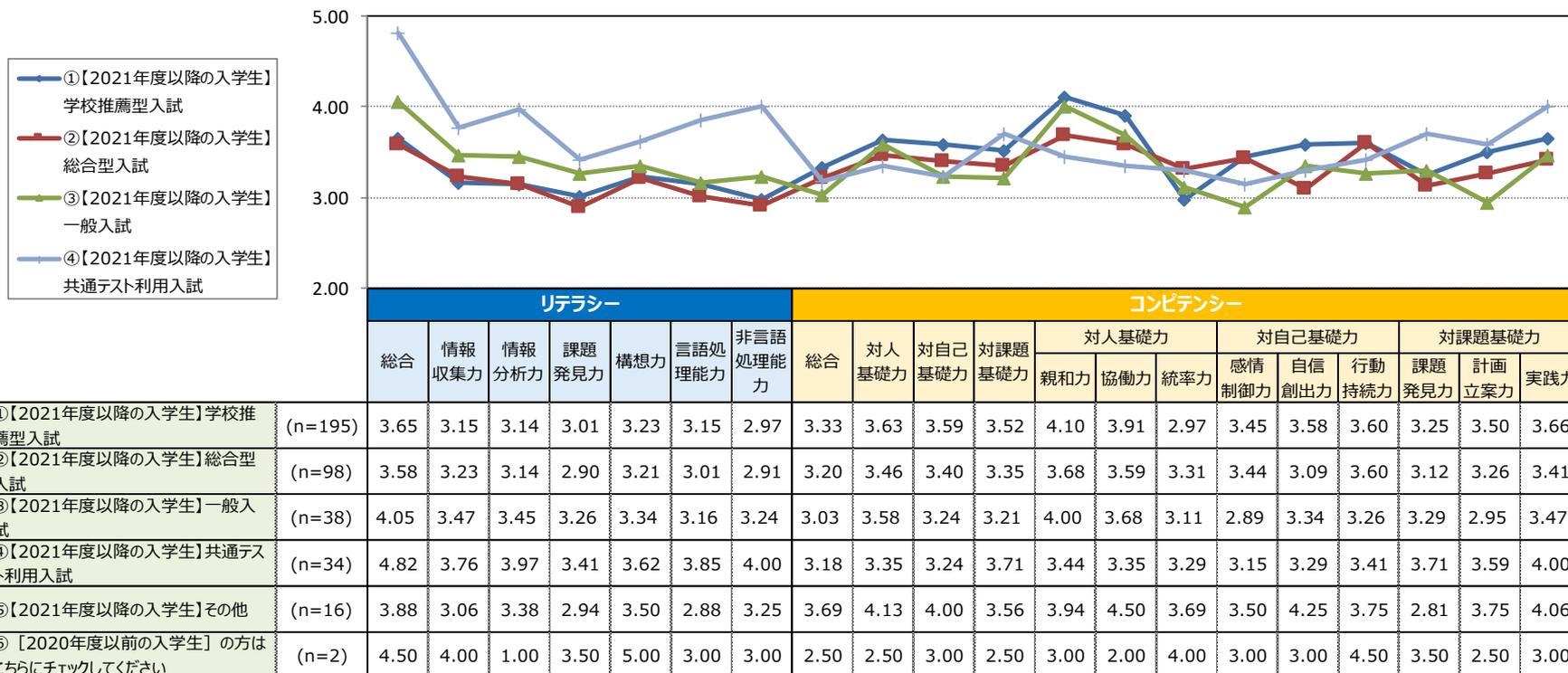
0.35以上

設問	リテラシー								コンピテンシー											
	総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	言語処理能力	非言語処理能力	総合	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
												親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
Q3.新型コロナウイルスによるマイナスの影響についてお伺いします。あなたの生活で新型コロナウイルス感染症によるマイナスの影響があったと思いますか。	-0.13*	-0.06	-0.12*	-0.06	-0.07	-0.09	-0.03	0.21**	0.2**	0.13**	0.07	0.15**	0.22**	0.16**	0.12*	0.06	0.19**	0.03	0.05	0.11*
Q5.部活・サークル活動についてお伺いします。	-0.05	-0.02	-0.02	-0.01	-0.08	-0.05	0.02	0.24**	0.21**	0.19**	0.24**	0.18**	0.21**	0.15**	0.21**	0.14**	0.07	0.21**	0.18**	0.23**
Q6.ボランティア活動についてお伺いします。	-0.02	0.03	-0.05	-0.02	-0.04	-0.01	0.00	0.23**	0.18**	0.22**	0.14**	0.18**	0.13*	0.12*	0.15**	0.23**	0.16**	0.12*	0.1*	0.15**
Q7.アルバイトについてお伺いします。	-0.14**	-0.06	-0.06	-0.06	-0.17**	-0.11*	-0.06	0.2**	0.19**	0.14**	0.09	0.19**	0.18**	0.14**	0.09	0.11*	0.16**	0.06	0.1*	0.05
Q8.学費の支払いについて不安がありますか。	0.02	0.02	0.03	0.07	0.01	0.02	0.01	0.09	0.07	0.07	0.08	0.07	0.04	0.04	0.08	0.07	0.07	0.03	0.07	0.13*
Q9.あなたは卒業後の進路(就職・公務員・教員・進学・留学など)について、現在どのような考えを持っていますか。	0.09	0.11*	0.12*	0.07	0.00	0.02	0.06	0.2**	0.16**	0.19**	0.12*	0.13*	0.16**	0.16**	0.16**	0.17**	0.13**	0.13*	0.05	0.08
Q10.卒業後、社会人になることについてどのように感じますか。	-0.05	-0.05	-0.02	-0.04	-0.05	0.05	-0.01	0.31**	0.23**	0.33**	0.19**	0.19**	0.23**	0.21**	0.27**	0.33**	0.19**	0.2**	0.08	0.21**
Q11.あなたは現在、全体として北翔大学に満足していますか。	-0.02	-0.03	-0.01	0.02	0.00	0.17**	0.06	0.18**	0.16**	0.19**	0.10	0.19**	0.13*	0.07	0.14**	0.19**	0.11*	0.09	0.09	0.06
Q12.北翔大学の教育内容についてお伺いします。	0.02	0.01	0.01	0.05	0.04	0.18**	-0.01	0.05	0.04	0.01	0.07	0.09	0.03	-0.01	0.01	0.02	0.01	0.05	0.09	-0.01
Q13.あなたは授業にどのように取り組んでいますか。	0.01	-0.01	0.02	-0.02	0.05	0.13*	-0.01	0.16**	0.11*	0.15**	0.14**	0.12*	0.08	0.08	0.08	0.16**	0.15**	0.14**	0.1*	0.1*
Q14.あなたは授業以外に一日平均でどのくらい学習していますか。	0.13**	0.05	0.08	0.02	0.14**	0.05	0.07	0.09	0.03	0.07	0.18**	0.09	0.02	-0.01	0.06	0.06	0.07	0.17**	0.18**	0.09
Q15.あなたは教員に親近感を感じますか。	0.02	0.02	0.01	0.06	0.00	-0.01	0.06	0.2**	0.21**	0.12*	0.03	0.24**	0.18**	0.08	0.08	0.13*	0.15**	0.03	0.03	0.04
Q16.大学生での学びが将来仕事をしなくていける必要能力向上につながっていると思いますか。	0.01	-0.02	-0.03	0.03	0.07	0.02	0.05	0.11*	0.08	0.10	0.06	0.14**	0.09	-0.01	0.04	0.17**	0.06	0.04	0.05	0.06

1-2. 1年生基礎力スコアの回答別平均値グラフ_Q1. 入試形式

- リテラシーは [共通テスト利用入試] での水準が最も高い。
- 一方、コンピテンシーについては、対課題発見力は [共通テスト利用入試] で高く、その他基礎力は [学校推薦型入試] で高い傾向がみられる。

■基礎力の水準



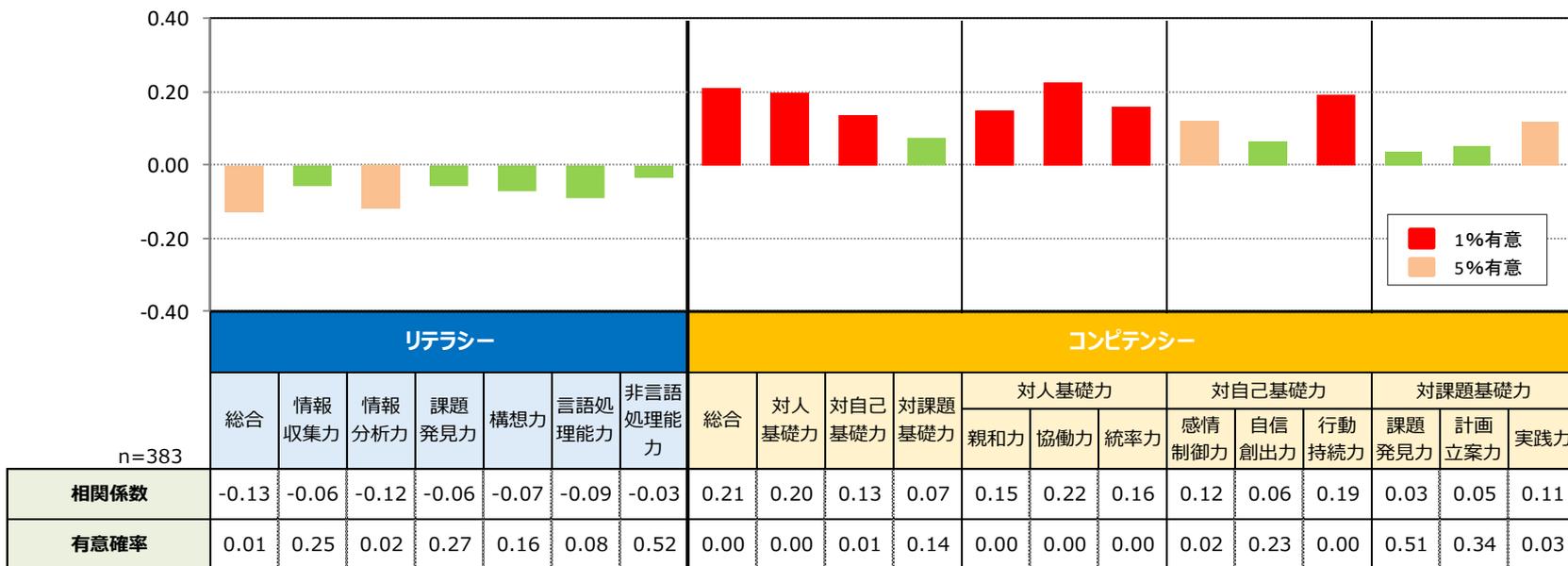
※グラフはn≥30のみ掲載

1-2. 1年生基礎カスコアとの相関係数グラフ_Q2. 新型コロナウイルスの影響

- 新型コロナウイルスによるマイナスの影響についての考えと、対人基礎力、感情制御力、行動持続力、実践力との間には有意な正の相関関係が認められ、これら基礎力の水準が高い学生ほど、マイナスの影響があったと思っている。

Q2.あなたの生活で新型コロナウイルス感染症によるマイナスの影響があったと思いますか。

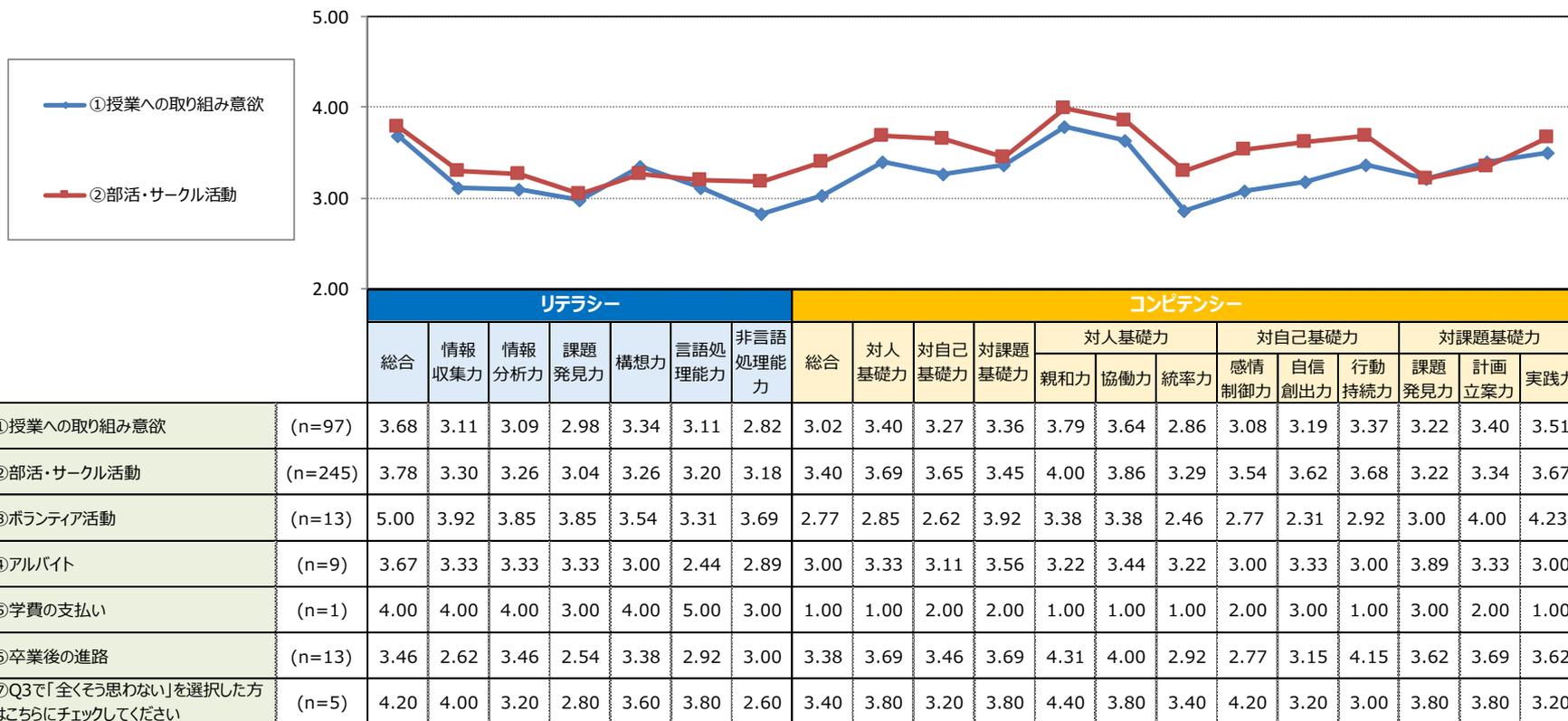
■基礎力との相関関係



●部活・サークル活動に最も大きいマイナスの影響があったと回答した学生の基礎力の水準が軒並み高い。

Q4.あなたが思う新型コロナウイルス感染症によるマイナスの影響として、最も大きいものは次のどれですか。

■基礎力の水準



※グラフはn≧30のみ掲載

1-2. 1年生基礎力スコアとの相関係数グラフ_Q5. 部活・サークル活動への取り組み

- 部活・サークル活動への取り組み姿勢とコンピテンシー（行動持続力以外）との間には、有意な正の相関関係が認められ、部活・サークル活動に熱心に取り組んでいる学生ほど、これら基礎力の水準が高い。

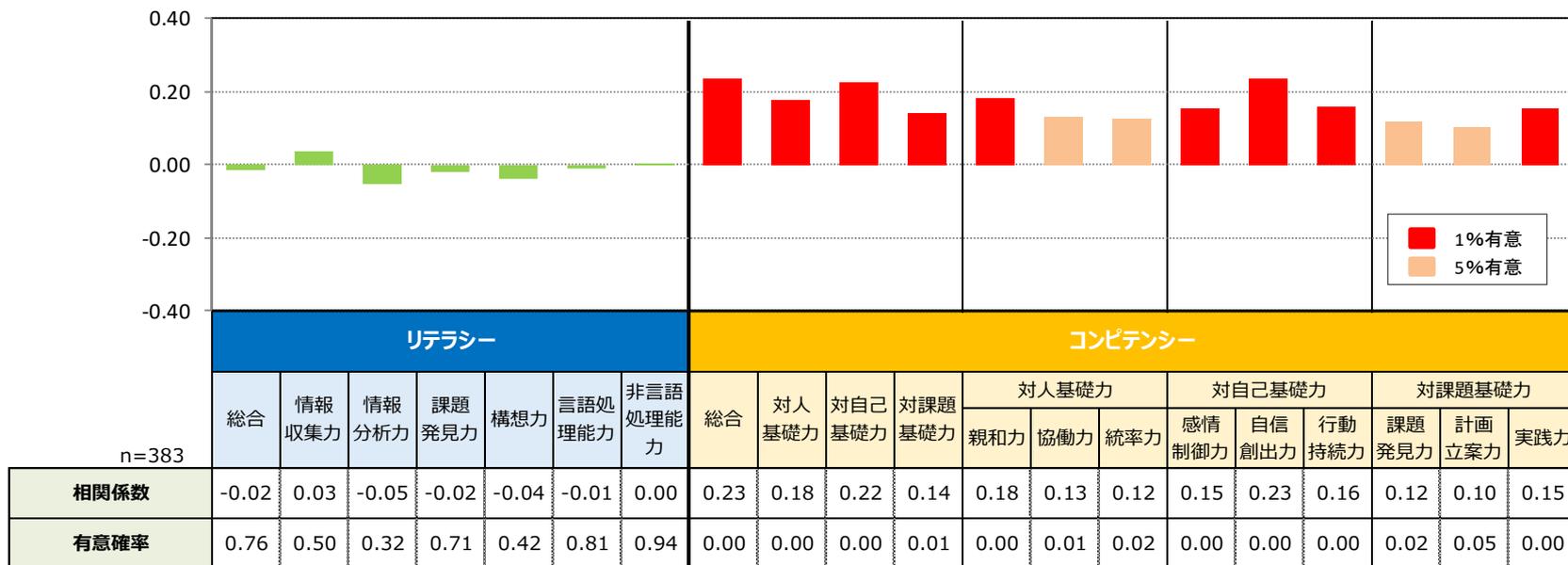
■ 基礎力との相関関係



1-2. 1年生基礎カスコアとの相関係数グラフ_Q6. ボランティア活動への取り組み

- ボランティア活動への取り組み姿勢とコンピテンシー各要素との間には、有意な正の相関関係が認められ、ボランティア活動に熱心に取り組んでいる学生ほど、これら基礎力の水準が高い。

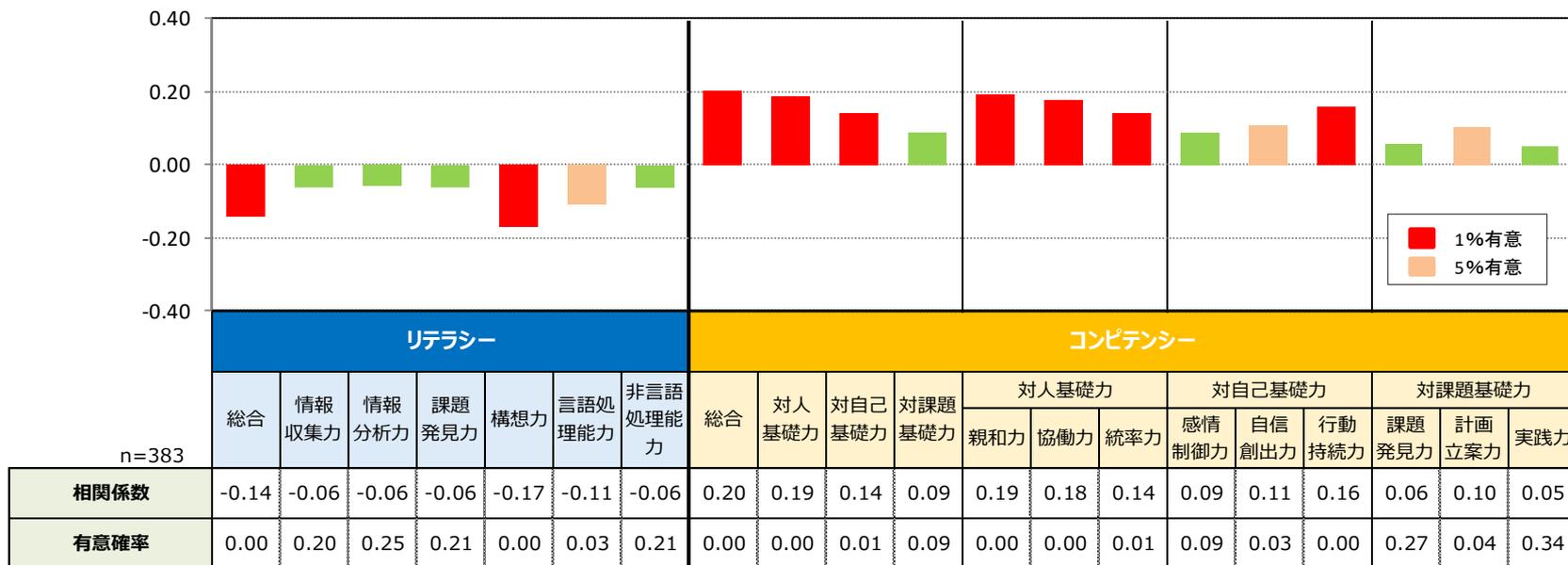
■ 基礎力との相関関係



1-2. 1年生基礎力スコアとの相関係数グラフ_Q7. アルバイトへの取り組み

- アルバイトへの取り組み姿勢と対人基礎力、自信創出力、行動持続力、計画立案力との間には、有意な正の相関関係が認められ、アルバイトに熱心に取り組んでいる学生ほど、これら基礎力の水準が高い。
- 逆に、リテラシーとの間には負の相関関係が認められた。

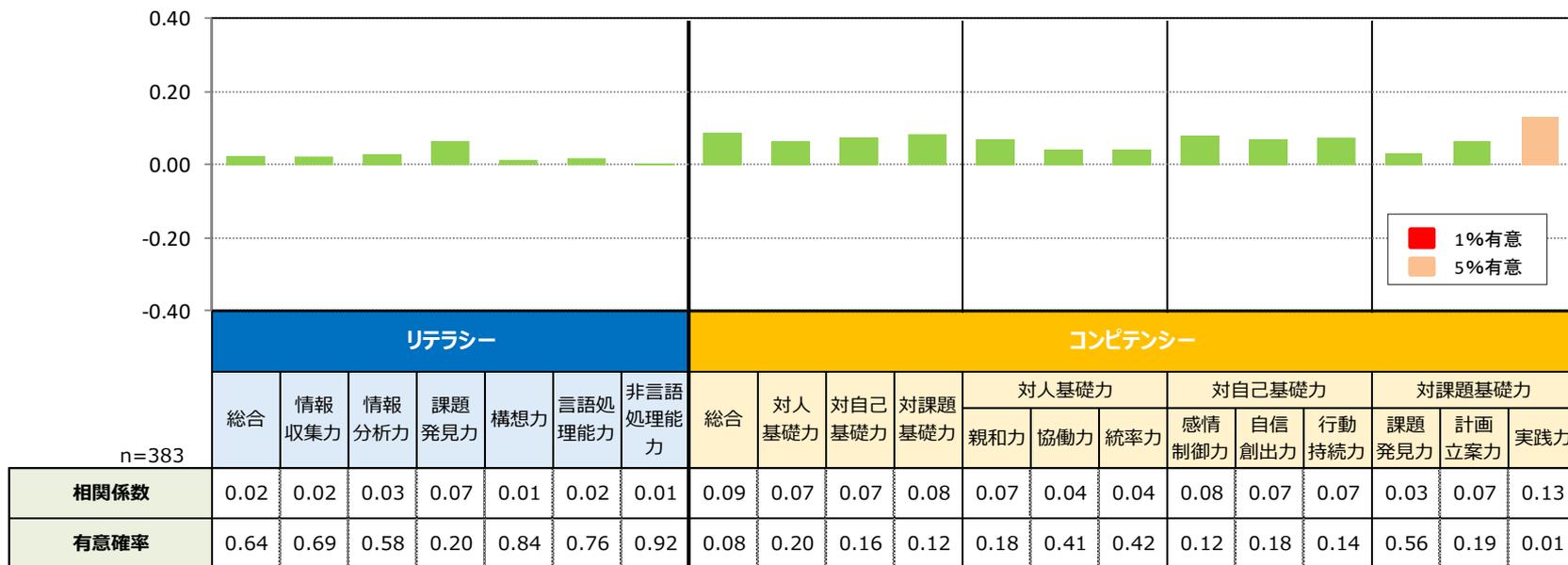
■ 基礎力との相関関係



1-2. 1年生基礎力スコアとの相関係数グラフ_Q8. 学費の支払いについて

●学費の支払いについて不安と実践力との間には、有意な正の相関関係が認められた。

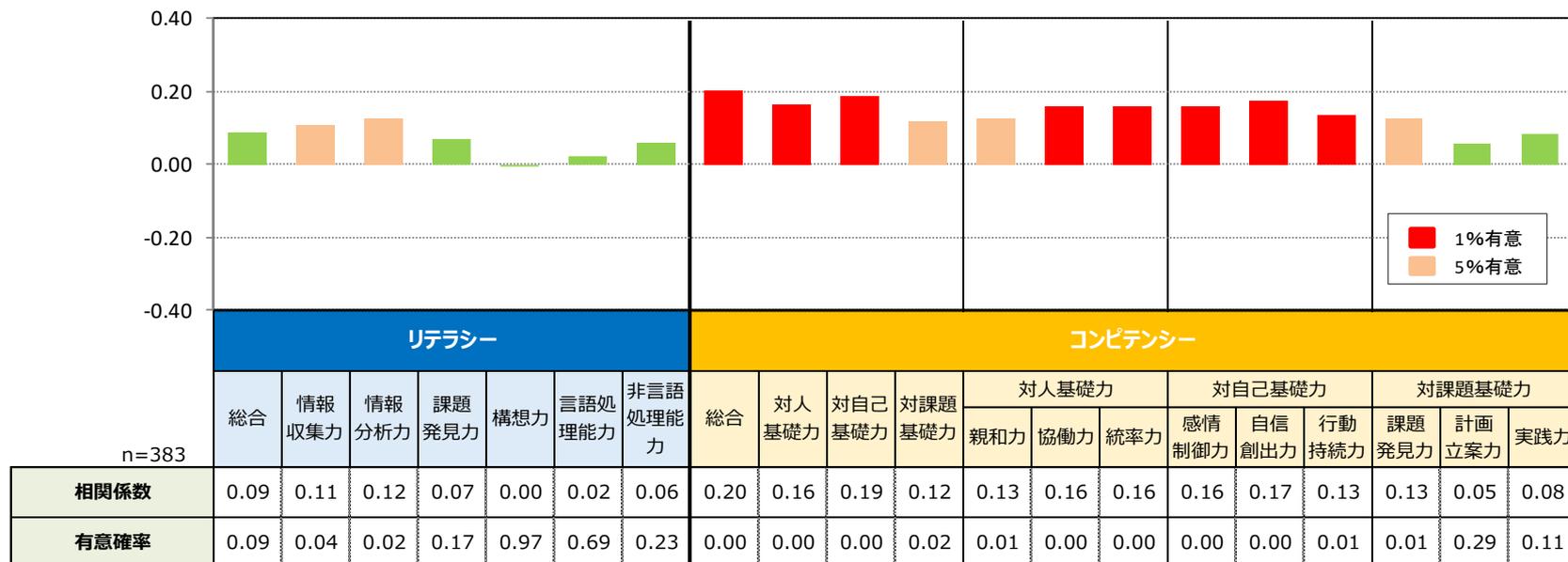
■基礎力との相関関係



1-2. 1年生基礎力スコアとの相関係数グラフ_Q9. 卒業後の進路について

- 卒業後の進路についての考えと対人基礎力、対自己基礎力、課題発見力との間には、有意な正の相関関係が認められ、卒業後の進路について考えを持っている学生ほど、これら基礎力の水準が高い。

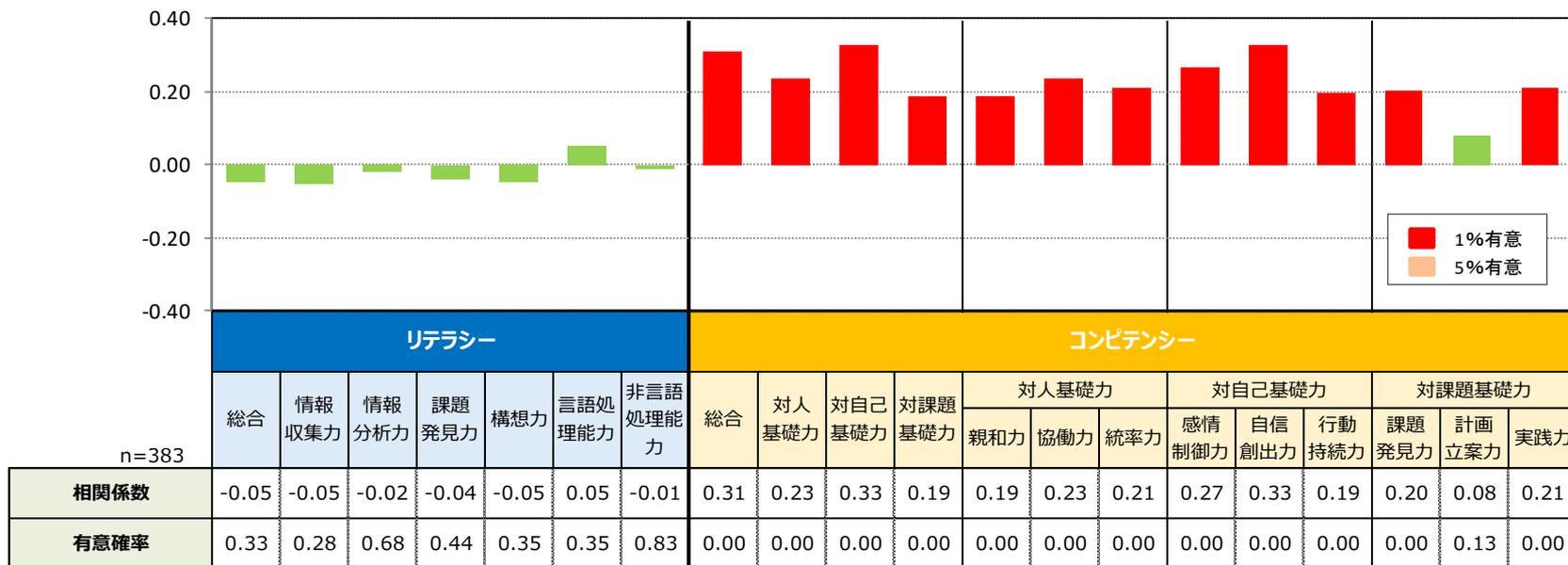
■ 基礎力との相関関係



1-2. 1年生基礎力スコアとの相関係数グラフ_Q10. 社会人になることについて

- 社会人になることについての考えとコンピテンシー（計画立案力以外）との間には、有意な正の相関関係が認められ、楽しみだと回答した学生ほど、これら基礎力の水準が高い。

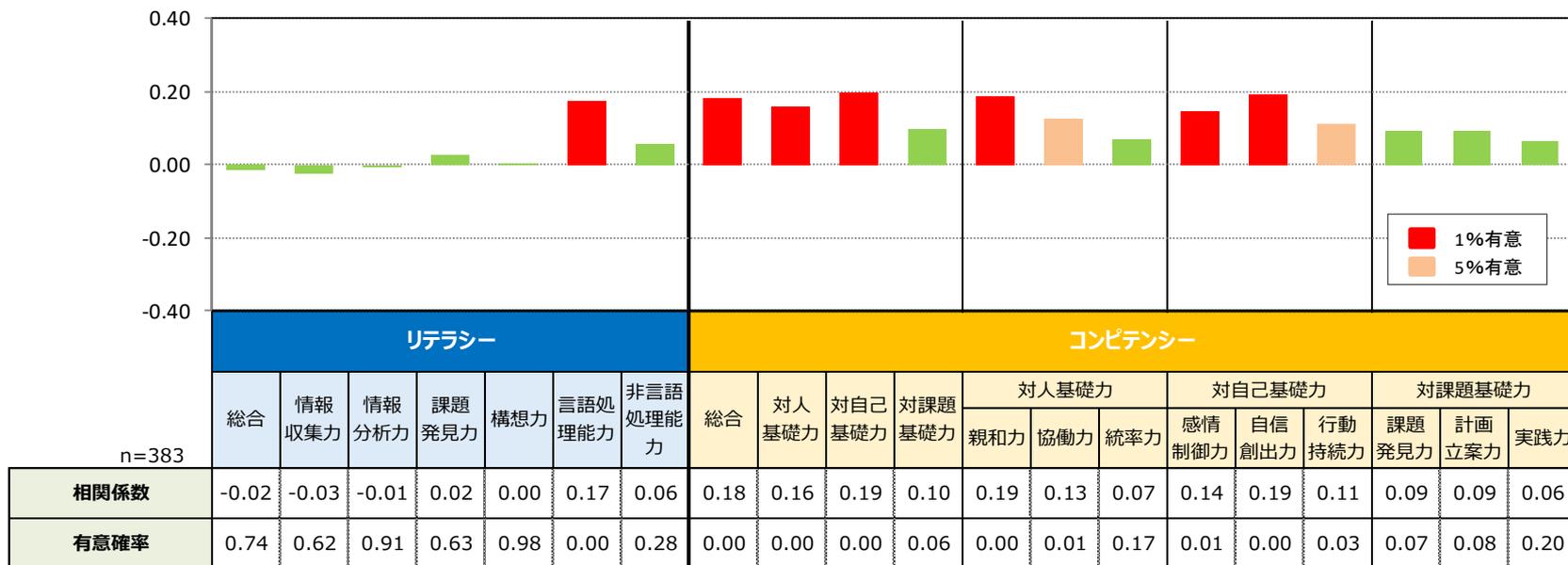
■ 基礎力との相関関係



1-2. 1年生基礎力スコアとの相関係数グラフ_Q11. 北翔大学に満足していますか

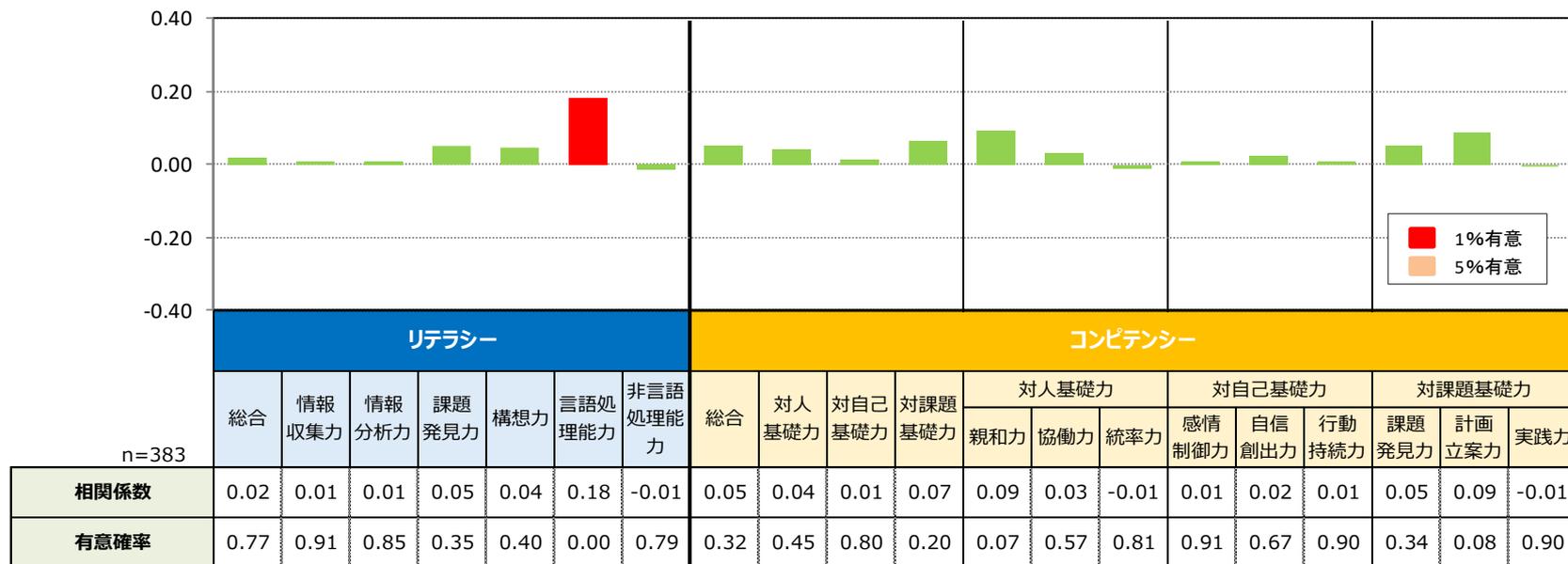
- 大学への満足度と親和力、協働力、感情制御力、自信創出力、行動持続力との間には、有意な正の相関関係が認められ、満足している学生ほど、これら基礎力の水準が高い。

■ 基礎力との相関関係



- 貴学教育内容の満足度と言語処理力との間には、有意な正の相関関係が認められ、満足している学生ほど言語処理力の水準が高い。

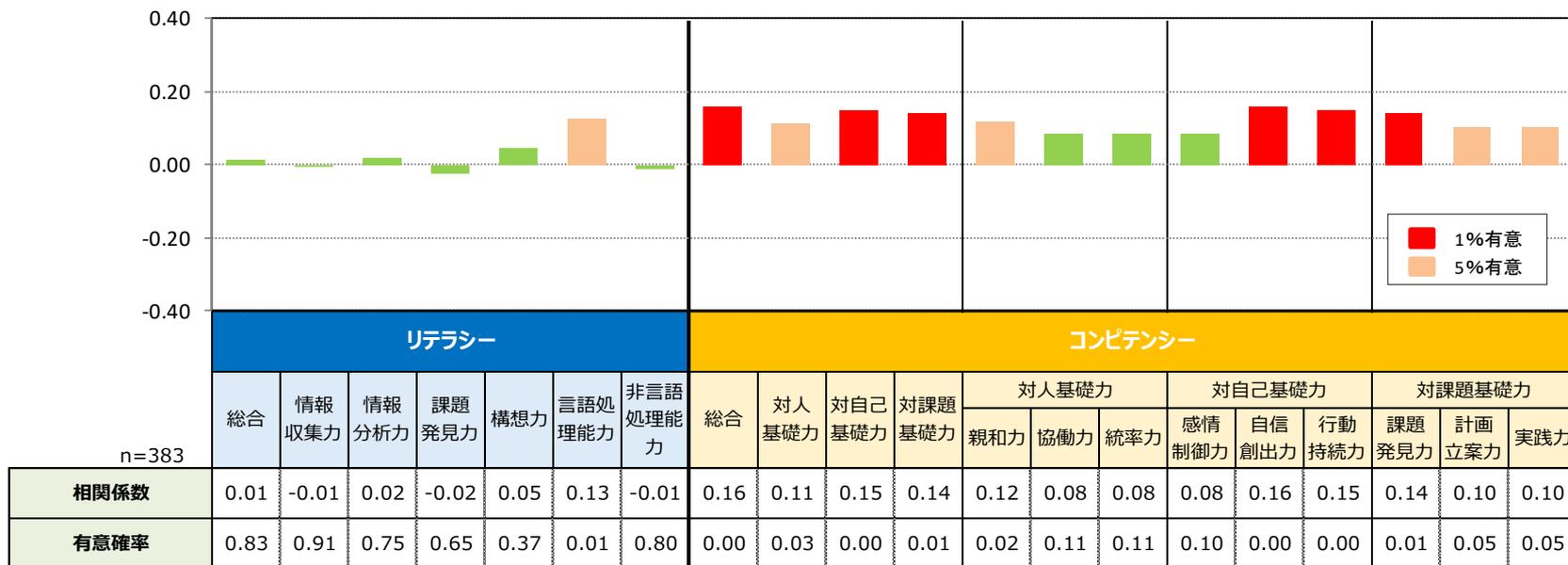
■ 基礎力との相関関係



1-2. 1年生基礎力スコアとの相関係数グラフ_Q13. 授業への取り組み

- 授業への取り組みと親和力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力との間には、有意な正の相関関係が認められ、熱心に取り組んでいる学生ほど、これら基礎力の水準が高い。

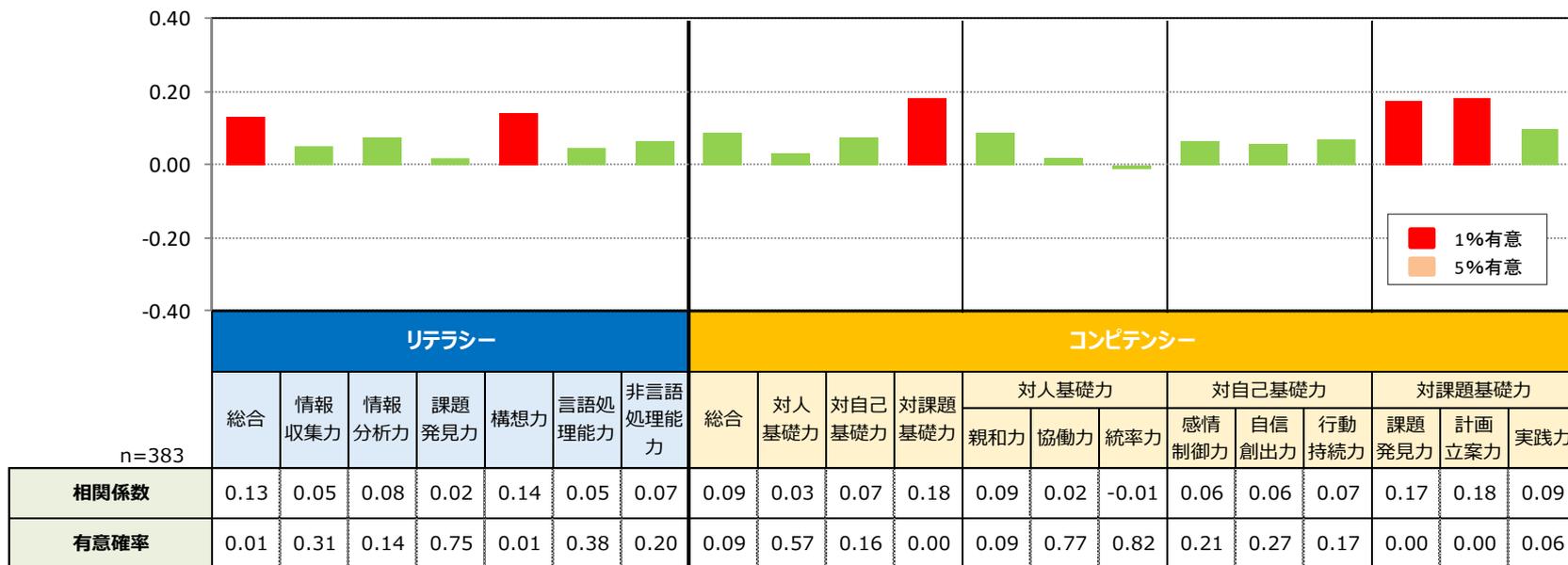
■ 基礎力との相関関係



1-2. 1年生基礎力スコアとの相関係数グラフ_Q14. 授業以外の学習時間

- 授業以外の学習時間とリテラシー、課題発見力、計画立案力との間には、有意な正の相関関係が認められ、学習時間が多い学生ほど、これら基礎力の水準が高い。

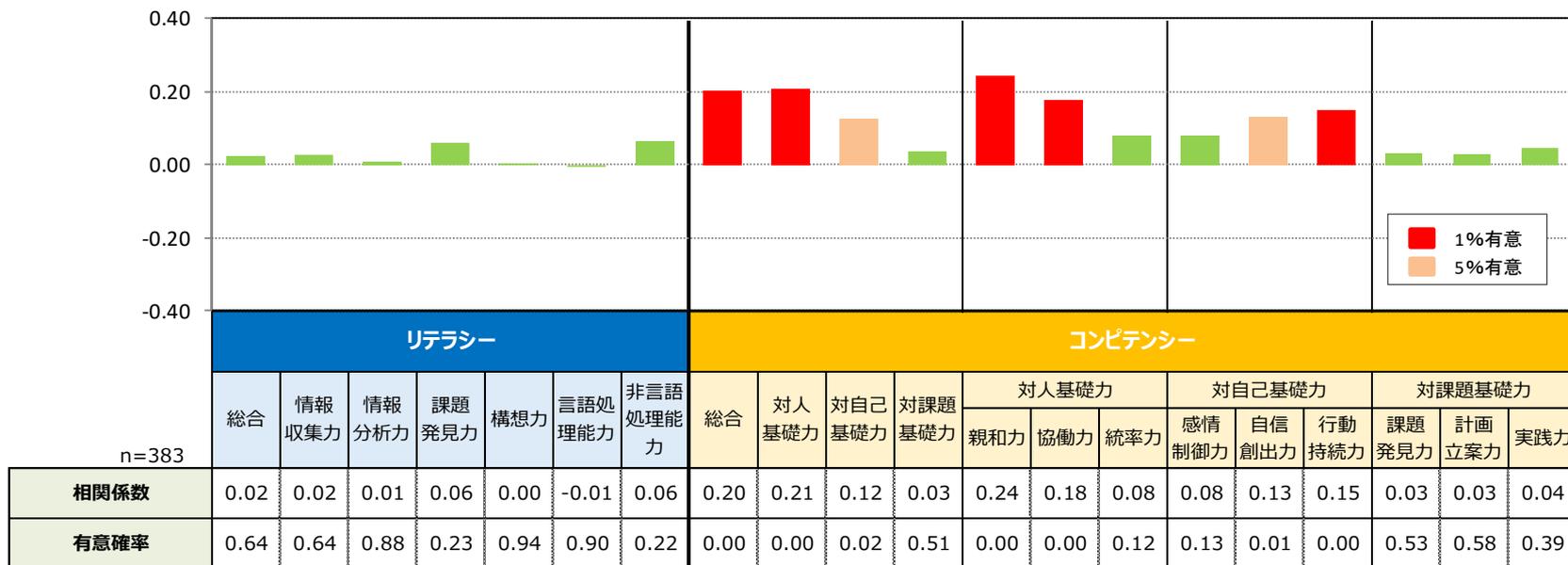
■ 基礎力との相関関係



1-2. 1年生基礎力スコアとの相関係数グラフ_Q15. 教員への親近感

- 教員への親近感と親和力、協働力、自信創出力、行動持続力との間には、有意な正の相関関係が認められ、教員に親近感を感じている学生ほど、これら基礎力の水準が高い。

■ 基礎力との相関関係

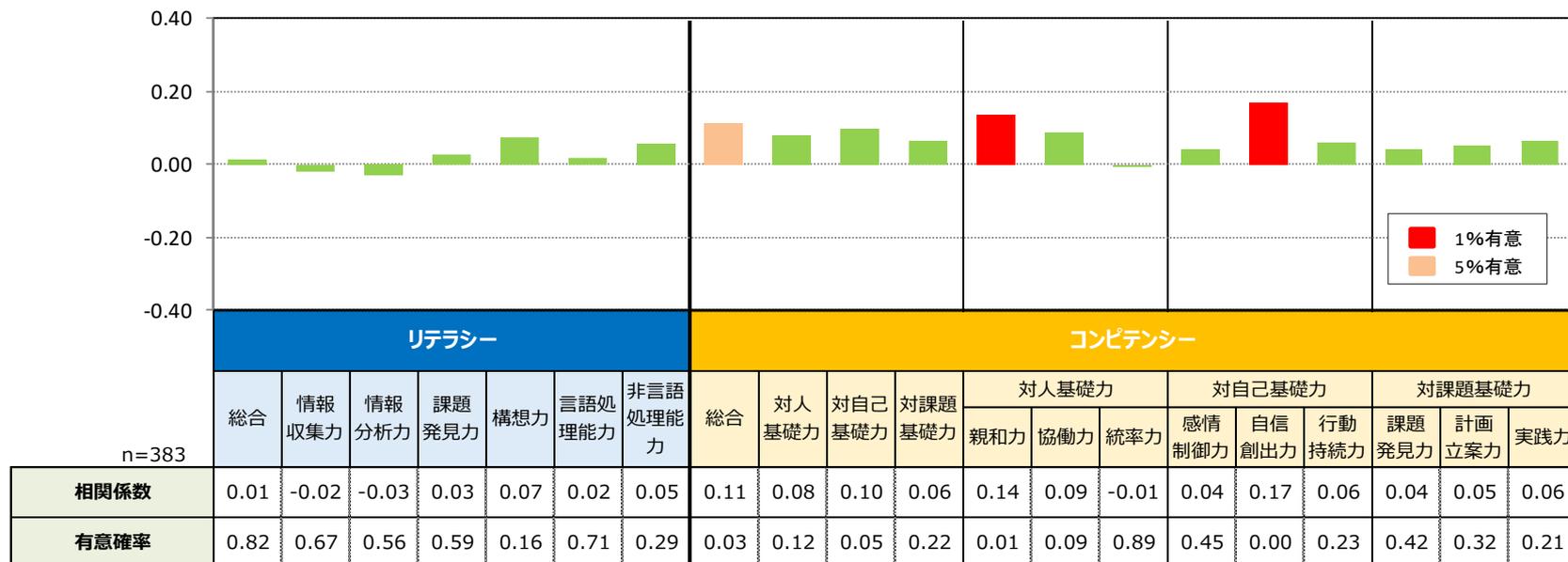


1-2. 1年生基礎力スコアとの相関係数グラフ_Q16. 大学生での学びについて

- 親和力、自信創出力との間に有意な正の相関関係が認められ、貴学での学びが将来仕事をしていくうえで必要な能力向上につながっていると思う学生ほど、これら基礎力の水準が高い。

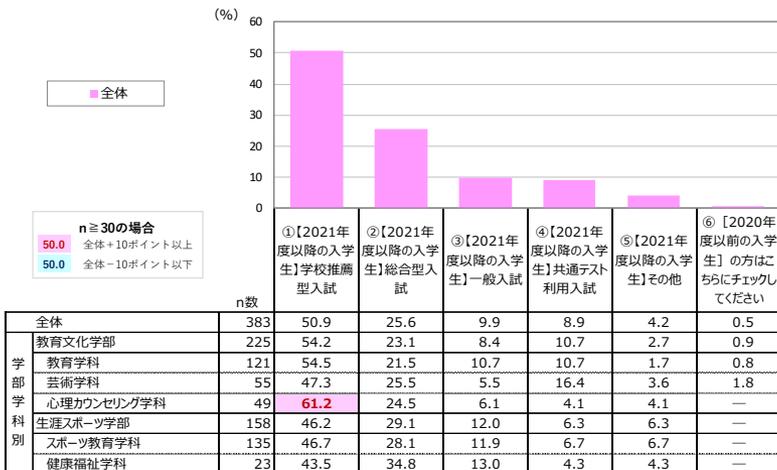
Q16. 大学生での学びが将来仕事仕事をしていくうえで必要な能力向上につながっていると思いますか。

■ 基礎力との相関関係

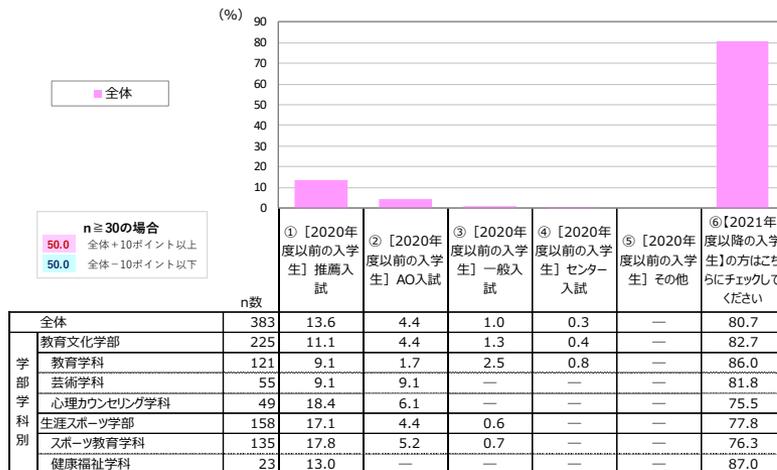


1-3. 1年生アンケート集計グラフ

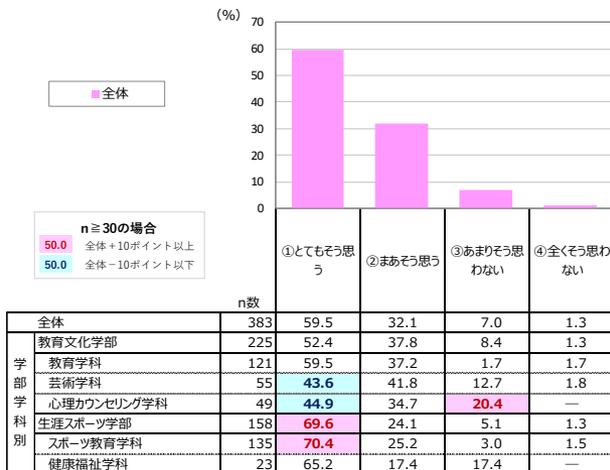
Q1.入試形式について教えてください。(全体/単一回答)



Q2.入試形式について教えてください。(全体/単一回答)



Q3.新型コロナウイルスによるマイナスの影響についてお伺いします。あなたの生活で新型コロナウイルス感染症によるマイナスの影響があったと思いますか。(全体/単一回答)

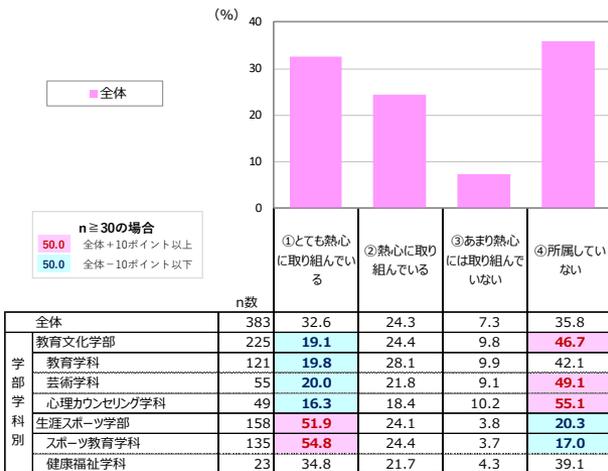


Q4.あなたが思う新型コロナウイルス感染症によるマイナスの影響として、最も大きいものは次のどれですか。(全体/単一回答)

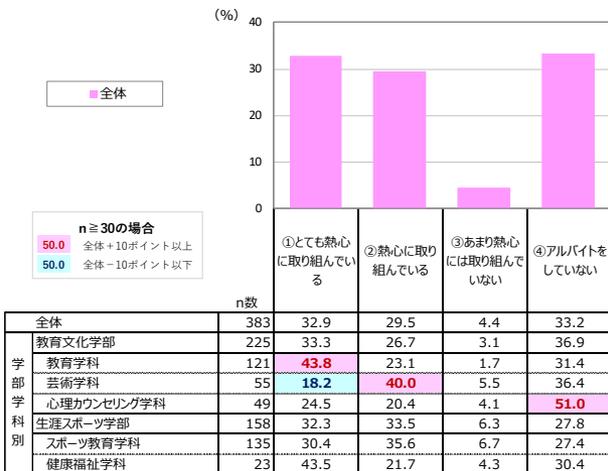


1-3. 1年生アンケート集計グラフ

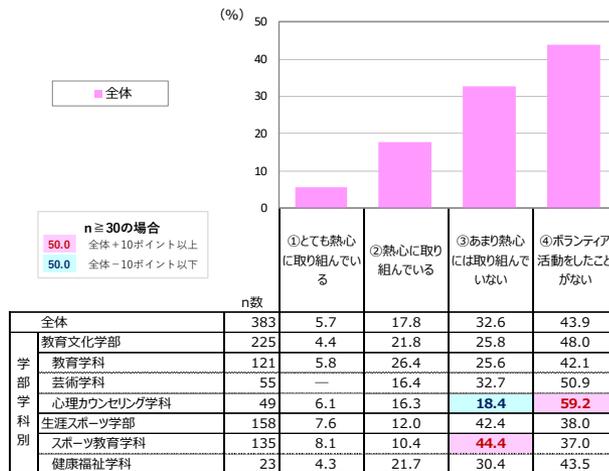
Q5.部活・サークル活動についてお伺いします。(全体/単一回答)



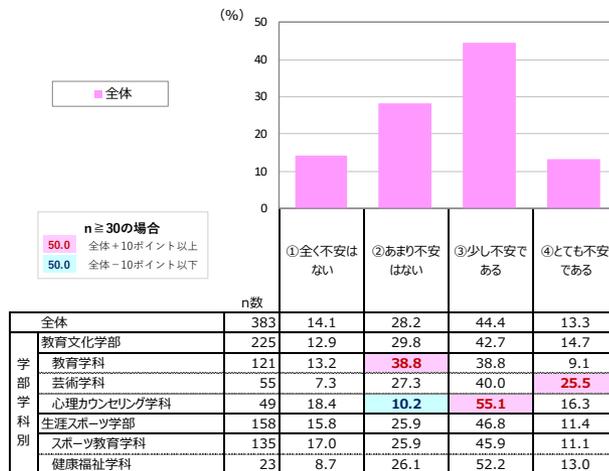
Q7.アルバイトについてお伺いします。(全体/単一回答)



Q6.ボランティア活動についてお伺いします。(全体/単一回答)

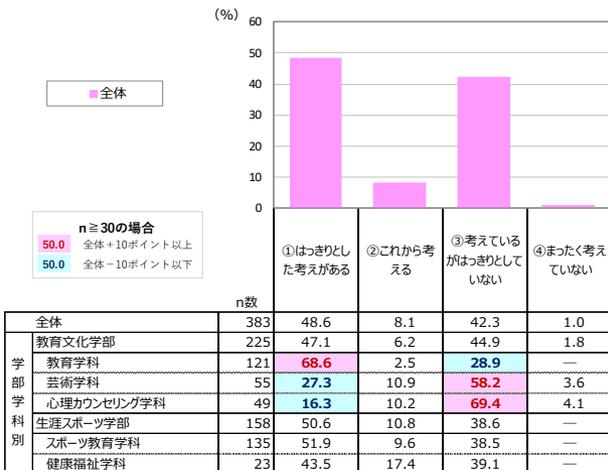


Q8.学費の支払いについて不安はありますか。(全体/単一回答)

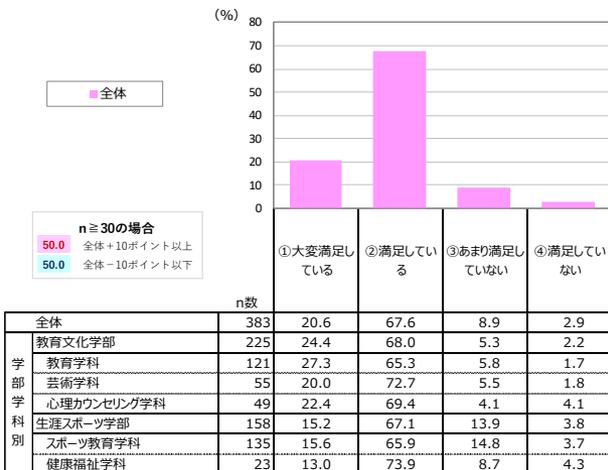


1-3. 1年生アンケート集計グラフ

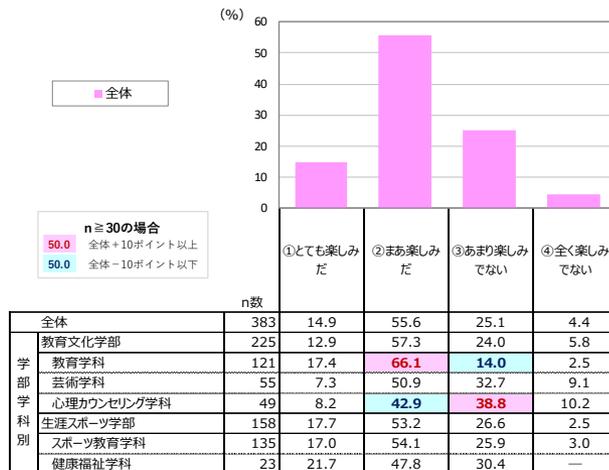
Q9.あなたは卒業後の進路（就職・公務員・教員・進学・留学など）について、現在どのような考えを持っていますか。（全体／単一回答）



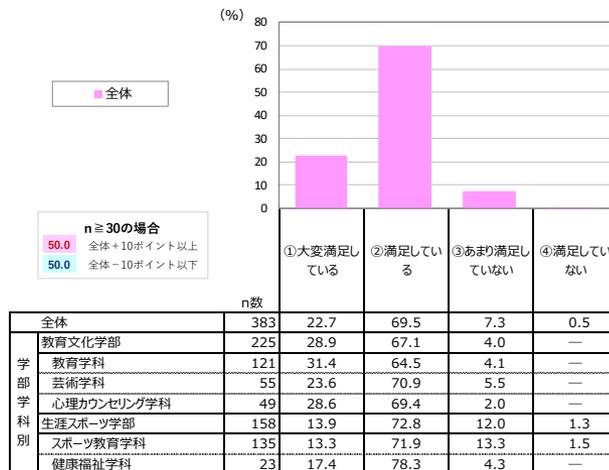
Q11.あなたは現在、全体として北翔大学に満足していますか。（全体／単一回答）



Q10.卒業後、社会人になることについてどのように感じますか。（全体／単一回答）

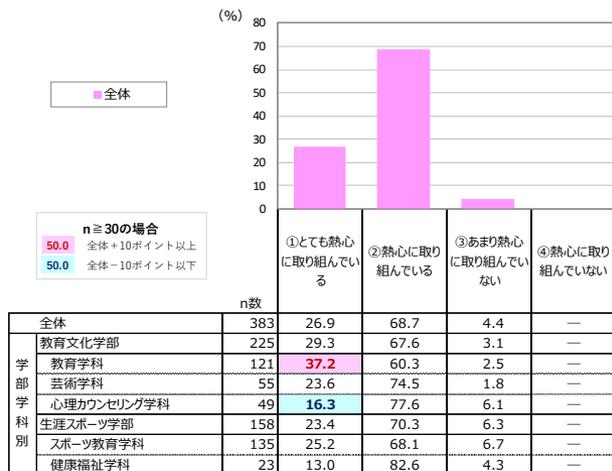


Q12.北翔大学の教育内容についてお伺いします。（全体／単一回答）

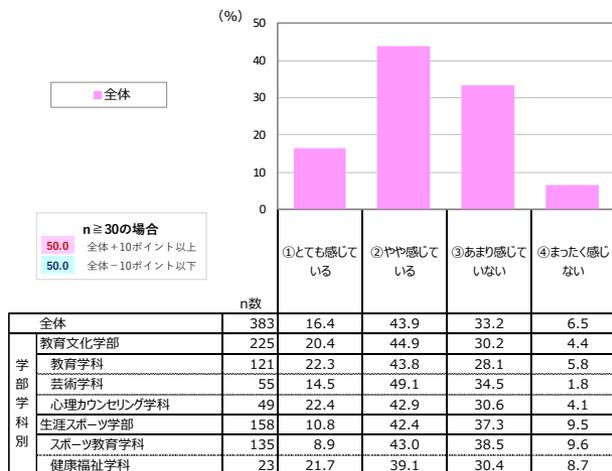


1-3. 1年生アンケート集計グラフ

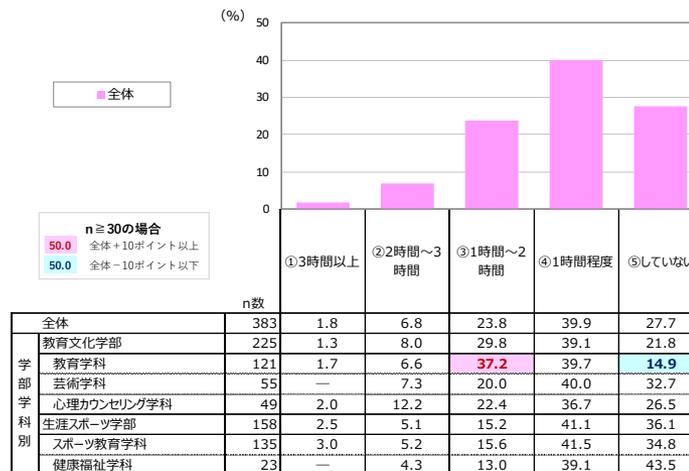
Q13. あなたは授業にどのように取り組んでいますか。(全体/単一回答)



Q15. あなたは教員に親近感を感じますか。(全体/単一回答)

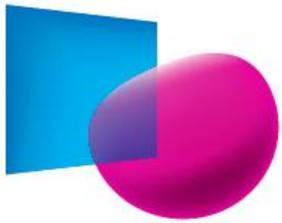


Q14. あなたは授業以外に一日平均でどのくらい学習していますか。(全体/単一回答)



Q16. 大学生での学びが将来仕事をしていくうえで必要な能力向上につながっていると思いますか。(全体/単一回答)





PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

2. 3年生基礎力関連分析



2-1. 3年生基礎力スコアの回答別平均一覧・相関係数一覧

N=10の場合： 全体+5.0以上 全体-5.0以下

設問	選択肢	N数	PI値_リテラシー								PI値_コンピテンシー											
			総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	言語処理能力	非言語処理能力	総合	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力					
											対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
全体		323	48.4	55.8	57.3	52.2	54.6	55.1	53.4	46.7	48.1	49.7	47.1	47.1	47.6	50.0	50.2	49.6	49.3	47.2	47.5	47.4
Q1.入試形式について教えてください。	①[2021年度以降の入学生]学校推薦型入試	163	48.7	56.0	58.0	52.9	55.4	55.2	51.5	46.5	48.1	49.4	47.3	47.7	47.7	48.5	51.2	49.6	49.6	45.8	47.4	48.5
	②[2021年度以降の入学生]総合型入試	68	42.0	50.7	53.7	48.9	49.6	54.9	48.6	48.4	49.5	50.9	47.9	47.5	48.8	54.1	51.6	50.6	47.6	48.9	45.0	
	③[2021年度以降の入学生]一般入試	34	53.5	59.1	59.5	55.4	55.6	54.5	60.9	44.3	48.7	47.6	45.9	45.7	47.9	51.1	48.3	48.9	47.0	50.5	44.5	
	④[2021年度以降の入学生]共通テスト利用入試	29	58.0	64.0	63.6	55.2	60.1	56.8	64.6	48.9	49.6	53.5	40.9	48.6	48.2	50.2	49.8	51.1	52.6	50.4	41.6	
	⑤[2021年度以降の入学生]その他	12	41.0	46.8	46.0	48.8	53.8	49.4	58.5	44.5	40.5	47.6	55.8	35.2	46.6	47.6	48.8	48.2	43.9	44.0	55.6	
	⑥[2021年度以降の入学生]の方はこちらにチェックしてください	17	50.4	59.8	57.6	50.5	55.5	57.9	53.7	44.6	44.4	47.3	48.3	48.8	40.1	47.1	41.2	45.4	56.6	45.4	47.2	
Q2.入試形式について教えてください。	①[2020年度以前の入学生] 推薦入試	35	44.0	53.2	54.3	43.7	53.5	57.8	42.8	47.9	47.3	49.4	46.6	48.7	44.1	50.9	51.6	48.9	48.4	45.2	48.8	
	②[2020年度以前の入学生] AO入試	15	37.6	54.2	56.1	50.3	37.4	49.5	46.7	55.3	52.7	59.6	57.6	54.6	56.2	56.0	59.2	57.3	54.7	53.5	57.1	
	③[2020年度以前の入学生] 一般入試	4	57.8	60.0	71.3	35.3	65.3	49.8	72.3	39.8	44.3	45.8	56.0	52.0	33.3	44.3	39.8	41.3	54.8	54.8	50.5	
	④[2020年度以前の入学生] センター入試	1	44.0	42.0	51.0	63.0	84.0	42.0	79.0	38.0	59.0	48.0	7.0	36.0	59.0	94.0	46.0	36.0	57.0	18.0	11.0	
	⑤[2020年度以前の入学生] その他	2	64.0	73.5	48.5	63.0	65.0	54.5	28.0	50.5	57.0	66.0	38.0	64.0	63.0	55.0	58.0	60.0	65.0	39.0	50.5	
	⑥[2021年度以降の入学生]の方はこちらにチェックしてください	266	49.4	56.1	57.6	53.6	55.3	55.2	55.0	46.2	47.9	49.1	46.7	46.3	47.6	49.4	49.7	49.3	49.0	47.2	46.9	
Q4.あなたが思う新型コロナウイルス感染症によるマイナスの影響として、最も大きいものは次のどれですか。	①授業への取り組み意欲	121	51.1	56.9	59.7	54.1	56.6	57.7	56.9	46.9	47.6	49.9	47.9	46.5	47.8	50.0	49.0	51.1	49.5	47.9	48.4	
	②部活・サークル活動	135	47.8	56.7	56.9	50.5	53.6	55.8	51.7	45.9	47.6	49.3	47.8	46.4	47.0	48.3	51.2	47.3	47.9	47.6	47.9	
	③ボランティア活動	13	50.4	55.9	54.7	49.3	61.5	54.4	55.3	46.0	44.3	43.6	40.8	46.1	45.1	47.5	44.3	50.2	49.7	45.0	42.4	
	④アルバイト	23	43.7	49.7	53.6	56.5	53.8	54.0	53.3	48.7	51.0	53.7	42.0	47.8	47.5	57.4	53.8	52.9	54.5	44.0	43.6	
	⑤学費の支払い	18	48.0	56.3	57.7	58.4	54.8	44.1	49.1	48.3	52.8	46.6	50.1	58.5	46.4	52.8	48.2	50.4	46.7	49.1	50.8	
	⑥卒業後の進路	7	30.9	34.7	48.9	38.3	37.4	39.4	34.6	45.8	47.3	49.0	51.8	43.3	52.7	44.8	41.8	48.2	48.7	43.7	50.5	
	⑦Q3で「全くそう思わない」を選択した方はこちらにチェックしてください	6	43.7	58.8	45.2	40.0	43.8	45.0	52.8	49.5	51.8	63.3	34.8	43.7	58.7	58.7	65.7	55.7	64.8	41.5	37.5	

相関係数

[全体]N=333 (ただし各設問無回答は除く)

** 相関係数は1%水準で有意
* 相関係数は5%水準で有意

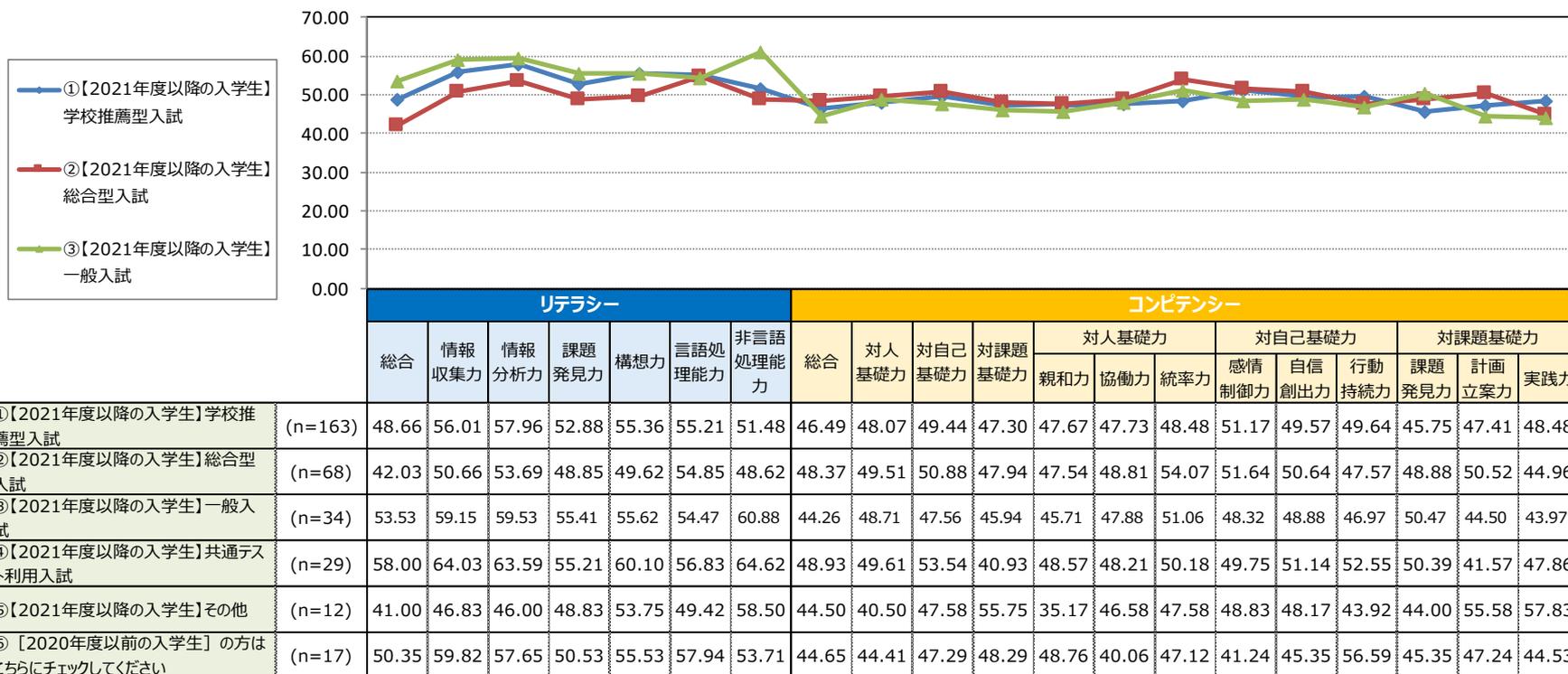
0.2以上 0.3未満
0.3以上 0.35未満
0.35以上

設問	リテラシー								コンピテンシー											
	総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	言語処理能力	非言語処理能力	総合	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
												親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
Q3.新型コロナウイルスによるマイナスの影響についてお伺いします。あなたの生活で新型コロナウイルス感染症によるマイナスの影響があったと思いますか。	-0.01	-0.08	-0.02	0.00	0.06	0.00	-0.13*	0.04	0.04	0.03	0.09	0.08	0.02	-0.07	0.06	0.02	0.03	-0.02	0.07	0.07
Q5.部活・サークル活動についてお伺いします。	-0.08	-0.10	-0.03	-0.06	0.01	-0.09	-0.15**	0.01	0.02	0.02	0.01	0.00	-0.02	0.00	0.03	0.07	0.02	-0.03	0.01	0.04
Q6.ボランティア活動についてお伺いします。	-0.03	-0.04	-0.04	-0.05	0.06	-0.02	-0.03	0.04	0.06	0.01	-0.03	0.06	-0.03	0.07	0.03	0.06	-0.02	0.00	0.00	-0.01
Q7.アルバイトについてお伺いします。	-0.08	-0.06	-0.09	-0.07	0.02	-0.07	-0.02	0.16**	0.17**	0.14*	0.00	0.12*	0.12*	0.16**	0.16**	0.08	0.06	0.03	0.06	-0.05
Q8.学費の支払いについて不安はありますか。	0.10	0.04	0.05	0.10	0.10	0.09	0.04	0.03	-0.02	0.02	-0.02	-0.01	0.00	-0.03	0.02	0.10	-0.01	0.00	-0.05	0.04
Q9.あなたは卒業後の進路(就職・公務員・教員・進学・留学など)について、現在どのような考えを持っていますか。	0.01	0.04	-0.01	-0.10	0.11	0.01	0.01	0.13*	0.13*	0.13*	0.04	0.11	0.13*	0.07	0.03	0.17**	0.07	0.06	0.05	0.05
Q10.卒業後、社会人になることについてどのように感じますか。	-0.16**	-0.10	-0.16**	-0.11	0.00	-0.07	-0.08	0.19**	0.16**	0.2**	0.03	0.09	0.08	0.12*	0.19**	0.17**	0.19**	0.00	0.01	0.03
Q11.あなたは現在、全体として北翔大学に満足していますか。	-0.06	-0.12*	-0.06	0.01	0.04	-0.03	0.04	-0.05	-0.06	-0.04	-0.04	-0.06	-0.09	-0.08	-0.05	0.01	-0.07	-0.07	-0.03	-0.01
Q12.北翔大学の教育内容についてお伺いします。	-0.04	-0.08	-0.01	-0.01	0.02	0.07	0.07	-0.07	-0.05	-0.07	-0.06	-0.06	-0.01	-0.07	-0.11	-0.03	-0.10	-0.03	-0.05	0.01
Q13.あなたは授業にどのように取り組んでいますか。	0.03	0.00	0.00	0.07	0.08	-0.02	0.00	0.00	-0.04	-0.01	0.05	-0.05	0.02	-0.05	-0.01	0.12*	-0.10	0.05	0.09	0.05
Q14.あなたは授業以外に一日平均でどのくらい学習していますか。	0.05	0.02	-0.01	-0.01	0.17**	-0.07	0.06	0.14*	0.12*	0.09	0.08	0.10	0.11*	0.11*	0.03	0.11*	0.07	0.09	0.13*	0.02
Q15.あなたは教員に親近感を感じますか。	0.06	0.01	-0.02	0.09	0.04	-0.03	0.04	0.02	0.09	-0.05	0.03	0.06	0.08	0.01	-0.13*	0.03	-0.04	0.06	0.08	0.03
Q16.大学生での学びが将来仕事をしていくうえで必要な能力向上につながっていると思いますか。	0.01	-0.01	-0.05	0.00	0.11*	-0.08	0.00	-0.03	0.02	-0.08	0.00	-0.03	0.05	-0.02	-0.07	0.01	-0.15**	-0.02	0.06	0.04

2-2. 3年生基礎力スコアの回答別平均値グラフ_Q1. 入試形式

- リテラシーは [一般入試] が[学校推薦入試][総合型入試]よりも高い。
- 一方、コンピテンシーについては、[一般入試][学校推薦入試][総合型入試]ではそれほど顕著な差はない。

■基礎力の水準



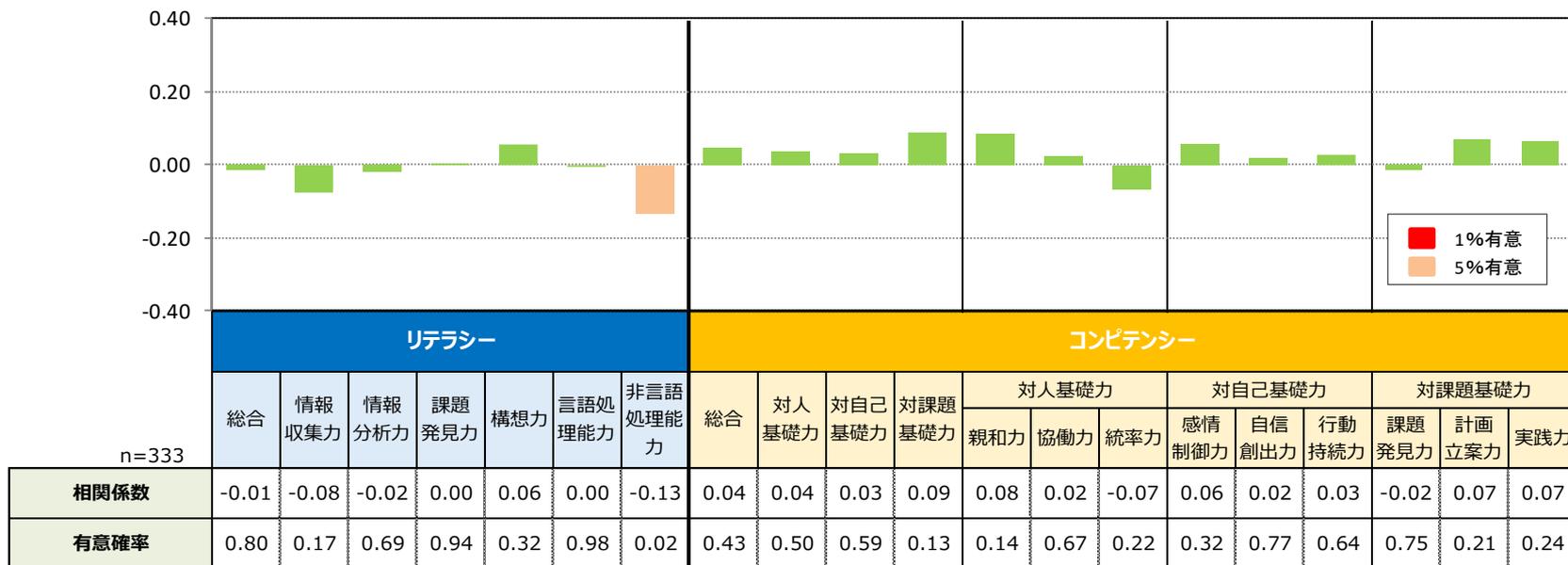
※グラフはn≧30のみ掲載

2-2. 3年生基礎力スコアとの相関係数グラフ_Q2. 新型コロナウイルスの影響

●新型コロナウイルスによるマイナスの影響についての考えと基礎力伸長との間には、それほど顕著な差はみられなかった。

Q2.あなたの生活で新型コロナウイルス感染症によるマイナスの影響があったと思いますか。

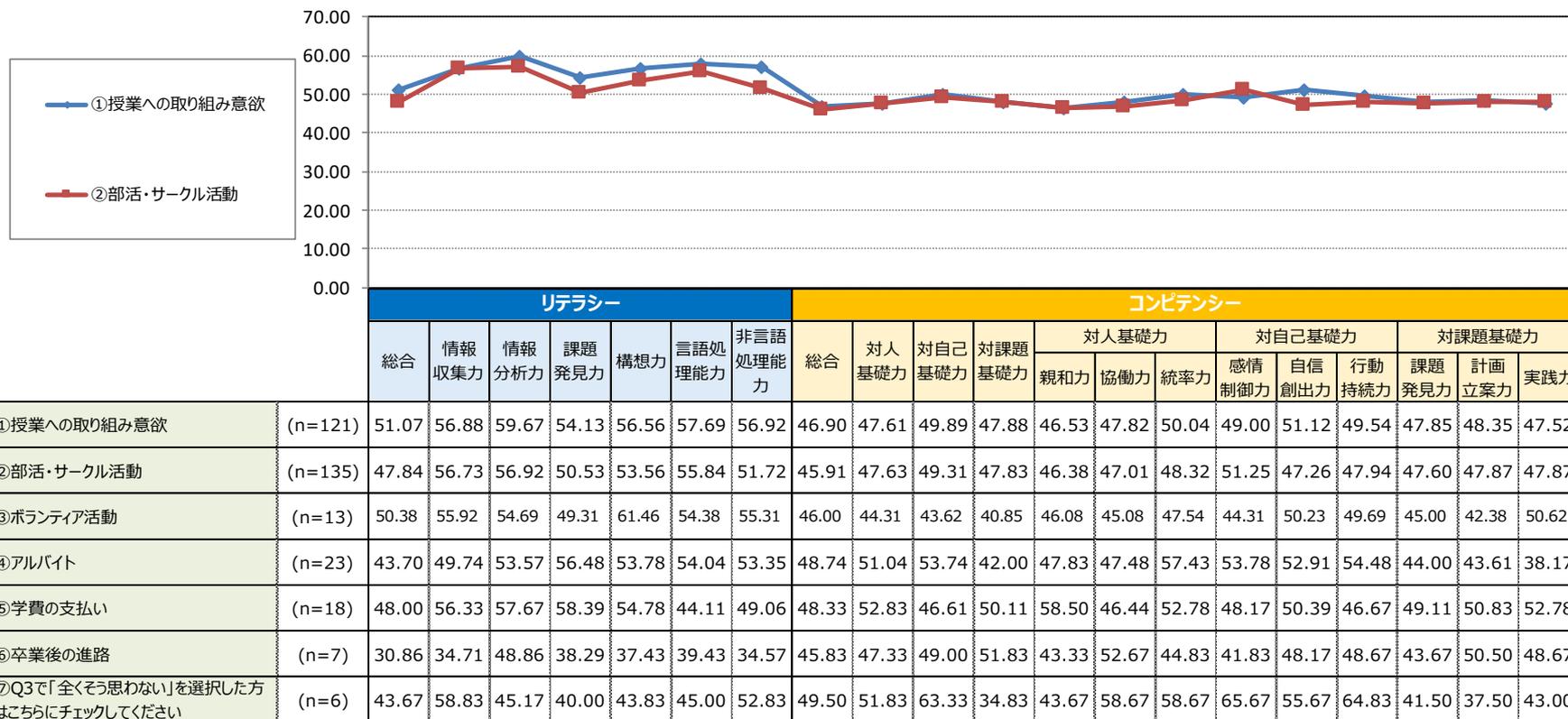
■基礎力との相関関係



- 授業に最も大きいマイナスの影響があったと回答した学生の方が、部活・サークル活動に最も大きいマイナスの影響があったと回答した学生よりもリテラシーの伸長幅が大きい。

Q4.あなたが思う新型コロナウイルス感染症によるマイナスの影響として、最も大きいものは次のどれですか。

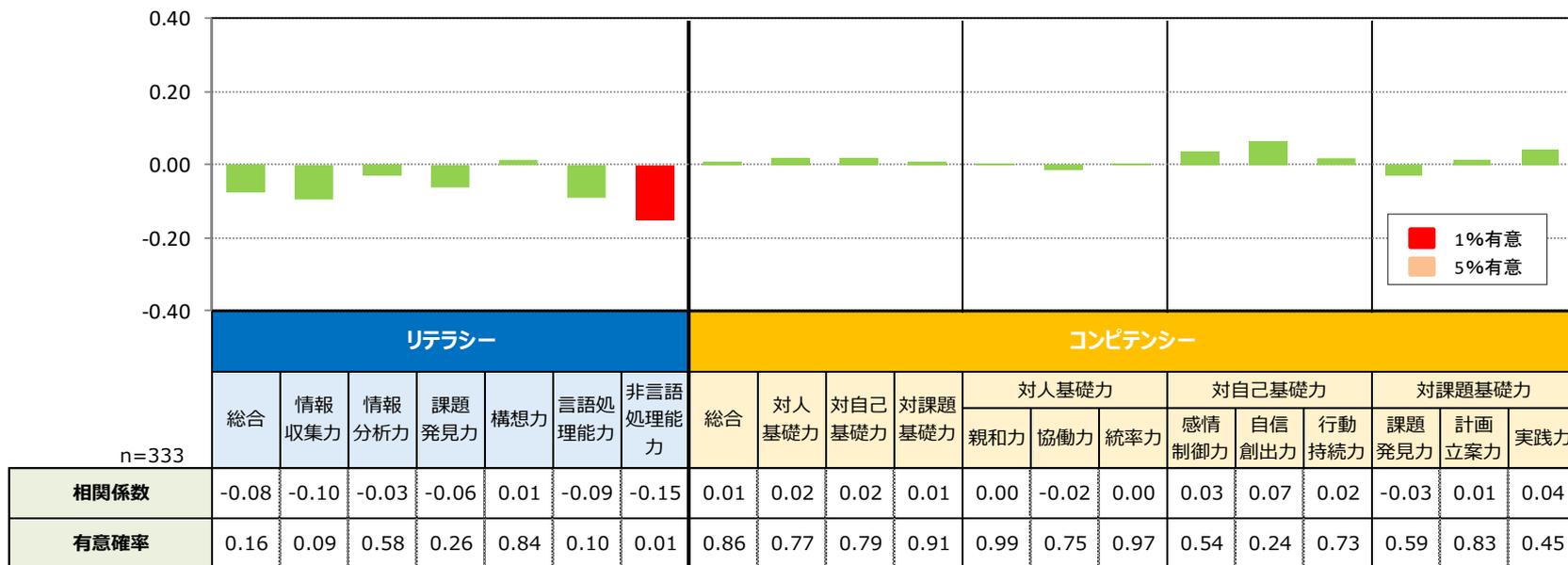
■ 基礎力の水準



※グラフはn≧30のみ掲載

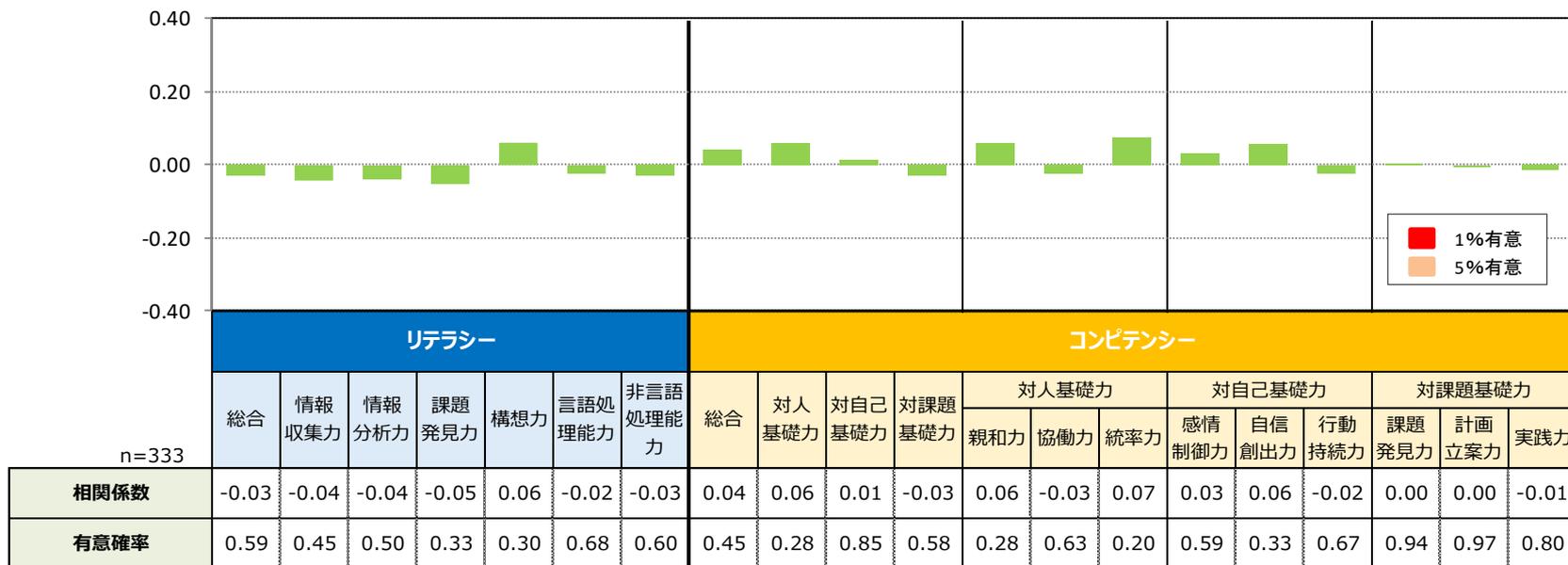
- 部活・サークル活動への取り組み姿勢とリテラシーの伸長との間には、有意ではないものの、負の相関関係となっており、部活・サークル活動に熱心に取り組んだ学生ほどリテラシーが伸長していない様子が伺える。

■ 基礎力との相関関係



● ボランティア活動への取り組み姿勢と基礎力伸長との間には、それほど顕著な差はみられなかった。

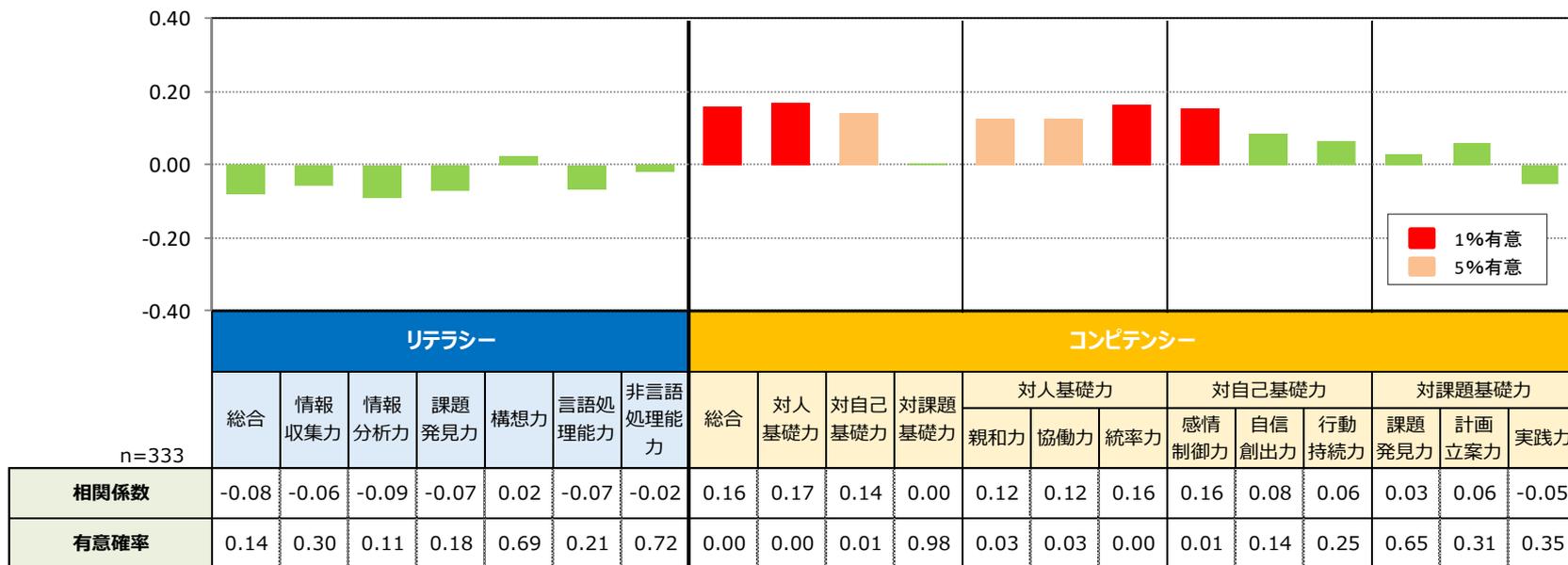
■ 基礎力との相関関係



2-2. 3年生基礎力スコアとの相関係数グラフ_Q7. アルバイトへの取り組み

- アルバイトへの取り組み姿勢と対人基礎力や統率力、感情制御力の伸長との間には、有意な正の相関関係が認められ、アルバイトに熱心に取り組んでいる学生ほど、これら基礎力の伸長幅が大きい。

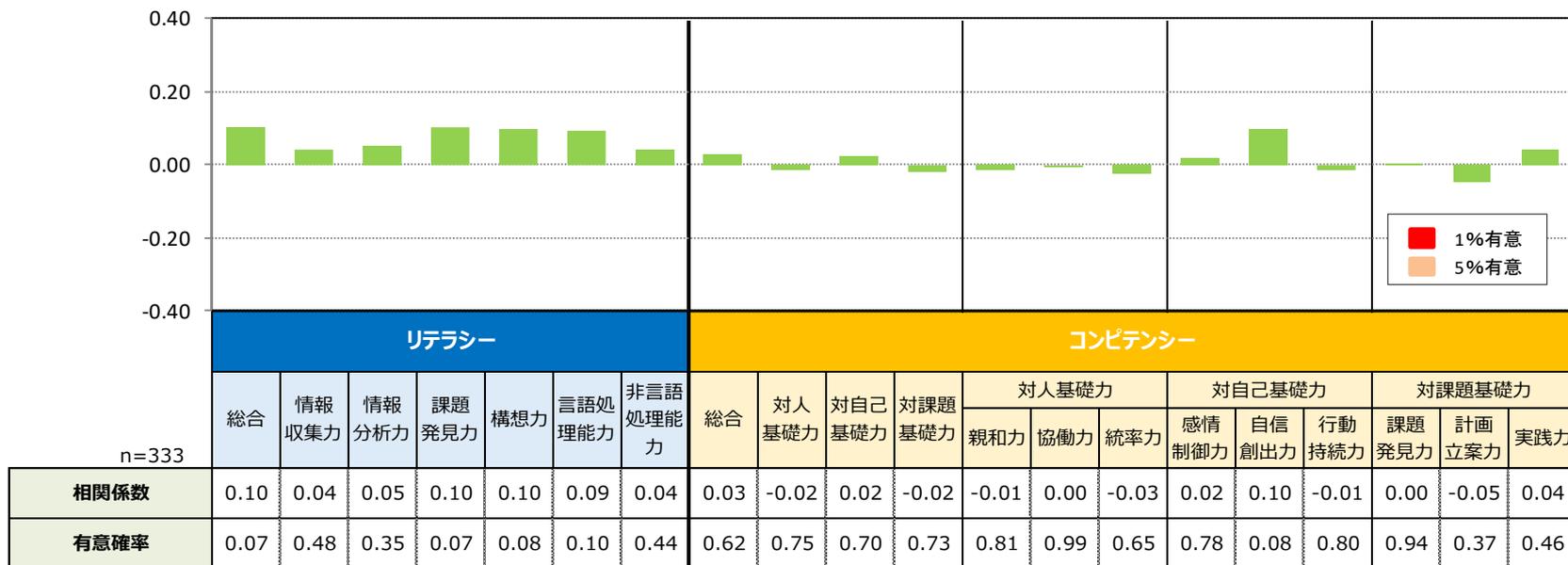
■基礎力との相関関係



2-2. 3年生基礎力スコアとの相関係数グラフ_Q8. 学費の支払いについて

- 学費の支払いについて不安とリテラシーの伸長との間には、有意ではないものの、正の相関関係となっており、不安を感じている学生ほどリテラシーが伸長している子が伺える。

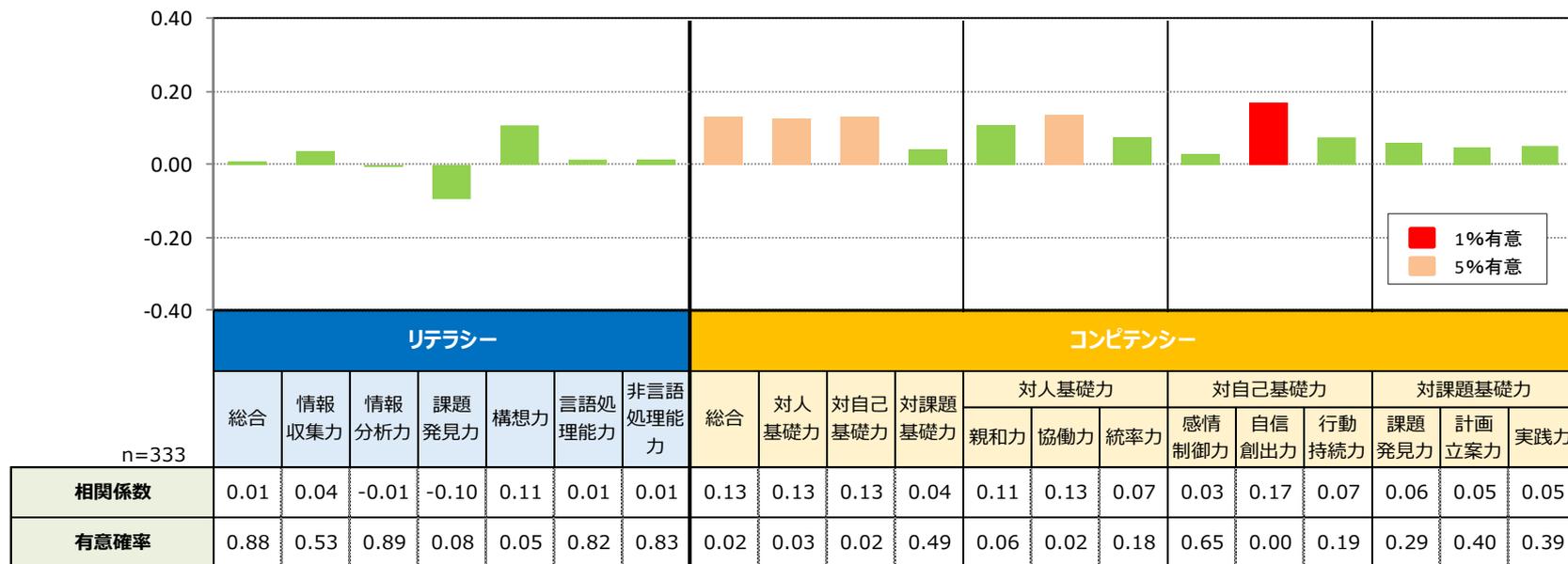
■基礎力との相関関係



2-2. 3年生基礎力スコアとの相関係数グラフ_Q9. 卒業後の進路について

- 卒業後の進路についての考えと自信創出力や協働力の伸長との間には、有意な正の相関関係が認められ、卒業後の進路について考えを持っている学生ほど、これら基礎力が伸長している。

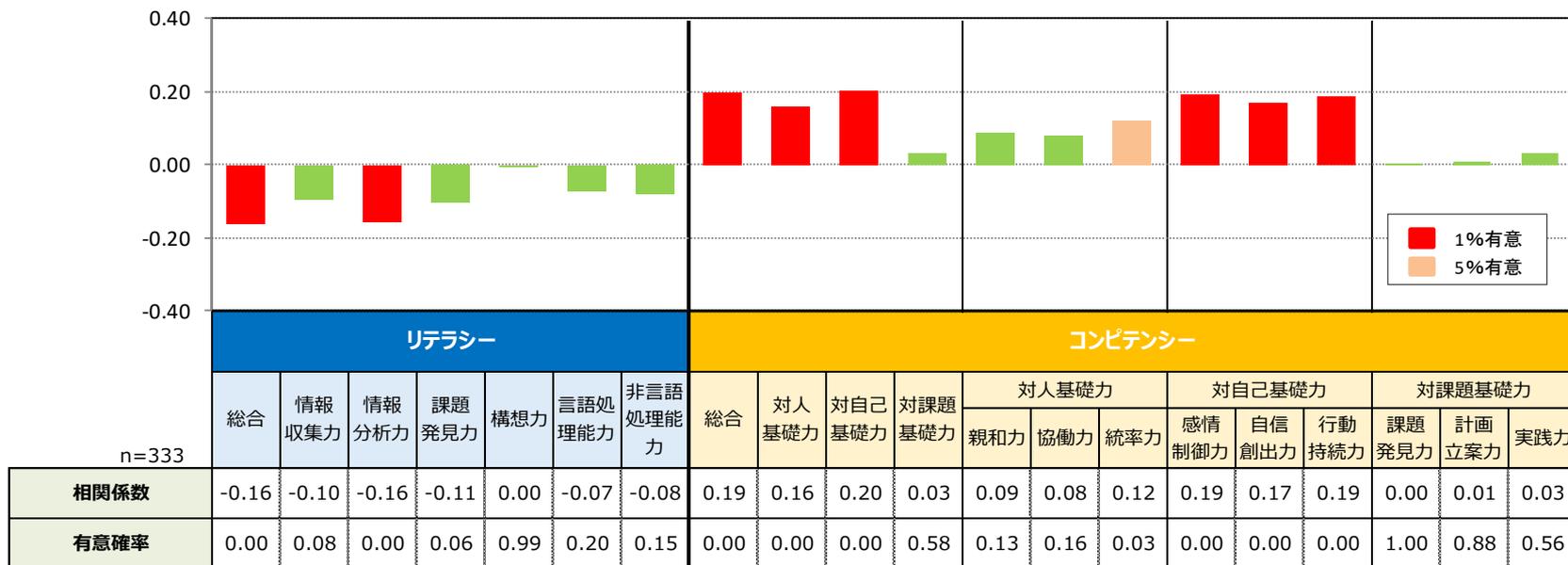
■ 基礎力との相関関係



2-2. 3年生基礎力スコアとの相関係数グラフ_Q10. 社会人になることについて

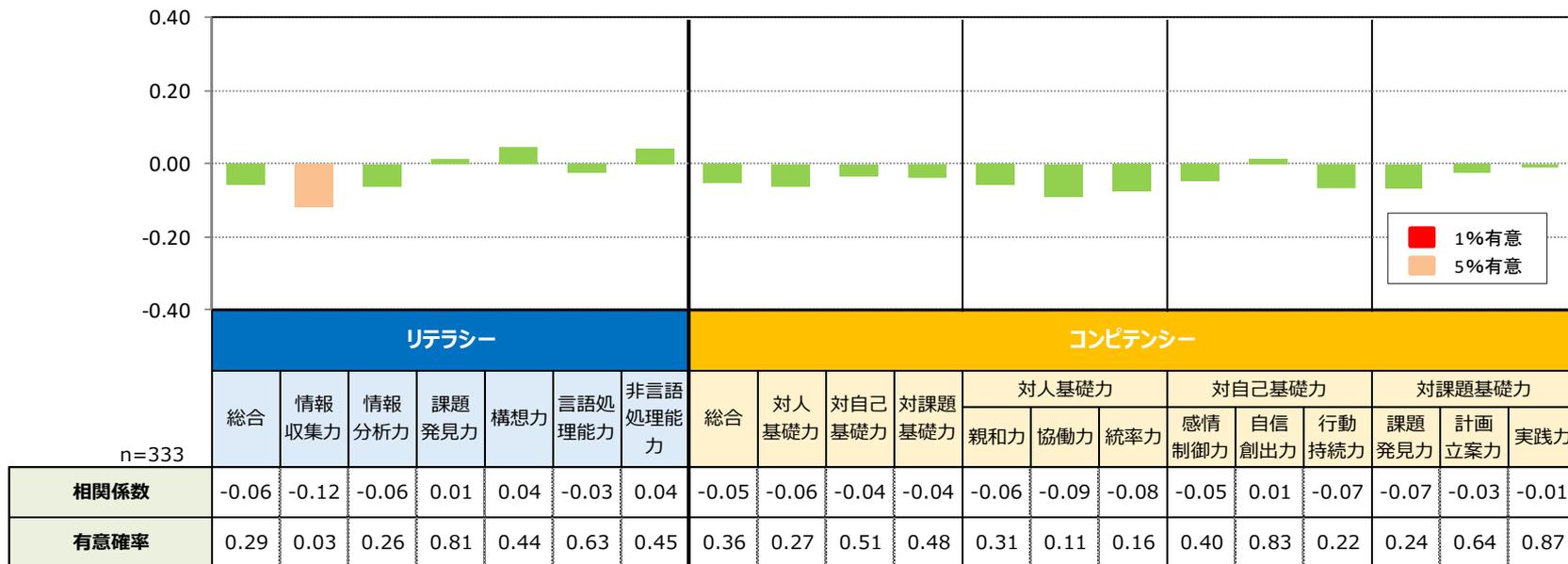
- 社会人になることについての考えと統率力や対自己基礎力の伸長との間には、有意な正の相関関係が認められ、楽しみだと回答した学生ほど、これら基礎力が伸長している。

■ 基礎力との相関関係



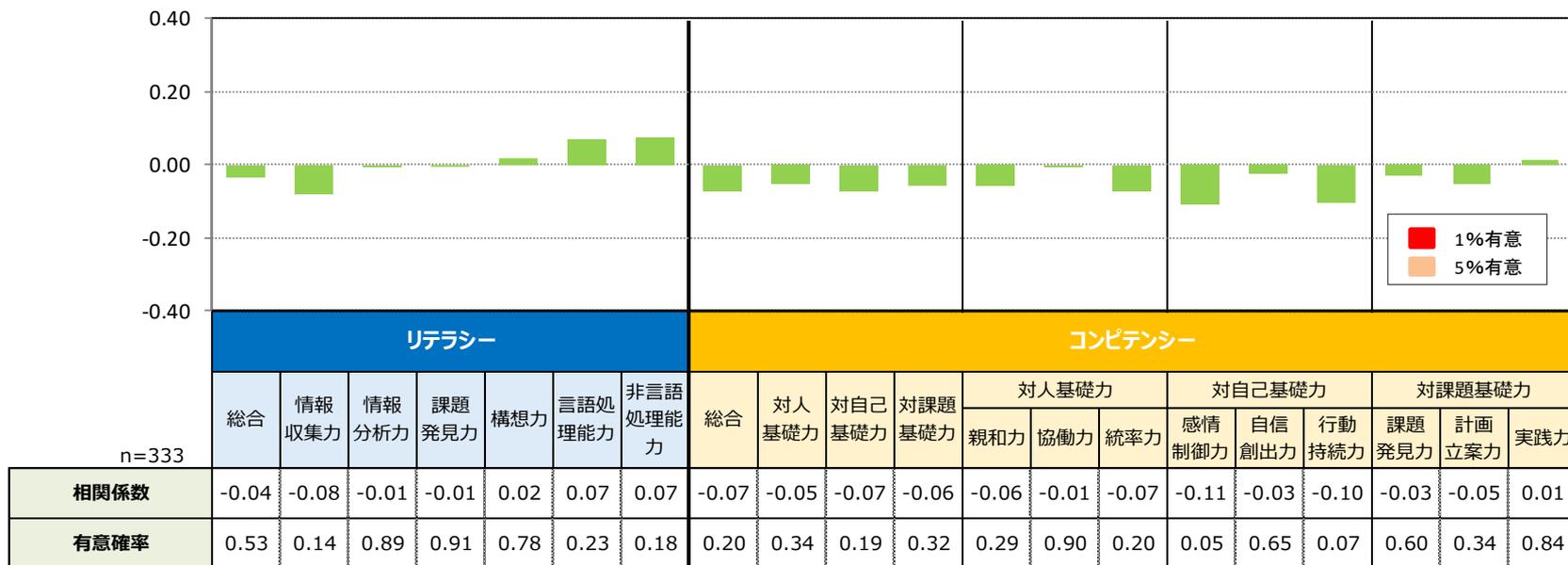
●大学への満足度と基礎力伸長との間には、明確な関係性は認められなかった。

■基礎力との相関関係



●大学の教育内容の満足度についても、基礎力伸長との間には、明確な関係性は認められなかった。

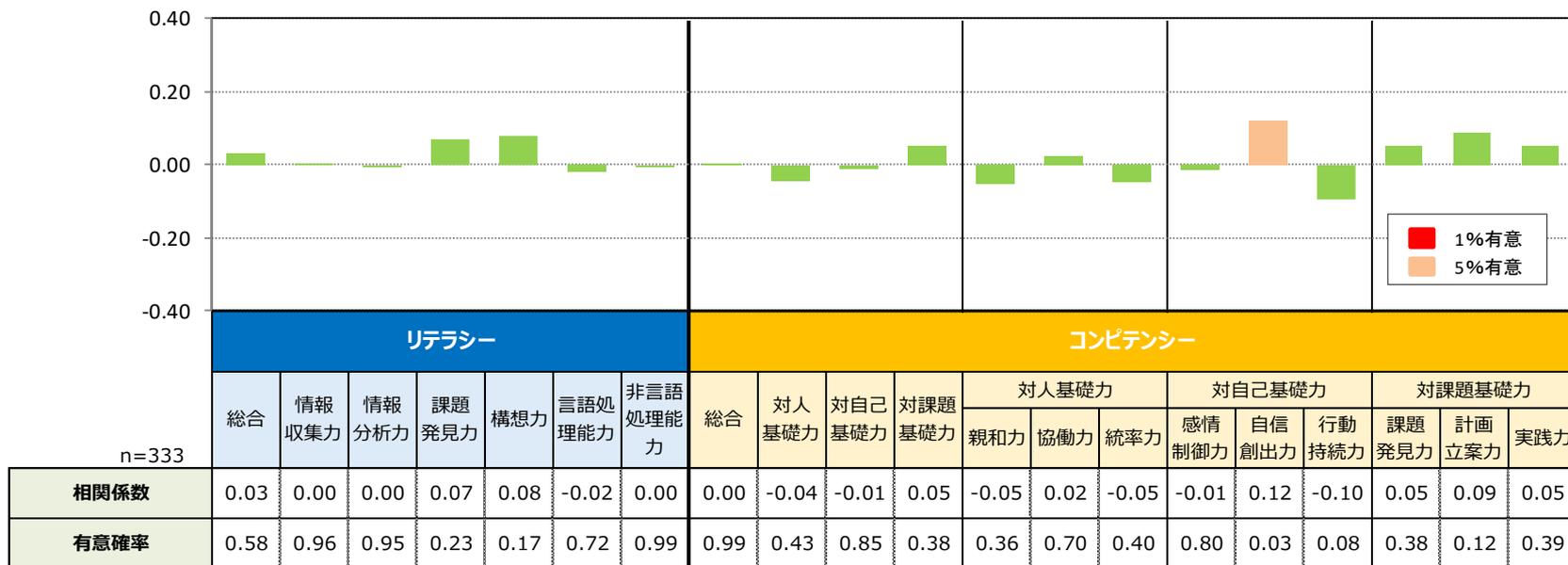
■基礎力との相関関係



2-2. 3年生基礎力スコアとの相関係数グラフ_Q13. 授業への取り組み

- 授業への取り組みと自信創出力の伸長との間には、有意な正の相関関係が認められ、熱心に取り組んでいる学生ほど、自信創出力が伸長している。

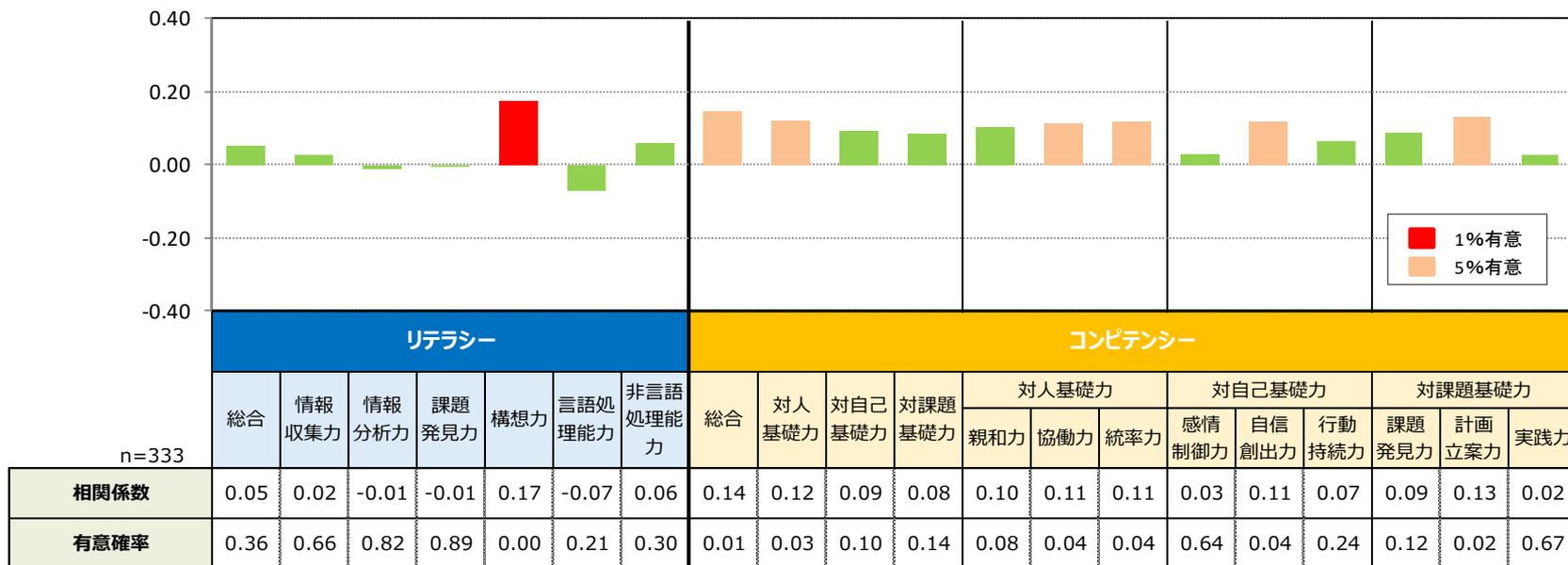
■ 基礎力との相関関係



2-2. 3年生基礎力スコアとの相関係数グラフ_Q14. 授業以外の学習時間

- 授業以外の学習時間と協働力、統率力、自信創出力、計画立案力の伸長との間には、有意な正の相関関係が認められ、学習時間が長い学生ほど、これら基礎力が伸長している。

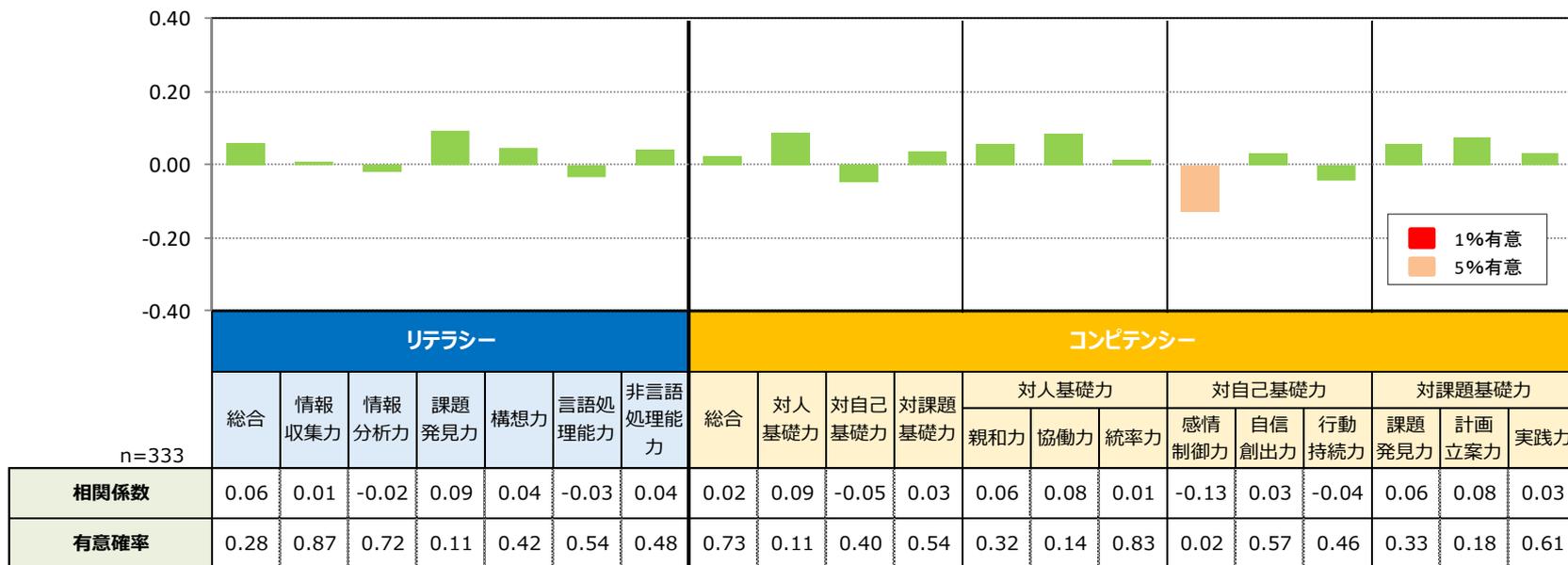
■ 基礎力との相関関係



2-2. 3年生基礎力スコアとの相関係数グラフ_Q15. 教員への親近感

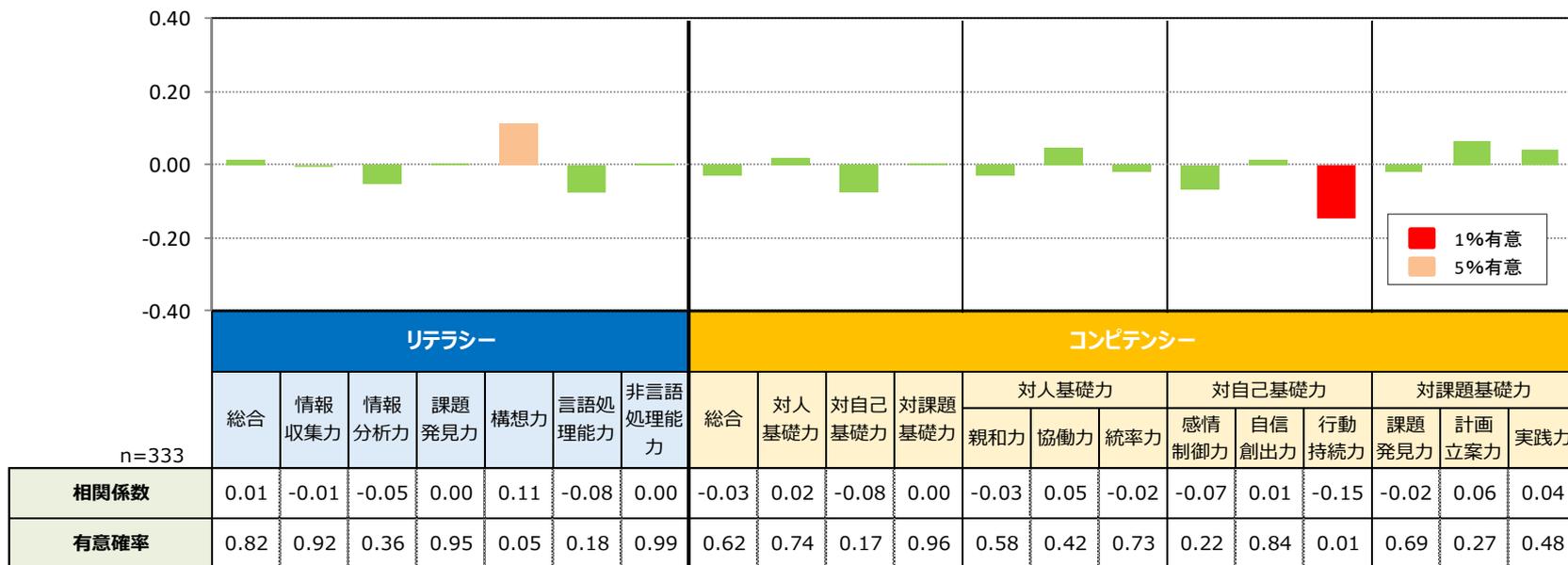
● 教員への親近感と基礎力伸長との間には、明確な正の相関関係は認められなかった。

■ 基礎力との相関関係



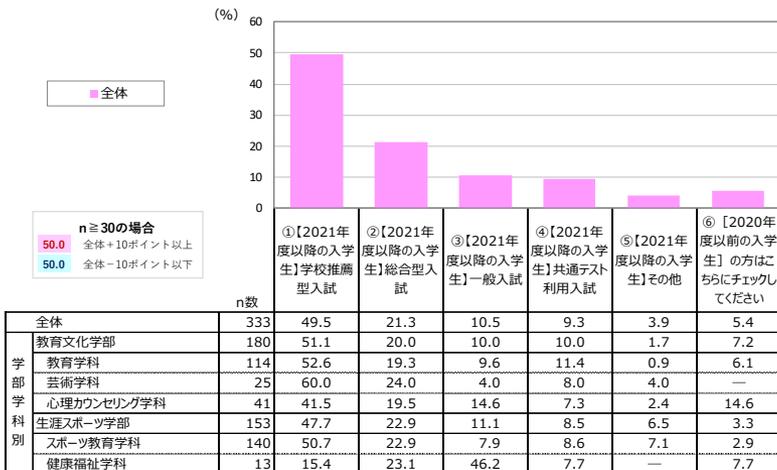
● 将来必要な能力向上へのつながりに対する考えと、基礎力伸長との間には、明確な正の相関関係は認められなかった。

■ 基礎力との相関関係

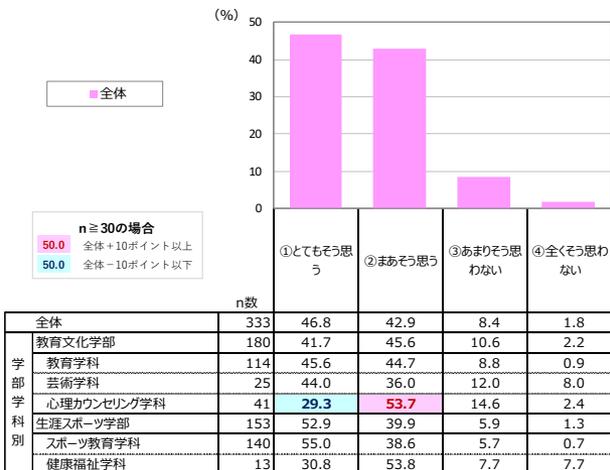


2-3. 3年生アンケート集計グラフ

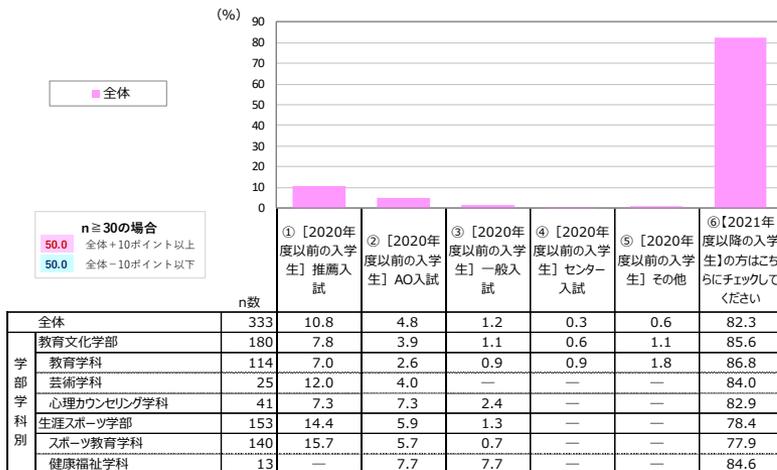
Q1.入試形式について教えてください。(全体/単一回答)



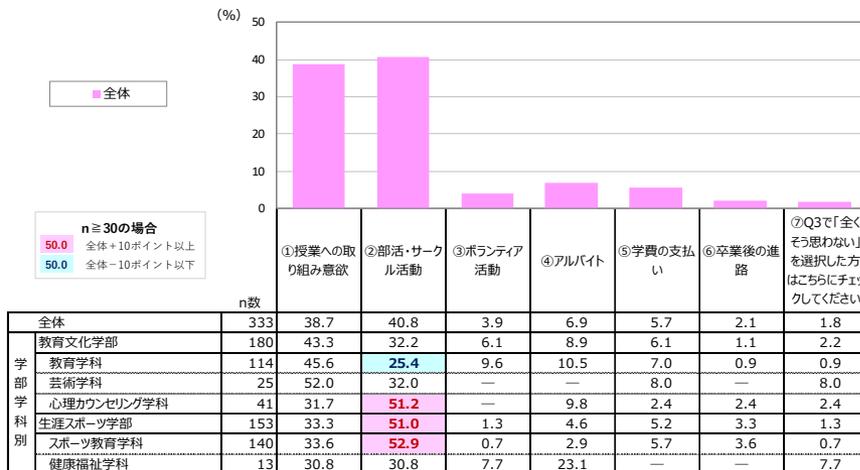
Q3.新型コロナウイルスによるマイナスの影響についてお伺いします。あなたの生活で新型コロナウイルス感染症によるマイナスの影響があったと思いますか。(全体/単一回答)



Q2.入試形式について教えてください。(全体/単一回答)

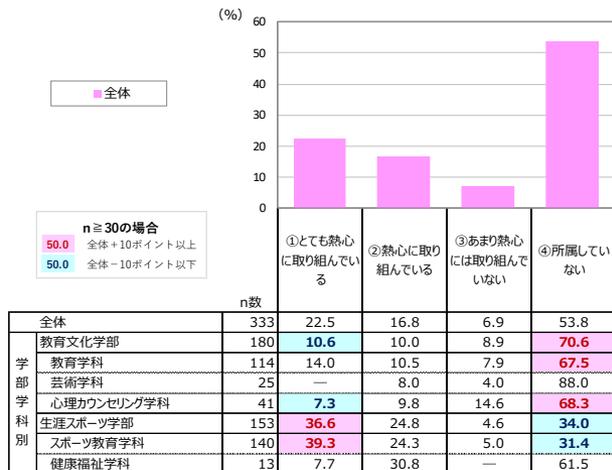


Q4.あなたが思う新型コロナウイルス感染症によるマイナスの影響として、最も大きいものは次のどれですか。(全体/単一回答)

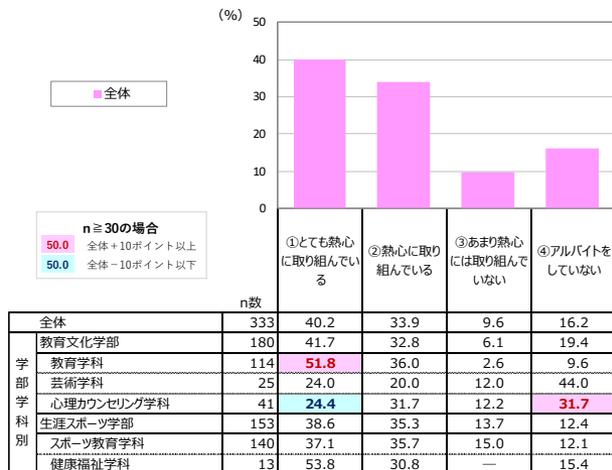


2-3. 3年生アンケート集計グラフ

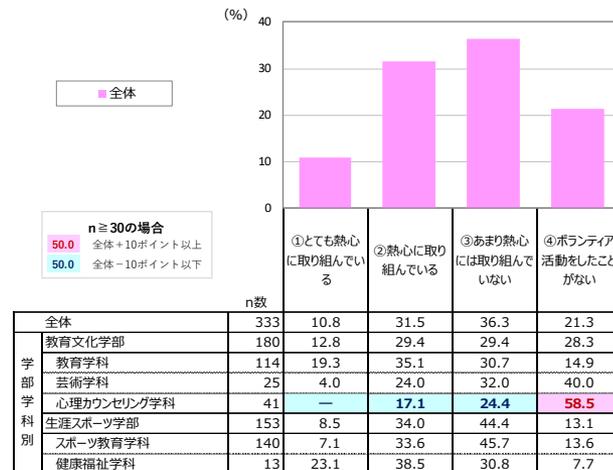
Q5.部活・サークル活動についてお伺いします。(全体/単一回答)



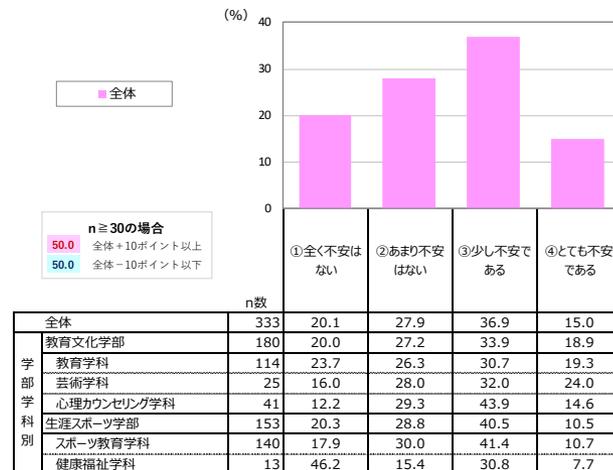
Q7.アルバイトについてお伺いします。(全体/単一回答)



Q6.ボランティア活動についてお伺いします。(全体/単一回答)

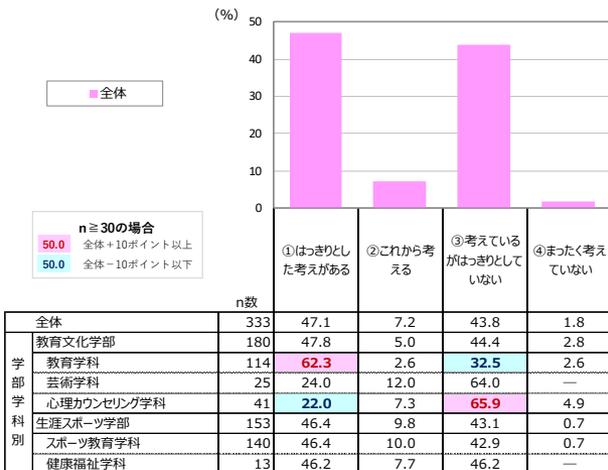


Q8.学費の支払いについて不安はありますか。(全体/単一回答)

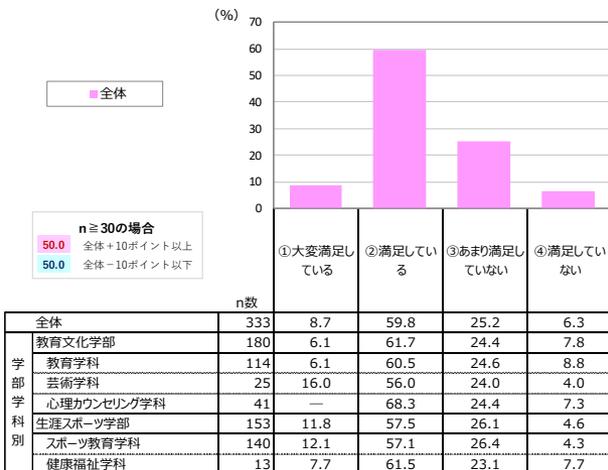


2-3. 3年生アンケート集計グラフ

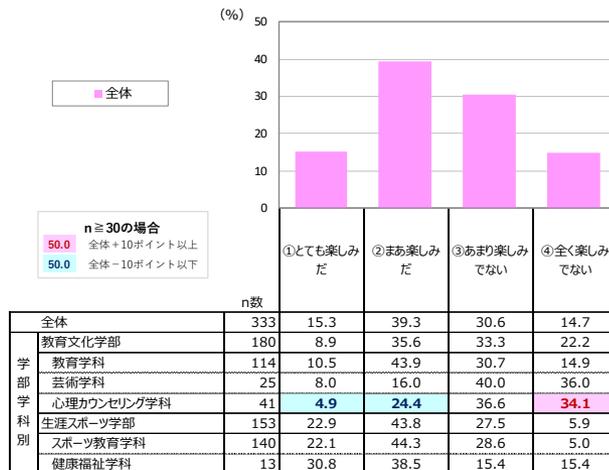
Q9.あなたは卒業後の進路（就職・公務員・教員・進学・留学など）について、現在どのような考えを持っていますか。（全体/単一回答）



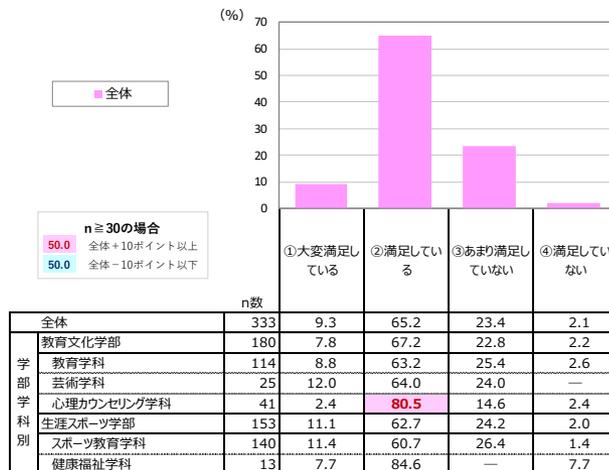
Q11.あなたは現在、全体として北翔大学に満足していますか。（全体/単一回答）



Q10.卒業後、社会人になることについてどのように感じますか。（全体/単一回答）

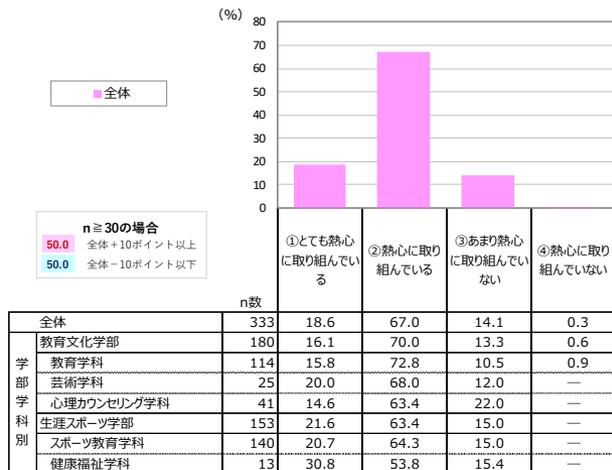


Q12.北翔大学の教育内容についてお伺いします。（全体/単一回答）

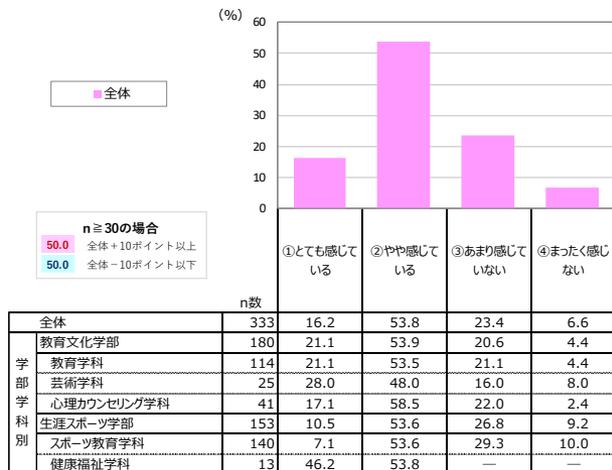


2-3. 3年生アンケート集計グラフ

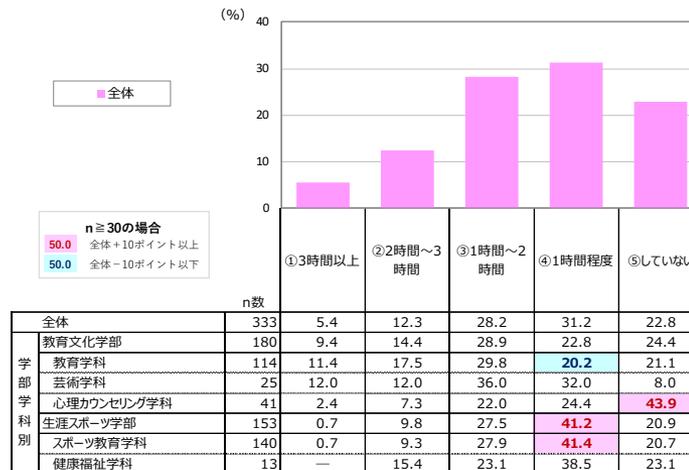
Q13.あなたは授業にどのように取り組んでいますか。(全体/単一回答)



Q15.あなたは教員に親近感を感じますか。(全体/単一回答)



Q14.あなたは授業以外に一日平均でどのくらい学習していますか。(全体/単一回答)



Q16.大学生での学びが将来仕事をしていくうえで必要な能力向上につながっていると思いますか。(全体/単一回答)

